

# 研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係



# 第1章 研究抄録関係

## 1. 重点プロジェクト研究

### 1 がんゲノム予防医療プロジェクト

#### <研究課題> 1-(1)

大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究

A project constructing of evidences for individualized cancer prevention of sporadic cancers using environmental and genetic information based on a large-scale hospitable-based epidemiological research at Aichi Cancer Center.

#### <研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野

研究者氏名 松尾恵太郎

共同研究者 伊藤秀美、井本逸勢、尾瀬 功、小柳友理子、  
谷山祐香里、春日井由美子

#### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

##### (目的)

遺伝性腫瘍を除く散発性のがんの予防には、がん罹患リスクを下げるための1次予防、がん死亡リスクを下げるための2次予防（検診）、がん再発・副作用等の予防を目指す3次予防がある。統合的ながん予防を実践するためには、この三種類の予防を意識した統合的な研究を実施する必要がある。

本邦におけるがん予防エビデンスは、環境情報あるいは遺伝子情報の一方のみに基づく研究が殆どで、両者を組み合わせた形の予防エビデンスの構築には程遠い。国際的には、両者を組み合わせた予防への試みが為されている。我々は、愛知県がんセンター病院初診患者を対象に、網羅的に実施した疫学調査(HERPACC)を基に、飲酒という特定の環境要因に注目し、その遺伝的背景との組合せによる予防効果を1~3次予防の観点から頭頸部・食道・胃・大腸・膵臓・乳腺の診療科との連携により追及してきた実績がある(Matsuo et al. Carcinogenesis 2001, 2006, 2013等)。飲酒以外のリスク要因にも同様のアプローチを個別に実施している。ただし、網羅的遺伝情報と環境要因との組み合わせた検討は、まだ端緒に手を付けたのみである(Sueta A et al. Breast Cancer Res Treat 2012, Abe M et al. J Cancer Res Clin Oncol 2017, Koyagani et al. Eur J Cancer Prev 2017)。本プロジェクトでは、HERPACCの疫学調査資料、試料を元に大規模な分子疫学的な検討を行い、各種散発性のがんに対する個別化予防につながるエビデンスの構築を目的とする。

##### (方法)

2001年~2013年に実施されたHERPACC研究に基づき、遺伝子解析、検査情報を含む臨床情報とのリンケージに関する同意をし、且つ詳細な疫学情報の得られた25,407名の参加者から選択する。うち、非がん者13,814名(ゲノムスキャン未7,200

名、以下()内は同じ)、胃がん1,480名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん386名、頭頸部がん877名(265)、乳がん1,217名(200)、肺がん1,418名が主たる研究の対象である。また、2017年11月より検体収集が開始されたキャンサーバイオバンク愛知の参加者(2018年7月より疫学情報も収集、年4~5000名収集見込み)も検証用の対象者として含める予定である。バイオバンク対象者も遺伝子解析に関する同意を取得済である。非がん対照者に関しては、各がん症例と性・年齢等をマッチングした4,500名程度をランダムサンプリングする。これらのデータを用い、症例対照研究を実施し、エビデンスの構築を図る。

##### (進捗状況)

ゲノムスキャンの進捗に関しては、非がん者13,814名(7,200名、胃がん1,480名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん386名、頭頸部がん877名(612)、乳がん1,217名(200)、肺がん1,418名)がスキャンを終え、これに更に約2,000名を超えるデータが本年度追加されている。

現在、国立がん研究センター、名古屋大学、東北大学、岩手医科大学、京都大学との連携により、日本人の飲酒行動を決める遺伝子座に関する全ゲノム関連解析研究GWASのMeta-analysisを実施している。ALDH2のrs671遺伝子型で層別する事により、アルコール代謝関連酵素の遺伝子座を含む新たな遺伝子座を見出している。現在これらの再検を大阪大学・東大・理化学研究所と実施した。また、飲酒関連がんリスクに対する本研究で見出した新規の遺伝子座の影響を検討し、併せて報告した(Koyanagi YN et al. Sci Adv 2024)。

さらには、HERPACCの全対象者に対して遺伝性腫瘍関連遺伝子の生殖細胞系の変異情報の構築も行い、バイオバンクジャパン(東大・理化学研究所)との共同研究として検討している。胃がんリスクに対する相同組換え修復遺伝子の変異とピロリ菌感染の間に強力な遺伝子環境要因交互作用が存在することを報告し(Usui et al. N Engl J Med 2023)、更なる検討を行っている。

##### (考察)

飲酒関連がんは、遺伝子環境要因交互作用が明らかに認められるがん種であり、今回の発見が個別化予防に資するエビデンスとなる事が期待される。生殖系細胞の遺伝子異常に関しては、胃がんに関して新たな個別化予防のエビデンスを見出すに至っている。HERPACCの情報を元に、更に国内外の研究チームと連携することで所期の目的を達成する事ができると考えられる。

## 2 がん超精密医療プロジェクト

### <研究課題> 2-(1)

分子標的治療薬に対する耐性機序解明に関わる基盤形成

Molecular and cellular biology tissue culture core project to interrogate the mechanism of resistance to molecular targeted therapy

### <研究者氏名>

所属部 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

研究者氏名 衣斐寛倫

共同研究者 室 圭、藤原 豊、松下博和、青木正博

### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

分子標的治療は、主にドライバー遺伝子異常に対する治療薬であり、がん薬物療法において頻用されている。また、近年次世代シーケンサー（NGS）解析の臨床応用に伴い、固形腫瘍において頻度の低いドライバー遺伝子異常が発見され、発見された異常に対する標的薬が奏効することが明らかとなってきた。さらに、頻度の低い遺伝子異常を網羅的に検討するため、がん遺伝子パネル検査が開発され、実地臨床でも使用されている。本課題では、生検・手術検体よりオルガノイドライブラリーを作成する。オルガノイド作成の対象となるのは、大腸がん手術症例、分子標的薬耐性症例（主に肺がん）、治験薬耐性例、遺伝子パネル検査で特徴的な異常を示した後に治療上の理由で生検が行われる症例である。大腸がんについては、手術検体の全エクソームシーケンス解析結果に基づき、患者特異的かつクロールナルな16の体細胞変異を選定しctDNA解析を行い、術後再発モニタリングを行う臨床試験（CIRCULATE-JAPAN）に登録された症例を対象とする。大規模試験に登録され臨床情報などが豊富な症例、および特徴的な遺伝子異常・臨床経過を示す症例のオルガノイドから、細胞株・ゼノグラフトを作成し解析することで新規治療開発につなげる。当院は、令和4年度末までにCIRCULATE-JAPAN試験へ124例登録し、これらに対しRNA-seq解析を行うとともに、エクソーム解析結果とctDNA解析結果を統合した。オルガノイドについては、44例の作成に成功し、凍結保存した。また、当センターより登録された症例と、試験全体の症例について統合解析を行い、本来検出されるべき術前ctDNAが陰性の症例について、細胞内で活性化するシグナルと、腫瘍微小環境において特徴的にみられる免疫細胞の特定を行った。今後、作成したオルガノイドライブラリーを用い、術前ctDNA陰性の原因、術後補助療法感受性・抵抗性因子の解明を行い、腫瘍の状態をより正確に評価する手法の開発につなげる予定である。

### <研究課題> 2-(2)

難治癌 PDX モデルのライブラリー整備とその多層的オミクス解析による統合データ基盤構築

Establishment of multi-omics database for PDX models of refractory cancer

### <研究者氏名>

所属部 分子診断 TR 分野

研究者氏名 田口 歩

共同研究者 原 和生、清水泰博、田近正洋、伊藤誠二、小森康司、坂倉範昭、藤原 豊、筑紫 聡、安部哲也、夏目誠治、細田和貴、松下博和、衣斐寛倫、小根山千歳、山口 類

### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

肺癌、膵癌、胆道癌などに代表される難治癌は、早期診断が困難であり、診断された時には現行の治療法では治療しづらいほどに進行していることが多い。次世代シーケンシングなどの解析手法の進歩によって、難治癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な診断・治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって、難治癌の克服に取り組む必要がある。

本プロジェクトでは、難治癌 PDX 腫瘍の多層オミクス解析によって、ゲノム解析だけでは得られない、新規の情報に基づく革新的な難治癌の診断・治療法の開発を目指すとともに、多層分子プロファイルと膨大な臨床データ、さらにそれらのバイオインフォマティクス解析まで統合した、難治癌オミクスデータベースの構築を目指す。

令和5年度までに、300例に迫る PDX モデル（膵、大腸、胃、食道、肺、肉腫、肝）作成と約70例の PDX 由来がん細胞株の樹立に成功し、特に、サーフェスオーム解析による新規抗体医薬の開発（膵、大腸）、HLA リガンドーム解析による個別化がんワクチン療法の開発（肺、胃）、リン酸化プロテオーム解析による新規分子標的治療開発（膵、大腸）など、既存研究では俯瞰しえなかった革新的分子診断・治療標的群の大規模な開拓を進めている。また、我々が構築した難治がん PDX モデルライブラリーは、詳細な臨床情報と、ゲノム、トランスクリプトーム、空間プロテオームを含む高深度な多層オミクスデータが付帯している点で、他に類を見ない、極めてユニークなライブラリーであるとともに、特に膵がんにおいては、国内外の膵がん PDX ライブラリーと比較してもトップクラスの作成症例数を達成している。

今後は、引き続き PDX モデルの作成を行うと共に、PDX ライブラリーの品質管理や PDX モデルを用いた前臨床試験における SOP の整備を進めて、データベースの構築と合わせて革新的創薬プラットフォームとしての導出を目指す。

## 3 がん免疫ゲノムプロジェクト

### <研究課題> 3-(1)

がん免疫ゲノムデータを基盤とした革新的な抗原特異的免疫治療法の開発

Development of innovative antigen-specific immunotherapies based on cancer immunogenomics

### <研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫制御 TR 分野

研究者氏名 松下博和  
共同研究者 坂倉範昭、藤原 豊、堀尾芳嗣、山口 類、  
衣斐寛倫、田口 歩、岡村文子、村岡大輔、  
花井信広、大野真佐輔、籠谷勇紀、細田和貴、  
関戸好孝、井本逸勢、

#### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) の開発により、がん治療のパラダイムシフトが起きたが、奏効率は未だ 20% 程度に過ぎない。腫瘍浸潤リンパ球 (TIL) の中で、ICI で再活性化される T 細胞は一部の前駆疲弊 T 細胞であり、多くの T 細胞は、持続的な抗原刺激により不可逆的な疲弊状態になっていると考えられる (Oliveira et al, Nature 2021)。そこで、治療効果を高めるためには、この疲弊 T 細胞を若返らせる方法を開発するか、あるいは、抗原特異的 T 細胞を新たに補充する必要がある (Blass et al, Nature Rev Clin Oncology 2021)。後者には、がんワクチンにより生体内に抗原特異的 T 細胞を誘導する方法と、抗原特異的な T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子を導入した T 細胞を生体外で作製し生体に戻す方法等がある。

重点プロジェクト研究では、これらの免疫療法を目指した基盤研究を進めている。まず、上記の免疫療法の適応症例の選択が重要になるが、その選択のためには腫瘍内免疫微小環境の理解が非常に重要である。これまで 113 例の肺癌症例の次世代シーケンス (NGS) データを網羅的に解析し、腫瘍免疫微小環境 (TIME) スコアの開発を行った (Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022)。さらに、その TIME スコアで、免疫スコアの高い肺癌検体を活用し、腫瘍特異的 T 細胞とそのコグネイト抗原をペアで同定する TCR-抗原ペア同定システムを日本電気株式会社 AI 創薬統括部と共同で構築した (Komuro et al, J Immunother Cancer 2023; Sugita et al, OncoImmunology 2024)。

今後は、TCR-抗原ペア同定システムをさらに高精度化することで、各症例からの TCR と抗原のペア同定の効率を上げ、得られた情報を TIME の評価に統合し、ワクチンの選択基準や治療効果予測プログラムの構築に応用する。そして、肺癌に対する個別化がんワクチンの臨床試験の準備をすすめていく。また、TCR-抗原ペア同定システムの確立により、TCR の情報が取得可能になったことから、TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療に向けた基礎研究を開始している。さらに、TCR 改変技術と機械学習を融合させ、治療応用可能な高親和性 TCR の取得を目指し、将来の固形がんに対する TCR-T 細胞治療の基盤データを構築する。肺癌をロールモデルに、他のがん種、特に頭頸部癌、悪性脳腫瘍、悪性中皮腫等に対象を拡大する。

## 4 がん情報革命プロジェクト

### <研究課題> 4-(1)

愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用

Development and utilization of linkage database of official

information of cancer incidence and death, lifestyle, socioeconomic, health and medicine for evaluation and prediction of cancer control and quality of medical care in Aichi prefecture

### <研究者氏名>

所属部 がん情報・対策研究分野  
研究者氏名 伊藤秀美、谷山祐香里、川浦正規  
共同研究者 古平 毅、山本一仁、岩田広治、山口 類

### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

#### [1] がん予防協同プロジェクト

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

一般公開されている国勢調査情報は e-stat「政府統計の窓口」より情報を抽出し、特定健診情報は含む NDB 情報、人口動態調査死亡情報は厚生労働省へ、がん登録情報は愛知県へ提供申請を行い、情報提供を受けた。これらの情報それぞれが持つ町域毎の観測数を、町域ポリゴンと学区ポリゴンを用いて面積按分して学区別別の該当数を求めた上で、学区別に以下の指標を算出し、視覚化した。①アウトカム：愛知県がん登録情報と人口動態調査死亡情報を用い、標準化罹患・死亡比 (Standardized incidence & mortality rate: SIR/SMR) と標準化罹患比のフルベイズ推定量 (全がん 部位別、男女計) を算出した。②社会経済的指標：地理的剥奪指標 (Areal deprivation index: ADI)；国勢調査情報 (該当数と人口) から算出した、高齢者夫婦世帯割合、高齢者単身世帯割合、母子世帯割合、賃貸住宅居住割合、サービス・販売業割合、農業割合、ブルーカラー割合失業割合を用いて算出し、さらに人口のばらつきを考慮して相対的な剥奪水準の位置として 0 から 1 に標準化した。また、e-stat 上の国勢調査情報より人口密度を抽出した。③特定健診情報から喫煙、飲酒、肥満、運動習慣等の生活習慣情報を抽出し、喫煙率、飲酒率、肥満率、運動習慣率を求めた後、標準化該当比をそれぞれ算出し、地図上に視覚化した。地域ごとに取り組むべきがん対策の優先順位付けに役立てるため、これらの指標の関連を評価している。がん罹患・死亡や生活習慣の社会経済的格差の評価において、社会経済的状況が悪いと、喫煙や飲酒といったがんのリスクとなるような生活習慣を持つ人が多く、また、がん罹患する人やがんで死亡する人が多いことが分かった。この相関は、特に都会において強いことが分かった。日本全体の公的情報を用い、同様の手法により、社会経済的ながん罹患・死亡の格差の、都市度による違いについて、検討を行っている。さらに、愛知県がん登録情報を用い、小学校区別の受療動向 (がん診療連携拠点病院を受療しているかどうか) について空間疫学的手法を用いて評価した。主要ながんのうち、胃、大腸、女性乳、前立腺がんにおいてははっきりとした地域格差が認められたが、膵がんでは格差派小さく、肝臓、子宮頸がんにおいては、格差は認められな

かった。社会経済的指標との相関を見たところ、貧しい地域に居住する人ほどがん診療連携拠点病院を受療している人が少なかったが、都会ではその相関は認められず、田舎において強かった。

## [2] 拠点病院プロジェクト

愛知県がんセンターが都道府県がん診療連携拠点病院として主催する協議会を通じ、厚生労働省が指定する愛知県内の地域がん診療連携拠点病院と愛知県が指定する愛知県がん診療拠点病院（以後、拠点病院）に本プロジェクトへの協力を求め、すべての拠点病院から協力を得て、令和3年度から院内がん登録ならびにDPC情報の連結匿名化情報を収集している。2008年以降2022年までに診断された症例の情報を収集している。また2015年までに診断された症例については、予後情報を収集した。令和4年度の2019年診断症例に引き続き、令和5年度には収集した情報を活用し、2020、2021、2022年診断症例の「院内がん登録でみる愛知県のがん診療（施設別集計）」を発行した。収集した予後情報を利用し、各拠点病院別のがんの生存率の集計を行っている。

## <研究課題> 4-(2)

人工知能・機械学習技術を用いたバイオメディカルデータ解析基盤の開発と活用

Development and utilization of a biomedical data analysis platform based on artificial intelligence and machine learning technologies.

## <研究者氏名>

所属部 システム解析学分野

研究者氏名 山口 類

共同研究者 原 和生、衣斐寛倫、稲葉吉隆

## [目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等]

本研究の目的は、臨床および基礎研究の現場で産生・蓄積される膨大かつ多種多様なバイオメディカルデータを、統合的かつ自在に解析するために、スーパーコンピュータによる計算能力と人工知能(AI)/機械学習(ML)技術による数理的な手法群を備えた解析プラットフォームを開発し、他の重点プロジェクト研究と有機的に連携しプロジェクト全体を活性化させることで研究成果の社会還元を促進し、情報解析の面から近未来の医療へ貢献することである。

近年の技術革新により、DNAやRNAの各種オミクスデータおよび医療画像データ等、多種多様なバイオメディカルデータが、国内外の臨床および基礎研究において取得可能になっている。DNAについては、ゲノム配列データを高速かつ安価に取得できるようになり、がんゲノム医療をはじめ臨床現場での活用が進みつつある。またlong read シークエンサーも開発され、大規模な構造変異の検出などに威力を見せている。RNAについては一細胞RNA計測技術(scRNA-seq)の発展が目覚ましく、がんの微小環境等の情報を詳細に得ることができるようになっている。さらには細胞微小集団の空間情報を保持した

まま遺伝子発現情報を得ること(spatial RNA-seq)も可能になりつつある。画像情報については、多様なモダリティ(MRI/放射線/超音波/蛍光等)と対象に対する、静止画、動画また三次元情報の取得が高い解像度で可能となっている。またこれらのデータは、インターネット上のアーカイブ(Genomic Data Commons等)に蓄積されるようになってきている。

一方、これらのデジタル計測データの巨大性と複雑性が増大するにつれて、データを解析し有用情報を抽出するための困難性も増大している。その結果、利用および取得可能なデータと、研究を推進する医師・研究者がそこから知り得たい情報の間に大きなギャップが生じている。そのため、目的で述べたようなデータ解析基盤を開発し、そのギャップを埋める有用性は高い。

本年度は、昨年度に引き続き三つの研究項目の研究を並行して進めた。

研究項目①:オミクスデータ解析パイプラインの開発については、DNA変異解析パイプラインの拡充を進め、現在のGenomonパイプラインに加え、さらに変異に対するアノテーションのツールVEP等の整備を進めた。また、scRNA-seq解析コンポーネントの追加を進めた。scRNA-seq特有の上流解析に続き、各種の下流解析(次元縮約、クラスタリング、トラジェクトリ解析等)が存在するが、他のプロジェクトで得られるデータを参照し、必要な手法を選択してパイプラインへの組み入れを進めた。spatial RNA-seq解析コンポーネントについても、大腸がん症例についてspatial RNA-seqデータを取得し解析アルゴリズムの選定と解析を進めた。

研究項目②:画像・配列AI/MLコンポーネントの開発については、前年度までに開発してきた、画像AIコンポーネントの改良を進めた。十分な学習データを得られない場合に対応して、転移学習やGAN等による疑似データ生成技術を利用して、AIの学習を進める方式の開発を進めた。配列からのタンパク質立体構造を予測AI(AlphaFold)のツールの整備も進めた。またタンパク質間結合能予測機械学習モデルの開発を進めた。

研究項目③:情報管理システムの開発については、

研究課題2-(2)で構築されつつある、多層オミクスデータベース中の膨大なデータを、生命科学系の研究者が自らの手で自在に解析して活用するために、Webインターフェースを備えたデータ解析システム(i-Mirai)の開発、改良を進めた。本年度は、GUI操作によるヒートマップの作製に加え、相関解析等を、複数オミクスデータを組み合わせることで簡便かつ迅速に実施できるよう開発を進めた。解析環境の移植が簡単になるよう、開発ツールのコンテナ化を進めた。

## 2. 研究所における研究

### がん情報対策研究分野

#### <研究課題> 1

(主題) がん登録情報を用いた記述疫学的手法によるがん対策・医療の評価

(副題) 日本における頭頸部癌患者の部位別中長期生存率の傾向：住民ベースのがん登録情報を活用した研究

#### <研究者氏名>

柘植博之<sup>1)</sup>、谷山祐香里、尾瀬 功、小柳友理子、川浦正規、伊藤ゆり<sup>2)</sup>、松田智大<sup>3)</sup>、松尾恵太郎、伊藤秀美

#### <目的・概要・進捗状況>

診断技術と治療法の進歩は、様々ながんの予後に影響を与える。本研究では、頭頸部癌（HNC）に焦点をあて、詳細部位別の予後への影響を評価する。この研究は、日本の住民ベースのがん登録データを用いて、1993年から2011年に診断された頭頸部がん患者の中（5年）・長期（10年）生存率の経年変化を部位別に観察した。全国がん罹患モニタリング集計のために収集されたデータのうち、観察期間中のデータが揃い一定の精度を満たす13都道府県のがん登録データを用いて、部位別にHNCの純生存率（Net Survival: NS）を推定した。期間を5つに区切り生存率の経年変化は、死亡の過剰ハザード（EH）モデルにより評価した。

1993年から2011年に診断された頭頸部がん患者68,312人が分析対象であった。その内訳は、口腔がん23,250人、鼻咽頭がん2,748人、口腔咽頭がん6,979人、下咽頭がん8,413人、喉頭17,214人であった。

頭頸部がん全体では、5年NSが6.2%改善し、EHモデルにおいて有意な傾向を示したが、10年NSには有意な傾向は見られなかった。また、生存率は部位により異なっていた。口腔がんでは、5年および10年NSが改善傾向を示していた。5年NSは、期間1（1993 - 1995）では60.0%（95%信頼区間 [CI] 57.6-62.3%）であり、期間6（2008 - 2011）では67.1%（65.7-68.4%）であった。一方、10年NSは、期間1では52.9%（49.8-55.9%）であり、期間5（2005 - 2007）では55.2%（51.3-58.9%）だった。性別、年齢層、および進行度を調整しても、5年NSは改善していた（傾向のP値<0.001）、一方で10年NSは改善していなかった。鼻咽頭、口腔咽頭、下咽頭がんでは、5年および10年NSが改善傾向を示し、EHモデルでは、調整後も5年および10年NSは改善を示していた。喉頭癌がんでは、5年NSはグラフおよびEHモデルでわずかな改善傾向を示していた。5年NSは、期間1では74.5%（95% CI 71.9-76.9%）であり、期間6では78.8%（77.1-80.4%）だった。しかし、10年NSはグラフ上では悪化傾向を示し、期間1では69.4%（65.3-73.1%）、期間5では63.4%（58.9-67.5%）だったが、EHモデルでは、その変化は統計学的に有意でなかった。

#### <今後の方向>

本研究により、日本の頭頸部がん患者の生存率は、診断技術や治療の進歩によって改善していたことがわかった。しかし、その改善は部位別にみると大きく異なっていた。本研究のように部位別に予後の変化を評価し把握することは、頭頸部がんのより良い管理と、患者の転記を最適化するための治療戦略を立てる上で重要である。

今後は、頭頸部がんだけでなく、例えば希少がんなど、住民ベースのがん登録データを最大限に活用し、医療の変遷によりどのように患者予後が変化するかを、様々な記述疫学的手法を用いて、評価していく。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

<sup>2)</sup> 大阪医科薬科大学

<sup>3)</sup> 国立がん研究センター

#### <研究課題> 2

(主題) 記述疫学研究に基づくがん情報の整備と発信

(副題) 愛知県内の公的情報を活用した地理的連結データベースならびに院内がん登録情報とDPC情報の連結データベース構築

#### <研究者氏名>

川浦正規、谷山祐香里、柘植博之<sup>1)</sup>、小柳友理子、尾瀬 功、松尾恵太郎、伊藤秀美

#### <目的・概要・進捗状況>

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

愛知県の保健医療に関わるがん登録情報、人口動態調査死亡情報、特定健診情報、国勢調査情報を収集し、がん罹患・死亡や、これらのアウトカムに影響を与える要因の愛知県内の格差を学校区別に評価する空間疫学研究を行っている。それぞれの情報を学校区別に指標化し、愛知県の地図上に格差を視覚化した。地域ごとに取り組むべきがん対策の優先順位付けに役立てるため、これらの指標の関連を評価している。がん罹患・死亡や生活習慣の社会経済的格差の評価において、社会経済的状況が悪いと、喫煙や飲酒といったがんのリスクとなるような生活習慣を持つ人が多く、またがん罹患する人やがん死亡する人が多いことが分かった。この相関は、特に都会において強いことが分かった。日本全体の公的情報を用い、同様の手法により、社会経済的ながん罹患・死亡の格差の、都市度による違いについて、検討を行っている。

また、愛知県がん登録情報を用い、小学校区別の受療動向

(がん診療連携拠点病院を受療しているかどうか)について空間疫学的手法を用いて評価した。主要ながんのうち、胃、大腸、女性乳、前立腺がんにおいてははっきりとした地域格差が認められたが、膵がんでは格差は小さく、肝臓、子宮頸がんにおいては格差は認められなかった。社会経済的指標との相関を見たところ、貧しい地域に居住する人ほどがん診療連携拠点病院を受療している人が少なかったが、都会ではその相関は認められず、田舎において強かった。

さらに、愛知県内のがん診療の現状把握と診療レベル向上に資するため、愛知県内のがん診療連携拠点病院ならびにがん診療拠点病院(以後、拠点病院)の協力を得て収集した院内がん登録とDPCの連結匿名化情報を用いて、「院内がん登録でみる愛知県のがん診療(施設別集計)」を行い、2020年、2021年、2022年診断症例の報告書を発行した。

#### <今後の方向>

公的情報を使った空間疫学研究については、高度な解析手法を取り入れる。また、より介入しやすい生活習慣に関し貧困との関連を都市度別に評価した上で、がんの罹患・死亡というアウトカムにどう影響するかを評価する予定である。媒介分析といった新しい手法も取り入れていく。この媒介分析により、がんの社会経済的格差解消のための介入点を見出すことが可能となる。

また、院内がん登録情報を、各施設でDPC情報と個別連結させた上で匿名化した情報を愛知県がんセンターに集約して、医療レベルの格差に関して要因探索をする。研究成果を拠点病院間でシェアできる仕組み、つまりウェブベースのインタラクティブツールの開発も計画する。当分野では、この仕組みを用いて収集した個別データを利用し、新型コロナウイルス感染症ががん診療へ与えた影響の分析を開始しているが、分野内、愛知県がんセンター内のみならず、情報を提供した拠点病院間でデータシェアリングの仕組みを整えるために課題の洗い出しを開始する。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

## がん予防研究分野

#### <研究課題> 1-1

- (主 題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組合せ効果の解明
- (副 題) 遺伝子型層別全ゲノム関連解析により同定されたアルコール摂取の遺伝的構造と、その日本人における食道がんリスクへの影響

#### <研究者氏名>

小柳友理子、伊藤秀美、尾瀬 功、谷山祐香里、春日井由美子、井本逸勢、松尾恵太郎

#### <目的・概要・進捗状況>

アルデヒド脱水素酵素2の東アジア特異的変異(ALDH2 rs671、G>A)は、アルコール摂取の主要な遺伝的決定因子である。われわれは、飲酒行動の背後にあるrs671との遺伝子間相互作用を探索するために、175,672人の日本人を対象に、アルコール摂取に関するrs671の遺伝子型を層別化したゲノムワイド関連研究のメタ解析を行った。解析の結果、野生型ホモ接合体では3つのゲノムワイドで有意な遺伝子座(GCKR、KLB、ADH1B)が、ヘテロ接合体では6つの遺伝子座(GCKR、ADH1B、ALDH1B1、ALDH1A1、ALDH2、GOT2)が同定され、そのうち5つがrs671とゲノムワイドで有意な相互作用を示した。遺伝的相関分析により、ヘテロ接合体における祖先特異的な遺伝的構造が明らかになった。発見された遺伝子座のうち4つ(GCKR、ADH1B、ALDH1A1、ALDH2)は、代表的なアルコール関連疾患である食道がんのリスクにおいてrs671と相互作用することが示唆された。この結果は、アルコール摂取の遺伝子型特異的な遺伝的構造を明らかにし、アルコール関連疾患リスクへの潜在的影響を明らかにするものである。

#### <今後の方向>

飲酒行動には複数の遺伝子の組み合わせ効果が働き、それが飲酒発がんに直結していることが明らかになった。飲酒行動によるリスクの層別化に今回見出した遺伝子群を使う事が想定される。

#### <研究課題> 1-2

- (主 題) 分析疫学的解析による各種がんのリスク要因の解明
- (副 題) ADH1B rs1229984 遺伝子多型の食道がん発がんへの影響に対する媒介分析を用いた症例対照研究

#### <研究者氏名>

小柳友理子、尾瀬 功、谷山祐香里、春日井由美子、松尾恵太郎

#### <目的・概要・進捗状況>

飲酒により摂取されるエタノールは主にアルコール脱水素酵素1B(ADH1B)によってアセトアルデヒドに酸化され、アセトアルデヒドは主にアルデヒド脱水素酵素2(ALDH2)によって酢酸に酸化される。アルコール摂取は食道癌の有力な危険因子であるが、アルコール代謝の遅れに関連する一塩基多型であるADH1B rs1229984(His48Arg)の食道癌発生における役割は不明である。この一塩基多型は、食道癌のリスク上昇と飲酒強度の両方に関連していることから、食道癌との関連は、飲酒強度とは独立した直接的な経路、飲酒強度が介在する間接的な経路、あるいはその両方を通じて作用する可能性がある。

これらの異なる経路を分離するために、ADH1B Arg 対立遺伝子および飲酒をそれぞれ曝露および媒介因子と定義し、食道がん症例対照研究(症例600例、対照865例)に媒介分析を適用し、ADH1B Arg 対立遺伝子の全効果オッズ比を直接効果オッズ比と間接効果オッズ比に分解した。



ADH1B Arg 対立遺伝子は、飲酒強度を媒介とする間接経路（間接効果オッズ比、1.27；95%信頼区間、1.05-1.53）に加えて、飲酒強度の変化以外の経路（直接効果オッズ比、2.03；95%信頼区間、1.41-2.92）を介して食道がんリスクと関連していた。さらに、酵素活性を強く減弱させる機能的一塩基多型である ALDH2 rs671（Glu504Lys）の遺伝子型を層別化して解析したところ、各層で有意な直接効果オッズ比が示された。

これらの結果は、ADH1B Arg 対立遺伝子は、アルコール摂取量に対する影響に加えて、アルコールの分解を遅らせることによって食道がんリスクに寄与することを示している。

#### 【今後の方向】

ADH1B rs1229984 遺伝子多型は飲酒量を増加する事によって食道がんリスクを増加させるのみならず、アルコールの分解の遅延そのものによるリスクの上昇をもたらす事が明らかになった。今後の予防において、アルコールの分解遅延を標的にすることの可能性が考えられる。

## がん病態生理学分野

#### <研究課題> 1-1

（主題）がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
（副題）腸管腫瘍形成における MyD88 経路の役割の解析

#### <研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん抑制遺伝子である *Apc* 遺伝子に変異を持つ遺伝子改変マウス（以下 *Apc* 変異マウス）では、APC の機能欠損の結果 Wnt 経路が恒常的に活性化し、腸管に腺腫性ポリープを発症する。我々は、*Apc* 変異マウスの腸管ポリープの成長に関わる因子を探索、同定し、その役割を解明することにより、大腸がんの治療標的候補を得ることを目的として研究を進めてきた。

これまでに、我々は、IL-1 $\beta$  シグナル伝達経路の主要なアダプター因子である MyD88 の機能欠損が、*Apc* に変異を持つ細胞のみを死滅させる、いわゆる合成致死を誘導することを見出し、論文発表した（Kajino-Sakamoto R, et al: *Oncogene* 40, 408-420, 2021）。続いて、トランスクリプトーム解析等を行い、この合成致死誘導の分子機序に関与する因子を探索して得られた9つの候補因子の合成致死誘導への関与について検討を進めた。まず、マウスの腸管ポリープ組織試料または腸管ポリープ由来オルガノイド試料において、MyD88 の機能欠損（発現低下）に伴う発現減少の再現性がみられるか検討した。また、公共データベースを利用して、ヒト大腸がんにおける MyD88 と候補因子の発現相関等を調べた。これらの結果から、3つの候補因子について解析を進めることにした。本年度、発現抑制や阻害剤処理等により候補因子の機能を抑制し、ヒト大腸がん細胞やオルガノイド培養の生育への影響を検討したところ、機能抑制により生育が抑制される効果を持つ因子が同定された。

一方、MyD88 が *Apc* 変異以外の大腸がん関連遺伝子変異を

併せ持つ腸管腫瘍細胞の生育にも関与するか、マウス大腸腫瘍オルガノイドを用いて検討している。これまでに、MyD88 の機能抑制は *Cttnb1* 変異を含む主要な大腸がん関連遺伝子に変異を持つマウス大腸腫瘍オルガノイドの生育を抑制する結果を得た。本年度は、数種類の MyD88 阻害剤により MyD88 の機能を抑制した時のヒト大腸がんオルガノイドの生育への影響を検討した。その結果、検討したヒト大腸がんオルガノイドの多くで生育が抑制されることが明らかになった。

#### 【今後の方向】

合成致死誘導に関与する可能性がある候補因子についてさらに解析を進めて役割を解明する。

<sup>1)</sup> 京大・先端医療研究開発機構

#### <研究課題> 1-2

（主題）がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
（副題）腸管腫瘍の悪性化における mTORC1 経路の役割の解析

#### <研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美<sup>1)</sup>、梶野リエ、新聞秀一<sup>2)</sup>、曾我朋義<sup>3)</sup>、武藤 誠<sup>4)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである *Apc* 変異マウスは良性的腺腫性ポリープを発症し、さらに *Smad4* 遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ *cis-Apc/Smad4* マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。*cis-Apc/Smad4* マウスの腺がんの浸潤は mTORC1 阻害薬 everolimus および mTOR キナーゼ阻害薬 AZD8055 に対して抵抗性である。これまでに、トランスクリプトーム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析を実施し、mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織においてヒスタミンの蓄積・マクロファージの集簇を認めた。また臨床大腸がん組織中のマクロファージは浸潤部に集積し、ヒスタミン濃度が高い症例で多く検出される傾向を認めた。mTOR 阻害薬とヒスタミン H1 および H2 受容体拮抗薬の併用投与により mTOR 阻害薬抵抗性腺がん浸潤が抑制されることを見出した。

腫瘍組織におけるヒスタミン産生細胞について各種細胞表面マーカーを用いて解析したところ、粘膜筋板側に存在する肥満細胞が腺がんの浸潤とともに増加した。mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織において、対照腺がん組織よりも肥満細胞が増加する傾向が認められた。肥満細胞はヒスタミンを合成する細胞であることから、この細胞の浸潤部での集積がヒスタミンの増加と関係している可能性が示唆された。

#### 【今後の方向】

腫瘍組織中のヒスタミン量の増加が、腫瘍組織中の肥満細胞数の増加によるものか、肥満細胞中のヒスタミン産性能の増加によるものなのかを調査する。

- <sup>1)</sup> 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所  
<sup>2)</sup> 大阪大・工学研究科  
<sup>3)</sup> 慶應義塾大・先端生命科学研究所  
<sup>4)</sup> 京大病院・先端医療研究開発機構

#### <研究課題> 1-3

- (主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副題) デスマイド腫瘍の形成における TGF- $\beta$  経路の役割の解析

#### <研究者氏名>

李 宇、藤下晃章、西田佳弘<sup>1)</sup>、榎本 篤<sup>1)</sup>、武藤 誠<sup>2)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

デスマイド腫瘍は、デスマイド型線維腫症としても知られる、間葉系細胞由来の軟部組織腫瘍で、強い局所浸潤性を有する。本邦で新規に診断される患者数は年間 100~200 名という希少疾患で、家族性大腸腺腫症に伴うものと散発性の 2 つの発症パターンがある。散発性症例の約 95% には  $\beta$ -catenin をコードする *CTNNB1* 遺伝子の変異が見られる。

本研究では、デスマイド腫瘍の病態解明と治療標的の同定を目的として、新規デスマイド腫瘍マウスモデルの作出と病態生理の解析を試みた。*Pdgfra-Cre<sup>ERT2</sup>/Ctnnb1<sup>flax(ex3)</sup>* マウスの皮下にタモキシフェンを局所投与したところ、デスマイド腫瘍患者の腫瘍に組織学的に類似した線維性腫瘍が発生し、desmin、vimentin などデスマイド腫瘍のマーカーとされるタンパクが発現していた。また、これらの腫瘍では TGF- $\beta$  経路が強く活性化されており、*Smad4* のノックアウトを導入することにより腫瘍の成長が低下した。さらに、比較プロテオーム解析により、*Smad4* のノックアウトによってデスマイド腫瘍における Cysteine-and-Glycine-Rich Protein 2 (CSRP2) のレベルが低下することが示された。マウスデスマイド腫瘍由来の細胞株を作製し、TGF- $\beta$  受容体阻害剤で処理したところ CSRP2 の発現が低下し、同細胞株で CSRP2 をノックアウトするとその増殖が有意に低下したことから、TGF- $\beta$  経路の下流で CSRP2 が治療標的となる可能性が示された。これらの内容について論文発表した (Li et al., *Cancer Sci* 115, 401-411, 2024)。

#### 【今後の方向】

このデスマイド腫瘍マウスモデルを用いて、CSRP2 の治療標的としての資質をさらに検証するとともに、新たな治療標的の探索を行う。

- <sup>1)</sup> 名古屋大・医学系研究科  
<sup>2)</sup> 京大病院・先端医療研究開発機構

#### <研究課題> 2-1

- (主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索  
(副題) 大腸がん自然発症・転移モデルを用いた転移メカニズムの解明と治療標的の同定

#### <研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美<sup>1)</sup>、梶野リエ、小島 康、山口 類、武藤 誠<sup>2)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

転移を伴う大腸がんの予後は悪く、新機軸の転移予防・治療法の開発が求められている。各国で網羅的なゲノム変異解析・発現解析などが行われているが、転移の分子機序解明には至っていない。我々は、腸管に浸潤性腺がんを 100% の頻度で発症し、約 20% のマウスで肝臓への転移が認められる、大腸がんの自然発症・自然転移モデルの作出に成功した。このマウスモデル (CKPS マウス) では、安定型  $\beta$ -catenin (Wnt 経路活性化) と活性型 *Kras* の発現、そして p53 と *Smad4* の欠失が腸管上皮細胞特異的に誘導される。CKPS マウスの肝転移巣では、原発巣と酷似した腺管構造と間質反応を伴う浸潤の様子が保たれており、大腸がん臨床検体ともよく似た組織像を示す。CKPS マウスおよび CKPS マウスから樹立した大腸がん細胞株 (CKPS 細胞) を用いて、各種オミクス解析や分子生物学的手法を用いた解析を行ったところ、大腸がんの肝転移巣では原発組織と比べ大腸がん幹細胞マーカーである ALCAM (CD166) や PROM1 (CD133) の発現増加が認められた。さらに CRISPR-Cas9 により ALCAM、PROM1 をノックアウトした CKPS 細胞はスフェロイド形成能および脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が低下したことから、大腸がん幹細胞マーカーが転移能にも寄与することが示された。これら大腸がん幹細胞マーカーの発現には TGF- $\beta$ /SMAD4 経路が負に制御すること、cAMP/PKA/CREB 経路が正に制御していることをこれまでに見出している。

本年度は、上記の経路以外に大腸がんのがん幹細胞性維持に関わる分子・シグナル経路の探索を行った。各種オミクス解析や薬剤スクリーニングにより、これまでに Rho などが候補として上がった。RhoC をノックアウトした細胞株は通常培養条件下では増殖に影響しなかったが、脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が低下したことから RhoC を介したシグナル経路が大腸がんの転移に関与している可能性が示唆された。

#### 【今後の方向】

RhoC を介したシグナル経路が大腸がん細胞の転移能や幹細胞性の維持にどのように関与しているかを検証していきたい。

- <sup>1)</sup> 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所  
<sup>2)</sup> 京大病院・先端医療研究開発機構

## <研究課題> 2-2

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

## <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、山口 類、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法に進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は最近、自然発生した大腸がんが20%の頻度であるが肝臓へ転移する自然転移モデルマウス（CKPSマウス）の開発に成功した（前項）。このCKPSマウスは100%の頻度で腸管に浸潤性の腺がんを発症するが、同腹仔でも転移する個体とそうでない個体が認められたことから、転移には遺伝子変異以外に更なる要因が必要である可能性が示唆される。本研究では、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いた機能的スクリーニングを実施している。このPiggyBacトランスポゾンには近傍の遺伝子を活性化または機能喪失させる配列が組み込まれており、大腸がんの発生に伴いトランスポゾンが移動する。トランスポゾン非導入CKPSマウスと比較して、トランスポゾンを導入したCKPSマウスでは肝転移の頻度がおおよそ2倍（約40%）に上昇することを見出した。トランスポゾンの挿入部位には転移を調節する遺伝子が存在している可能性が高いことから、この挿入部位を同定する手法としてSemi-quantitative transposon insertion site sequencing (Qiseq)を実施したところ、既に転移への関与が報告されている*Ddr1*遺伝子が同定されたほか、タンパクは翻訳制御に関わる遺伝子Eも同定された。*Ddr1*遺伝子をCRISPR-Cas9でノックアウトしたCKPS細胞は脾臓への移植による肝転移形成数がコントロール細胞よりも低下した。また翻訳制御遺伝子Eを過剰発現させたCKPS細胞は肝転移形成数がコントロール細胞よりも増加した。本年度は翻訳制御遺伝子Eの機能を解明するため、各種オミクス解析を実施した。遺伝子Eによって翻訳制御を受ける分子群には抗アポトーシス関連のものが含まれていたほか、転写レベルで制御を受けているも遺伝子には核酸の修飾に関わるものが含まれていることを見出した。

### 【今後の方向】

*Ddr1*遺伝子のCKPS細胞における働きを明らかにすること、そして遺伝子Eによって制御を受ける分子群について転移との関わりを解明していきたい。

## <研究課題> 3

(主題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築

(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

## <研究者氏名>

小島 康、三城恵美<sup>1)</sup>、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義<sup>2)</sup>、武藤 誠<sup>3)</sup>、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者のPerformance Status (PS)、Quality of Life (QOL)を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルおよび臨床検体のマルチオミクス解析に取り組んでいる。これまでに、主に2種類の悪液質モデルマウスを用いてきた。1つは、*cis-Apc/Smad4*変異マウスで、14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう1つは、ヒトメラノーマSEKI細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後2~3週間で著大な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な悪液質を発症する。我々は、上記の2種類の悪液質モデルマウスの肝臓および骨格筋に対してメタボローム解析およびプロテオーム解析を実施して悪液質に関連性の高い変化をそれぞれ見出している。本年度は胃がん臨床血液検体を用いた解析を継続して、マウスモデルから同定された悪液質診断および治療関連因子の検証を完了し、結果、複数の有力な診断・治療因子候補の臨床的妥当性を実証した。これらの内容について論文発表した（Kojima et al., *Nat Commun* 14, 6264, 2023）。

### 【今後の方向】

がん悪液質における肝臓の変化をより詳細に解析するとともに、腎臓などの変化についても予備的検討を開始する。

<sup>1)</sup> 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所

<sup>2)</sup> 慶應義塾大・先端生命科学研究所

<sup>3)</sup> 京大病院・先端医療研究開発機構

## 分子腫瘍学分野

### <研究課題> 1

(主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) 悪性中皮腫におけるO-GlcNAc修飾異常に伴う腫瘍進展メカニズムの解明

## <研究者氏名>

向井智美、佐藤龍洋、亀井保博<sup>1)</sup>、加藤 輝<sup>1)</sup>、三城恵美<sup>2)</sup>、青木正博<sup>3)</sup>、藪田紀一<sup>4)</sup>、廣島健三<sup>5)</sup>、関戸好孝

### 【目的・概要・進捗状況】

近年、種々のがんにおいて、翻訳後修飾のひとつであるO-GlcNAc (O結合型β-N-アセチルグルコサミン)修飾が亢進することが報告されており、診断マーカーや治療標的としての

可能性が注目されている。O-GlcNAc 修飾の標的タンパク質は、細胞質タンパクや核タンパクなど様々で、タンパク質間相互作用やタンパク質の安定性に寄与するといわれている。しかし、がんの進展と関連した O-GlcNAc 修飾タンパク質の生理的な意義や、その腫瘍進展メカニズムの研究は乏しく、O-GlcNAc 修飾を標的とした治療を行う上で明らかにすべき課題が多い。

最近我々は、Hippo 細胞内シグナル伝達経路の破綻によって転写コアクチベーター YAP/TAZ が活性化した中皮腫細胞株および患者組織において O-GlcNAc 修飾が顕著に亢進することを見出した。さらに、その主たる標的タンパク質として複数の核膜孔複合体構成因子（ヌクレオポリン）を同定した。そこで今回我々は、中皮腫におけるヌクレオポリンの過剰な O-GlcNAc 修飾が、核輸送に与える影響および、細胞増殖能との関連を検討した。核輸送の解析を行うにあたり、光操作技術（Optogenetics）を利用して、中皮腫細胞における核輸送動態の可視化と輸送速度の定量化を可能とする実験系を構築した。この実験系を用いて、ヌクレオポリンの O-GlcNAc 修飾が過剰な中皮腫細胞において、O-GlcNAc 修飾阻害剤を添加すると核輸送速度が有意に抑制されることを明らかにし、同時に、細胞増殖能も有意に抑制されることを見出した。そこで、O-GlcNAc 修飾の亢進によって核輸送が活発になった中皮腫細胞は、核輸送の阻害に対して脆弱であると考え、現在最も臨床応用が進んでいる核外輸送受容体 XPO-1 の選択的経口阻害剤 KPT-330 を中皮腫細胞に添加した。その結果、濃度依存的な核輸送速度の減少と、細胞増殖能の抑制が認められた。さらに、KPT-330 を中皮腫細胞株を移植した担癌マウスに経口投与したところ強い抗腫瘍効果が得られた。以上より、Hippo 経路の破綻を一因とする O-GlcNAc 修飾が亢進した中皮腫に対して、核輸送阻害剤は有望な治療薬であることが示唆された。

#### 【今後の方向】

がん細胞は、非がん細胞と比較すると細胞増殖速度や代謝速度が速いことから、核輸送が活発であると考えられている。そのため、がん細胞は核輸送の阻害に対して脆弱であり、核輸送阻害剤は抗がん効果が期待できる。しかし、輸送基質の結合を阻害する既存の核輸送阻害剤では、有害事象の発生が問題となる。そこで今後は、核輸送速度を正常化する副作用の少ない新規の薬剤開発を目指し、核輸送速度の制御に寄与する O-GlcNAc 修飾ヌクレオポリンの同定や核輸送受容体との相互作用について詳細に検討し、核輸送速度の制御メカニズムを明らかにするとともに創薬標的を決定する。

- 1) 基礎生物学研究所 バイオイメージング解析室
- 2) 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所
- 3) がん病態生理学分野
- 4) 微生物病研究所 分子免疫制御分野
- 5) 千葉大学大学院医学研究院 遺伝子生化学

#### <研究課題> 2

（主題）細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究

（副題）フェロトシス易誘導性を利用した中皮腫新規治療法の可能性の検討

#### <研究者氏名>

佐藤龍洋、大城太一<sup>1)</sup>、前田 徹<sup>2)</sup>、供田 洋<sup>1)</sup>、関戸好孝

#### 【目的・概要・進捗状況】

中皮腫は、肺などの臓器を保護する漿膜に存在する中皮細胞がアスベスト曝露等によりがん化した難治性の希少がんである。早期発見が難しく、発見時には外科的切除が不可能なケースがほとんどであることから、薬物療法による治療が主体となることが多い。しかし、著効を示す分子標的薬は見つかっていない。中皮腫の網羅的なゲノム解析では、がん細胞増殖や悪性化を促進するようながん遺伝子のドライバー変異はほとんど見られず、NF2 や BAP1、CDKN2A といった分子標的薬の標的となりにくいがん抑制遺伝子の変異が主体であることが明らかにされている。近年、免疫チェックポイント阻害剤の使用が承認され一部の中皮腫患者に著効を示すことが報告されているが、奏効率は2-4割であり新たな治療戦略の開発は依然として急務である。

私たちは中皮腫細胞を用いた解析により、遺伝子変異だけでなく遺伝子の発現変動が細胞の性状に重要な影響を与えることを見出しており、中皮腫の脆弱性を新たに探索するため薬剤スクリーニングを開始した。微生物は合成化合物と比較して多様で複雑な化合物を合成することが可能であることから、これらの培養上清ライブラリーを使用して中皮腫の治療となりうる化合物の探索を行ったところ、鉄依存性細胞死（フェロトシス）を誘導する化合物が顕著な増殖抑制効果を示すことを見出すことができた。本研究では、フェロトシス誘導による中皮腫細胞への影響についてさらに解析を進め、新規治療法としての可能性を検討した。

フェロトシス誘導剤 RSL3 を用いて中皮腫細胞株および正常不死化中皮細胞株に作用させ、細胞増殖阻害効果を調べた。その結果、多くの中皮腫細胞株が RSL3 に対して高感受性を示し、低濃度の薬剤で増殖が阻害され細胞死が誘導された。また、4種の正常不死化中皮細胞株はいずれも低濃度の RSL3 存在下では増殖阻害を示さなかった。これらの結果から、フェロトシス誘導は中皮腫細胞の治療に有効である可能性が示唆された。一方、一部の中皮腫細胞は正常不死化中皮細胞株と同様に RSL3 に対して低感受性であったことから、フェロトシス誘導に対する感受性の違いがどのようにして起きるのか、感受性の違いを判別する手法が必要になると考えられた。中皮腫で高頻度に変異が見られる NF2 はフェロトシス感受性に関すると報告されている。そこで、NF2、BAP1 遺伝子それぞれの変異の有無により細胞を分類して RSL3 感受性の差異を検討した。しかし、これらの細胞群間において感受性の差異は検出されず、両遺伝子変異は共に RSL3 感受性に大きく影響しないと考えられた。次に、RSL3 感受性に応じて中皮腫細胞株を2群に分類して遺伝子発現差異解析を行った。発現量の大きく異なる遺伝子を抽出して RSL3 感受性への関与を調べたところ、高感受性群で発現量が高い LPCAT1 の発現量を低下させることで感受性が低下することがわかった。これらの結果から、フェ

ロトーシス誘導感受性において LPCAT1 の発現量が関与している可能性が示唆された。

#### 【今後の方向】

LPCAT ファミリー遺伝子はリン脂質のリモデリングに関与する遺伝子で、これらのうちいくつかはすでにフェロトーシスへの関与が報告されている。しかし、中皮腫における LPCAT の役割についてはほとんど報告がなく、中皮腫細胞における LPCAT1 発現量の差異についても不明な点が多い。今後、LPCAT1 発現調節機構や中皮腫細胞内での機能を解析するとともに中皮腫の細胞膜を構成する脂質の組成解析を進め、新規治療法の確立に向けた LPCAT1 の役割とフェロトーシス易誘導性の関連について明らかにする予定である。

<sup>1)</sup> 北里大学大学院薬学研究科

<sup>2)</sup> 金城学院大学薬学部

## システム解析学分野

### <研究課題> 1

(主題) 統計的モデリングおよび深層学習を活用したがんゲノムデータ解析法の開発研究

(副題) 機械学習による免疫受容体タンパクデザイン手法の開発

### <研究者氏名>

郭 中梁、松下博和、山口 類

### 【目的・概要・進捗状況】

人間の適応免疫における、自己・非自己認識機構は T 細胞の表面にある TCR と、抗原提示細胞が細胞表面に提示する pHLA の結合反応により司られている。細胞傷害性 T 細胞 (CD8 陽性 T 細胞) は、がん細胞が HLA タンパク上に提示するがん特異的抗原ペプチドを非自己として認識し、がん細胞を攻撃する。近年、開発が進む有力ながん免疫療法として、患者由来の TCR に改変を加えて、がん抗原の認識能を高めがん細胞を攻撃させる、TCR 遺伝子改変 T 細胞輸注療法 (TCR-T 療法) およびキメラ免疫受容体 T 細胞輸注療法 (CAR-T 療法) がある。これらの治療法はすでに一部のがんに対して大きな奏功を示しているが、臨床的に意味のある効果を得るためには、TCR 遺伝子の改変により pHLA との結合能 (親和性) を高めることがカギとなる。

しかしながら現在の T 細胞受容体改変療法には、同療法の「個別化」を目指す上で大きな困難がある。それは個々の結合能を高めた改変型 T 細胞受容体の作出に膨大な労力と時間を要することである。なぜならば TCR タンパク中で抗原認識に重要な CDR3 領域のアミノ酸配列のみの改変を考えたとしても  $10^{26}$  通りを超える膨大な組み合わせ多様性を持ち、なおかつ、超広大な配列探索空間のどこからどの方向へ探索していけば、目的とする pHLA 複合体に対して、より高い結合能をもつ配列を得られそうか経験と勘に頼らざるを得ない状況である

からである。故に、望みの性質をもつ TCR 配列を見出すことには多大な困難を伴う。

その一方で、一人の患者のがん組織から得られるがん特異的抗原 (体細胞変異由来のネオ抗原を含む) は、多種多様かつ個別性が高い。これらの多様ながん抗原を TCR-T 療法の標的とすることができれば、治療方策の幅を大きく広げ将来の患者の福音となる可能性が高い。そのためには上記の困難を克服する新たな方法論の開発が必要不可欠である。

本研究の目的は、近年がん免疫治療において開発が進む T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子改変 T 細胞輸注療法 (TCR-T 療法) の個別化の実現に向けて、最先端の「データ科学技術」と「免疫細胞シークエンス計測技術」の統合により、膨大な組み合わせ多様性を持つ改変型 TCR と抗原ペプチド・HLA 複合体 (pHLA) 間の結合において、結合強度を増強・制御した「改変型 TCR タンパク配列を高精度かつ高効率にデザインする手法」の開発を目指すことである。昨年度までに、新規 TCR 配列探索アルゴリズムとしてベイズ統計に基づく統計的サンプリングを利用した方式を開発した。その結果、多様な配列を高速に探索することが達成された。一方、より良い候補配列集合を得るためには、上記のサンプリングアルゴリズムの内部で使われる、タンパク質間結合能予測モデルの精度の向上が必要とされた。そこで、本年度は、上述の結合能予測モデルの開発を進め、アミノ酸配列からの特徴量とタンパク質立体構造からの特徴量の双方を組み合わせた新規マルチモーダル機械学習モデルの開発に成功し、既存の手法を凌ぐ性能を発揮し、国際学会での発表につなげた。

### 【今後の方向】

開発した方式の数値的および実験的検証を進め、改良を進める。

### <研究課題> 2

(主題) 臨床シークエンスへ向けたがん変異およびシステム変調情報の解釈・翻訳法の研究

(副題) Physics Informed Neural Network による RNA-seq 時系列データからの情報抽出法の開発

### <研究者氏名>

武藤 理、郭 中梁、山口 類

### 【目的・概要・進捗状況】

臨床がんゲノムパネル検査が 2019 年より保険適用となり、がんゲノム医療が本格化している。我々は、近未来の、全ゲノムシークエンスおよび複数オミクスデータの統合解析に基づく、がん臨床シークエンスの実現に向けた情報解析基盤技術の開発を進めている。臨床シークエンスにおいては、現在は DNA のシークエンスが主流であるが、今後 RNA 等の情報をも個々人のサンプルから得られることが予想される。また PDX モデルや、オルガノイドモデルからの薬剤反応性時系列データ等の取得も視野に入る。本研究では、時系列 RNA-seq データからの深い情報抽出を目指し、Physics Informed

Neural Network (PINN) を活用した機械学習手法の開発を進めた。ここでは、RNA-seq データから得られる二種類の配列計測データ（リード）を利用する。一つは、遺伝子のエクソン領域の配列のみを含むリード、一方はイントロン領域の配列を含むリードである。前者は、成熟 mRNA の量を反映し、後者は新生 RNA の量を反映する。時系列 RNA-seq データから得られる各遺伝子の二種類のリードの情報から、転写、スプライシング、分解といった RNA のライフサイクルを司る量の推定を試みた。ここでは RNA ライフサイクルを表現する微分方程式モデルを利用する。既存の手法では、モデルに含まれる、転写率、スプライシング率、分解率といったパラメータが、定数として扱われている。しかしながら転写バーストや、振動する現象を、十分に表現することができない問題があった。我々は、その困難を克服するために上記のパラメータ群を時変パラメータとして扱い推定する方式を考案した。本方式ではニューラルネットワークモデルに対して PINN の枠組みで、RNA ライフサイクルモデルの情報を背景知識として教えこむことにより、柔軟かつ生物学的知識に矛盾しない解釈可能性の高い結果を得ることが期待される。実データからは、転写バッファリングやリップルエフェクト等に関わる興味深い情報を抽出することができている。

#### 【今後の方向】

個々人の臨床シーケンスデータの背後にあるがん細胞のシステムに関わる情報を抽出するために、当手法を適用し、遺伝子制御ネットワークを推定し、がん種ごとの制御機構の特徴発見や将来的な治療法選択につなげることを目指す。

### 腫瘍制御学分野

#### <研究課題> 1-1

- (主 題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用
- (副 題) 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

#### <研究者氏名>

森田知佳、疋田智也、宮田真美子、和田琴恵、青木玲奈、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼ c-Src は、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においても src 遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞には Src の恒常性を維持し、不要な Src シグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。私たちはこれまでに、がんにおける異常な Src シグナルが、非受容体型チロシンキナーゼ Fer により中継される新たなメカニズムを見出した。また臨床検体を用いた組織染色などによって、新規

がん治療標的として Fer が有望であることが示唆された。そこで、Fer に結合する低分子化合物をスクリーニングしたところ、12 万化合物から 26 種のヒット化合物を取得し、バリデーションの結果ヒット化合物 1 種を選択した。さらにヒット化合物から構造展開を行い、がん増殖抑制作用が高く細胞毒性の低いリード化合物 2 種の取得に成功した。今年度は、大腸がん患者由来組織担がんモデルマウスにおけるリード Fer 機能阻害剤の評価を行ない、経口投与にて薬効が認められた。

#### 【今後の方向】

Fer 機能阻害剤の適応がん種を調べるとともに、作用機序メカニズムの解析を行う。

#### <研究課題> 1-2

- (主 題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用
- (副 題) 蛋白質発現制御とがん進展

#### <研究者氏名>

森田知佳、宮田真美子、和田琴恵、安達晴喜<sup>1)</sup>、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

mechanistic target of rapamycin (mTOR) 経路は蛋白質合成や細胞増殖、代謝などの制御において中心的な役割を果たしており、様々ながんで活性化している。mTOR は複数の蛋白質と共に mTORC1 などの巨大複合体を形成して機能する。Rheb 蛋白質は mTORC1 のリソソームにおける活性化を司る分子とされ、様々ながんにおいて発現が亢進しているものの、その発現制御メカニズムは不明である。私たちはこれまでの研究において、mTORC1 活性阻害によるがん細胞の増殖抑制作用を示す化合物を解析する中で、その化合物が Rheb の分解誘導を引き起こし、蛋白質量を顕著に抑制することを見出してきた。今年度は、Rheb 蛋白質の新たな発現制御メカニズムの解明を進めたところ、本化合物によって Rheb のユビキチン化が誘導され、それによってプロテアソーム系を介した分解が誘導されることが明らかとなった。

#### 【今後の方向】

Rheb 発現抑制剤の作用機序を詳細に解析し、Rheb 蛋白質の発現制御メカニズムを明らかにする。

<sup>1)</sup> 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

#### <研究課題> 2-1

- (主 題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明
- (副 題) EV の形成制御とがん進展

#### <研究者氏名>

正田智也、安達晴喜<sup>1)</sup>、和田琴恵、宮田眞美子、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

エクソソームなど細胞外小胞 (EV) は、内部にタンパク質や RNA 分子を含む膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、EV 形成・放出が亢進していることが知られており、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、がん細胞における EV の形成や分泌の亢進メカニズムについてはほとんど明らかとなっていない。私たちはこれまでに、様々ながんで活性化している Src シグナルのエクソソーム産生への関与について解析すると共に、Src の下流で増殖シグナルに関わる MAPK の活性化がエクソソーム分泌促進することを明らかにした。詳細な解析の結果、MAPK の活性化によって細胞内のリソソームの活性化が抑制され、エクソソーム形成の元となる多胞性エンドソームの分解が促進することにより、エクソソームの分泌が亢進することを明らかとした。今年度は、Src の活性化によって EV への内包が変化する miRNA に着目し、RNA 結合蛋白質を同定することで詳細な EV 内包メカニズムを解析した。その結果、Src によって RNA 結合蛋白質がリン酸化されることで miRNA とのアフィニティが強くなり、特異的な miRNA の EV への内包が亢進することを明らかとした。

#### 【今後の方向】

がん特異的な RNA 結合蛋白質を介した EV 内包メカニズムを詳細に解析する。また RNA 結合蛋白質により内包 miRNA が変化した際の EV のがん形質に対する作用を解析し、がん微小環境の構築における機能を明らかにする。

<sup>1)</sup> 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究所)

#### <研究課題> 2-2

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) EV 分泌阻害剤の探索と作用機序解明

#### <研究者氏名>

青木玲奈、宮田眞美子、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

これまで EV マーカーをルシフェラーゼ標識することによって生じた発光 EV を検出する方法を開発し、それを発展させ EV 分泌阻害剤の探索系を構築した。そこで新規 EV 分泌阻害剤の同定を目指し、およそ 400 種の既存シグナル阻害剤のスクリーニングを行った。その結果、ある EV マーカーを選択的に抑制する EV 分泌阻害剤を見出した。詳細な作用機序解析の結果、本化合物は EV の形成過程でなく分泌過程を抑制することにより EV 分泌を阻害することが明らかとなった。

#### 【今後の方向】

引き続き他の新規 EV 分泌阻害剤の探索を行うと共に、作用機序解析を行うことでがん特異的な EV 分泌亢進メカニズムを明らかにする。

### 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

#### <研究課題> 1

(主題) がん免疫編集のメカニズムの解明

(副題) 腫瘍免疫微小環境の評価

#### <研究者氏名>

岡本貴成<sup>1)</sup>、野平翔太<sup>1)</sup>、水田 亮<sup>2)</sup>、岡村文子、孫 宇佳<sup>3)</sup>、篠原周一<sup>3)</sup>、村岡大輔、山口 類、黒田浩章、大野真佐輔、松下博和

#### 【目的・概要・進捗状況】

一人一人の腫瘍免疫微小環境 (TIME) をより良く理解することが、その患者の予後や治療効果を予測するバイオマーカーの開発につながると考えられる。しかし、TIME を構成する様々な因子の相互作用を包括的に評価する方法はほとんど開発されていなかった。我々は、肺癌 113 例の RNA-seq と全エクソソームシーケンスのデータを用いて、TIME を構成する因子に基づく新しいスコアリングシステム (TIME score) を開発した (Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022)。

膠芽腫、転移性脳腫瘍における三次リンパ様構造 (TLS) の存在を明らかにするために、抗 CD3, CD4, CD8, CD20 抗体等を用いて免疫染色を実施した。転移性脳腫瘍 (肺癌からの) において、TLS の存在が予後良好因子となる可能性が示された (Nohira et al, Anticancer Res 2024)。また、膠芽腫 42 検体の RNA-seq を実施し、膠芽腫の TIME を評価した (Okamoto et al, submitted)。膠芽腫で TLS を認めた症例において、Visium 解析 (空間的遺伝子発現解析) を実施し、TLS の形成機序について検討を行っている。

#### 【今後の方向】

バルクの RNA 発現による TIME の評価法をさらに発展させるために、腫瘍の免疫組織学的解析、T 細胞のシングルセル解析、Visium 解析等の詳細な検討を行っている。

<sup>1)</sup> 任意研修生

<sup>2)</sup> リサーチレジデント

<sup>3)</sup> 連携大学院生

#### <研究課題> 2

(主題) 新生抗原 (ネオアンチゲン) の同定と免疫応答の解析

#### <研究者氏名>

小室裕康<sup>1)</sup>、杉田裕介<sup>2)</sup>、石原宏政<sup>1)</sup>、岡本貴成<sup>1)</sup>、村岡大輔、

篠原周一<sup>1)</sup>、岡村文子、松井琢哉<sup>1)</sup>、山下慶子<sup>3)</sup>、山口 類、田口 歩、松下博和

#### 【目的・概要・進捗状況】

免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療において、がんが保有する変異抗原（ネオアンチゲン）エピトープを認識する細胞傷害性 T リンパ球（CTL）が、腫瘍細胞の排除に重要な役割を果たしていることが明らかになっている。がん細胞における変異は個々の患者において様々であり、ネオアンチゲンの探索も個別に行う必要がある。我々は、Single Cell RNA sequencing (scRNA-seq) および TCR sequencing (scTCR-seq) を活用して、Tex (exhausted T cell) クラスターの CD8+ 細胞と、日本電気株式会社（NEC）の人工知能（AI（グラフベース関係性学習））を活用して予測した抗原ペプチドとの反応性を検討した。合計 5 個の腫瘍抗原と、その抗原に特異的な 9 種類の T 細胞を同定した。CD8+T 細胞 scRNA/TCR-seq による Tex-TCR の検出は、肺癌患者の腫瘍抗原を同定する有用なアプローチと考えられた（Komuro et al, J Immunother Cancer 2023）。また、同様のアプローチを用いて、肺癌悪性胸水貯留症例の 3 例中 1 例で、ネオアンチゲンとそれを認識する TCR の同定が可能であった（Sugita et al, OncoImmunology 2024）。さらに、CD8+T 細胞 scRNA/TCR-seq による Tex-TCR の検出を、HPV 陽性中咽頭癌で試み、その TCR が HPV-16 由来の抗原を認識することを明らかにした。

#### 【今後の方向】

肺癌でのアプローチを、脳腫瘍及び頭頸部癌にも応用して、抗原及び抗原特異的 T 細胞を同定する。

<sup>1)</sup> 任意研修生

<sup>2)</sup> リサーチレジデント

<sup>3)</sup> AI Drug Development Division, NEC Corporation

#### <研究課題> 3

（主眼） ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法の開発

（副眼） TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療の開発

#### <研究者氏名>

村岡大輔、Yizheng Wang<sup>1)</sup>、岡村文子、小野口和英<sup>2)</sup>、山下慶子<sup>2)</sup>、山口 類、松下博和

#### 【目的・概要・進捗状況】

上述のように、我々は、Single Cell RNA sequencing (scRNA-seq) および TCR sequencing (scTCR-seq) を活用して、肺癌から腫瘍特異的 CD8+ 細胞集団を特定し、その集団内の T 細胞が認識する腫瘍抗原の同定を試みてきた。しかし、実際の腫瘍では、腫瘍特異的 T 細胞が腫瘍周辺に留まり腫瘍領域に到達することができず、腫瘍細胞の排除ができないことが知られており、T 細胞の腫瘍領域への浸潤を規定する機構の解明が喫緊の課題とされている。

我々は、空間的遺伝子発現解析情報に一細胞遺伝子発現解析

情報を紐づける独自の技術を確立し、腫瘍局所における腫瘍特異的 T 細胞の局在とこれらの T 細胞における詳細な遺伝子情報を明らかにすることに成功した。現在、この画期的な技術を用いて、腫瘍領域へと浸潤できる抗原特異的 T 細胞と浸潤できない抗原特異的 T 細胞の特徴を詳細に比較解析し、腫瘍特異的 T 細胞の腫瘍内浸潤を規定する因子を探索している。

また、TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療の開発の加速するために、抗原と TCR の結合予測を AI のみで行うシステム開発を NEC と共同で進めている。

#### 【今後の方向】

この TCR-抗原ペア同定アルゴリズムと空間遺伝子発現解析を統合したシステムを、将来の固形がんに対する TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療の開発に応用する。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

<sup>2)</sup> AI Drug Development Division, NEC Corporation

## 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

#### <研究課題> 1

（主眼） がんの診断・治療個別化に有用な血液バイオマーカーの探索

（副眼） 大腸癌の早期診断を目指した血液バイオマーカーの探索同定

#### <研究者氏名>

田口 歩、磯村久徳<sup>1)</sup>、小林 信

#### 【目的・概要・進捗状況】

我が国において、大腸癌の罹患者数は増加傾向で、約 15 万人と全がんの中で最多であり、また死亡者数も 5 万人超と肺癌について 2 番目に多い。大腸癌の 5 年相対生存率は、局所限局症例では 95% 以上と非常に良い一方で、局所限局症例の占める割合は全体の約 40% に過ぎず、その診断の遅れが問題となっている。大腸癌を早期発見するためのスクリーニングとして、免疫法便潜血検査が行われている。便潜血検査は、受診者の負担が低く、また大腸癌による死亡率を減少させることが証明されているが、疑陽性率が高く、その陽性的中率はわずか 5% 前後であること、また早期大腸癌に対する感度も約 50% と低いことから、より精度が高い早期診断法の開発が急務である。

血液バイオマーカーは、簡便かつ低侵襲、低コストで高スループットな診断法であり、癌の早期診断やスクリーニングにおいて有望である。本研究では、臨床上有用な診断精度を持つ、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌の血液診断バイオマーカーの探索を目指して、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌患者から採取された血漿検体を用いて、血中タンパク質と自己抗体の網羅的かつ高深度なプロファイリングを行う。

現在までに、4 つの血漿検体セットを用いて高深度血漿タンパク質解析を行った。3 つの施設（愛知県がんセンター、藤田医科大学消化器内科、滋賀医科大学消化器内科）から提供された



血漿検体について、それぞれ施設、性別（男、女）、組織型（腺腫、腺癌）、発生部位（右側、左側）、遺伝子変異（KRAS、BRAF）などの臨床情報に基づいてサンプルをプールし、安定同位体標識を用いて標識したのち、サンプルを大規模に分画して、高深度かつ定量的な質量分析を nano-LC/MS/MS を用いて行った。各プロテオーム解析において、それぞれ 800~1,100 個の微量タンパク質が同定できた。そのうち、有望と考えられたバイオマーカー候補については、現在アッセイの確立と 150 例（正常対照、低リスク大腸ポリープ、高リスク大腸ポリープ、早期大腸癌、進行大腸癌それぞれ 30 例ずつ）の血漿検体を用いた初期検証を進めている。さらに既存の大腸がんバイオマーカー（CEA、CA19-9、p53 抗体、CYFRA21-1、LGALS3、TIMP-1）についても併せて検証を行っている。また、抗原-自己抗体高感度プロテオーム解析による自己抗体プロファイリングに基づいて、有望なバイオマーカー候補と考えられた自己抗体についても同様に初期検証を進めている。初期検証で有望と考えられたバイオマーカーを組み合わせるバイオマーカーパネルの構築を行ったところ、正常と大腸腫瘍性病変（低リスク大腸腺腫+高リスク大腸腺腫+早期大腸癌+進行大腸癌）、正常と大腸ポリープ（低リスク大腸腺腫+高リスク大腸腺腫）、正常と大腸癌（早期大腸癌+進行大腸癌）の比較において、バイオマーカーの組み合わせは AUC がそれぞれ 0.828、0.921、0.860 であり、CEA 単独の AUC である 0.584、0.530、0.637 を有意に上回った（ $P < 0.001$ 、 $P < 0.001$ 、 $P = 0.003$ ）。

#### 【今後の方向】

初期検証において有望と考えられたバイオマーカーについては、便潜血陽性症例 223 例（そのうち高リスク大腸ポリープから進行大腸癌 67 例を含む）、大腸癌と診断される前に収集された血液検体 130 例（+正常対照 130 例）を用いてさらに検証する。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

#### <研究課題> 2

- （主題） 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子病態の解明と新規治療標的分子の探索  
（副題） 大腸癌転移モデルのマルチオミクス解析による大腸癌転移機構の解明と制御法の開発

#### <研究者氏名>

田口 歩、磯村久徳<sup>1)</sup>、小林 信、梶野泰祐

#### 【目的・概要・進捗状況】

遠隔転移を有する Stage IV 大腸癌の 5 年生存率は約 20% と予後不良であり、大腸癌の生存率向上のためには、再発・転移の制御が極めて重要である。転移性大腸癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって転移性大腸癌の克服に取り組む必要がある。

我々は、大腸癌転移モデルとして、マウス大腸癌細胞株

CT26 の in vivo selection を行い、肝転移（CT26-L6）、リンパ節転移（CT26-LN6）、腹膜転移（CT26-P6）をそれぞれ高頻度に起こす亜株と、転移を起こしにくい亜株（CT26-N5）をそれぞれ樹立した。低転移性亜株に比べ、各高転移性亜株では高い遊走・浸潤能を獲得していた。各亜株において、RNA シーケンス解析と多層プロテオーム解析を行い、それぞれの分子プロファイルと比較したところ、特に転移関連分子 AVIL が、腹膜転移亜株で高発現していることを見出した。腹膜転移亜株において、siRNA を用いた AVIL のノックダウンにより、細胞の遊走・浸潤能が著明に低下した。in vivo においても AVIL のノックダウンは、腹膜転移形成を抑制した。また、ヒト大腸癌細胞株においても AVIL のノックダウンによって、同様に遊走・浸潤能が有意に低下することが観察され、AVIL が大腸癌腹膜転移において重要な役割を果たしていることが示唆された。また、GSEA 解析から AVIL が JAK-STAT シグナル経路によって制御されていることが明らかになった。IP-MS によって AVIL の結合タンパク質を探索したところ、受容体型チロシンフォスファターゼ PTPRB が同定された。PTPRB のノックダウンによってヒト大腸癌細胞株の遊走・浸潤能が有意に低下したことから、AVIL が PTPRB の機能制御に関わっていることが示唆された。

現在高肝転移亜株、高リンパ節転移亜株においても同様に解析を進めており、本研究を通じて大腸癌転移に関わる分子機構を俯瞰的に解明し、大腸癌転移を制御するための新規分子標的治療法の開発を目指す。また、並行して大腸癌原発巣と肝転移巣の臨床検体から作成した患者腫瘍組織移植（PDX）モデルについても、多層オミクス解析を行っており、さらなる新規転移関連分子の同定を目指している。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

## がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

#### <研究課題> 1

各種固形腫瘍に対する新規分子標的治療開発

#### <研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太、粕谷仁美、山口 類

#### 【目的・概要・進捗状況】

大腸がんによる死亡者数は年間 5 万人程度で、男性のがん死亡の第 3 位、女性では第 1 位の原因である。大腸がんの術後再発メカニズムの解明および新規治療開発のため、切除可能大腸がんの手術検体よりオルガノイドの作成を行うとともに、腫瘍検体の全エクソームシーケンス解析とそれに基づいて患者個別に設定された対象遺伝子の ctDNA 解析、腫瘍検体の RNA シーケンス解析のデータを統合解析し、新たな標的分子の同定と治療開発につなげる。本研究は、多施設共同臨床試験であり、当院のデータと試験全体のデータの統合解析を行っている。

## 【今後の方向】

ctDNA 解析結果と臨床病理学的背景の関わり、ctDNA 解析結果により判定される術後補助療法に対する感受性と発現プロファイルの相関などの解析により標的分子の選定を進める。

## ＜研究課題＞ 2

承認済み分子標的薬における初期・獲得耐性機序の解明・克服

## ＜研究者氏名＞

衣斐寛倫、足立雄太、築瀬正伍、木村 令<sup>1)</sup>、平出賢太郎<sup>2)</sup>、山本隆正、

## 【目的・概要・進捗状況】

固形腫瘍において、KRAS 遺伝子は高頻度に変異を認めるが、有効な治療法が存在しないため新たな治療開発が急務である。KRAS 変異にはいくつかのホットスポットが存在し、そのうち 12 番目のアミノ酸であるグリシンがシステインに変異する KRAS G12C 変異は、肺がんの 4-5%、大腸がんの 2-3% に存在することが知られている。近年、KRAS G12C 変異タンパクを特異的に阻害する薬剤が開発され、2021 年末に薬事承認された。我々は、KRAS G12C 変異を有するがん細胞株の解析から、KRAS タンパクの発現が KRAS G12C 阻害薬の感受性に関与することを見出した。また、KRAS タンパクの発現は、腫瘍の上皮間葉移行状態に関連しており、腫瘍細胞が間葉系の性質を獲得することにより KRAS G12C 阻害薬に耐性となることや、上皮間葉移行が起きるメカニズムについて取り組み、候補分子を同定した (Clinical Cancer Res, 2020. Nature Cancer 2023)

## 【今後の方向】

KRAS の他の部位に対する特異的阻害薬も開発が進んでいることから、KRAS G12C 阻害薬は、今後の KRAS 変異腫瘍に対する治療のモデルケースとなることが考えられる。現在、上皮間葉移行状態以外の KRAS G12C 阻害薬の初期・獲得耐性機序や、上皮間葉移行状態が誘導されるメカニズムについても検討を進めており、これらの原因が明らかにされることにより、KRAS 阻害薬の効果が期待される患者の同定や、効果が期待できない患者に対する併用療法などの新たな治療選択の提示につなげたい。

<sup>1)</sup> 研修生

<sup>2)</sup> リサーチレジデント

## 第2章 研究発表関係

### 1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長）

#### 総長

- 001 丹羽康正：医療ビッグデータを用いた臨床疫学研究. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [特別講演司会]
- 002 丹羽康正：大腸早期がんに対する JNET 診断と治療の Update - West vs. East -, 大腸内視鏡前処置におけるサルプレップの役割 ～当院での使用経験を中心に～. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [特別発言]
- 003 丹羽康正：胃 X 線造影検査における画像および読影の精度向上にむけて. 第52回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会, 2023, (名古屋), [特別講演司会]
- 004 丹羽康正：対策型胃内視鏡胃検診－発見癌とリスク対応－. 岡崎市医師会学術講演会, 2023, (岡崎), [講演]
- 005 丹羽康正：十二指腸腫瘍の内視鏡診断と治療. 第38回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2024, (Web), [司会]

## 2. 学会等における研究発表テーマ調べ（病院）

### 病院長

- 001 *Izutsu K, Kumode T, Yuda J, MD, Nagai H, Mishima Y, Suehiro Y, Yamamoto K, Fujisaki T, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ikezoe T, Nishikori M, Akahane D, Fujita J, Jafarinassabian P, Noguchi H, Buchbjerg J K, Favaro E, Fukuhara N*: Epcoritamab in Japanese Patients With Relapsed/Refractory Diffuse Large B-Cell Lymphoma: EPCORE NHL-3 Longer-Term Data. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [口頭, 英語]
- 002 小椋美知則, 熱田由子, 岡元るみ子, 鈴木智貴, 大間知謙, 鈴木孝世, 木下朝博, 山本一仁: 未治療進行期 MALT リンパ腫および節性辺縁帯 B 細胞性リンパ腫 (NMZL) に対する rituximab と cladribine 併用 (R-2-CdA) 療法の臨床第 II 相試験 (造血器腫瘍研究会試験). 第63回日本リンパ網内系学会学術集会, 2023, (さいたま市), [ポスター]
- 003 山本一仁, 藤 重夫, 齋藤翔太, 村田達教, 水岡 崇, 大野慎也, 犬走直樹, 大嶋智葉, 坂巻弘之: 日本における未治療 DLBCL に対するボラツズマブベドチン+R-CHP 併用療法の費用対効果. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口頭]
- 004 片桐誠一郎, 赤羽大悟, 池 成基, 吉本五一, 山内高弘, 山本一仁, 小林敬宏, 白杵憲祐, 中邑幸伸, 石塚賢治, 池田大輔, 福島健太郎, 福原 傑, 伊豆津宏二, 南 陽介, 後藤明彦: HM-SCREEN 01,02 試験における RUNX1::RUNX1T1 を伴う AML のサブ解析. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口頭]
- 005 上田智朗, 福島健太郎, 池 成基, 吉本五一, 新井宏典, 池田大輔, 白杵憲祐, 高橋直人, 細野奈穂子, 山内高弘, 近藤 健, 山本一仁, 黒田純也, 南 陽介: アザシチジン/ベネトクラクス療法におけるリアルワールド NGS プロファイル HM-SCREEN-Japan 02 study. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口頭]
- 006 井山 諭, 池 成基, 池添隆之, 福島健太郎, 宇津欣和, 諫田淳也, 吉本五一, 池田大輔, 森下喬允, 小林敬宏, 山内高弘, 白杵憲祐, 近藤 健, 中邑幸伸, 小島研介, 吉田近思, 後藤明彦, 山本一仁, 黒田純也, 石塚賢治, 堺田恵美子, 堀口拓人, 小船雅義, 南 陽介: 急性骨髄性白血病における TET2 遺伝子変異 HM-SCREEN-Japan 02. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口頭]

### 消化器内科部

- 001 *Hara K*: EUS-CDS & HGS. 7th AEG KITASATO INTERVENTIONAL EUS WORKSHOP, 2023, (神奈川),

[講演]

- 002 *Hara K*: Interventional EUS Hands-on. 7th AEG KITASATO INTERVENTIONAL EUS WORKSHOP, 2023, (神奈川), [ワークショップ]
- 003 *Hara K*: How to perform EUS-BD successfully?. Early diagnosis and early treatment (EDET) expert committee, 2023, (北京), [ワークショップ]
- 004 *Hara K*: Case Presentation & Discussion. Early diagnosis and early treatment (EDET) expert committee, 2023, (北京), [ワークショップ]
- 005 *Hara K*: Difficult ERCP: What are the solutions?. IDEN 2023, 2023, (ソウル), [講演]
- 006 *Hara K*: EUS-HDS. ASIAN EUS CONGRESS 2023, (香港), [講演]
- 007 *Hara K*: HANDS-ON WORKSHOP. ASIAN EUS CONGRESS 2023, 2023, (香港), [ワークショップ]
- 008 *Hara K*: EUS-PDD CASE2. ASIAN EUS CONGRESS 2023, 2023, (香港), [講演]
- 009 *Hara K*: FUTURE EUS. ASIAN EUS CONGRESS 2023, 2023, (香港), [司会]
- 010 *Hara K*: Technical tips of EUS-guided biliary drainage. 2023 Southern Forum on GI Disease & Endoscopy, 2023, (中国), [講演]
- 011 *Hara K*: 症例解説. EUS WEB セミナー, 2023, (中国), [講演]
- 012 *Hara K*: EUS guided approach for benign anastomotic stricture. SGI 2023, 2023, (ソウル), [講演]
- 013 *Hara K*: VIDEO LIVE DEMO (PB). SGI 2023, 2023, (ソウル), [講演]
- 014 *Hara K*: EUS を効率的に学習するために. 症例解析訓練營—海外ドクター直行便, 2023, (中国), [講演]
- 015 *Hara K*: Technical Tips of EUS-HGS and CDS. Interventional Workshop in Bach Mai Hospital, 2023, (ハノイ), [講演]
- 016 *Hara K*: Interventional EUS LIVE DEMO. Interventional Workshop in Bach Mai Hospital, 2023, (ハノイ), [ワークショップ]
- 017 *Hara K*: Interventionl EUS. 2023 安徽省消化器病及び消化器内視鏡学術年会, 2023, (中国), [特別講演]
- 018 *Hara K*: Interventional EUS. 第2回浦東消化器週間, 2023, (中国), [特別講演]
- 019 *Hara K*: Precision Biliary Drainage. APDW 2023, 2023, (バンコク), [シンポジウム]
- 020 *Hara K*: Hands-on workshop. APDW 2023, 2023, (バンコク), [ワークショップ]
- 021 *Hara K*: New Accessories for EUS-guided Transmural Drainage. KPBA International Mini Symposium 2024, 2024, (Web), [特別講演]
- 022 *Hara K*: EUS-BD in AICHI CANCER CENTER. AEG

- Hands-on Workshop in Nagoya, 2024, (名古屋), [講演]
- 023 **Hara K** : LIVE Demo: Interventional EUS. AEG Hands-on Workshop in Nagoya, 2024, (名古屋), [講演]
- 024 **Hara K** : Interventional EUS Hands-on Workshop. AEG Hands-on Workshop in Nagoya, 2024, (名古屋), [ワークショップ]
- 025 **Hara K** : Interventional EUS in JAPAN. スリラート病院ワークショップ, 2024, (バンコク), [講演]
- 026 **Hara K** : Interventional EUS, LIVE DEMO. スリラート病院ワークショップ, 2024, (バンコク), [講演]
- 027 **Hara K** : Anatomy & Diagnosis in Endo-Hepatology with EUS. APASL 2024, 2024, (京都), [講演]
- 028 **Hara K** : Current Status of EUS-BD. APASL 2024, 2024, (京都), [講演]
- 029 **Hara K** : Tips and Tricks in Endo-Hepatology with EUS. APASL 2024, 2024, (京都), [司会]
- 030 **Shibui T, Nakamura Y, Ueno M, Furukawa M, Kawamoto Y, Itoh S, Umemoto K, Sudo K, Satoh T, Mizuno N, Asagi A, Okano N, Shimizu S, Bekaii-Saab TS, Strickler JH, Fujisawa T, Bando H, Yoshino T, Morizane C, Ikeda M** : Prognostic effects of co-occurring TP53 and KRAS aberrations in patients with advanced biliary tract cancer. 2024 ASCO GI Cancers Symposium, 2024, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 031 **Inoue K, Nakamura Y, Caughey B, Zheng-Lin B, Ueno M, Furukawa M, Kawamoto Y, Itoh S, Umemoto K, Sudo K, Satoh T, Mizuno N, Kajiwara T, Fujisawa T, Bando H, Yoshino T, Strickler JH, Bekaii-Saab TS, Morizane C, Ikeda M** : Comprehensive clinico-molecular profile and efficacy of anti-HER2 therapy for HER2-amplified biliary tract cancer. 2024 ASCO GI Cancers Symposium, 2024, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 032 **Shibuki T, Mizuno N, Kobayashi N, Hirano H, Tsuchikawa T, Matsumoto S, Okuyama H, Sasaki E, Shinjo K, Yamaguchi R, Kawata T, Hosoda W** : Molecular characterization of rectal neuroendocrine tumors (NETs) with unfavorable prognosis by multiomics analysis: A multicenter retrospective cohort study (GARNET). ESMO 2023, 2023, (スペイン), [口演]
- 033 **Satake T, Morizane C, Machida N, Honma Y, Okusaka T, Boku N, Kato K, Ogawa G, Sano Y, Imaoka H, Kobayashi S, Terashima T, Ikeda M, Okano N, Yamaguchi K, Sato T, Mizuno N, Kitagawa Y, Terashima M, Ueno M** : Role of tumor markers before or during chemotherapy for poorly differentiated neuroendocrine carcinomas of the digestive system: An exploratory analysis of JCOG1213. ESMO 2023, 2023, (スペイン), [ポスター]
- 034 **Ohba A, Ozaka M, Ogawa G, Okusaka T, Kobayashi S, Yamashita T, Ikeda M, Yasuda I, Sugimori K, Sasahira N, Ikezawa K, Miki I, Okano N, Mizuno N, Furukawa M, Shirakawa H, Sano Y, Katayama H, Furuse J, Ueno M** : Nab-paclitaxel plus gemcitabine versus modified FOLFIRINOX or S-IROX in metastatic or recurrent pancreatic cancer (JCOG1611, GENERATE): A multicentred, randomized, open-label, three-arm, phase II/III trial. ESMO 2023, 2023, (スペイン), [口演]
- 035 **Nakamura Y, Mizuno N, Sunakawa Y, Hamilton EP, Hayashi H, Kim ST, Lee K-W, Monk BJ, Nguyen D, Okines AFC, O'Malley DM, Pohlmann PR, Reck M, Yu EY, Groisberg R, Ramos J, Tan Q, Stinchcombe T, Bekaii-Saab TS** : Tucatinib and trastuzumab for previously treated HER2-positive metastatic biliary tract cancer (SGNTUC-019): A phase 2 basket study. ASCO 2023, 2023, (シカゴ), [口演]
- 036 **Haba S, Hara K, Okuno N** : Opening window fistulotomy; a novel method of biliary cannulation to prevent post ERCP pancreatitis. IDEN 2023, (韓国), [ポスター]
- 037 **Haba S, Hara K, Okuno N** : Utility of EUS-CDS for refractory benign distal biliary stricture. SGI 2023, (韓国), [ポスター]
- 038 **Kuwahara T, Hara K** : 人工知能および分子イメージングを使用した内視鏡検査 半教師あり学習による膵嚢胞検出を目指した人工知能の開発 (Endoscopy with artificial intelligence and molecular imaging Development of artificial intelligence for pancreatic cyst detection using semisupervised learning). 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 039 **Kuwahara T, Ashida R, Takashi K, Yamao K, Hara K, Kitano M** : Development and validation of artificial intelligence-based rapid on-site cytologic evaluation during endoscopic ultrasound guided fine needle aspiration for pancreatic mass. DDW 2023, 2023, (シカゴ), [ポスター]
- 040 **Okuno N, Hara K** : The best technique of EUS-CDS to create the neo-papilla. Asian EUS Congress 2023, 2023, (香港), [ポスター]
- 041 **Okuno N, Haba S, Hara K** : Primary EUS-guided hepatocystostomy for preoperative cases in pancreatoduodenectomy. SGI 2023, 2023, (韓国), [ポスター]
- 042 **Okuno N** : Educational method of EUS-intervention in Aichi Cancer Center. Bach Mai EUS-BD Workshop, 2023, (タイ), [講演]
- 043 **Okuno N** : Educational method of EUS-intervention in Aichi Cancer Center. AEG Interventional Workshop in NAGOYA, 2024, (名古屋), [講演]
- 044 **Okuno N, Haba S, Hara K** : EUS-CDS の至適技術 (「Best techniques for EUS-guided biliary drainage (EUS-BD)」 The best technique of EUS-CDS). 第59回日本胆道学会, 2023, (札幌), [ワークショップ]

- 045 **Okuno N, Haba S, Hara K**: EUS-CDSのトラブルシューティング (Troubleshooting in EUS-CDS). JDDW 2023, 2023, (神戸), [インターナショナルセッション]
- 046 **原 和生, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真**: 術後再建腸管に対する急性胆管炎の対処 術後再建腸管を伴う胆管炎に対する Interventional EUS の有用性. 第 60 回日本腹部救急医学会総会, 2024, (福岡), [パネルディスカッション]
- 047 **阿部雄一, 磯村久徳, 周 爽, 梶野泰祐, 山口 類, 細田和貴, 原 和生, 田口 歩**: プロテオゲノミクスによる新規イムノグロブリン結合膵癌抗原の探索同定 (A proteogenomic approach for identification of novel IgG-bound antigens in pancreatic cancer). 第 82 回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [インターナショナルセッション]
- 048 **浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 田口 歩, 細田和貴, 原 和生, 清水泰博**: 膵疾患における臨床と病理の連携構築とそのベネフィット 当院の肝胆膵領域における臨床と病理の連携. 第 54 回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [パネルディスカッション]
- 049 **栗田裕介, 小林規俊, 原 和生**: 膵神経内分泌腫瘍に対する集学的治療 PNEN におけるエベロリムス再導入療法の有効性. 第 54 回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [シンポジウム]
- 050 **原 和生**: EUS-FNA の現状と展望. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2023, (名古屋), [教育講演]
- 051 **栗田裕介, 小林規俊, 原 和生**: 膵神経内分泌腫瘍診療の進歩 小膵 NET の超音波内視鏡の診断能について. 第 109 回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [ワークショップ]
- 052 **原 和生**: 膵 内視鏡 1. 第 109 回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [座長]
- 053 **原 和生**: AXIOS Hands-on ワークショップ. AXIOS Hands-on ワークショップ, 2023, (名古屋), [ワークショップ]
- 054 **原 和生**: 胆道癌の早期発見とサーベイランス. 胆道癌ラウンドテーブルミーティング, 2023, (東京), [パネルディスカッション]
- 055 **原 和生**: 十二指腸乳頭部腫瘍の内視鏡診断と治療. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [司会]
- 056 **原 和生**: Interventional EUS を成功に導くガイドワイヤの使い分け. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [特別講演]
- 057 **原 和生**: EUS-HGS. 仙台内視鏡ライブセミナー2023, 2023, (仙台), [ワークショップ]
- 058 **原 和生**: 次世代の interventional EUS. 仙台内視鏡ライブセミナー2023, 2023, (仙台), [講演]
- 059 **原 和生**: 教育講演 5 『膵嚢胞性腫瘍における診断と治療の up to date』. 日本消化器病学会東海支部 第 49 回教育講演会, 2023, (名古屋), [司会]
- 060 **原 和生**: オンラインで学ぶ, なるほど EUS-BD 講座-2023. 第 3 回 EUS-BD セミナー, 2023, (Web), [特別講演・司会]
- 061 **原 和生**: 膵癌におけるがん悪液質治療への新たなアプローチ. 消化器がん WEB セミナー, 2023, (名古屋), [司会]
- 062 **原 和生**: 膵癌 (ゲノム). 第 54 回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [座長]
- 063 **原 和生**: がん患者の疼痛コントロールと便秘のマネージメント. がんサポーターティブケアを考える会, 2023, (名古屋), [講演]
- 064 **原 和生**: Precisoin Biliary Drainage のススメ. 第 16 回鹿児島胆膵研究会, 2023, (鹿児島), [特別講演]
- 065 **原 和生**: デジタルポスター81 胆道良性. 第 59 回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [司会]
- 066 **原 和生**: 愛知県がんセンターにおける PRRT の使用経験. NET Web Seminar in Aichi, 2023, (名古屋), [座長]
- 067 **原 和生**: 胆膵内視鏡セミナー. 新潟胆膵内視鏡セミナー, 2023, (新潟), [ワークショップ]
- 068 **原 和生**: 【消化器疾患に対する放射線画像 AI の最前線】. 消化器疾患 WEB セミナー, 2023, (名古屋), [座長]
- 069 **原 和生**: ハンズオンセミナー. 第 66 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [司会]
- 070 **原 和生**: Biliary-Pancreatic cancer. WEB Lecture on Biliary-Pancreatic cancer in TOKAI, 2023, (名古屋), [座長]
- 071 **原 和生**: Case Discussion. Endoscopic Oncology Seminar 2024, 2024, (名古屋), [司会]
- 072 **原 和生**: がんゲノム時代に胆膵内視鏡医に求められる胆道癌診療のトピックス. TAIHO Web Lecture on Biliary Tract Cancer, 2024, (名古屋), [講演]
- 073 **原 和生**: PNET の診断. 膵・消化管神経内分泌腫瘍 MeetTheExpert, 2024, (名古屋), [ワークショップ]
- 074 **原 和生**: 実践, 胆膵 EUS 診断. TV-TAK, 2024, (東京), [講演]
- 075 **原 和生**: 消化器疾患における個別化医療・ゲノム医療. 名古屋消化器病セミナー, 2024, (名古屋), [特別講演]
- 076 **原 和生**: がんゲノム時代の胆膵内視鏡医に求められる診療のトピックス. Biliary Tract Cancer Expert Symposium, 2024, (横浜), [特別講演]
- 077 **脇岡 範, 森實千種, 奥坂拓志, 水野伸匡, 上野 誠**: 膵がん, 膵 NEN の臨床試験 膵 NET に関する臨床試験 JCOG1901. 第 54 回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [パネルディスカッション]
- 078 **工藤 篤, 水野伸匡**: パネルディスカッション 2 膵神経内分泌腫瘍のバイオマーカーの展望. 第 54 回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [司会]
- 079 **奥坂拓志, 中村雅史, 吉田雅博, 北野雅之, 伊藤芳紀, 水野伸匡, 花田敬士, 尾阪将人, 森實千種, 竹山宜典**: 患者・市民参画の推進と『膵癌診療ガイドライン 2022 年版』改訂. 第 61 回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [シンポジウム]
- 080 **羽場 真, 原 和生, 清水泰博**: 膵癌早期診断の最前線 膵癌早期診断を目指した新規治療方針 腫瘍を伴わない膵体尾部主膵管狭窄患者に対する腹腔鏡下膵体尾部切除

- 術. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [パネルディスカッション]
- 081 羽場 真, 原 和生, 奥野のぞみ: 難治性良性遠位胆管狭窄に対する内視鏡的胆管十二指腸吻合術の有用性. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [口演]
- 082 羽場 真, 原 和生, 清水泰博: 膵癌早期診断のための診断・治療戦略 膵嚢胞外来と膵体尾部MPD狭窄に対するLap-DP. 第54回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [ミニシンポジウム]
- 083 羽場 真, 原 和生, 奥野のぞみ: 「術後胆管炎の診断と治療の現状」 良性胆管空腸吻合部狭窄に対する狭窄の程度に応じた内視鏡治療戦略. 第59回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [ワークショップ]
- 084 羽場 真, 原 和生, 奥野のぞみ: ERCP後膵炎をゼロにするための新規胆管挿管法 Opening window fistulotomy. JDDW 2023, 2023, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 085 平井恵子, 桑原崇通, 川嶋啓揮: 消化器診療におけるAIの現状と展望 超音波内視鏡における上部消化管上皮下腫瘍の検出・鑑別AIの有用性. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [シンポジウム]
- 086 桑原崇通, 原 和生: 消化器疾患とビッグデータ 超音波内視鏡ビッグデータを用いた膵嚢胞検出AIの開発. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [シンポジウム]
- 087 桑原崇通, 原 和生: AI時代における超音波医学の展望と課題 消化器領域における超音波AIの現状と課題. 第95回日本超音波医学会学術集会, 2023, (大宮), [シンポジウム]
- 088 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生: 膵神経内分泌腫瘍のバイオマーカーの展望 膵神経内分泌腫瘍診断における人工知能を用いたイメージバイオマーカー開発. 第54回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [パネルディスカッション]
- 089 桑原崇通, 原 和生: AI診断による消化器診療の新展開 膵腫瘍鑑別AIの開発. JDDW 2023, 2023, (神戸), [ワークショップ]
- 090 桑原崇通: EUS-FNA. 第96回日本超音波医学会学術集会, 2023, (大宮), [座長]
- 091 桑原崇通: 愛知県がんセンターにおけるPRRTの使用経験. NET Web Seminar in Aichi, 2023, (Web), [一般講演]
- 092 桑原崇通: 愛知県がんセンターにおけるPRRTの現状と課題・今後の展望. 核医学治療と神経内分泌腫瘍セミナー, 2023, (金沢), [招待講演]
- 093 桑原崇通: Interventional EUSの現状と課題 -直視型コンベックスコープの有用性-. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会 スポンサーセミナー, 2023, (名古屋), [招待講演]
- 094 桑原崇通: 愛知県がんセンターにおけるPRRTの現状と課題・今後の展望. 第5回放射性同位元素内用療法セミナー, 2024, (名古屋), [教育講演]
- 095 濱口智美, 光永修一, 上野 誠, 池田公史, 三木生也, 桑原崇通, 高山敬子, 花田敬士, 吉田 仁, 高橋賢治, 仲田興平, 岩間英明, 滝澤聡子: 血清マイクロRNAシグネチャーを用いた膵・胆道がん検出能の検討 (Serum miRNA signature for detecting pancreatobiliary cancer). 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [一般口演]
- 096 井上匡央, 桑原崇通: 消化器癌における免疫チェックポイント阻害薬のい・ろ・は. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [講演]
- 097 大西祥代, 桑原崇通, 田近正洋: 希少疾患の内視鏡診断(全体) Li Fraumeni症候群と内視鏡診療. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 098 大西祥代, 桑原崇通: 「サルコペニア」の人工知能による最新の診断法の提唱. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [口演]
- 099 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 新型ドリルダイレクターを用いたEUS-HGS. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [口演]
- 100 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 胆膵内視鏡の新技术(胆膵) 安全かつ容易なEUS-HGSをめざして 新型ドリルダイレクターを用いたEUS-HGS. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [パネルディスカッション]
- 101 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 胆膵内視鏡診療におけるトラブルシューティング EUS-CDSのトラブルシューティング. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 102 奥野のぞみ, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博, 細田和貴, 原 和生: 腺房細胞分化と神経内分泌分化を認めたMiNENの超高齢者切除例. 第54回日本膵臓学会, 2023, (福岡), [ポスター]
- 103 奥野のぞみ, 清水泰博, 細田和貴, 水野伸匡, 桑原崇通, 夏目誠治, 奥野正隆, 浅野智成, 原 和生: 術前診断に苦慮した多房性嚢胞性病変の1例. 第23回日本消化器病研究会, 2023, (東京), [口演]
- 104 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: Interventional EUSを用いた診療戦略-最適な低侵襲医療を目指して 膵頭部領域疾患術前例に対するprimary EUS-HGSの可能性. 第65回日本消化器病学会大会, 2023, (神戸), [パネルディスカッション]
- 105 奥野のぞみ: デジタルポスターセッション75(消化器内視鏡学会). JDDW 2023, 2023, (神戸), [座長]
- 106 奥野のぞみ: シンポジウム2 胆膵内視鏡診療の最前線. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [司会]
- 107 福井淑崇, 奥野のぞみ, 原 和生: 日常診療における膵胆道ゲノム医療の現状と課題. 第65回日本消化器病学会大会, 2023, (神戸), [ポスター]
- 108 福井淑崇, 羽場 真, 浦田美菜子, 近藤 高, 山本嘉太郎, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生: 膵体部主

- 膵管狭窄を契機にEUS-FNAにて診断し得たpNET G2の1例. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 109 福井淑崇, 奥野のぞみ, 原 和生: 「切除不能・再発胆道癌に対する治療戦略: ドレナージ・薬物療法・外科治療」胆道癌ゲノム医療の現状と課題. 第59回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [シンポジウム]
- 110 福井淑崇, 奥野のぞみ, 原 和生: 膵 interventional endoscopy の最前線 膵癌ゲノム医療におけるEUS-FNAの役割. 第54回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [パネルディスカッション]
- 111 福井淑崇, 奥野のぞみ, 原 和生: 膵疾患に対するEUS診断の現状 膵癌ゲノム医療におけるEUS-FNABの有用性. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [パネルディスカッション]
- 112 福井淑崇, 奥野のぞみ, 原 和生: がんゲノム医療の現状と課題 膵胆道癌におけるゲノム医療の現状と課題. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [シンポジウム]
- 113 近藤 高, 奥野のぞみ, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 福井淑崇, 山本嘉太郎, 浦田美菜子, 原 和生: 自己免疫性膵炎1型に合併したIgG4関連胆嚢炎の一例. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 114 山本嘉太郎, 伊藤信仁, 田近正洋: 当院における放射線治療後の食道扁平上皮癌に対するLow radial force stent留置術の治療成績. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [シンポジウム]
- 115 浦田美菜子, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆膵内視鏡診療の最前線 急性胆嚢炎に対する19G Acquireを用いたEUS-GBDの検討. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [シンポジウム]
- 006 大西祥代, 桑原崇通, 田近正洋: 希少疾患の内視鏡診断(全体) Li Fraumeni 症候群と内視鏡診療. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 007 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 表在性食道癌内視鏡治療後の異時性再発リスク因子の検討. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [口演]
- 008 田中 努, 山田啓策, 古平 毅, 安部哲也, 田近正洋: 食道癌CRT後CR例に局所再発した表在性病変に対するサルベージ内視鏡治療の成績. 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [演題]
- 009 田中 努, 山田啓策, 丹羽康正: 血液・胃X線・内視鏡による胃がんのリスク評価の課題と展望 名古屋市の若年者を対象とした血清ヘリコバクターピロリ抗体スクリーニング. 第62回日本消化器がん検診学会総会, 2023, (仙台), [パネルディスカッション]
- 010 田中 努: 今更聞けない除菌後胃がんと未感染胃がんの特徴. 日本消化器がん検診学会 東海北陸支部放射線研修委員会 放射線撮影研修「読影補助コース」, 2023, (WEB), [講演]
- 011 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 口腔・咽喉頭腫瘍性病変に対する内視鏡診断と治療 咽頭表在癌に対する内視鏡治療の偶発症とそのリスク因子の検討. JDDW2023, 2023, (神戸), [ワークショップ]
- 012 田中 努: 早期胃癌のESD 総論と新たな治療. 第38回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2024, (WEB), [講演]
- 013 山本佳宣, 青山育雄, 門田智裕, 阿部清一郎, 田中 努, 永見康明, 滝沢耕平, 斎藤 豊, 小川岳人, 佐野裕亮, 矢野友規, 引地拓人, 武藤 学: 消化管狭窄への挑戦 食道癌術後難治性吻合部狭窄に対するステロイド併用EBDおよびステロイド併用RICのランダム化比較第II/III相試験(JCOG1207). 第20回日本消化管学会学術集会, 2024, (沖縄), [パネルディスカッション]
- 014 小森康司, 田中 努, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術後における経回腸導管的逆流性内視鏡による尿管ステント挿入の活用について. 第32回骨盤外科機能温存研究会, 2023, (東京), [一般演題]
- 015 山田啓策, 田近正洋, 丹羽康正: 消化器がんのコンバージョン治療戦略 当院における食道癌に対するconversion surgeryの治療成績の検討 CRTとの比較検討. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [ワークショップ]
- 016 山田啓策, 田近正洋, 大西祥代, 田中 努, 丹羽康正: 胃体部～穹窿部大彎早期胃癌に対する全周切開外側への糸つきクリップ装着による牽引下胃ESDの有用性. 第105回日本消化器内視鏡学会総会, 2023, (東京), [口演]
- 017 山田啓策, 田近正洋, 丹羽康正: 上部消化管腫瘍性病変に対する内視鏡治療 新たな展開: 偶発症対策を含めて胃体部～穹窿部大彎病変に対する病変外への糸つきクリップ装着による牽引下胃ESDの有用性 JDDW2023,

## 内視鏡部

- 001 田近正洋: 第11回日本家族性大腸腺腫症研究会, 2023, (京都), [会長]
- 002 田近正洋: 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [会長]
- 003 田近正洋: 進化する内視鏡的止血術. 第116回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2023, (東京), [司会]
- 004 大西祥代, 田近正洋, 井本逸勢: 消化管領域における希少疾患に対する内視鏡診療 Li-Fraumeni 症候群における大腸腫瘍に対する内視鏡医の役割. JDDW2023, 2023, (神戸), [ワークショップ]
- 005 児玉紘幸, 門脇重憲, 田近正洋, 松垣栄治, 藤枝裕倫, 安部哲也, 尾瀬 功, 室 圭: cStage IIIB/IVA 食道癌に対する治療戦略 (conversion surgeryを含む) 切除不能局所進行食道癌に対する術前DCF療法におけるR0切除予測因子の検討 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [シンポジウム]



- 2023, (神戸), [ワークショップ]
- 018 山田啓策, 田中 努, 田近正洋: 胃体部 穹窿部大彎病変に対する病変外への糸つきクリップ装着による牽引下胃 ESD の有用性. 第 20 回日本消化管学会総会学術集会, 2024, (沖縄)[ビデオセッション]
- 019 山田啓策: 大腸内視鏡前処置におけるサルプレップの役割 当院での使用経験を中心に. 第 66 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 020 山本嘉太郎, 伊藤信仁, 田近正洋: 消化管内視鏡診療の最前線 当院における放射線治療後の食道扁平上皮癌に対する Low radial force stent 留置術の治療成績. 第 66 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [シンポジウム]
- 021 高木暁広, 田近正洋, 田中 努, 伊藤信仁, 山田啓策, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 福井淑崇, 近藤 高, 山本嘉太郎, 浦田美菜子, 原 和生, 丹羽康正: 家族性大腸腺腫症術後に発生した回腸嚢多発腺腫に対する内視鏡的徹底的徐の試み. 第 66 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 022 高木暁広, 山田啓策, 伊藤信仁, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 『消化器がんの診断と治療 up to date』当院における大腸癌に対するユニバーサルスクリーニングの現状と課題. 日本消化器病学会東海支部第 139 回例会, 2023, (岐阜), [シンポジウム]

## 呼吸器内科部

- 001 *Kanda S, Niho S, Kurata T, Nomura S, Kawashima Y, Yoneshima Y, Yokoyama T, Watanabe Y, Tanaka H, Fujiwara Y, Zenke Y, Azuma K, Yamaguchi H, Toyozawa R, Hosomi Y, Murakami H, Hara S, Bessho A, Yamamoto N, Ohe Y*: A phase III study comparing EGFR tyrosine kinase inhibitor (EGFR-TKI) monotherapy and EGFR-TKI with inserted cisplatin (CDDP) plus pemetrexed (PEM) as a first-line treatment in patients (pts) with advanced non-squamous non-small-cell lung cancer (NSqNSCLC) harboring EGFR activating mutation (EGFR-NSqNSCLC): JCOG1404/WJOG8214L, AGAIN study. ASCO ANNAL MEETING, 2023, (Chicago), [Oral]
- 002 *Yamaguchi T, Matsuzawa R, Morise M, Ito K, Hataji O, Takahashi K, Koyama J, Kuwatsuka Y, Goto Y, Imaizumi K, Itani H, Zenke Y, Oki M, Ishii M*: Efficacy in the elderly NSCLC patients in SCORPION study: Phase II study of DTX plus RAM following platinum-based chemotherapy plus ICIs. ESMO Asia Congress, 2023, (Singapore), [Poster]
- 003 山口哲平: Real-world data of durvalumab after chemoradiotherapy for locoregional recurrence of completely resected NSCLC (NEJ056). 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [口演]
- 004 山口哲平: A low number of teeth is a poor prognostic factor in patients with advanced non-small cell lung cancer. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [口演]
- 005 藤原 豊: 8 Lung Cancer/ Thoracic Cancer 6 (Small Cell Lung Cancer · Other Thymic Malignancies). 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [司会]
- 006 山口哲平, 重松文恵, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: 初回治療オシメルチニブ起因性薬剤性肺炎症例に対するアフマチニブの安全性と有効性. 第 63 回日本呼吸器学会学術講演会, 2023, (東京), [ポスター]
- 007 堀尾芳嗣: 切除不能局所進行 NSCLC. 第 63 回日本呼吸器学会学術講演会, 2023, (東京), [座長]
- 008 松澤令子: 家族で選んだワークライフバランス～これからも働き続けるために～. 第 123 回呼吸器東海地方会, 2023, (名古屋), [口演]
- 009 松澤令子: 肺癌 (4). 第 123 回呼吸器東海地方会, 2023, (名古屋), [座長]
- 010 山口哲平: 肺癌 (1). 第 123 回呼吸器東海地方会, 2023, (名古屋), [座長]
- 011 松澤令子, 伊藤貴康, 今泉和良, 伊藤克樹, 岡地祥太郎, 森瀬昌宏, 若原恵子, 石井 誠: ラテックスアレルギー患者に対してバルーン非使用下に EBUS-TBNA を施行し確定診断が得られた 2 例. 第 46 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 012 岡地祥太郎, 桜井麻奈美, 松井利憲, 伊藤貴康, 松澤令子, 森瀬昌宏, 若原恵子, 石井 誠, 藤原道隆: Mixedreality ガイドを用いた気管支鏡トレーニング支援. 第 46 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 013 杉田裕介, 松下博和, 福嶋恭啓, 松井琢哉, 小室裕康, 篠原周一, 橋本佳奈, 高橋祐介, 岡村文子, 村岡大輔, 岸 裕幸, 田中雄希, 尾上広祐, 小野口和英, 山下慶子, 黒田浩章, 堀尾芳嗣, 大久保憲一: 肺癌悪性胸水患者の抗原特異的免疫応答の検討. 第 27 回日本がん免疫学会総会, 2023, (津), [口演]
- 014 堀尾芳嗣, 重松文恵, 松澤令子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 藤原 豊: プリグチニブ後アレクチニブとオシメルチニブの隔週交替投与にて治療中の右中葉肺腺癌 + 左下葉肺腺癌の 1 例. 第 123 回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2023, (沼津), [口演]
- 015 清水淳市, 重松文恵, 松澤令子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: 免疫関連肺障害にミコフェノール酸モフェチルの投与を行った肺癌の 1 例. 第 123 回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2023, (沼津), [口演]
- 016 堀尾芳嗣: 創薬を目指したトランスレーショナルリサーチの最前線. 第 64 回日本肺癌学会学術集会, 2023, (千葉幕張), [座長]
- 017 山口哲平, 今井久雄, 東 公一, 木島貴志, 岸 一馬, 藤田浩平, 齋藤春洋, 米嶋康臣, 谷崎潤子, 高島雄太, 丹保裕一, 渡部 聡, 畑地 治, 戸井之裕, 福原達朗, 大杉友之, 中山仁志, 堀之内秀仁, 大江裕一郎: LIGHT-

- NING3rd interim analysis : 1L nivolumab + ipilimumab +/chemotherapy for NSCLC in Japan. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [口演]
- 018 山口哲平, 松澤令子, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: 希少ドライバー変異陽性非小細胞肺癌におけるプラチナ併用±免疫チェックポイント阻害薬の後方視的検討. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [口演]
- 019 伊藤健太郎, 松澤令子, 森瀬昌宏, 畑地 治, 高橋孝輔, 神山潤二, 鍛塚八千代, 後藤康洋, 今泉和良, 井谷英敏, 山口哲平, 善家義貴, 沖 昌英, 石井 誠: 非小細胞肺癌に対する初回 Chemo+ICI 併用療法後の DTX+RAM の他施設共同第II相試験: SCORPION 試験. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [口演]
- 020 木曾原朗, 西尾誠人, 菊地英毅, 清水淳市, 宮内栄作, 吉岡弘鎮, 吉野一郎, 三角俊裕, 高橋 聡, 関 順彦, 毛利篤人, 竹中 賢, 岩澤俊一郎, 田中美早, 弦間昭彦: J-TAIL-2 中間報告 (NSCLC コホート): 切除不能な進行/再発の NSCLC 又は ED-SCLC に対する ATZ 併用療法の観察研究. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [口演]
- 021 三浦 理, 吉岡弘鎮, 片岡祐貴, 田宮基裕, 久保寿夫, 丹羽 崇, 石川暢久, 立原素子, 井上政昭, 田中寿志, 山口哲平, 井谷英敏, 佐藤悠城, 津谷あす香, 森 雅秀, 塩津伸介, 木村智樹, 石川秀樹, 金田裕靖, 倉田宝保: ABCP 療法の多施設前向き観察研究における末梢神経障害に関する PRO 研究. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [口演]
- 022 川嶋庸介, 丹澤 盛, 村田泰規, 藤下卓才, 宮永晃彦, 田中寿志, 野尻正文, 佐藤悠城, 秦 明登, 益田 健, 上月稔幸, 川村卓久, 山口哲平, 朝田和博, 吉岡弘鎮, 宮内栄作, 二宮貴一朗, 三角俊裕, 関 順彦: Necitumumab の皮膚障害と有効性の関連性 多施設共同後方視的観察 (NINJA Study) からの新たな知見. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [口演]
- 023 坂田能彦, 藤本大智, 柴木亮太, 仲地一郎, 荒井大輔, 宮内栄作, 突田容子, 神宮直樹, 木島貴志, 田宮基裕, 川名祥子, 原 聡志, 齋藤 合, 佐藤悠城, 横山俊秀, 坂田晋也, 谷口善彦, 秦 明登, 松本啓孝, 山口哲平: 間質性肺炎合併小細胞肺癌に対するデュルバルマブ/エトキシド/カルボプラチン療法の多施設前向き介入試験. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [口演]
- 024 杉田祐介, 松下博和, 福嶋恭啓, 松井琢哉, 小室裕康, 篠原周一, 橋本佳奈, 高橋祐介, 岡村文子, 村岡大輔, 黒田浩章, 堀尾芳嗣, 山下慶子, 大久保憲一: 肺癌悪性胸水における腫瘍特異的 CD8+T 細胞とネオアンチゲンの同定. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (幕張), [ポスター]
- 025 船田千秋, 岡本泰岳, 山下 裕, 山北喜久, 福嶋敬子, 清水淳市, 吉田 茂: 院内におけるパス教育の実際-問題点は何? その解決方法は! - 多施設共有化教育ツールの開発. 第23回日本クリニカルパス学会学術集会, 2023, (埼玉), [パネルディスカッション]
- 026 藤原 豊: IV期非小細胞肺癌における最新の治療戦略. 第66回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会, 2023, (名古屋), [座長]
- 027 辻野佳世子, 楠本昌彦, 遠藤正浩, 負門克典, 馬場智尚, 齋藤好信, 藤原 豊, 釧持広知, 坂本 慶, 野田由香, 堀田麻里子, 新居正博, 時本敏充, 酒井文和, 加藤晃史, 澁谷景子: 切除不能 III 期非小細胞肺癌におけるデュルバルマブ特定使用成績調査 (PACIFIC レジメン). 日本放射線腫瘍学会第36回学術大会, 2023, (横浜), [口演]
- 028 藤原 豊: 術前化学療法+ニボルマブ療法により心機能低下をきたした肺扁平上皮癌の1例. 第124回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2024, (名古屋), [口演]
- 029 藤原 豊: 非小細胞肺癌における新たな治療戦略~HER2 遺伝子変異陽性におけるエンハーツの位置づけ~ 第124回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2024, (名古屋), [座長]
- 030 堀尾芳嗣: 周術期免疫治療の進歩...誰にどの治療を選択するか? 第124回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2024, (名古屋), [座長]
- 031 藤原 豊: 腎機能障害を有するがん患者に対する臨床薬理的アプローチ. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [口演]
- 032 清水淳市: 病理医はすべての PD-L1 検査について対応すべきか? 肺癌における免疫チェックポイント阻害薬治療と PD-L1 検査. 第113回日本病理学会総会, 2024, (名古屋), [口演]

## 血液・細胞療法部

- 001 *Kato Y, Suzuki T, Hashimoto H, Nishitarumizu M, Kondo A, Nakanishi Y, Matsunaga N, Ebina T, Marumo Y, Asano A, Kinoshita S, Narita T, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S*: Frail patients defined by simplified frailty scale can be further stratified. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [ポスター]
- 002 *Ebina T, Suzuki T, Nishitarumizu N, Konodo A, Nakanishi Y, Kato Y, Matsunaga N, Marumo Y, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S*: Early discontinuation of carfilzomib due to adverse events in myeloma treatment. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 003 *Marumo Y, Nanri T, Ri M, Nishitarumizu N, Nakanishi Y, Kondo A, Kato Y, Matsunaga N, Ebina T, Suzuki T, Asano A, Kinoshita S, Narita T, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S*: Idcabtagene vixtucel for relapsed or refractory multiple myeloma: a single center experience. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 004 *Kusumoto S, Choi I, Yoshimitsu M, Shimokawa M,*

- Utsunomiya A, Suehiro Y, Tamura S, Owatari S, Ryang K, Hidaka M, Kato T, Jo T, Moriuchi Y, Ogata M, Ohtsuka E, Suzushima H, Ito S, Yoshida S, Ito A, Nakamura D, Tokunaga M, Sekine M, Sakamoto Y, Inagaki H, Ishida T, Ishitusuka K* : A phase 2 trial of CHOP with mogamulizumab for elderly patients with adult T-cell leukemia/lymphoma. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 005 *Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Murase T, Ohtsuka E, Takeshita M, Muto R, Choi I, Iwasaki Hi, Ito A, Kusumoto S, Nakano N, Tokunaga M, Yonekura K, Tashiro Y, Suehiro Y, Iida S, Usunomiya A, Ueda R, Inagaki H* : NOTCH1 and FBXW7 gene alteration in adult T-cell leukemia/lymphoma. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 006 *Shimada K, Yamaguchi M, Kuwatsuka Y, Matsue K, Sato K, Kusumoto S, Nagai H, Takizawa J, Fukuhara N, Nagafuji K, Miyazaki K, Ohtsuka E, Okamoto A, Sugita Y, Uchida T, Kayukawa S, Wake A, Ennishi D, Kondo Y, Meguro A, Kin Y, Hashimoto D, Shimada S, Masaki Y, Okamoto M, Atsuta Y, Kiyoi H, Suzuki R, Nakamura S, Kinoshita T* : Five-years results of a phase 2 study for untreated intravascular large B-cell lymphoma. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 007 *Nishitarumizu N, Suzuki T, Kondo A, Nakanishi Y, Kato Y, Matsunaga N, Ebina T, Marumo Y, Asano A, Kinoshita S, Narita T, Masaki A, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Inagaki H, Iida S* : Autoimmune hemolytic anemia associated with malignant lymphoma: a case series of 13 patients. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 008 *Nakanishi Y, Suzuki T, Hashimoto H, Nishitarumizu N, Kondo A, Kato Y, Matsunaga N, Ebina T, Marumo Y, Asano A, Kinoshita S, Narita T, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S* : The prognostic impact of 5-19% circulating plasma cells at initial diagnosis in myeloma patients. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 009 *Kawaguchi Y, Suzuki N, Suzuki N, Okamoto S, Manematsu T, Sizuki A, Tamura S, Kojima T, Ushida T, Imai K, Kotani T, Kiyoi H, Matsushita T* : Anti-thrombotic therapy for the high risk pregnant woman by the D-dimer monitoring. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 010 *Okamoto S, Suzuki N, Tamura S, Suzuki A, Kanematsu T, Suzuki N, Kawaguchi Y, Hayakawa F, Kiyoi H, Kojima T, Matsushita T* : Abnormal angiogenesis in VwF deficient patients. 第85回日本血液学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 薬物療法部**
- 001 *Shoji H, Makiyama A, Katsuya H, Okano N, Negoro Y, Kito Y, Akiyoshi K, Shinozaki K, Yamamoto Y, Kawakami T, Tsuji Y, Kirishima T, Hirao M, Shimura T, Takeshita S, Funakoshi S, Shimokawa M, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K* : A randomized phase II study comparing S-1 plus oxaliplatin with S-1 monotherapy for elderly patients with advanced gastric cancer: WJOG8315G.IGCC2023, 2023, (横浜), [Plenary Session]
- 002 *Wakatsuki T, Ishizuka N, Hironaka S, Minashi K, Kadowaki S, Goto M, Shoji H, Hirano H, Nakayama I, Osumi H, Ogura M, Chin K, Yamaguchi K, Takahara D* : Exploratory analysis of HER2 extracellular domain in HER2 positive gastric cancer treated with SOX plus trastuzumab. IGCC2023, 2023, (横浜), [Oral Session]
- 003 *Kodama H, Narita Y, Wakabayashi M, Nakata A, Kumanishi R, Ogata T, Nakazawa T, Matsubara Y, Masuishi T, Honda K, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K* : Re-administration of nivolumab for advanced gastric cancer patients: a case series. IGCC2023, 2023, (横浜), [Poster Session]
- 004 *Muro K* : Immunotherapy for gastric cancer. IGCC2023, 2023, (横浜), [Chair]
- 005 *Narita Y* : Networking sessions for young investigator-sharing optimal treatment strategies. IGCC2023, 2023, (横浜), [Discussant]
- 006 *Muro K* : How Has Cancer Immunotherapy Changed Gastric Cancer Pharmacotherapy? IGCC2023, 2023, (横浜), [Speaker]
- 007 *Muro K* : Biomarker-based Treatment Strategies in Advanced Gastric and Gastroesophageal Junction Cancer. IGCC2023, 2023, (横浜), [Speaker]
- 008 *Narita Y* : Upper GI Summit - EGJ Cancer Consensus Conference -Medical oncology, CQ1: Is it recommended to adopt chemotherapy for gastric adenocarcinoma to esophageal adenocarcinoma and esophagogastric junction cancer? IGCC2023, 2023, (横浜), [Speaker]
- 009 *Taniguchi H, Yagisawa M, Satoh T, Kadowaki S, Sunakawa S, Nishina T, Komatsu Y, Esaki T, Sakai D, Doi A, Kajiwara T, Ono H, Asano M, Hirano N, Odegaard JI, Fujii S, Nomura S, Sato A, Yoshino T, Nakamura Y* : Tissue-agnostic efficacy of trastuzumab deruxtecan (T-DXd) in advanced solid tumors with HER2 amplification identified by plasma cell-free DNA (cfDNA) testing: Results from a phase 2 basket trial (HERALD/EPOC1806). ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Poster Discussion Session]
- 010 *Jogo T, Shinozaki E, Masuishi T, Kato T, Nishina T, Esaki T, Komatsu Y, Kato K, Suzuki M, Fuse N,*

- Sato A, Ikeno T, Nomura S, Bando H, Odegaard JJ, Fujii S, Ebi H, Yoshino T, Nakamura Y* : Efficacy and safety of futibatinib for refractory advanced solid malignancies with FGFR alterations identified in circulating tumor DNA: TIFFANY, A GOZILA-affiliated Trial. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Poster Session]
- 011 *Matsubara J, Mukai K, Yoshioka M, Kage H, Oda K, Kudo R, Ikeda S, Ebi H, Muro K, Hayashi R, Tokudome N, Yamamoto N, Muto M* : Comprehensive genomic profiling before the first-line setting versus after the completion of standard of care in patients with previously untreated advanced solid tumors: The prospective FIRST-Dx study. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Poster Session]
- 012 *Osumi H, Shinozaki E, Nakamura Y, Esaki T, Yasui H, Taniguchi H, Satake H, Sunakawa Y, Komatsu Y, Kagawa Y, Denda T, Shiozawa M, Satoh T, Nishina T, Goto M, Takahashi N, Kato T, Bando H, Yamaguchi K, Yoshino T* : NeoRAS wild-type metastatic colorectal cancer in the SCRUM-Japan GOZILA study. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Oral Abstract Session]
- 013 *Yamazaki K, Muro K, Watanabe J, Shitara K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naito T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T* : Efficacy of panitumumab in patients with left-sided disease, MSS/MSI-L, and RAS/BRAF WT: A biomarker study of the phase III PARADIGM trial. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Oral Abstract Session]
- 014 *Hong DS, Kuboki Y, Strickler JH, Fakih M, Houssiau Hln, Price TJ, Elez E, Siena S, Chan E, Nolte-Hippenmeyer J, Cardona P, Tran Q, Masuishi T* : Sotorasib (Soto) plus panitumumab (Pmab) and FOLFIRI for previously treated KRAS G12Cmutated metastatic colorectal cancer (mCRC): CodeBreaK 101 phase 1b safety and efficacy. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Poster Discussion Session]
- 015 *Oki E, Kotani D, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Miyo M, Watanabe J, Hirata K, Akazawa N, Yeh K-H, Laliotis G, Sharma S, Liu M, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T* : Circulating tumor DNA dynamics as an early predictor of recurrence in patients with radically resected colorectal cancer: Updated results from GALAXY study in the CIRCULATE-Japan. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Poster Discussion Session]
- 016 *Bando H, Satake H, Kotani D, Hamaguchi T, Shiozawa M, Ikumoto T, Okita Y, Masuishi T, Kagawa Y, Yasui H, Oki E, Komatsu Y, Taniguchi H, Muro K, Kotaka M, Yamazaki K, Misumi T, Yoshino T, Kato T, Tsuji A* : A multicenter randomized phase II trial comparing CAPOXIRI + bevacizumab with FOLFOXIRI+ bevacizumab as first-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer: Primary results of the QUATTRO-II study. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Poster Session]
- 017 *Kuwata T, Nakamura Y, Nishina T, Takahashi N, Narimatsu H, Cho H, Inagaki C, Kadowaki S, Okugawa Y, Matsuzaki S, Tomita N, Yasui H, Sunakawa Y, Matsukawa M, Kimura K, Hiraoka Y, Hirata M, Imoto I, Kosugi S, Yoshino T* : Utility of multi-gene panel-based germline analysis following genomic profiling and cascade testing in advanced solid tumors: An initial report of the BRANCH study. ASCO 2023, 2023, (Chicago), [Poster Session]
- 018 *Kato T, Kotani D, Takashima D, Satoh T, Masuishi T, Komatsu Y, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H, Yamada S, Yoshino T* : Clinical outcomes of encorafenib, binimetinib, and cetuximab for pretreated BRAF V600E-mutant metastatic colorectal cancer in the BEACON EAP follow-up study. ESMO GI 2023, 2023, (Barcelona), [Poster]
- 019 *Yamada T, Kito Y, Sakai K, Nishio K, Yamazaki K, Shoji H, Tsushima T, Mitani S, Shiraishi K, Yasui H, Hara H, Shimozaki K, Esaki T, Shimokawa H, Tsuzuki T, Kajiura S, Masuishi T, Baba E, Yoshimura K, Kawakami H, Hironaka S, Muro K* : Analysis of plasma angiogenesis factors on the efficacy of FOLFIRI plus ramucirumab and FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line treatment for metastatic colorectal cancer from WJOG9216G randomized phase II study. ESMO GI 2023, 2023, (Barcelona), [Poster]
- 020 *Kotaka M, Bando H, Satake H, Kotani D, Hamaguchi T, Shiozawa M, Ikumoto T, Masuishi T, Yasui H, Kagawa Y, Oki E, Yamamoto Y, Kawakami H, Boku S, Komatsu Y, Taniguchi H, Muro K, Yamazaki K, Misumi T, Yoshino T, Kato T, Tsuji A* : QUATTRO-II: A multicenter randomized trial comparing CAPOXIRI + bevacizumab with FOLFOXIRI + bevacizumab as first-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer: Efficacy and safety analysis. ESMO GI 2023, 2023, (Barcelona), [Poster]
- 021 *Ogata T, Harada K, Kawakami T, Hu Q, Kadowaki S, Taniguchi H, Muro K, Yamamura T, Kawamoto Y, Komatsu Y, Fushiki K, Oshima K, Nakanishi R, Ando K, Nambara S, Masuishi T, Yamazaki K, Oki E, Yuki S* : Comparison of treatment outcomes of regorafenib for patients with metastatic colorectal cancer by era: A propensity-score matched analysis. ESMO GI 2023, 2023, (Barcelona), [Poster]

- 022 *Nakamura Y, Kotani D, Saori M, Yukami H, Watanabe J, Akazawa N, Kataoka K, Hirata K, Yamazaki K, Yeh K, Laliotis G, Aushev V, Jurdi A, Kotaka M, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Yoshino T, Oki E* : Circulating tumor (ct) DNA as a prognostic biomarker in patients (pts) with resected colorectal cancer (CRC): An updated 24 months (mos) disease free survival (DFS) analysis from GALAXY study (CIRCULATE-Japan). ESMO Congress 2023, 2023, (Madrid), [Mini oral session]
- 023 *Yuki S, Harada K, Kawakami T, Ogata T, Hu Q, FUSHIKI K, Oshima K, Kadowaki S, Taniguchi H, Muro K, Nakanishi R, Ando K, Nambara S, Nakamura T, Kawamoto Y, Komatsu Y, Oki E, Masuishi T, Yamazaki K* : The impacts of starting regorafenib dose on treatment outcomes in metastatic colorectal cancer. ESMO Congress 2023, 2023, (Madrid), [Poster session]
- 024 *Muro K, Kawakami H, Kadowaki S, Makiyama A, Tsuda M, Hirata K, Sugimoto N, Machida N, Hara H, Hirano H, Esaki T, Komatsu Y, Hironaka S* : A phase II study of nivolumab plus low dose ipilimumab as first-line therapy in patients with advanced gastric or esophago-gastric junction MSI-H tumor: First results of the NO LIMIT study (WJOG13320G/CA209-7W7). ESMO Congress 2023, 2023, (Madrid), [Mini oral session]
- 025 *Yamamoto S, Muro K, Nishino K, Kawakami H, Kojima T, Ojima H, Tanaka Y, Suyama K, Machida N, Koyanagi K, Iijima K, Hirai H, Chisamore M, Chin K* : Phase Ib study of futibatinib plus pembrolizumab in patients with esophageal carcinoma: Updated results of anti-tumor activity and tolerability results in combination with chemotherapy. ESMO Congress 2023, 2023, (Madrid), [Poster session]
- 026 *Hirano H, Kawazoe A, Yamaguchi K, Hamaguchi T, Narita Y, Boku S, Oshima T, Hara H, Hamamoto Y, Esaki T, Ishido K* : Safety, efficacy, and biomarkers for ONO-4578 plus nivolumab in unresectable advanced or recurrent gastric or gastroesophageal cancer. ESMO Congress 2023, 2023, (Madrid), [Poster session]
- 027 *Janjigian YY, Al-Batran S, Wainberg ZA, Van Cutsem E, Molena D, Muro K, Hyung WJ, Wyrwicz LS, Oh D, Omori T, Moehler M, Garrido M, Cunha Sousa Oliveira S, Liberman M, Castro Oviden V, Bilici M, Kurland JF, Xynos I, Mann H, Tabernero J* : Pathological complete response (pCR) to durvalumab plus 5-fluorouracil, leucovorin, oxaliplatin and docetaxel (FLOT) in resectable gastric and gastroesophageal junction cancer (GC/GEJC): Interim results of the global, phase III MATTERHORN study. ESMO Congress 2023, 2023, (Madrid), [Proffered Paper session]
- 028 *Kadowaki S, Sakai D, Kawabata R, Hara H, Yasui H, Takahashi M, Hirao M, Imai H, Minashi K, Kawakami T, Satake H, Matsuyama J, Sakamoto Y, Sawada K, Kataoka M, Kawakami H, Shimokawa T, Boku N, Satoh T* : The primary results of an intergroup phase III randomized controlled trial comparing ramucirumab plus irinotecan with irinotecan in the third or later line treatment beyond progression after ramucirumab for advanced gastric cancer (RINDBERG trial). ESMO Congress 2023, 2023, (Madrid), [Proffered Paper session]
- 029 *Kato K, Muro K, Watanabe J, Shitara K, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Soeda J, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T* : Panitumumab (PAN) vs bevacizumab (BEV) in metastatic colorectal cancer (mCRC) by microsatellite stable (MSS), RAS/BRAF, and HER2 amplification (HER2amp) status: Phase III PARADIGM biomarker study. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [Mini Oral session]
- 030 *Masuishi T, Strickler J, Machiels J.P, Hong D, Greil R, Chan E, Hippenmeyer J, Saportas Y, Cardona P, Xia C, Kuboki Y* : Sotorasib (Soto) & panitumumab (Pmab) and FOLFIRI in previously treated KRAS G12C-mutated metastatic colorectal cancer (mCRC): Safety and efficacy for CodeBreak 101 phase Ib expansion cohort. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [Mini Oral session]
- 031 *Kotani D, Yoshino T, Paulson A, Masuishi T, Hochster H, Krauss J, Sunakawa Y, Takashima A, Yamazaki K, Kawakami H, Nishina T, Komatsu Y, Esaki T, Eng C, Dasari N.A, Yu Z, Chen L, Yang T, Schelm W* : Efficacy and safety of fruquintinib (F) & best supportive care (BSC) vs placebo (P) & BSC in refractory metastatic colorectal cancer (mCRC): Asian vs non-Asian outcomes in FRESCO-2. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [Poster session]
- 032 *Kajiwaru T, Nishina T, Yamashita R, Nakamura Y, Shiozawa M, Yuki S, Taniguchi H, Hara H, Ohta T, Esaki T, Shinozaki E, Takashima A, Yamamoto Y, Yamazaki K, Yoshino T, Hyodo I* : Side-effect dependent prognostic impact of gene alterations in metastatic colorectal cancer in the nationwide cancer genome screening project in Japan (SCRUM-Japan GISCSCREEN). ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [Poster session]
- 033 *Yoshino T, Hooda N, Younan D, Muro K, Shitara K, Heinemann V, O'Neil B, Herrero F.R, Peeters M, Soeda J, Suh M, Reichart H, Mezzi K, Fryzek J,*

- Chia V, Rehn M, Stintzing S* : A meta-analysis of efficacy and safety from head-to-head first-line (1L) trials of epidermal growth factor receptor inhibitors (EGFRIs) versus bevacizumab in combination with chemotherapy (CT) doublets in patients with RAS wild-type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC) by sidedness. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [Poster session]
- 034 *Oh DY, Janjigian Y, Al-Batran SE, Wainberg Z, Cutsem EV, Molena D, Muro K, Hyung WJ, Wyrwicz L, Omori T, Moehler M, Garrido M, Oliveira SCS, Liberman M, Oliden VC, Bilici M, Kurland J, Xynos I, Mann H, Tabernero J* : Pathological complete response (pCR) to durvalumab plus 5-fluorouracil, leucovorin, oxaliplatin and docetaxel (FLOT) in resectable gastric and gastroesophageal junction cancer (GC/GEJC): Interim results of the global, phase III MATTERHORN study. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [Oral session]
- 035 *Narita Y, Komori A, Hironaka S, Kawakami H, Furuta M, Kawakami T, Makiyama A, Sugiyama K, Takegawa N, Hirano H, Ando T, Matsushima T, Chida A, Kashiwada T, Komoda M, Matsumoto T, Oda H, Yabusaki H, Yoshimura K, Muro K* : A prospective observational study of MSI screening in unresectable chemotherapy-naïve advanced gastric cancer/gastroesophageal junction cancer: WJOG13320GPS. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [Poster session]
- 036 *Nakamura Y, Esaki T, Nishina T, Komatsu Y, Yuki S, Shinozaki E, Taniguchi H, Kato T, Kato K, Nomura S, Ikeno T, Ishiguro Y, Takahashi K, Higuchi T, Sato A, Odegaard J I, Kuwata T, Matsushima K, Nakatsura T, Yoshino T* : Nivolumab in patients (pts) with advanced gastrointestinal (GI) cancers with high plasma tumor mutational burden (pTMB): Results from a SCRUM-Japan GOZILA phase II trial. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 037 *Sakakida T, Masuishi T, Ishizuka Y, Wakabayashi M, Kodama H, Narita Y, Honda K, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Komori K, Muro K* : Prognostic impact of local recurrence and timing of palliative radiotherapy in patients with unresectable recurrent rectal cancer. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 038 *Park H, Bekaii-Saab TS, Kim SS, Pishvaian MJ, Sunakawa Y, Kamath SD, Kawazoe A, Muro K, Zhen DB, Hirano H, Maestas E, Grierson P, Sugimoto N, Yamaguchi K, Ubowski M, Tan Q, Adelberg DE, Strickler JH* : Results from the phase 1b/2 SGNTUC-024 study: Assessment of tucatinib, trastuzumab, and FOLFOX for HER2+ GI cancers. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 039 *Aoki Y, Nakamura Y, Komatsu Y, Taniguchi H, Sunakawa Y, Shiozawa M, Kitagawa C, Ohta T, Matsushashi N, Yamazaki K, Boku S, Takahashi N, Esaki T, Kawakami H, Kagawa Y, Nishina T, Yamaguchi K, Bando H, Yoshino T* : Clinical utility of upfront circulating tumor DNA (ctDNA) genotyping to guide first-line therapy in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC): A GOZILA substudy. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 040 *Hashimoto T, Fujisawa F, Machida N, Makiyama A, Boku S, Kadowaki S, Takahashi N, Oki E, Morizane C, Sunakawa Y, Komatsu Y, Okano N, Esaki T, Ohta T, Kato T, Ozaki H, Iida N, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T* : Efficacy of biomarker-matched therapy in clinical trials for advanced gastrointestinal cancers: A pooled analysis of SCRUM-Japan studies. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 041 *Oyoshi H, Bando H, Yamashita R, Kageyama S, Horasawa S, Nakamura M, Fujisawa T, Tomizawa K, Motegi A, Mishima S, Kotani D, Taniguchi H, Oki E, Takemasa I, Kato T, Nakamura Y, Mori M, Jurdi AA, Liu MC, Yoshino T* : Prediction of postoperative recurrence by integrating preoperative ctDNA levels and tumor metastasis volume in patients (pts) with colorectal cancer (CRC) with resectable lung or liver metastasis. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 042 *Chida A, Kawakami T, Hamano T, Masuishi T, Mitani S, Yasui H, Ishiguro A, Ando T, Sawada K, Harada K, Takahashi N, Boku S, Kashiwada T, Esaki T, Yagisawa M, Sugiyama K, Yamamoto K, Yuki S, Yamazaki K, Oki E* : Prospective observational study investigating the impact of treatment sequence using regorafenib and FTD/TPI for metastatic colorectal cancer on overall survival (OSERO study). ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 043 *Yaeger R, Langer CJ, Ruffinelli JC, Fakih M, Furqan M, Machiels J-P H, Saportas Y, Nolte-Hippenmeyer J, Chan E, Xia C, Masuishi T* : A phase 1b study of sotorasib combined with panitumumab as second-line treatment of KRAS G12C-mutated colorectal cancer. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 044 *Miyo M, Kato T, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Watanabe J, Akazawa N, Yokota M, Kagawa Y, Jurdi AA, Liu MC, Oba K, Taniguchi H, Kotani D, Oki E, Takemasa I, Mori M,*

- Yoshino T** : Association of circulating tumor DNA (ctDNA) molecular disease (MRD) detection with lymph node metastasis after local excision of pathological T1 colorectal cancer: First results from DENEb, a CIRCULATE-Japan GALAXY substudy. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 045 **Ishizuka Y, Narita Y, Sakakida T, Wakabayashi M, Kodama H, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Impact of time-of-day on nivolumab monotherapy infusion in patients with metastatic gastric cancer. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 046 **Kawakami H, Uchino K, Hashimoto W, Muro K** : Real-world experience with trastuzumab deruxtecan among patients with gastric cancer: 4 month-interim analysis of an all-patient post-marketing surveillance study in Japan. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 047 **Tsushima T, Hironaka S, Tsubosa Y, Kato K, Nomura M, Hara H, Kitagawa Y, Koyanagi K, Kajiwara T, Takegawa N, Matsubara H, Baba H, Morita M, Masuzawa T, Hasegawa H, Kojima T, Machida R, Sasaki K, Takeuchi H, Kadowaki S** : A randomized phase III study comparing 2-weekly docetaxel, cisplatin and 5-FU (bDCF) with cisplatin and 5-FU (CF) in patients with metastatic or recurrent esophageal cancer: JCOG1314 (MIRACLE). ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 048 **Hirata K, Kawakami H, Kadowaki S, Makiyama A, Tsuda M, Sugimoto N, Machida N, Hara H, Hirano H, Esaki T, Komatsu Y, Hironaka S, Chiba Y, Muro K** : Relationship between the number of positive MSI markers and the efficacy of NIVO+IPI therapy in MSI-H gastric cancer: A subgroup analysis of NO LIMIT study (WJOG13320G/CA209-7W7). ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 049 **Yamamoto S, Kato K, Saeki H, Kadowaki S, Minashi K, Kasahara Y, Nomura M, Yasuda T, Sato Y, Koyanagi K, Izawa N, Okada M, Satake H, Morita S, Goto M, Yoshii T, Yamamoto S, Izawa M, Uemura K, Muro K** : An observational study on treatment patterns and outcomes among patients with metastatic or recurrent esophageal cancer: Real-world data and empirical analyses in Japan (POME). ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 050 **Hirano H, Yamada Y, Nagashima K, Hiraoka N, Sekine S, Takahashi N, Azuma M, Iwasa S, Kanato K, Machida N, Kinoshita T, Hata H, Kawakami H, Takahashi D, Ojima T, Kadowaki S, Boku N, Kurokawa Y, Terashima M, Yoshikawa T** : Impact of PD-L1 expression on survival in patients with unresectable/recurrent gastric cancer receiving first-line chemotherapy without immune checkpoint inhibitors. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 051 **Yoshii T, Yamamoto S, Kato K, Daiko H, Hara H, Kojima T, Abe T, Tsubosa Y, Kawakubo H, Fujita T, Kadowaki S, Tsushima T, Matsuda S, Nagashima K, Aoki K, Yachida S, Kitagawa Y** : FRONTiER: A feasibility trial of nivolumab with neoadjuvant CF or DCF, FLOT therapy for locally advanced esophageal carcinoma (JCOG1804E)—Primary safety and short-term efficacy results for cohort E. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 052 **Nakanishi K, Kadera Y, Kawakami H, Makiyama A, Konishi H, Morita S, Narita Y, Sugimoto N, Minashi K, Imano M, Inamoto R, Kume H, Yamaguchi K, Hashimoto W, Muro K** : Retrospective cohort study to evaluate the efficacy and safety of T-DXd in HER2-positive unresectable advanced or recurrent gastric or gastroesophageal junction cancer: EN-DEAVOR study. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 053 **Kawabata R, Sakai D, Kadowaki S, Tsuduki T, Suzuki T, Masuzawa T, Shimozaki K, Tsuda M, Yamada T, Yamaguchi T, Ueda S, Kito Y, Hirose T, Kawase T, Nomura T, Nishikawa K, Kawakami H, Shimokawa T, Boku N, Satoh T** : Subgroup analyses of the effect of ramucirumab in pretreatment with immune checkpoint inhibitor in RINDBERG: A randomized clinical trial in third- or further-line treatment of gastric cancer. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Poster Session]
- 054 **Janjigian YY, Al-Batran S-E, Wainberg ZA, Cutsem EV, Molena D, Muro K, Hyung WJ, Wyrwicz LS, Oh D-Y, Omori T, Moehler M, Garrido M, Oliveira S CS, Liberman M, Ojiden VC, Bilici M, Kurland JF, Xynos I, Mann H, Tabernero J** : Pathological complete response (pCR) to 5-fluorouracil, leucovorin, oxaliplatin and docetaxel (FLOT) with or without durvalumab (D) in resectable gastric and gastroesophageal junction cancer (GC/GEJC): Subgroup analysis by region from the phase 3, randomized, double-blind MATTERHORN study. ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Oral Abstract Session]
- 055 **Arai H, Inoue E, Terashima M, Baba E, Matsushashi N, Muro K, Yamaguchi T, Yuki S, Ichikawa W, Fujii M, Sunakawa Y** : A phase II trial of CapeOX plus nivolumab for early relapsed HER2-negative gastric cancer (JACCRO GC-11: FirSTAR trial). ASCO GI 2024, 2024, (San Francisco), [Oral Abstract Session]
- 056 **Nagamine M, Sakamoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Yamashita R, Hashimoto T, Shibuki T, Imai M, Bando H, Kadowaki S, Ueno M, Boku S, Hatanaka Y, Hatanaka K, Taguchi K, Sakashita S, Ishii G,**

- Yoshino Y, Kuwata T**: Comprehensive Analysis of HER2 Protein Expressions, messenger-RNA Expressions, and DNA Amplifications in over 250,000 Advanced Solid Tumors: Comparison of Next-Generation Sequencing-Based Assay with Immunohistochemistry in Two Large Scale Databases in US and Japan. USCAP 2024, (Baltimore), [Platform Session]
- 057 **緒方貴次, 舩石俊樹, 谷口浩也**: 当院における消化器がんゲノム医療推進に向けた完全リモート治験の取り組み. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [ワークショップ]
- 058 **本多和典**: Financial Toxicity of Cancer Treatment. 第110回日本泌尿器科学会総会. 2023, (神戸), [Panel Discussion (演者)]
- 059 **室 圭**: 癌治療における支持療法の現状と課題. 第48回外科系連合学会学術集会, 2023, (横浜), [パネルディスカッション (座長)]
- 060 **門脇重憲**: 甲状腺がんにおける分子標的治療の現状と展望. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [シンポジウム (演者)]
- 061 **門脇重憲, 岡 弘毅, 長島健悟, 西 秀昭, 熊井良彦, 飯島宏章, 大上研二, 清水 康, 加納里志, 伊東和恵, 山崎知子, 高橋秀聡, 折館伸彦, 横田知哉, 小山泰司, 清田尚臣, 佐藤靖祥, 高橋俊二, 加藤恭子, 本間義崇**: 白金製剤・ニボルマブ不応・不耐後の再発・転移頭頸部扁平上皮癌の臨床転帰に関する後方視的多施設共同研究. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [口演]
- 062 **室 圭**: 2023年6月, がん悪液質治療の現在地「アナモレリン塩酸塩の最適な使用タイミングを考える」. 第8回日本がんサポーターブケア学会学術集会, 2023, (奈良), [イブニングセミナー (座長)]
- 063 **緒方貴次**: 2023年6月, がん悪液質治療の現在地「アナモレリン塩酸塩の最適な使用タイミングを考える」. 第8回日本がんサポーターブケア学会学術集会, 2023, (奈良), [イブニングセミナー (演者)]
- 064 **門脇重憲**: CDDP unfit 食道癌に対する治療戦略. 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [要望演題 (司会)]
- 065 **宮田博志, 牧野知紀, 安田卓司, 北川雄光, 室 圭, 朴在賢, 引地哲郎, 長谷川貴大, 五十嵐憲二, 塩崎 均**: 食道癌患者に対するS-588410術後補助療法の第3相プラセボ対照無作為化試験. 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [プレナリーセッション]
- 066 **児玉絃幸, 門脇重憲, 田近正洋, 桧垣栄治, 藤枝裕倫, 安部哲也, 尾瀬 功, 室 圭**: 切除不能局所進行食道癌に対する術前DCF療法におけるR0切除予測因子の検討. 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [シンポジウム]
- 067 **加藤 健, 小島隆嗣, 原 浩樹, 辻 晃仁, 安井久晃, 室 圭, 佐藤太郎, 八束尚良, 韓 士榮, 土井俊彦**: KEYNOTE-590 results in Japanese patients after an additional 1-year of follow-up. 第77回日本食道学会学術集会, 大阪, 2023, (大阪), [パネルディスカッション]
- 068 **白石和寛, 杉山圭司, 下嵯啓太郎, 岡田真央, 松原裕樹, 廣瀬 優, 土橋賢司, 舩石俊樹, 平田賢郎**: 切除不能食道扁平上皮癌におけるFOLFOX療法に関する多施設後ろ向き観察研究. 第77回日本食道学会学術集会, 大阪, 2023, (大阪), [要望演題]
- 069 **山本 駿, 陳 勁松, 小島隆嗣, 西野和美, 川上尚人, 小柳和夫, 田中善宏, 飯島克則, 室 圭**: 固形癌及び食道癌に対するFutibatib/ベムプロリズマブ併用療法の臨床第1b相試験. 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [ポスター]
- 070 **桧垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 門脇重憲, 清水泰博**: 進行食道癌に対し術前DCF療法後に根治的食道切除を受けた患者の術後補助療法の適応. 第77回日本食道学会学術集会, 大阪, 2023, (大阪), [口演]
- 071 **今井 源, 田原 信, 清田尚臣, 高橋俊二, 西山明宏, 田村真吾, 清水 康, 門脇重憲, 伊藤研一, 杉谷 巖**: BRAF V600 遺伝子変異を有する根治切除不能な甲状腺癌を対象としたエンコラフェニブとビニメチニブ併用療法の国内第II相試験成績 (ONO-7702/7703-03 試験). 第35回日本内分泌外科学会総会, 2023, (松本), [Late-Breaking Session]
- 072 **舩石俊樹**: 免疫チェックポイント阻害薬治療を受けているがん患者の緩和ケアに携わる医療者が知っておきたい事. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (神戸), [ランチョンセミナー (座長)]
- 073 **室 圭**: 大腸がん診療におけるリキッドバイオプシーの可能性. 第99回大腸癌研究会学術集会, 2023, (尼ヶ崎), [ランチョンセミナー (座長)]
- 074 **谷口浩也**: 移りゆく大腸癌個別化治療のこれから. 第99回大腸癌研究会学術集会, 2023, (尼ヶ崎), [ランチョンセミナー (演者)]
- 075 **室 圭**: Evidence と Narrative の融合～BRAF 変異陽性大腸癌の個別化治療とがん悪液質治療～. Best of ASCO 2023 in Japan, 2023, (WEB), [オンコロジーライブセミナー (演者)]
- 076 **門脇重憲**: 消化器がん – Gastrointestinal. Best of ASCO 2023 in Japan, 2023, (WEB), [口演 (司会)]
- 077 **室 圭**: 高頻度マイクロサテライト不安定性を有する胆道癌でのベムプロリズマブ使用成績調査—適正使用委員会からの報告—. 第59回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [シンポジウム (演者)]
- 078 **谷口浩也**: Breakthrough approaches deciphering carcinogenesis or progression of CRC. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [English Oral Sessions (座長)]
- 079 **谷口浩也**: Decentralized clinical trials – current status and future perspectives –. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [Special Symposia (演者)]
- 080 **本多和典**: 進行性腎癌における薬物治療に対する治療嗜好と経済毒性「がんの経済毒性」. 第88回日本泌尿器科



- 学会 東部総会, 2023, (札幌), [イブニングセミナー (演者)]
- 081 安藤正志: 後腹膜肉腫に対する内科治療. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [領域横断シンポジウム (演者)]
- 082 高山浩一, 小島 愛, 本田主税, 木口舞美, 遠藤俊充, 室 圭: アナモレリンの副作用および治療効果の予測因子: 特定使用成績調査の中間解析. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), ["Frontier"]
- 083 松本繁巳, 武藤 学, 福山啓太, 山本秀和, 室 圭, 砂川 優, 安井久晃, 大槻 涼, 木村裕一, 岡田昌史, 西浦亮二, 湯川洋一郎: がん診療におけるリアルワールドデータ (RWD) 収集に関する多施設共同研究. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [eポスター]
- 084 成田有季哉: 抗HER2療法の治療変革. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [スポンサードシンポジウム (演者)]
- 085 篠崎英司, 城後友望子, 衣斐寛倫, 舩石俊樹, 加藤健志, 仁科智裕, 江崎泰斗, 小松嘉人, 加藤 健, 佐藤暁洋, 坂東英明, *J. Odegaard*, 藤井誠志, 吉野孝之, 中村能章: ctDNAにFGFR遺伝子異常を有する進行固形がんに対するフチバチニブの有効性の検討. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), ["Frontier"]
- 086 胡 慶江, 原田一顕, 川上武志, 緒方貴次, 伏木邦博, 谷口浩也, 室 圭, 安藤幸滋, 南原 翔, 川本泰之, 小松嘉人, 沖 英次, 舩石俊樹, 山崎健太郎, 結城敏志: 転移性大腸癌におけるレゴラフェニブの開始用量が治療成績に対する影響. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 087 舩石俊樹: 切除不能進行・再発胃癌に対する薬物療法の開発. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [臓器別ワークショップ (演者)]
- 088 安井久晃, 坂東英明, 佐竹悠良, 小谷大輔, 濱口哲弥, 小高雅人, 谷口浩也, 室 圭, 小松嘉人, 沖 英次, 山崎健太郎, 三角俊裕, 吉野孝之, 加藤健志, 辻 晃仁: 進行大腸癌に対するCAPOXIRI+Bev療法とFOLFOXIRI+Bev療法のランダム化第II相臨床研究. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [アンコールセッション]
- 089 安藤幸滋, 沖 英次, 小谷大輔, 中村能章, 三島沙織, 三代雅明, 浜部敦史, 渡邊 純, 小高雅人, *Aushev. V*, 谷口浩也, 山崎健太郎, 竹政伊知朗, 加藤健志, 吉野孝之: MRDは手術先行直腸癌患者の再発予測因子である: GALAXY試験のアップデート結果より. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), ["Frontier"]
- 090 濱口哲弥, 小谷大輔, 塩澤 学, 坂東英明, 佐竹悠良, 沖 英次, 小松嘉人, 谷口浩也, 室 圭, 小高雅人, 山崎健太郎, 三角俊裕, 吉野孝之, 加藤健志, 辻 晃仁: UGT1A1遺伝子型がQUATTRO-II試験の有効性と安全性に及ぼす影響. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), ["Frontier"]
- 091 谷口浩也: 秋澄む横浜で伝えたい大腸癌薬物療法の急所. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [学術セミナー (演者)]
- 092 谷田部 恭, 織田克利, 谷口浩也, 角南久仁子, 安岡正太郎, 渡部亮介: 本邦における臓器横断的CDXとCGP検査のリアルワールドデータ. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 093 谷口浩也, *Büntzel J*, 矢野琢也, 木村純子, 中村将人, *Velthuis E, Hamad J, Garcia-Foncillas J*: 実地診療でのセツキシマブ使用経験: インフュージョンリアクション, 皮膚毒性を中心に. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 094 谷口浩也: 遠隔転移巣切除後補助化学療法におけるshared decision makingの実践. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [臓器別シンポジウム (演者)]
- 095 本多和典: がんの経済毒性~現状・課題・今後~. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [学術セミナー (演者)]
- 096 橋本直佳, 藤澤孝夫, 加藤大悟, 森實千種, 岩田広治, 岡野 晋, 山上 亘, 山崎直也, 門脇重憲, 上野 誠, 尾崎洋史, 飯田直子, 中村能章, 坂東英明, 吉野孝之: SCRUM-Japan 基盤に紐づくバイオマーカー適合試験における有効性の検討. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), ["Frontier"]
- 097 對馬隆浩, 松田 諭, 川久保博文, 山本 駿, 竹内裕也, 細川 歩, 門脇重憲, 渡辺晃哉, 吉井貴子, 尾形高士, 陳 勁松, 小谷大輔, 平田賢郎, 浜本康夫, 北川雄光: 切除可能食道扁平上皮癌に対する術前FLOT療法の第II相試験一初期安全性評価の報告一. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 098 酒井 真, 佐伯浩司, 加藤 健, 門脇重憲, 笠原佑記, 佐藤雄亮, 三梨桂子, 山本 駿, 小柳和夫, 伊澤直樹, 野村基雄, 安田知代, 伊澤真木子, 上村綱平, 室 圭: 進行・再発食道がん患者の治療体系と予後に関する観察研究 (POME). 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 099 松本繁巳, 門脇重憲, 町田 望, 仁科智裕, 砂川 優, 前北隆雄, 西岡真理子, 後藤知之, 浜本康夫, 安井久晃, 川邊里紗, 岡田昌史, 武藤 学, 室 圭: Cyber Oncology®を活用した進行胃癌治療のreal-world data構築のための実行可能性研究. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 100 三梨桂子, 川上尚人, 仁科慎一, 門脇重憲, 松岡宏, 大塚倫之, 藪崎裕, 馬場秀夫, 保坂尚志, 松原淳一, 仁科智裕, 君嶋悠矢, 松田祐子, 武藤 学, 室 圭: 胃癌患者に対するニボルマブ+化学療法の有効性と安全性に関する観察研究 (中間報告). 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 101 谷口浩也: 大腸癌薬物療法の変遷とセツキシマブの歴史. 第100回大腸癌研究会学術集会, 2023, (東京), [ランチョンセミナー (演者)]
- 102 室 圭: 消化管癌治療における免疫チェックポイント阻害薬 (ICI)の位置づけ. 第44回日本臨床薬理学会学術総

- 会, 2023, (神戸), [シンポジウム (演者)]
- 103 室 圭: 胃がんにおける免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) の位置づけ. 第 36 回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2023, (東京), [シンポジウム (演者)]
- 104 本多和典: なぜいま就労両立支援が重要なのか? ~第 4 期がん対策推進基本計画とアフターコロナを踏まえて~ 「がんの経済毒性」. 第 64 回日本肺癌学会学術集会, 2023, (千葉), [教育研修委員会企画就労両立支援セッション (演者)]
- 105 舩石俊樹, 小森康司, 室 圭: 切除不能再発直腸癌における局所再発が予後や化学療法の有効性に与える影響. 日本消化器関連学会 (JDDW 2023), 2023, (神戸), [シンポジウム]
- 106 谷口浩也: MSI-H 大腸癌をもっと知ろう! 学ぼう! 日本消化器関連学会 (JDDW 2023), 2023, (神戸), [サテライトシンポジウム (演者)]
- 107 谷口浩也: 遠隔治療の経験から考えるがん診療における遠隔医療. 第 27 回日本遠隔医療学会学術大会, 腫瘍内科遠隔医療分科会, 2023, (新潟), [口演 (演者)]
- 108 室 圭: がんゲノム医療の最前線. 第 20 回日本消化管学会総会学術集会, 2024, (沖縄), [会長特別企画 (演者)]
- 109 室 圭: 胃癌薬物療法の新展開~revisiting anti-HER2 therapy~. 第 20 回日本消化管学会総会学術集会, 2024, (沖縄), [モーニングセミナー (演者)]
- 110 安藤正志: A phase II trial of tazemetostat for patients with unresectable or metastatic epithelioid sarcoma (TAZETTA trial). 第 7 回日本サルコーマ治療研究学会学術集会, 2024, (名古屋), [ポスター (演者)]
- 111 谷口浩也: がん領域の遠隔医療. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム (司会)]
- 112 本多和典: Financial Toxicity of Cancer. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [ESMO/JSMO 合同シンポジウム (演者)]
- 113 成田有季哉: Part A-2: Science (MGC). 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [PAGA forum (ディスカッサント)]
- 114 谷口浩也: ドライバー変異陽性大腸癌との対峙~課題の理解と克服~. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [イブニングセミナー (演者)]
- 115 成田有季哉: 消化器 1 (胃がん・HER2, MSI, GEJC). 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session (司会)]
- 116 石塚保亘, 成田有季哉, 榊田智喜, 若林宗弘, 児玉紘幸, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: Impact on time-of-day nivolumab monotherapy infusion in patients with metastatic gastric cancer. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 117 児玉紘幸, 門脇重憲, 石塚保亘, 榊田智喜, 若林宗弘, 本多和典, 舩石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 安藤正志, 田中 努, 山田啓策, 田近正洋, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 安部哲也, 尾瀬 功, 室 圭: A predictive model for R0 resection in unresectable locally advanced esophageal cancer treated with induction DCF. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Oral Session]
- 118 舩石俊樹: Precision medicine for colorectal cancer. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム (司会)]
- 119 室 圭: 食道がん薬物療法~長期生存を目指すための最適な治療戦略~. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [モーニングセミナー (演者)]
- 120 安藤正志: 希少がん・原発不明がん. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, Oral Session, 名古屋, 2024, [ (司会)]
- 121 安藤正志: 多職種連携プログラム 2 (がん薬物療法). 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session (司会)]
- 122 本多和典: 希少がんの希少フラクションとしての治療開発. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム (司会)]
- 123 谷口浩也: 希少がん・希少フラクションの治療開発における decentralized clinical trial の活用. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム (演者)]
- 124 門脇重憲: Are current follow up strategies for head and neck cancer still fit for purpose? 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Meet the Experts (ファシリテーター)]
- 125 門脇重憲: 消化器 10 (食道がん・切除不能, CRT). 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session 57 (司会)]
- 126 榊田智喜, 舩石俊樹, 石塚保亘, 若林宗弘, 児玉紘幸, 成田有季哉, 本多和典, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 小森康司, 室 圭: Effect of locoregional recurrence and optimal timing of palliative radiotherapy for unresectable recurrent rectal cancer. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Poster Session]
- 127 室 圭: 新規薬剤開発における新しいドラッグロス. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [会長企画シンポジウム (司会)]
- 128 室 圭: 胃癌に対する周術期化学療法: アジアの視点. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム (演者)]
- 129 室 圭: Evolving benefits of immune checkpoint inhibitors in advanced gastric cancer. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [メディカルセミナー (司会)]
- 130 舩石俊樹, 川上武志, 濱野鉄太郎, 千田彰彦, 三谷誠一郎, 安井久晃, 石黒 敦, 安藤孝将, 澤田憲太郎, 原田一顕, 高橋直樹, 朴 将源, 柏田知美, 江崎泰斗, 八木澤允貴, 杉山圭司, 山本紘司, 結城敏志, 山崎健太郎, 沖 英次: A prospective observational study investigating the impact of treatment sequence on overall survival of mCRC. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名

- 古屋), [Mini Oral Session]
- 131 石塚保亘, 佐竹悠良, 山崎健太郎, 諏訪雄亮, 對馬隆浩, 朴 将源, 高島淳生, 山口敏史, 朝山雅子, 横田 満, 沼田幸司, 太田高志, 安井久晃, 木藤陽介, 瀧井康公, 北林 遼, 佐野裕亮, 福田治彦, 濱口哲弥, 金光幸秀: Randomized phase III study of bi-weekly FTD/TPI plus BEV vs. FTD/TPI monotherapy for chemorefractory mCRC: JCOG2014. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 132 若林宗弘, 谷口浩也, 結城敏志, 武田弘幸, 三谷誠一郎, 奥村祐太, 赤澤直也, 山口和久, 牧山明資, 工藤敏啓, 工藤 千穂, 盛 啓太, 室 圭: A phase 2 study of inpatient dose escalation of bi-weekly FTD/TPI plus BEV for colorectal cancer (E-BiTS study). 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 133 安藤正志: 希少がん6 (サルコーマ2). 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session (司会)]
- 134 谷口浩也, 松永拓真, 田村祐子, 川上武志, 佐竹悠良, 砂川 優: がん患者および医療従事者を対象とした腫瘍内科領域における遠隔医療に関する意識調査-医療従事者からの回答結果報告-. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 135 舩石俊樹: 大腸がん薬物療法-最新情報から見えてくるベストプラクティス-. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [メディカルセミナー (演者)]
- 136 室 圭: 大腸癌薬物療法における抗EGFR抗体の変遷と位置づけ/大腸癌薬物療法-最新知見から, 1st line 治療の選択を考える-. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [メディカルセミナー (司会)]
- 137 藤澤孝夫, 中村能章, 山下理宇, 桑田 健, 坂本直也, 石井源一郎, 門脇重憲, 上野 誠, 朴 将源, 東岡広樹, 坂本泰理, 橋本直佳, 澁木太郎, 今井光穂, 坂東英明, *Radovich M, Nabhan C, Sledge G, Spetzler D*, 吉野孝之: Landscape of Clonal Hematopoiesis by PBMC-Informed Liquid Biopsy in Advanced Solid Tumors:SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN-2. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Presidential Session]
- 138 浜部敦史, 竹政伊知朗, 安藤幸滋, 中村能章, 三島沙織, 由上博喜, 平田敬治, 三代雅明, 松橋延壽, 植村 守, 井出義人, 高野祥直, *Adham J*, 小谷大輔, 谷口浩也, 沖 英次, 加藤健志, 吉野孝之: Analysis of ctDNA Changes in Locally Advanced Rectal Cancer that Underwent Neoadjuvant Treatment - GALAXY Trial. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Presidential Session]
- 139 中村能章, *Walden DJ*, 山中一徳, *Krueger A, Batalini F*, 室 圭, *Bekaii-Saab TS*, 吉野孝之: Chemotherapeutic Sensitivity of Colorectal Cancer (CRC) With Low RNA WT Homologous Recombination (HRec) Gene Expression. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Presidential Session]
- 140 加藤恭子, 小森 梓, 廣中秀一, 杉本直俊, 西田謙太郎, 松山 仁, 野長瀬祥兼, 坂口智紘, 近藤侑鈴, 中積宏之, 長瀬通隆, 伊澤直樹, 原田一顕, 岩槻政晃, 三梨桂子, 木藤陽介, 川上賢太郎, 陶山浩一, 吉村健一, 室 圭: A prospective observational study of MSI screening in chemotherapy-naive advanced gastric cancer: WJOG13320GPS. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Oral Session]
- 141 杉本直俊, 川上尚人, 門脇重憲, 牧山明資, 津田政広, 平田賢郎, 町田 望, 原 浩樹, 平野秀和, 江崎泰斗, 小松嘉人, 廣中秀一, 千葉康敬, 室 圭: Potential value of NLR for Nivo + Ipi in MSI-H Gastric Cancer: Sub-analysis of the NO LIMIT study (WJOG13320G/CA209-7W7). 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 142 町田 望, 門脇重憲, 仁科智裕, 砂川 優, 前北隆雄, 松本繁巳, 西岡真理子, 後藤知之, 浜本康夫, 安井久晃, 古田光寛, 梶原猛史, 新井裕之, 北野雅之, 長島文夫, 川邊里紗, 岡田昌史, 武藤 学, 室 圭: Establishing real-world data on actual advanced gastric cancer therapy using CyberOncology®: A feasibility study. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 143 飯田直子, 今井光穂, 藤井誠志, 岡本 渉, 加藤 健, 江崎泰斗, 小松嘉人, 結城敏志, 舩石俊樹, 仁科智裕, 衣斐寛倫, 佐藤暁洋, 山下理宇, 吉野孝之, 中村能章: Multi-omics unveils pertuzumab and trastuzumab resistance determinants in ERBB2-amplified metastatic colorectal cancer. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 144 廣中秀一, 對馬隆浩, 坪佐恭宏, 加藤 健, 門脇重憲, 野村基雄, 原 浩樹, 北川雄光, 小柳和夫, 梶原猛史, 武川直樹, 松原久裕, 馬場秀夫, 森田 勝, 益澤 徹, 長谷川裕子, 小島隆嗣, 町田龍之介, 佐々木啓太, 竹内裕 也: A randomized phase III study comparing 2-weekly DCF with CF in patients with metastatic esophageal cancer: JCOG1314. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 145 山口真澄, 小原真紀子, 上岡亜子, 佐野雄三, 青木智子, 佐藤 好, 能澤一樹, 足立雄太, 新津宏明, 安藤正志, 衣斐寛倫: がん専門病院におけるがんゲノムプロファイリング検査を含めた治療・臨床試験への多職種連携効果と今後の課題. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Poster Session]
- 146 門脇重憲, 吉野孝之, 山崎健太郎, 成田有季哉, 三島沙織, 川上武志, 中島裕理, 田中智之, 多田圭介, *Nathalie Fagniez*, 室 圭: Phase 1 study of tusamitamab ravtansine every 2 weeks with loading dose in Japanese patients with advanced solid tumors. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral

- Session]
- 147 三島沙織, 室 圭, 山崎健太郎, 門脇重憲, 久保木恭利, 浜内 諭, 青木 優, 大島しのぶ, 多田圭介, *Nathalie Fagniez*, 吉野孝之: Safety and pharmacokinetics of tusamitamab ravtansine dosing Q3W in Japanese patients with advanced solid tumors. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 148 高橋俊二, 田原 信, 清田尚臣, 今井 源, 西山明宏, 田村真吾, 清水 康, 門脇重憲, 伊藤研一, 豊島優裕, 平島詳典, 上野真治, 若澤広樹, 杉谷 巖: Post-hoc analysis of TRAEs observed in a phase 2 study of encorafenib + binimetinib in metastatic BRAF V600-mutated TC. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Oral Session]
- 149 橋本直弥, 中田晃暢, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 遠藤由香, 小谷はるる, 片岡愛弓, 服部正也, 吉村章代, 澤木正孝, 能澤一樹, 尾瀬 功, 岩田広治, 室 圭: Safety of a short-term infusion of fosnetupitant in patients with gastrointestinal and breast cancer. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Oral Session]
- 150 坂東英明, 熊谷尚吾, 小谷大輔, 三島沙織, 羽部 匠, 對馬隆浩, 原 浩樹, 門脇重憲, 加藤 健, 陳 勁松, 山口研成, 影山俊一郎, 北條秀博, 中村匡希, 橋 英伸, 若林将史, 福井 誠, 布施 望, 西川博嘉, 小島隆嗣: The biomarker analysis of atezolizumab following definitive chemoradiotherapy for unresectable locally advanced ESCC. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [Mini Oral Session]
- 151 室 圭: 胃癌・大腸癌治療のゲノム医療最前線. 第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2024, (横浜), [教育講演 (演者)]
- 152 村田史子, 中田晃暢, 成田有季哉, 石塚保亘, 神田智喜, 児玉紘幸, 若林宗弘, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 澤木正孝, 岩田広治, 室 圭, 尾瀬 功: 胃癌患者におけるホスネツピタント短時間投与の安全性. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [ワークショップ]
- 153 有上貴明, 石神浩徳, 大森 健, 小寺泰弘, 藪崎 裕, 深川剛生, 今野元博, 門脇重憲, 秀村晃生, 北山丈二: 胃癌腹膜転移に対する全身・腹腔内投与併用化学療法. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [ワークショップ]
- 154 古田光寛, 川上尚人, 門脇重憲, 牧山明資, 津田政広, 平田賢郎, 杉本直俊, 原 浩樹, 平野秀和, 江崎泰斗, 小松嘉人, 廣中秀一, 千葉康敬, 室 圭: 切除不能進行再発 MSI-H 胃癌に対する nivolumab+ipilimumab 療法: NO LIMIT 試験 (WJOG13320G/CA209-7W7). 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [シンポジウム]
- 155 室 圭: 胃癌薬物療法の現状と課題. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [シンポジウム (座長)]
- 156 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 成田有季哉, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 室 圭, 清水泰博: 実臨床におけるドセタキセル+S-1補助化学療法の治療継続に関与する因子. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [ワークショップ]
- 157 谷口浩也: 学都で想うがんゲノム医療の近未来. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [ランチョンセミナー (演者)]
- 158 牧山明資, 小寺泰弘, 川上尚人, 中西香企, 小西博貴, 森田智視, 成田有季哉, 杉本直俊, 三梨桂子, 今野元博, 稲本 林, 久米紘幹, 山口敬太, 橋本 航, 室 圭: HER2陽性切除不能進行・再発胃癌に対する T-DXd の有効性・安全性を評価する後ろ向きコホート研究. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [一般口演]
- 159 室 圭: Oncologist と語る～今とこれからの胃癌薬物療法～. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [ランチョンセミナー (座長)]
- 160 室 圭: バイオマーカーに基づいた胃癌薬物療法の実践. 第96回日本胃癌学会総会, 2024, (京都), [ランチョンセミナー (演者)]
- 161 室 圭: 徹底討論! アナモレリン塩酸塩の適正使用. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会, 2024, (神戸), [ランチョンセミナー (座長)]
- 162 谷口浩也: 実例から考える DCT における被験者の安全性確保とデータの信頼性確保. 日本臨床試験学会第15回学術集会総会, 2024, (大阪), [シンポジウム (演者)]
- 163 門脇重憲: 再発・転移頭頸部癌薬物療法管理の Tips—治療開始前から, 治療後のフォローまで—. 第36回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2024, (京都), [学術セミナー (演者)]
- 164 室 圭: 進行胃癌における個別化医療の最前線 Recent Progress in Precision Medicine for Advanced Gastric Cancer. 第113回日本病理学会総会, 2024, (名古屋), [ランチョンセミナー (演者)]

## 臨床検査部

- 001 平松可帆, 松田千秋, 柴田典子, 小林翔太, 細田和貴: がんゲノムプロファイリング検査のための核酸品質評価に DIN と Peak/Base 比の併用が有用である. 第70回日本臨床検査医学会学術集会, 2023, (長崎市), [ポスター]
- 002 大島康裕: 誤認され得る横紋筋肉腫の一例. 第176回東海連合会例会, 2023, (Web), [講演]
- 003 小林雅子, 近藤吉起, 所 嘉朗, 田中由美恵, 大島康裕, 廣瀬詩織, 柴田典子, 細田和貴: NET と NEC の細胞・組織学的鑑別: 症例提示 1. 第64回日本臨床細胞学会 (春季大会), 2023, (ハイブリッド), [口演]
- 004 近藤吉起, 小林雅子, 所 嘉朗, 田中由美恵, 大島康裕, 廣瀬詩織, 柴田典子, 細田和貴: ROSE 運用の本音—分子検査を見越した検体採取を目指して. 第64回日本臨床細胞学会 (春季大会), 2023, (ハイブリッド), [口演]

## 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **Hosoda W**: Molecular characterization of rectal neuroendocrine tumors with unfavorable prognosis by multiomics analysis: A multicenter retrospective cohort study (GARNET). ESMO, 2023, (Madrid, Spain), [Mini oral presentation]
- 002 **小林雅子**: シンポジウム 膵・消化管神経内分泌腫瘍の FNA 診断. 第 64 回日本臨床細胞学会総会 (春季大会). 日本臨床細胞学会東海連合会, 2023, (名古屋), [口演]
- 003 **近藤吉起**: ワークショップ 今, 再考する ROSE の意義. 第 64 回日本臨床細胞学会総会 (春季大会), 2023, (名古屋), [口演]
- 004 **平松可帆**: がんゲノムプロファイリング検査のための核酸品質評価に DIN と Peak/Base 比の併用が有用である. 第 71 回日本臨床検査医学会, 2023, (長崎), [ポスター]
- 005 **細田和貴**: NEN の病理学的多様性と病理診断. 膵・消化管神経内分泌腫瘍 Update2023, 2023, (Web), [座長]
- 006 **細田和貴**: 消化器癌における臨牀的・病理的な疑問～大腸癌を中心に～. 臨牀病理コンセンサス研究会, 2023, (Web), [座長, 世話人]
- 007 **細田和貴**: EUS-FNA/B 検体で行う膵・胆道腫瘍のがん遺伝子パネル検査. 第 15 回近畿超音波内視鏡研究会, 2023, (大阪), [口演]
- 008 **小林雅子, 細田和貴**: 愛知県細胞診検診従事者講習会 乳腺細胞診. 第 3 期愛知県がん対策推進計画事業, 2023, (Web on demand), [口演]
- 009 **藤田泰子**: 病理解説. 胃の「1 症例」徹底解説ウェビナー. 2023, (Web), [講演]
- 010 **真砂勝泰**: 非小細胞肺癌における術前化学療法と分子病理. 肺癌周術期治療を考える会, 2023, (Web), [講演]
- 011 **細田和貴**: EUS-FNA 検体を用いて行う膵・胆道腫瘍のがん遺伝子パネル検査. 近畿超音波内視鏡研究会, 2023, (大阪), [講師]
- 012 **藤田泰子**: 第 27 回～第 32 回勉強会. Salon de Taverna, 2023, (Web), [世話人, コメンテーター]
- 013 **藤田泰子**: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について (病理解説). 第 7 回 京都拡大内視鏡研究会, 2023, (京都, ハイブリッド), [コメンテーター]
- 014 **真砂勝泰**: 非小細胞肺癌における周術期治療と分子病理. MSD Translational research seminar for NSCLC, 2023, (Web), [講演]
- 015 **細田和貴**: オンコマイン Dx Target Test を用いた院内腫瘍遺伝子検査の取り組みと見えてきた課題. 信州大学臨床検査セミナー, 2023, (松本), [講演]
- 016 **細田和貴**: 早期膵癌 CIS の一例. 早期膵癌研究会, 2023, (東京), [コメンテーター]
- 017 **藤田泰子**: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その 3 (胃) (病理解説). 第 5 回神戸拡大内視鏡研究会, 2023, (神戸, ハイブリッド), [コメンテーター, 症例解説]
- 018 **藤田泰子**: 消化管病理のいろは. 消化管エコー研究会

2023, 2023, (東京), [講師]

- 019 **藤田泰子**: 第 33 回～第 37 回勉強会. Salon de Taverna, 2023, (Web), [世話人, コメンテーター, 症例解説]

## 頭頸部外科部

- 001 **Hanai N, Shinozaki T, Makino T, Nishikawa D, Shinomiya H, Okamoto I, Suzuki T**: On behalf of the Japanese Society of Head and Neck Surgery (JSHNS): An experience of Alluminox treatment for head and neck cancer in clinical practice in Japan. AHNS 11th International Conference on Head and Neck Cancer, 2023, (カナダ), [口演]
- 002 **Hanai N**: Multi-Institutional Prospective Study on Prophylactic Neck Dissection for Patients with Early Oral Cancer. 9th World Congress of the International Academy of Oral Oncology (IAOO 2023), 2023, (韓国), [口演]
- 003 **Hanai N**: Neck Management in Oral Cavity Cancer. 9th World Congress of the International Academy of Oral Oncology (IAOO 2023), 2023, (韓国), [司会]
- 004 **Nishikawa D**: Mirror Surgery Technique in Transoral Robotic Surgery. 9th World Congress of the International Academy of Oral Oncology (IAOO 2023), 2023, (韓国), [口演]
- 005 **Nishikawa D**: Photoimmunotherapy for Recurrent Head and Neck Cancers - Japanese experience. 23rd National Conference of Foundation for Head and Neck Oncology (FHNO 2023), 2023, (インド), [シンポジウム]
- 006 **Nishikawa D**: AWARD VIDEOS. 23rd National Conference of Foundation for Head and Neck Oncology (FHNO 2023), 2023, (インド), [審査員]
- 007 **Nishikawa D**: Photoimmunotherapy for Lower Gingival Cancer. 23rd National Conference of Foundation for Head and Neck Oncology (FHNO 2023), 2023, (インド), [口演]
- 008 **Terada H**: We will Engage in a Comprehensive Dialogue Concerning Intriguing and Educationally Valuable Case Studies. There will be Deliberation regarding the Discrepancies and Commonalities within the Diagnostic Procedures of the Two Respective Countries. 19th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology - Head and Neck Surgery (KJJM 2024), 2024, (韓国), [シンポジウム]
- 009 **西川大輔**: 頭頸部アルミノックス治療による疼痛に対して, 局所麻酔を使用した疼痛管理経験. 頭頸部アルミノックス治療 WEB 講演会 副作用マネジメント～疼痛管理～, 2023, (WEB), [講演]
- 010 **花井信広**: 新しいがん治療. 令和 5 年度愛知県がんセンター公開講座, 2023, (オンデマンド配信), [座長]
- 011 **寺田星乃**: 頭頸部アルミノックス治療 - 世界に先駆けて

- 始まった光免疫療法－. 令和5年度愛知県がんセンター公開講座, 2023, (オンデマンド配信), [口演]
- 012 寺田星乃：頭頸部. 第50回日本乳腺甲状腺超音波医学学会学術集会, 2023, (東京), [座長]
- 013 花井信広：頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）－2年間の歩みと今後の期待－. 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会, 2023, (福岡), [学術講演]
- 014 鈴木秀典, 都築秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 花井信広：中咽頭扁平上皮癌における総治療日数と臨床予後因子との関係. 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会, 2023, (福岡), [口演]
- 015 寺田星乃：第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会. ハンズオンレクチャー, 2023, (福岡), [レクチャー講師]
- 016 大越 明, 四宮弘隆, 林 隆一, 齊藤祐毅, 別府慎太郎, 志賀清人, 浅田行紀, 上村裕和, 上田 勉, 松浦一登, 本間明宏：局所進行上顎洞癌に対する超選択的動注と放射線同時併用療法（JCOG1212 試験）有効性検証相（T4aN0M0）の結果. 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会, 2023, (福岡), [口演]
- 017 寺田星乃：頭頸部診療における治療効果と副作用出現の超音波診断. 日本超音波医学会第96回学術集会, 2023, (埼玉), [シンポジウム座長]
- 018 寺田星乃：免疫チェックポイント阻害薬による甲状腺機能異常. 日本超音波医学会第96回学術集会, 2023, (埼玉), [シンポジウム]
- 019 花井信広：頭頸部がん治療の最前線. 日本顎顔面補綴学会 第40回総会・学術大会, 2023, (名古屋), [特別講演]
- 020 萩原純孝, 花井信広：咬合喪失を反映した下顎欠損の新たな分類法「ABR分類」＝分類方法とその根拠＝. 日本顎顔面補綴学会 第40回総会・学術大会, 2023, (名古屋), [口演]
- 021 花井信広：特別講演II（専門医療器講習）頭頸部腫瘍治療の最近の動向と当院での取り組み. 第67回愛知県耳鼻咽喉科医会研修会, 2023, (名古屋), [座長]
- 022 花井信広：プロジェクションマッピングを用いた新たな時代の頭頸部超音波診断トレーニング－超音波ライブデモ－（頭頸部超音波研究会企画）. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [司会]
- 023 花井信広：再発・転移頭頸部がん薬物療法のClinical practice. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [ランチョンセミナー]
- 024 寺田星乃：プロジェクションマッピングを用いた新たな時代の頭頸部超音波診断トレーニング－超音波ライブデモ－（頭頸部超音波研究会企画）. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [ライブデモ助手]
- 025 寺田星乃：愛知県がんセンターにおける働き方改革. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [ミニシンポジウム]
- 026 西川大輔：症例1. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [座長].
- 027 鈴木秀典, 横井麻衣, 岩城 翔, 小林義明, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 澤部 倫, 岸川敏博：ホウ素中性子捕捉療法後の局所再発に対し救済手術を実施した口腔癌の1例. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [口演]
- 028 松浦一登, 大越 明, 四宮弘隆, 林 隆一, 齊藤祐毅, 別府慎太郎, 志賀清人, 浅田行紀, 上村裕和, 上田 勉, 本間明宏：局所進行上顎洞癌に対する超選択的動注と放射線同時併用療法（JCOG1212）：有効性検証相（T4aN0M0）の結果. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [口演]
- 029 岩井美世子, 中山衣代, 高津 淳, 佐藤一樹, 花井信広：シャント発声患者におけるボイスプロステシス管理の適応と声に関する満足との関連. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [口演]
- 030 益田宗幸, 松尾美央子, 菅澤 正, 山崎恵介, 中島寅彦, 小野剛治, 上田 勉, 加納里志, 塚原清彰, 渡邊昭仁, 上村裕和, 門田伸也, 岩江信法, 丸尾貴志, 浅田行紀, 花井信広, 佐野大佑, 藤 賢史：頭頸部癌患者血漿exosome mRNA 網羅的解析によるニボルマブの治療効果予測因子の同定：BIO-NEXT. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [口演]
- 031 上田佳緒璃, 村瀬貴幸, 川北大介, 長尾俊孝, 草深公秀, 中黒匡人, 浦野 誠, 山元英崇, 田口健一, 加納里志, 多田雄一郎, 塚原清彰, 大上研二, 鬼塚哲郎, 藤本保志, 櫻井一生, 花井信広, 長尾 徹, 河田 了, 羽藤直人, 丹生健一, 稲垣 宏：唾液腺腺様嚢胞癌におけるMYB/MYBL1 遺伝子関連異常の検索. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [口演]
- 032 下田 光, 手島直則, 村瀬貴幸, 長尾俊孝, 草深公秀, 中黒匡人, 浦野 誠, 田口健一, 山元英崇, 加納里志, 多田雄一郎, 塚原清彰, 大上研二, 鬼塚哲郎, 藤本保志, 川北大介, 櫻井一生, 花井信広, 長尾 徹, 河田 了, 羽藤直人, 丹生健一, 稲垣 宏：唾液腺腺様嚢胞癌cNO/pNO 症例における予後スコアの作成. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023, (大阪), [口演]
- 033 花井信広：ライブサージャリー～国産マイクロ波デバイスを用いた頸部郭清術～. 第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2023, (東京), [座長]
- 034 花井信広：再発・転移頭頸部癌の実臨床におけるICIの治療選択とその実践. 第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2023, (東京), [ランチョンセミナー]
- 035 塚本康二, 別府慎太郎, 各務雅基, 鈴木秀典, 花井信広：COVID-19感染後に自然消退した頸部食道癌の1例. 第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2023, (東京), [ポスター]
- 036 吉澤宏一, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 岸川敏博, 各務雅基, 塚本庸二, 花井信広：頭蓋底手術における再手術を中心とした合併症の検討. 第35回日本頭蓋底外科学会, 2023, (東京), [口演]
- 037 花井信広：頭頸部外科月間. あいち市民公開講座. 2023, (名古屋), [司会]

- 038 西川大輔：機器の取り扱いについて。口腔がんアルミノックス治療 ハンズオン講習会, 2023, (東京), [講演]
- 039 花井信広：甲状腺がんの手術手技を考える。頭頸部手術手技セミナー-in 東北 2023, (盛岡・Web), [講演]
- 040 花井信広：再発進行口腔がんに対する他科連携と頭頸部アルミノックス治療の実例。頭頸部・歯科口腔外科アルミノックス治療講演会, 2023, (Web), [講演]
- 041 花井信広：中・下咽頭2. 第36回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (高知), [座長]
- 042 花井信広：悪性腫瘍・自己免疫疾患. 第62回日本鼻科学会総会・学術講演会, 2023, (三重), [座長]
- 043 花井信広：再発転移頭頸部癌に対するICIの使いどころ, やめどころ. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [シンポジウム座長]
- 044 清水 康, 高橋俊二, 折館伸彦, 田中 薫, 藤本保志, 松本光史, 横田知哉, 山崎知子, 高橋雅信, 上田 勉, 花井信広, 山口博紀, 原 浩樹, 吉崎智一, 安松隆治, 中山雅博, 志賀清人, 藤井 隆, 三ツ木健二, 高橋健一, 野畑二次郎, *Gumuscu Burak, Lerman Nati*, 田原信：再発または転移頭頸部扁平上皮癌に対する一次治療としてのペムプロリズマブ KEYNOTE-048 試験の日本人サブグループを対象とした5年間の最新情報. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 045 寺田星乃：奥深い頭頸部超音波の世界, ちょっとのぞいてみませんか?. 第77回東海エコーカンファレンス, 2023, (名古屋), [特別講演]
- 046 松塚 崇, 塚原清彰, 吉本世一, 近松一朗, 塩谷彰浩, 篠崎 剛, 榎木祐一郎, 大峽慎一, 川北大介, 花井信広, 中多祐介, 福田裕次郎, 西川大祐, 木村隆浩, 平川 仁, 長谷川泰久：微小な口腔癌センチネルリンパ節転移は頸部郭清を省略できるか. 第25回SNNS研究会学術集会, 2023, (東京), [シンポジウム]
- 047 花井信広：頭頸部難症例に対する外科的アプローチ. 愛知県頭頸部癌 WEB 講演会, 2023, (Web), [講演]
- 048 花井信広：病む人の気持ちを考えるセッション2「気管食道科領域がん患者のHR-QOLの向上を求めたチーム医療」. 第74回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (福岡), [セッション座長]
- 049 長縄弥生, 花井信広：歯科衛生士として行う支援活動について. 第74回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (福岡), [セッション]
- 050 岩井美世子, 中山衣代, 松浦由紀子, 花井信広：高齢がん患者の治療における支援システムの整備. 第74回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (福岡), [パネルディスカッション]
- 051 鈴木秀典, 灰本章一, 稲葉吉隆, 立花弘之, 高成啓介, 安藤正志, 吉澤宏一, 花井信広：術後創部感染後の再発性嗅神経芽細胞腫にペプチド受容体核医学内用療法を施工した1例. 第63回日本核医学会学術総会, 2023, (大阪), [口演]
- 052 花井信広：難治性頭頸部癌の治療戦略－外科治療から薬物療法まで含めた集学的治療－. オブジーボ WEB セミナー, 2023, (Web), [講演]
- 053 花井信広：リンパ節診断（治療効果判定）に必要な知識・検査手技（超音波による効果判定の普及にむけて）. 第51回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2023, (東京), [座長]
- 054 寺田星乃：頸部リンパ節転移の治療効果判定にどのモダリティを用いるか?. 第51回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 055 花井信広：第3回頭頸部がんサポート研究会, 2023, (福岡), [閉会挨拶]
- 056 花井信広：エネルギーデバイスの使用法. 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2024, (松山), [教育セミナー]
- 057 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 澤部 倫, 花井信広：鼻副鼻腔癌における18F-フルオロデオキシグルコースの取り込みと上皮成長因子受容体の変異状態との関連. 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2024, (松山), [口演]
- 058 寺田星乃：頭頸部癌診療における超音波診断. 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2024, (松山), [ハンズオンセミナー]
- 059 岸川敏博, 寺田星乃, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広：進行舌癌における対側頸部リンパ節転移予測因子の検討. 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2024, (松山), [口演]
- 060 各務雅基, 萩原純孝, 別府慎太郎, 寺田星乃, 岸川敏博, 西川大輔, 鈴木秀典, 吉澤宏一, 塚本康二, 高成啓介, 花井信広：TruMatch Reconstruction システムを用いた頭頸部癌に対する下顎再建の工夫. 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2024, (松山), [口演]
- 061 角木拓朗, 寺田星乃, 鈴木秀典, 西川大輔, 萩原純孝, 別府慎太郎, 岸川敏博, 吉澤宏一, 各務雅基, 塚本康二, 島袋拓也, 花井信広：当院におけるペムプロリズマブ使用症例の検討. 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2024, (松山), [口演]
- 062 川浦 僚, 小泉麻里子, 角木拓朗, 飯沼亮太, 奥田 弘, 寺澤耕佑, 森 健一, 柴田博史, 大橋敏充, 小川武則：入院中の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）罹患が頭頸部癌治療へ及ぼした影響. 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2024, (松山), [口演]
- 063 西川大輔, 別府慎太郎, 鈴木秀典, 寺田星乃, 岸川敏博, 花井信広：中咽頭癌に対するRotating and Switching techniqueの有効性と安全性. 第16回日本ロボット外科学会学術集会, 2024, (米子), [口演]
- 064 花井信広：「腫瘍内科医に知って欲しい外科治療の進歩」頭頸部がん領域. 第21回日本臨床腫瘍学会, 2024, (名古屋), [シンポジウム]
- 065 花井信広：ICI後の救済化学療法的重要性とHow to. Erbitux HN Web Seminar, 2024, (Web), [座長]
- 066 塚本康二, 西川大輔, 角木拓朗, 島袋拓也, 各務雅基, 吉澤宏一, 岸川敏博, 寺田星乃, 別府慎太郎, 鈴木秀典, 花井信広：初回治療16年後の同部位に発生した横紋筋肉

- 腫の一例. 第40回東海頭頸部腫瘍研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 067 西川大輔: 機能温存を目的とした再発上歯肉癌への頭頸部アルミノックス治療経験. Web講演会「頭頸部アルミノックス治療の歩き方」, (WEB), [講演]
- 068 別府慎太郎, 門脇重憲, 高成啓介, 立花栄二, 岡田 健, 棚橋邦明, 花井信広: 救済頭蓋底手術後局所再発に対し薬物療法が著効し頭蓋底に巨大な空洞を認めた1例. 第39回東海頭蓋底外科研究会, 2024, (名古屋), [口演]

## 形成外科部

- 001 *Takanari K, Nakamura R, Nakakawaji M, Oyama A, Maruyama Y, Okumura S, Hagiwara S, Hanai N*: Maxillary Reconstruction with Two Free Flaps for Defects Involving the Bilateral Maxillae. International session 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023, (Nagasaki), [oral presentation]
- 002 *Nakamura R, Takanari K, Nakakawaji M, Oyama A, Maruyama Y, Okumura S*: Microvascular anastomotic aneurysm after free jejunal transfer: case report. The 15th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, 2023, (Kitakyushu), [oral presentation]
- 003 *Takanari K, Nakamura R, Nakakawaji M, Oyama A, Maruyama Y, Okumura S, Hagiwara S, Hanai N*: Mandible Reconstruction - Our Strategy and Recent Topics -. The 15th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, 2023, (Kitakyushu), [Panel discussion]
- 004 *Nakamura R, Takanari K, Nakakawaji M, Oyama A, Maruyama Y, Okumura S, Hanai N, Hyodo I*: Recipient vein selection for head and neck reconstruction in patient with internal jugular vein resection. 7th World Congress of the International Federation of Head and Neck Societies 2023, 2023, (Rome), [poster]
- 005 *Nakamura R, Takanari K, Nakakawaji M, Oyama A, Maruyama Y, Okumura S, Hanai N, Hyodo I*: Recipient vein selection for head and neck reconstruction in patient with internal jugular vein resection. 12th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery 2023, 2023, (Singapore), [poster]
- 006 *Takanari K, Uchibobri T, Nakamura Y, Nakamura R, Nakakawaji M, Oyama A, Maruyama Y, Okumura S, Kamei Y*: Secondary contralateral DIEP/MS2 VRAM flap transfer for reconstructing facial deformity after VRAM flap reconstruction. 12th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery 2023, 2023, (Singapore), [oral presentation]
- 007 *Nakamura R, Takanari K, Nakakawaji M, Nabetani S, Uchikoshi H, Maruyama Y, Okumura S, Hyodo I*: Comparison of Postoperative Function of Mandibular Reconstruction: a Propensity Score-Overlap Weighted Analysis. PRS KOREA 2023, 2023, (Seoul), [oral presentation]
- 008 *Takanari K, Nakamura R, Nakakawaji M, Oyama A, Maruyama Y, Okumura S, Hagiwara S, Hanai N*: Bilateral Maxillary Reconstruction with Two Free Flaps. PRS KOREA 2023, 2023, (Seoul), [oral presentation]
- 009 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 望月扶美子, 西村聖子, 小沢あゆみ, 須貝潤子: スマートフォンを用いたリンパ浮腫評価に関する検討, 第15回がんのリンパ浮腫研究会, (名古屋), 2023, [一般演題]
- 010 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 別府慎太郎, 花井信広: 遊離空腸移植術後2週間目に血管吻合部仮性動脈瘤が発見された症例. 第39回東海頭頸部腫瘍研究会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 011 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 萩原純孝, 花井信広: 両側上顎を含む欠損に対する2つの遊離皮弁を用いた上顎再建, 第39回東海頭頸部腫瘍研究会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 012 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: 悪性腫瘍切除後無眼球眼窩に対する治療戦略. 第34回日本眼瞼義眼床学会, 2023, (新潟), [シンポジウム]
- 013 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: 当院における頭頸部癌切除後の再建における喉頭挙上術に関する検討. 第46回日本嚥下医学会総会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 014 大山 葵, 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子: 高齢患者の耳下腺全摘・顔面神経合併切除に対する即時神経再建・静的再建の併用. 第78回東海形成外科学会, 2023, (三島), [一般演題]
- 015 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 花井信広, 立花栄二: 欠損部位・組織別の頭蓋底再建法, 第38回東海頭蓋底外科研究会, 2023, (名古屋), [教育講演]
- 016 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: 当院における頭頸部癌切除後の再建における喉頭挙上術に関する検討. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023, (長崎), [一般演題]
- 017 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 大山 葵, 中川路美雲, 高成啓介: 乳房温存乳房切除におけるポリエチレンジェルシートを用いた乳房シーネでの術後乳頭上方変位予防対策. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023, (長崎), [一般演題]
- 018 中川路美雲, 高成啓介, 中村亮太, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: 口腔がん切除再建術後の感染を減少させるための当院の工夫. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023, (長崎), [一般演題]



- 019 大山 葵, 奥村誠子, 丸山陽子, 中川路美雲, 中村亮太, 高成啓介: 乳房1次再建後の局所再発33例の検討. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023, (長崎), [一般演題]
- 020 奥村誠子: 一次乳房再建後の術後慢性疼痛の検討. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023, (長崎), [一般演題]
- 021 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 打越大登, 高成啓介: 乳房温存乳房切除におけるポリエチレンジェルシートを用いた乳房シーネでの術後乳頭上方変位予防対策. 第31回乳癌学会学術集会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 022 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 別府慎太郎, 花井信広: 遊離空腸移植術後17日目に微小血管吻合部に仮性動脈瘤が発見された症例. 第47回日本頭頸部癌学会, 2023, (大阪), [一般演題]
- 023 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 打越大登, 鍋谷峻也, 丸山陽子, 奥村誠子, 花井信広, 立花栄二: 前頭蓋底広範囲切除後の組織欠損に対する治療戦略. 第35回日本頭蓋底外科学会, 2023, (東京), [シンポジウム]
- 024 打越大登, 中村亮太, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介: 内頸静脈部分欠損の修復に用いた大伏在静脈の分枝を移植床血管とした遊離前外側大腿皮弁の経験. 第57回中部形成外科学会学術集会, 2023, (浜松), [一般演題]
- 025 鍋谷峻也, 打越大登, 中村亮太, 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介: 喉頭全摘後の皮弁による再建. 第57回中部形成外科学会学術集会, 2023, (浜松), [一般演題]
- 026 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子, 大山 葵, 高成啓介, 中村亮太: 閉鎖式陰圧ドレーンにおける陰圧差の3群比較検討. 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2023, (東京), [一般演題]
- 027 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 打越大登, 鍋谷峻也, 丸山陽子, 奥村誠子, 萩原純孝, 花井信広: 下顎再建におけるわれわれの治療戦略. 第100回北陸形成外科学会, 2023, (金沢), [特別講演]
- 028 丸山陽子, 奥村誠子, 茂木公佑, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 打越大登, 高成啓介: 乳頭温存乳房切除術におけるポリエチレンジェルシートを用いた乳房シーネでの術後乳頭上方偏位の経時的評価. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [一般演題]
- 029 丸山陽子, 奥村誠子, 茂木公佑, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 打越大登, 高成啓介: 乳癌手術と1次再建時に乳房低形成を呈さない先天性胸筋欠損症が発覚した1例. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [一般演題]
- 030 打越大登, 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 高成啓介: 遊離腹部皮弁による乳房再建後に非結核性皮膚抗酸菌感染症を発症した1例. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [一般演題]
- 031 鍋谷峻也, 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 中川路美雲, 打越大登, 高成啓介: 脂肪注入後による豊胸手術後の乳癌にて一次一期インプラント再建を施行した2例. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [一般演題]
- 032 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子, 大山 葵, 中村亮太, 高成啓介: 1次1期インプラント再建後のmodified star flapによる乳頭再建の形状に関する経時的変化. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [一般演題]
- 033 奥村誠子: インプラントの選択基準—当院における1次1期再建. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [パネルディスカッション]
- 034 奥村誠子: HBOC 保険収載後の変化と再建・手術合併症—人工物再建の問題点 形成外科の立場から—. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [パネルディスカッション]
- 035 奥村誠子: やっぱりアナトミカルが好き. 第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2023, (茨城), [パネルディスカッション]
- 036 茂木公佑, 打越大登, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 中村亮太, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介: 頬粘膜癌切除後の再建術式の検討. 第79回東海形成外科学会, 2023, (三島), [一般演題]
- 037 中川路美雲, 高成啓介, 打越大登, 鍋谷峻也, 茂木公佑, 丸山陽子, 奥村誠子: 下顎区域切除再建術後の顎関節脱臼のリスク因子に関する検討. 第41回日本頭蓋顎顔面外科学会総会学術集会, 2023, (淡路), [一般演題]
- 038 高成啓介, 中川路美雲, 打越大登, 鍋谷峻也, 茂木公佑, 丸山陽子, 奥村誠子, 萩原純孝, 花井信広: TRUMATCH Reconstruction systemを用いた下顎再建シミュレーションにおける骨配置の検討 (ACCアルゴリズムについて). 第41回日本頭蓋顎顔面外科学会総会学術集会, 2023, (淡路), [一般演題]
- 039 打越大登, 中村亮太, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介: 内頸静脈部分欠損の修復に用いた大伏在静脈の分枝を移植床血管とした遊離前外側大腿皮弁の経験. 第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 040 茂木公佑, 打越大登, 中川路美雲, 鍋谷峻也, 中村亮太, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介: 頬粘膜癌切除後の再建術式の検討. 第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 041 鍋谷峻也, 打越大登, 中村亮太, 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介: 骨盤内臓全摘術後の有茎前外側大腿皮弁による再建. 第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 042 中村亮太, 高成啓介, 打越大登, 鍋谷峻也, 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 逆確立重みづけ法を用いた下顎再建における再建皮弁による術後機能の検討. 第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2023, (名古屋), [一般演題]

043 奥村誠子：乳房再建でのエネルギーデバイスを用いた穿通枝皮弁の血管周囲操作—LigaSureTM Exact と HARMONIC FOCUS. 第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2023, (名古屋), [一般演題]

## 呼吸器外科部

- 001 坂倉範昭：愛知県がんセンター呼吸器外科部における手術アプローチの数々—低侵襲手術から拡大手術まで. 御茶ノ水胸部外科手術手技セミナー, 2023, (東京), [特別講演]
- 002 坂倉範昭, 瀬戸克年, 鈴木あゆみ, 篠原周一, 高橋祐介, 黒田浩章：開胸法のベーシックとアドバンス—視野と侵襲のバランスと工夫. 第40回日本呼吸器外科学会, 2023, (新潟), [シンポジウム]
- 003 坂倉範昭：肺癌に対する区域切除術標準化のためにすべきこと. 第76回日本胸部外科学会定期学術集会, 2023, (仙台), [ランチョンセミナー]
- 004 坂倉範昭：愛知県がんセンター呼吸器外科部における縦隔腫瘍手術アプローチの数々. 第43回胸腺研究会, 2023, (京都), [特別講演セミナー]
- 005 瀬戸克年, 真砂勝泰, 高橋祐介, 坂倉範昭：間質性肺炎合併肺癌の周術期管理. 第45回日本呼吸療法医学会学術集会, 2023, (愛知), [シンポジウム]
- 006 瀬戸克年, 岩清水寿徳, 則竹 統, 松井琢哉, 坂倉範昭：超低肺機能患者 肺底部結節に対する部分切除の経験. 2023 Tokai Thoracic Academy, 2023, (web), [一般演題]
- 007 瀬戸克年, 岩清水寿徳, 則竹 統, 松井琢哉, 坂倉範昭：脈管侵襲を介する中枢進展を示した末梢型小型肺腺癌の一切除例. 第124回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2024, (愛知), [一般演題]
- 008 松井琢哉, 松下博和, 山口 類, 篠原周一, 杉田裕介, 鈴木あゆみ, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章, 高野崇継, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕：ヒト白血球型抗原 (Human Leukocyte Antigen) 遺伝子解析を用いた非小細胞肺癌の術後再発予測. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [一般講演]
- 009 松井琢哉, 高橋祐介, 篠原周一, 鈴木あゆみ, 瀬戸克年, 坂倉範昭, 高野崇継, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕, 黒田浩章：臨床病期 IA 期非小細胞肺癌への肺区域切除術 腫瘍局在による治療成績への影響. 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2023, (東京), [一般講演]
- 010 松井琢哉, 高橋祐介, 瀬戸克年, 坂倉範昭, 高野崇継, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕, 黒田浩章：非小細胞肺癌の局在が肺区域切除術へ及ぼす影響 傾向スコアマッチング解析による評価. 第40回日本呼吸器外科学会学術集会, 2023, (新潟), [一般講演]
- 011 松井琢哉, 高橋祐介, 篠原周一, 鈴木あゆみ, 瀬戸克年, 坂倉範昭, 高野崇継, 千馬謙亮, 中村龍二, 小田梨紗,

立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕, 黒田浩章：肺実質深部に位置する臨床病期 IA 期非小細胞肺癌に対する肺区域切除術の治療成績. 第76回日本胸部外科学会定期学術集会, 2023, (仙台), [ポスター]

- 012 松井琢哉, 瀬戸克年, 坂倉範昭, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕, 黒田浩章：肺実質深部に位置し CTR が 0.5 を超える臨床病期 IA 期非小細胞肺癌への区域切除術. 第36回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [一般講演]
- 013 松井琢哉, 岩清水寿徳, 則竹 統, 瀬戸克年, 坂倉範昭, 福嶋恭啓, 小笠原仁子, 岡村文子, 村岡大輔, 松下博和, 山口 類, 高野崇継, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕：HLA 遺伝子解析とネオ抗原予測による非小細胞肺癌の再発リスク評価. 第124回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2024, (愛知), [一般講演]
- 014 岩清水寿徳, 瀬戸克年, 松井琢哉, 則竹 統, 坂倉範昭：術前に肺肉腫との鑑別に苦慮した右肺下葉原発炎症性筋線維芽細胞腫瘍の1切除例. 第124回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2024, (愛知), [口演]

## 乳腺科部

- 001 Terata K, Sagara Y, Shien T, Sakai T, Takayama S, Kitagawa D, Iwatani T, Tsukioki T, Ogit Ma, Sanuki N, Yoshida M, Tsuda H, Yamamoto S, Iwata H：Tailored axillary surgery (TAS) in patients with clinically node-positive breast cancer in the upfront surgery setting: A prospective, single-arm, multicenter trial. 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [poster]
- 002 Campone M, Ma C X, Laurentiis M, Iwata H, Hurvitz S A, Wander S A, Danso M A, Lu D R, Smith J P, Liu Y, Tran L, Anderson S, Hamilton E P：VERITAC-2: A global, randomized phase 3 study of ARV-471, a proteolysis targeting chimera (PROTAC) estrogen receptor (ER) degrader, vs fulvestrant in ER+/human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)- advanced breast cancer. 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [poster]
- 003 Iwata H, Niikura N, Sueki H, Aruga T, Mukohara T, Kobayashi K, Yasojima H, Nakayama T, Toyama T, Ishida T, Yamashita T, Takahashi M, Fujii T, El-Hashimy M, Miller M K, Kurihara R：EPIK-B6: A phase 2, open-label, 2-part, multicenter study of alpelisib in combination with fulvestrant for men and postmenopausal women with PIK3CA mutation HR-positive, HER2-negative, advanced breast cancer, which progressed on/after aromatase inhibitor treatment in Japan. 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [poster]
- 004 Krop I E, Wildiers H, Hurvitz S A, Cortes J, Im S,

- Iwata H, Andre F, Saura C, Modi S, Kim S, Egorov A, Mathias E, Cathcart J, Cagnazzo A, Cheng Y, Park Y H* : An age-specific pooled analysis of trastuzumab deruxtecan (T-DXd) in patients (pts) with HER2-positive (HER2+) metastatic breast cancer (mBC) from DESTINY-Breast01, -02, and -03. 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [oral]
- 005 *Shien T, Hara F, Aogi K, Yanagita Y, Tsuneizumi M, Yamamoto N, Matsumoto H, Suto A, Watanabe K, Harao M, Kanbayashi C, Ito M, Kadoya T, Anan K, Maeda S, Sasaki K, Ogawa G, Fukuda H, Iwata H* : A randomized controlled trial comparing primary tumor resection plus systemic therapy with systemic therapy alone in metastatic breast cancer (PRIM-BC): Japan Clinical Oncology Group study JCOG1017. 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [poster discussion]
- 006 *Takahashi Y, Sasada S, Kondo N, Hashimoto H, Terata K, Sagara Y, Naito Y, Kida K, Ueno T, Anan K, Suto A, Kanbayashi C, Takahashi M, Nakamura R, Ishiba T, Tsuneizumi M, Nishimura S, Hara F, Shien T, Iwata H* : Prognostic impact of adjuvant endocrine therapy for estrogen receptor-positive and HER2-negative T1a/bN0M0 breast cancer. 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [poster]
- 007 *Yamamoto Y, Iwata H, Takahashi M, Yoshinami T, Ueno T, Toyama T, Yamanaka T, Takano T, Kashiwaba M, Tsugawa K, Hasegawa Y, Tamura K, Tada H, Hara F, Taira N, Saji S, Morita S, Toi M, Ohno S, Masuda N* : Pertuzumab retreatment in patients with HER2-positive locally advanced/metastatic breast cancer: Overall survival results of a phase III randomized trial (JBCRG-M05: PRECIOUS). 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [poster discussion]
- 008 *Rugo H S, Oliveira M, Howell S J, Dalenc F, Cortes J, Gomez H L, Hu X, Iwata H, Jhaveri K L, Loibl S, Murillo S M, Okera M, Park Y H, Sohn J, Zhukova L, Logan J, Twomey K, Khatun M, D'Cruz C M, Turner N C* : Capivasertib (C) and fulvestrant (F) for patients (pts) with aromatase inhibitor (AI)-resistant HR+/HER2- advanced breast cancer (ABC): Characterization and management of common adverse events (AEs) from the phase 3 CAPItello-291 trial. 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [oral]
- 009 *Iwata H, Naito Y, Hattori M, Yoshimura A, Yonemori K, Aizawa M, Mori Y, Yoshimitsu J, Umeyama Y, Mukohara T* : Safety and pharmacokinetics (PK) of vepdegestrant in Japanese patients with estrogen receptor (ER)+/human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)- advanced breast cancer: Results from a Japanese phase I study. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [poster]
- 010 *Iwata H, Hamilton E.P., Ma C.X., M. Laurentiis D, Hurvitz S.A., Wander S.A., Danso M.A., Lu D.R., Perkins J, Liu Y, Tran L, Anderson S, Chappey C, Yang D.Z., Campone M* : Global phase III studies evaluating vepdegestrant in estrogen receptor (ER)+/human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)-advanced breast cancer: VERITAC-2 and VERITAC-3. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [poster]
- 011 *Modi S, Jacot W, Iwata H, Park Y.H., Losada M.J. V, Li W, Tsurutani J, Zaman K, Ueno N.T., Prat A, Papazisis K, Rugo H.S., Harbeck N, Im S, Laurentiis M.D, Orbegoso C.M.A., Yung L, Cheng F, Cheng Y, Cameron D.A.* : Trastuzumab deruxtecan (T-DXd) versus treatment of physician's choice (TPC) in patients (pts) with HER2-low unresectable and/or metastatic breast cancer (mBC): Updated survival results of the randomized, phase III DESTINY-Breast04 study. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [oral]
- 012 *Iwata H* : New algorithm for HER2 positive mBC obtained complete clinical response (cCR). ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [oral educational]
- 013 *Hamilton E, Ma C.X., Laurentiis M.D, Iwata H, Hurvitz S.A., Wander S.A., Danso M.A., Lu D.R., Perkins J, Liu Y, Tran L, Anderson S, Campone M* : VERITAC-2: a global, randomized phase 3 study of ARV-471, a PROteolysis TArgeting Chimera (PROTAC) estrogen receptor (ER) degrader, vs fulvestrant in ER+/human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)- advanced breast cancer. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [poster]
- 014 *Kotani H, Kureyama N, Kusudo M, Komaki R, Nakakami A, Endo Y, Kataoka A, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H* : Survey of Questionnaires on the Efficacy and Cost of Scalp Cooling Devices in Breast Cancer Patients. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2023, (San Antonio), [poster]
- 015 *Hattori M, Lee V.S., Naito Y, Yamanaka T, Yasojima H, Nakamura R, Fujisawa T, Imai M, Nakamura Y, Bando H, Kawaguchi T, Yoshino T, Iwata H* : Circulating tumor DNA mutation landscape in HR+/HER2 patients with mBC treated with cyclin-dependent kinase 4/6 inhibitors in the SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN study. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2023, (San Antonio), [poster]
- 016 *Kureyama N, Kusudo M, Nakakami A, Komaki R, Endo Y, Nozawa K, Kataoka A, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H* : The comparison of HER2-low and HER2 0 in ductal carcinoma in situ (DCIS) for breast cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2023, (San Antonio), [poster]

- 017 澤木正孝：Current treatments, perspectives, management of cardiovascular disease, needs for cardio-oncology team support and future guideline in women with Breast Cancer. 第88回日本循環器学会学術集会, 2024, (神戸), [口演]
- 018 吉村章代, 岩田広治, *Hurvitz SA, Hegg R, Chung W-P, Im S-A, Jacot W, Ganju V, Wing J, Chiu Y, Xu B, Hamilton E, Madhusudan S, Altintas S, Henning J-W, Curigliano G, Manuel J, Garcia P, Egorov A, Liu Y, Cathcart J, Ashfaq S, Cortés J*：HER2陽性転移再発乳癌患者を対象としたDESTINY-Breast03試験：第2回OS中間解析. 第31回日本乳癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 019 澤木正孝, 柴田雅央：心機能疾患の合併のあるHER2陽性乳がん患者に対してトラスツズマブおよびベルツズマブの投与は推奨されるか. 第88回日本循環器学会学術集会, 2024, (神戸), [口演]
- 020 澤木正孝, 岩田広治, 能澤一樹, 服部正也, 吉村章代, 小谷はるる, 片岡愛弓, 遠藤由香, 尾崎友理, 磯谷彩夏, 小牧里恵, 中神 光：大規模診療データベースを用いた進行再発乳がんにおける薬剤のリアルワールドデータ研究と展望. 第31回日本乳癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 021 服部正也, 遠藤由香, 小谷はるる, 佐々木英一, 澤木正孝, 吉村章代, 片岡愛弓, 能澤一樹, 中神 光, 小牧里恵, 細田和貴, 岩田広治：術前化学療法を行う臨床的リンパ節転移陽性のHER2陽性およびトリプルネガティブ乳癌における腋窩リンパ節転移消失の予測とその予後. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 022 服部正也：術前化学療法が奏効した広範な石灰化を有するHER2 type乳癌に対して乳房手術のDe-escalationは可能か？—「可能」の立場から—. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 023 服部正也：HER2陰性乳癌の周術期薬物療法. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 024 片岡愛弓, 小牧里恵, 中神 光, 磯谷彩夏, 遠藤由香, 尾崎友理, 能澤一樹, 小谷はるる, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 市川眞琴, 高磯伸枝, 井本逸勢, 岩田広治：HBOC診断に対するBRACAanalysis提案後の検査実施状況に関する検討. 第31回日本乳癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 025 小牧里恵, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 小谷はるる, 片岡愛弓, 能澤一樹, 遠藤由香, 磯谷彩夏, 中神 光, 岩田広治：術前化学療法施行後の乳房温存手術に対して切除範囲決定方法の検討. 第31回日本乳癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 026 遠藤由香, 小谷はるる, 田村宜子, 田中希世, 工藤千穂, 中神 光, 小牧里恵, 磯谷彩夏, 尾崎友理, 能澤一樹, 片岡愛弓, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 細田和貴, 川端英孝, 岩田広治：ガイドラインマーカーシステムを使用した標的腋窩リンパ節切除の安全性と有用性を検討する臨床試験. 第31回日本乳癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 027 遠藤由香, 小谷はるる, 服部正也, 楠戸真帆, 呉山菜梨, 小牧里恵, 中神 光, 能澤一樹, 片岡愛弓, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治：Targeted axillary dissection 施行時に標的腋窩リンパ節の同定に苦慮した1例. 第20回日本乳癌学会中部地方会, 2023, (甲府), [録音音声入りスライド]
- 028 中神 光, 澤木正孝, 小牧里恵, 磯谷彩夏, 遠藤由香, 能澤一樹, 尾崎友理, 片岡愛弓, 小谷はるる, 吉村章代, 服部正也, 岩田広治：ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌の術後局所再発に対する根治的手術症例の検討. 第20回日本乳癌学会中部地方会, 2023, (甲府), [ポスター]
- 029 中神 光, 片岡愛弓, 澤木正孝, 楠戸真帆, 呉山菜梨, 小牧里恵, 遠藤由香, 能澤一樹, 小谷はるる, 吉村章代, 服部正也, 岩田広治：再発乳癌治療中にembryonal sarcomaを合併したLi-Fraumeni要項軍の一例. 第20回日本乳癌学会中部地方会, 2023, (甲府), [ビデオ]
- 030 呉山菜梨, 寺田満雄, 楠戸真帆, 能澤一樹, 鰐淵友美, 浅野倫子, 久田知可, 加藤明子, 森万希子, 堀澤七恵, 遠山竜也：Twitter APIを用いたSNS上のがん情報のファクトチェック. 第31回日本乳癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]

## 消化器外科部

- 001 *Shinozuka T, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y*：D2 lymph node dissection confers little benefit on the overall survival of older patients with resectable gastric cancer: a propensity score-matching analysis of a multi-institutional dataset. IGCC2023, 2023, (横浜), [オーラル]
- 002 *Ishigami H, Omori T, Kodera Y, Yabusaki H, Fukagawa T, Imano M, Ito S, Tomita T, Yamaguchi H, Kitayama J*：Combined intraperitoneal and systemic chemotherapy for gastric cancer with peritoneal metastasis. IGCC2023, 2023, (横浜), [オーラル]
- 003 *Natsume S, Shimizu Y, Asano T, Okuno M*：Comparison of remnant pancreatic function after pancreatoduodenectomy between invagination and duct-to-mucosa pancreaticojejunostomy. 第35回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2023, (東京), [ミニシンポジウム]
- 004 *Okuno M, Shimizu Y, Natsume S, Asano T, Nagino M*：Outcomes of hepatopancreatoduodenectomy pursuing speed with quality. 第35回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2023, (東京), [Next Generation Program]
- 005 *Asano T, Natsume S, Okuno M, Shimizu Y*：Does neoadjuvant chemotherapy improve early recurrence of resectable pancreatic cancer?. 第35回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2023, (東京), [ポスター]

- 006 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 沖 哲, 有竹 典, 多和田 翔, 赤座 賢, 清水泰博: 直腸癌術後局所再発の頻回手術の短期成績と人工肛門状態についての検討. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [ミニオーラル]
- 007 羽場 真, 原 和生, 清水泰博: 睪癌早期診断を目指した新規治療方針—腫瘍を伴わない睪体尾部主睪管狭窄症患者に対する腹腔鏡下睪体尾部切除術—. 第109回日本消化器病学会総会, 2023, (長崎), [パネルディスカッション]
- 008 小森康司, 山田一隆, 味岡洋一, 杉原健一: 肛門管扁平上皮癌における側方郭清の意義. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [デジタルポスター]
- 009 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 局所進行食道癌に対するロボット支援下食道切除術の手術手技の工夫. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 010 夏目誠治, 清水泰博, 奥野正隆, 浅野智成, 小森康司, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶: 自施設での研究に応用可能なNCD対応データベースの構築. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [サージカルフォーラム]
- 011 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 多和田 翔, 有竹 典, 清水泰博: 切除可能睪癌に対する術前化学療法の現状と短期治療成績. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [デジタルポスター]
- 012 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 柳野正人, 清水泰博: 低侵襲食道切除術における硬膜外麻酔の周術期疼痛コントロールと短期成績への有用性. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [サージカルフォーラム]
- 013 大内 晶, 金光幸秀, 佐立 峻, 濱口弥弥, 塚本俊輔, 島田安博, 猪股雅史, 瀧井康公, 小森康司, 塩見明生, 塩澤 学, 大植雅之, 渡邊 純, 伊藤雅昭, 川島吉之, 小島誉也, 早田浩明, 斉田芳久, 橋本直佳, 佐野裕亮: Stage II/III 大腸癌の sidedness が予後に与える影響: JCOG0205, JCOG0404, JCOG0910, JCOG1006 の統合解析研究 (JCOG2003A). 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 014 赤座 賢, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 80歳以上の高齢者に対する胸腔鏡下食道亜全摘術で留意すべき合併症, 及び得られる予後の解析. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [サージカルフォーラム]
- 015 長尾拓哉, 横山幸浩, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 清水泰博: 術前便中有機酸濃度と食道切除術後合併症の検討. 第123回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [サージカルフォーラム]
- 016 清水泰博: 司会. 第77回手術手技研究会, 2023, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 017 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 清水泰博: 食道癌手術のCutting edge ロボット支援下食道切除術による微細解剖を意識した縦隔リンパ節郭清術. 第77回手術手技研究会, 2023, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 018 三澤一成: 司会. 第77回手術手技研究会, 2023, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 019 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 沖 哲, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下・ロボット支援下胃全摘術におけるCircular staplerを用いた食道空腸吻合再建の手術と短期成績. 第77回手術手技研究会, 2023, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 020 木下敬史: 司会. 第77回手術手技研究会, 2023, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 021 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 清水泰博: 右側結腸癌に対する腹腔鏡下CME+D3郭清. 第77回手術手技研究会, 2023, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 022 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 清水泰博: 胸腔鏡下食道亜全摘術における腹腔鏡補助下胃管作成の工夫と有用性. 第77回手術手技研究会, 2023, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 023 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 清水泰博: 胸部食道癌根治術において左反回神経麻痺を来さない106recL郭清心得: 反回神経気管枝処理の重要性. 第66回関西胸部外科学会学術集会, 2023, (大阪), [ビデオセッション]
- 024 成田 潔, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 清水泰博: 切除可能進行食道癌に対しNAC施行後, 根治的放射線療法へ移行した症例の予後解析. 第66回関西胸部外科学会学術集会, 2023, (大阪), [一般演題]
- 025 小森康司, 田中 努, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術後における経回腸導管的逆行性内視鏡による尿管ステント挿入の活用について. 第32回骨盤外科機能温存研究会, 2023, (東京), [セッション]
- 026 安部哲也: 司会. 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [一般演題]
- 027 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫: 局所進行切除不能食道癌に対するロボット支援下Conversion食道切除術の成績. 第77回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [ビデオセッション]

- デオシンポジウム]
- 028 檜垣榮治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 清水泰博: 進行食道癌に対し術前 DCF 療法後に根治的食道切除を受けた患者の術後補助療法の適応. 第 77 回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [パネルディスカッション]
- 029 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣榮治, 清水泰博: 頸胸境界部食道癌におけるリンパ節転移状況と郭清効果による郭清至適範囲の検討. 第 77 回日本食道学会学術集会, 2023, (大阪), [要望演題]
- 030 清水泰博: 司会. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2023, (東京), [Requested Oral]
- 031 赤座 賢, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 花澤隆明: 集学的治療時代における大腸癌大動脈周囲リンパ節転移に対する外科切除の意義. 第 99 回大腸癌研究会学術集会, 2023, (兵庫), [口演]
- 032 清水泰博: 司会. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [教育講演]
- 033 伊藤誠二: 座長. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [要望演題]
- 034 小森康司: 司会. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [ワークショップ]
- 035 Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Shimizu Y: 血管合併切除を伴った骨盤内手術の要点とトラブルシューティング. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [ビデオシンポジウム]
- 036 安部哲也, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 遠隔転移を伴う切除不能進行食道癌に対するコンバージョン手術の治療成績. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [パネルディスカッション]
- 037 三澤一成: 最善の低侵襲手術を行うための Know-How. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [ランチョンセミナー]
- 038 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 浅野智成, 檜垣榮治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下噴門側胃切除術, 空腸間置/ダブルトラクト再建の手技と短期成績. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [主題関連演題]
- 039 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 浅野智成, 檜垣榮治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: CY1 胃癌切除症例の治療成績. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [要望演題]
- 040 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対するロボット支援下側方リンパ節郭清 LD3. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [一般演題]
- 041 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: 切除不能膀胱癌に対する conversion surgery 化学療法超奏功例と比較しても手術は予後を延長するか?. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [主題関連演題]
- 042 檜垣榮治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: Failure to rescue を回避するための食道癌根治術の周術期管理チームの構築. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [ワークショップ]
- 043 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 清水泰博: 切除可能膀胱癌に対する術前化学療法による治療成績の検討. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [ワークショップ]
- 044 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: IPMN に対する膵中央切除術の検証. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [一般演題 ミニオーラル]
- 045 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣榮治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 食道胃接合部腺癌における術前補助化学療法の選択. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [ワークショップ]
- 046 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 合併症を回避する一時的回腸人工肛門造設・閉鎖の工夫. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [要望演題ビデオ]
- 047 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 切除不能転移を有する直腸癌に対する緩和手術の検討: 切除かストマカ?. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [ワークショップ]
- 048 斎藤悠文, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 陥入膵腸吻合術後の残膵機能 粘膜吻合法との比較. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [一般演題]
- 049 成田 潔, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 大腸癌同時性肝転移に対する watchful waiting 中の肝転移個数変化. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [一般演題]
- 050 赤座 賢, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 肥満患者に対する腹腔鏡下直腸切除術における手技の工夫及び短期成績. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [一般演題]
- 051 多和田 翔, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一: 膵頭部癌における膵断端迅速病理診断に基づいた追加切除の治療成績の検討. 第 78 回日本消化器外科学会, 2023, (函館), [一般演題]
- 052 清水泰博: 司会. 第 23 回臨床消化器病研究会, 2023, (東京), [一般演題]
- 053 斎藤悠文, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 小森康司,

- 安部哲也, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 赤座 賢, 成田 潔, 北原拓哉, 花澤隆明, 小塩英典, 清水泰博: 胃癌として治療されていた乳癌腹膜播種の1例. 第60回愛知臨床外科学会, 2023, (愛知), [一般演題]
- 054 花澤隆明, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 藤田泰子, 清水泰博: 13歳で発症した横行結腸癌の1例. 第60回愛知臨床外科学会, 2023, (愛知), [一般演題]
- 055 清水泰博: 司会. 第54回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [一般演題 ポスター]
- 056 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 奥野正隆: 術後残膵機能 陥入膵腸吻合法と粘膜吻合法の比較. 第54回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [一般演題 口演]
- 057 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 田口 歩, 細田和貴, 原 和生, 清水泰博: 当院の肝胆膵領域における臨床と病理の連携. 第54回日本膵臓学会大会, 2023, (福岡), [パネルディスカッション]
- 058 大野真奈, 申 忱, RothHolger R, 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 血管強調画像を用いた腹部CT像からの多臓器領域抽出. 第42回日本医用画像工学会大会 (JAMIT 2023), 2023, (大阪), [一般演題]
- 059 中山晃平, 大野真奈, 申 忱, 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, Ben Glocker, Daniel Rueckert, 森 健策: 腹部CT画像からの複数臓器抽出におけるCutMixの有用性の検討. 第42回日本医用画像工学会大会 (JAMIT 2023), 2023, (大阪), [一般演題]
- 060 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: ラベル平滑化を用いた腹腔鏡映像からの手術箇所認識に関する検討. 第42回日本医用画像工学会大会 (JAMIT 2023), 2023, (大阪), [一般演題]
- 061 ZHAOXINKAI, 林 雄一郎, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: Multi-step Fine-tuning for Tracking Invisible Vein during Laparoscopic Surgery. 第42回日本医用画像工学会大会 (JAMIT 2023), 2023, (大阪), [一般演題]
- 062 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 胃SMTに対する単孔式胃内手術. 第15回単孔式内視鏡手術研究会, 2023, (福岡), [主題関連]
- 063 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成: 膵中央切除術の治療成績: 脾温存膵体尾部切除との比較. 第50回日本膵切研究会, 2023, (東京), [要望演題]
- 064 清水泰博: 座長. 第59回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 065 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 奥野正隆: 膵頭十二指腸切除後の胆管炎と胆管空腸吻合部狭窄予防に対して, 胆管径に応じた吻合法の選択は有効か?. 第59回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 066 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博: 集学的治療を施行した肝門部領域胆管原発神経内分泌腫瘍の1例. 第59回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 067 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成: 責任胆管への透視下穿刺・エタノール注入により治癒し得た難治性胆汁漏の1例. 第59回日本胆道学会学術集会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 068 清水泰博: 座長. 第77回日本消化器画像診断研究会, 2023, (東京), [口演]
- 069 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博: Biological BR 膵癌の治療成績. 第17回膵癌術前治療研究会, 2023, (富山), [一般演題 (ポスター)]
- 070 安部哲也: 座長. 第27回日本外科病理学会学術集会, 2023, (三重), [一般演題]
- 071 成田 潔, 奥野正隆, 夏目誠治, 浅野智成, 福宜田真史, 原 和生, 奥野のぞみ, 細田和貴, 清水泰博: 副乳頭に発生した腺房細胞癌の1例. 第27回日本外科病理学会学術集会, 2023, (三重), [一般演題]
- 072 小塩英典, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 術後DCF療法後に行った胸部食道扁平上皮癌の組織学的効果判定からみた予後解析. 第27回日本外科病理学会学術集会, 2023, (三重), [シンポジウム]
- 073 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 赤座 賢, 清水泰博: 直腸癌術後頻回局所再発に対する手術療法の長期成績について. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [一般口演]
- 074 森 治樹, 磯村久徳, 周 爽, 梶野泰祐, 木下敬史, 夏目誠治, 佐藤雄介, 大内 晶, 三宅 亨, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷 真至, 田口 歩: 大腸がん転移におけるアクチン結合タンパク質 Advillin の同定と機能解析. 第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [一般口演]
- 075 安部哲也: 胸部食道癌術後の残食道癌, 局所再発, 遠隔再発に対する手術. 第76回日本胸部外科学会定期学術集会, 2023, (仙台), [Postgraduate Course]
- 076 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 清水泰博: 根治的化学放射線療法後のサルベージ食道切除術における縦隔リンパ節郭清の安全性. 第76回日本胸部外科学会定期学術集会, 2023, (仙台), [ディベート]
- 077 安部哲也: 局所進行食道癌に対する胸腔鏡手術. 第85回手術手技懇話会, 2023, (大阪), [一般演題]
- 078 伊藤誠二: 司会. JDDW, 2023, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 079 小森康司: 司会. JDDW, 2023, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 080 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 沖 哲, 有竹 典, 多和田 翔, 赤座 賢, 斎藤悠文, 成田 潔, 清水泰博:

- 直腸癌術後における頻回局所再発に対する頻回手術の検討. JDDW, 2023, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 081 大内 晶, 小森康司, 清水泰博: 直腸癌外科治療の gender difference. JDDW, 2023, (神戸), [口演]
- 082 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 膈頭部領域疾患術前例に対する primary EUS-HGS の可能性. 第 61 回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2023), 2023, (神戸), [パネルディスカッション]
- 083 伊藤誠二: 司会. 第 53 回胃外科・術後障害研究会, 2023, (東京), [一般演題]
- 084 小森康司: 座長. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2023, (熊本), [要望演題]
- 085 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 赤座 賢, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 斎藤悠文, 成田 潔, 清水泰博: 頻回の直腸癌術後局所再発に対する手術療法の予後について. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2023, (熊本), [一般演題 口演]
- 086 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対するロボット支援下側方リンパ節郭清. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2023, (熊本), [要望演題]
- 087 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 赤座 賢, 花澤隆明: 高齢者に対する結腸右半切除の短期長期成績. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2023, (熊本), [要望演題]
- 088 大内 晶, 岩堀祐介, 鈴木康介, 舟橋健司, 福井真二, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 清水泰博: 超解像と 3 次元形状化による直腸癌リンパ節転移診断能向上の試み. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2023, (熊本), [ワークショップ]
- 089 赤座 賢, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 花澤隆明: 集学的治療時代における大腸癌大動脈周囲リンパ節転移に対する外科切除の意義. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2023, (熊本), [一般演題 口演]
- 090 小森康司, 小林宏寿, 固武健二郎, 味岡洋一, 杉原健一: 大腸癌治療切除術施行症例における術中腹腔洗浄細胞診の有用性に関する多施設共同前向き研究 - 施設間における細胞診陽性率の検討. 第 85 回日本臨床外科学会総会, 2023, (岡山), [特別演題]
- 091 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 食道癌根治切除術後, 限局した局所再発, 遠隔再発病変に対する手術療法の意義. 第 85 回日本臨床外科学会総会, 2023, (岡山), [パネルディスカッション]
- 092 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対するロボット支援下側方リンパ節郭清 LD3. 第 85 回日本臨床外科学会総会, 2023, (岡山), [ビデオパネルディスカッション]
- 093 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 術前治療後に食道切除を受けた食道癌患者に対し術後補助 Nivolumab 療法は有効か. 第 85 回日本臨床外科学会総会, 2023, (岡山), [ワークショップ]
- 094 大内 晶, 高見澤康之, 佐藤雄介, 森谷弘乃介, 木下敬史, 塚本俊輔, 小森康司, 清水泰博, 金光幸秀: T2 下部直腸癌における側方リンパ節転移の実際: Is TME alone sufficient?. 第 85 回日本臨床外科学会総会, 2023, (岡山), [シンポジウム]
- 095 北原拓哉, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 清水泰博: 食道癌根治術後早期に発症する肺炎に対する抗菌薬は何を選択すべきか. 第 85 回日本臨床外科学会総会, 2023, (岡山), [ワークショップ]
- 096 三澤一成: 座長. 第 32 回日本コンピューター外科学会大会, 2023, (鹿児島), [一般演題]
- 097 安部哲也: 司会. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [ミニオーラル]
- 098 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 木下敬史, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 進行切除不能食道癌に対する Conversion Surgery における胸腔鏡下食道切除術の短期成績及び長期成績. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [一般演題 (口演)]
- 099 三澤一成: 司会. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [一般演題 (口演)]
- 100 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 右側結腸癌に対する腹腔鏡下右半結腸切除術 D3 郭清. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [パネルディスカッション]
- 101 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 胸腔鏡下食道切除において 106recL 郭清時に左反回神経気管枝を意識することの重要性. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [ワークショップ]
- 102 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: ロボット支援下食道切除術のセッティングにおける当院での工夫. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [ミニオーラル]
- 103 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 直腸癌に対



- するロボット支援下側方リンパ節郭清の短期成績. 第36回日本内視鏡外科学会総会, 2023, (横浜), [一般演題(口演)]
- 104 榎垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 伊東直哉, 清水泰博: 根治的食道癌切除後の気道内細菌叢が長期予後に与える影響. 第36回日本外科感染症学会総会, 2023, (福岡), [パネルディスカッション]
- 105 禰宜田真史, 木下敬史, 赤座 賢, 大内 晶, 佐藤雄介, 小森康司, 清水泰博: 術前診断が困難であった後腹膜成熟奇形種の1切除例. 第7回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2023, (名古屋), [ポスター]
- 106 花澤隆明, 安部哲也, 榎垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 慢性特発性偽性腸閉塞症患者の食道癌に対する胸腔鏡下食道切除の1例. 第61回愛知臨床外科学会, 2023, (名古屋), [口演]
- 107 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 清水泰博: 進行右側結腸癌に対するリンパ節郭清範囲. 第100回大腸癌研究会学術集会, 2023, (東京), [示説]
- 108 大内 晶, 塚本俊輔, 森谷弘乃介, 小森康司, 塩澤 学, 安井昌義, 大植雅之, 野上 仁, 瀧井康公, 金光幸秀: 右側結腸癌のリンパ節転移パターンの検討: 多施設共同前向き観察研究. 第100回大腸癌研究会学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 109 小森康司: 司会. 第60回日本腹部救急医学会総会, 2023, (福岡), [一般演題]
- 110 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 榎垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 赤座 賢, 斎藤悠文, 成田 潔, 清水泰博: 当院で経験した人工肛門脱出の修復術. 第60回日本腹部救急医学会総会, 2023, (福岡), [主題関連]
- 111 花澤隆明, 安部哲也, 榎垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 食道癌胸腔鏡下食道切除術後の縦隔リンパ節再発に対し胸腔鏡を用いて再切除した6例. 第27回愛知内視鏡外科学会, 2023, (名古屋), [口演]
- 112 清水泰博: 座長. 第56回制癌剤適応研究会, 2023, (岐阜), [一般口演]
- 113 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 榎垣栄治, 藤枝裕倫, 清水泰博: Biological BR 腺癌切除例に対する術前化学療法の意義. 第56回制癌剤適応研究会, 2023, (岐阜), [シンポジウム]
- 114 伊藤誠二: 座長. 第96回日本胃癌学会総会, 2023, (京都), [一般口演]
- 115 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 実臨床におけるドセタキセル+S-1補助化学療法の治療継続に関与する因子. 第96回日本胃癌学会総会, 2023, (京都), [ワークショップ]
- 116 三澤一成, 斎藤悠文, 伊藤友一, 伊藤誠二, 木下敬史, 清水泰博: 腹腔鏡下/ロボット支援噴門側胃切除術, 空腸間置/ダブルトラクト再建の手法と成績. 第96回日本胃癌学会総会, 2023, (京都), [一般ビデオ]
- 117 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 清水泰博: ロボット支援胃全摘・噴門側胃切除術におけるCircular Staplerを用いた食道空腸吻合再建. 第96回日本胃癌学会総会, 2023, (京都), [一般口演]
- 118 禰宜田真史, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 清水泰博: ロボット支援胃切除術におけるポリプロピレン糸を用いた肝圧排法Subphrenic Pulley (SP)法. 第96回日本胃癌学会総会, 2023, (京都), [一般口演]

## 整形外科部

- 001 *Tsukushi S*: Short-term clinical outcomes of kyocera modular limb salvage system designed cementless stems for the endoprosthetic reconstruction of lower extremities: A Japanese musculoskeletal oncology group multi-institutional study. The14th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society Meeting (APMSTS) in Taipei, 2023, (Taipei), [口演]
- 002 田仲和宏, 町田龍之介, 川井 章, 中山ロバート, 筑紫聡, 浅沼邦洋, 松本嘉寛, 平賀博明, 平岡弘二, 綿貫宗則, 米本 司, 阿部哲士, 片桐浩久, 福田治彦, 尾崎敏文, 岩本幸英: 世界へ発信する医師主導ランダム化比較試験軟部肉腫. 第96回日本整形外科学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 003 筑紫 聡: 腫瘍用人工関節再建の治療戦略 知識と経験の共有. KYOCERA KMLSセミナー, 2023, (津), [講演]
- 004 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 進行骨・軟部肉腫におけるドキシソルピシン投与量と臨床的経過. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 005 濱田俊介, 村瀬史典, 中島浩敦, 高津哲郎, 細田和貴, 筑紫 聡: 診断に難渋し急速に多発骨転移を来した足底部発生腫瘍. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 2023, (東京), [口演]
- 006 生田国大, 西田佳弘, 筑紫 聡, 小澤英史, 中島浩敦, 山田健志, 今釜史郎: 骨腫瘍切除後欠損に充填したβ-TCP 配向連通多孔体の臨床成績 多施設前向き研究. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 007 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙: がんロコモのこれから がんロコモに伴う転倒・転落に対する多職種ケア. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 008 筑紫 聡, 田仲和宏, 国定俊之, 町田龍之介, 竹中 聡, 川井 章, 片桐浩久, 比留間 徹, 松本嘉寛, 土屋弘行, 中山ロバート, 畠野宏史, 江森誠人, 吉田新一郎, 大幸英至, 坂本昭夫, 今西淳悟, 喜多亮介, 尾崎敏文, 岩本

幸英：術前化学療法を併用した四肢高悪性度肉腫に対する局所再発の臨床病理学的背景—JCOG0304 副次的解析—。第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023, (東京), [口演]

- 009 藤戸健雄, 生田国大, 筑紫 聡, 小澤英史, 酒井智久, 小池 宏, 浦川 浩, 西田佳弘, 今釜史郎：膝関節周囲の骨巨細胞腫に対する搔爬術後の関節症性変化の検討。第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023, (東京), [口演]
- 010 筑紫 聡：サルコーマ Web カンファレンス in 東海, 2023, (名古屋), [講師]
- 011 筑紫 聡：第61回日本癌治療学会学術集会, 2023, (横浜), [座長]
- 012 筑紫 聡：悪性軟部腫瘍に対するトラバクテジンの位置づけと治療成績。Taiho Web Lecture on STS, 2023, (名古屋), [講演]
- 013 筑紫 聡：第13回名古屋運動器腫瘍セミナー, 2023, (名古屋), [座長]
- 014 筑紫 聡：第45回骨軟部腫瘍治療法検討会, 2023, (名古屋), [座長]
- 015 筑紫 聡：骨軟部腫瘍手術手技実習, 2023, (仙台), [講師]
- 016 筑紫 聡：第7回日本サルコーマ治療研究学会学術集会 ランチョンセミナー, 2024, (名古屋), [座長]
- 017 筑紫 聡：骨軟部腫瘍診断～整形外科医が見逃してはいけないポイント～【[3] 小児整形外科疾患、[5] 骨・軟部腫瘍】。第38回東海小児整形外科懇話会・第20回東海小児整形外科研修会, 2024, (名古屋), [講演]

## リハビリテーション部

- 001 吉田雅博：第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2023, (福岡), [座長]
- 002 吉田雅博, 杉浦英志：脛骨近位腫瘍用人工関節置換術後のリハビリテーション療法。第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2023, (福岡), [口演]
- 003 吉田雅博：第12回日本がんリハビリテーション研究会, 2024, (沼津), [座長]
- 004 山崎康司, 中嶋誠也, 清水泰博, 吉田雅博：周術期リハビリを実施した75歳以上消化器癌患者について 術後肺合併症リスクスコアによる調査。第12回日本がんリハビリテーション研究会, 2024, (沼津), [口演]
- 005 吉田雅博：定期で介入するがんリハの効果。第33回三河骨軟部腫瘍研究会, 2024, (岡崎), [講演]

## 泌尿器科部

- 001 北野剛士, 田中しおり, 加藤 学, 小島崇宏：愛知県がんセンターにおけるがん遺伝子パネル検査の現状と課題。第73回日本泌尿器科学会中部総会, 2023, (奈良), [ポ

スター口演]

- 002 小島崇宏：advanced/mRCC への最適な一次治療とその後のシークエンスについて複合免疫療法時代における逐次治療の現状と将来展望。日本泌尿器腫瘍学会 第9回学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 003 北野剛士, 田中しおり, 加藤 学, 小島崇宏：導入化学療法中 COVID-19 に罹患したが寛解を得た進行性精巣腫瘍の一例。第293回日本泌尿器科学会東海地方会, 2023, (名古屋), [口演 優秀演題]
- 004 北野剛士, 小島崇宏, 田中しおり, 加藤 学, 曾我倫久人：Comparison of voiding function after RARP versus IMRT in Japanese patients diagnosed with localized prostate cancer：Interim analysis of a prospective study。第110回日本泌尿器科学会総会, 2023, (神戸), [口演]
- 005 田中しおり, 小島崇宏, 北野剛士, 加藤 学, 小倉友二：Novel method of performing a completely retroperitoneal cutaneous ureterostomy with robot-assisted radical cystectomy (RARC)。第110回日本泌尿器科学会総会, 2023, (神戸), [総会賞ビデオ]
- 006 加藤 学：RARP 施行時骨盤内リンパ節郭清後に大腿神経麻痺を生じた一例。第37回 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2023, (鳥取), [口演]
- 007 加藤 学：導入化学療法中 COVID-19 に罹患したが寛解を得た進行性精巣腫瘍の一例。第293回日本泌尿器科学会東海地方会, 2023, (名古屋), [口演]
- 008 加藤 学：愛知県がんセンターにおける後腹膜腫瘍診療についての検討。三重泌尿器科医会, 2023, (三重), [口演]
- 009 小島崇宏：サルコーマ診療における泌尿器科の役割。サルコーマカンファレンス 2023, 2023, (名古屋), [口演]
- 010 加藤 学：愛知県がんセンターにおける 後腹膜腫瘍診療についての検討。第7回サルコーマ治療研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 011 小島崇宏：尿路上皮癌治療におけるパドセブの役割～実臨床から見てきた期待と課題～。パドセブ発売1周年記念講演会 in 三重, 2023, (三重), [口演]
- 012 小島崇宏：尿路上皮癌治療におけるパドセブの役割～実臨床から見てきた期待と課題～。Urothelial Carcinoma Symposium 2023, 2023, (千葉), [口演]
- 013 小島崇宏：尿路上皮癌治療におけるパドセブの役割～実臨床から見てきた期待と課題～。第3回わかしゃち次世代育成セミナー, 2023, (名古屋), [口演]
- 014 小島崇宏：前立腺がん治療におけるニューベクオの意義。Prostate Cancer Seminar in Tokai, 2023, (名古屋), [口演]
- 015 小島崇宏：尿路上皮がんにおける周術期治療を考える～愛知県がんセンターにおける取り組みについて～。UC Adjuvant - Immunotherapy Seminar, 2023, (つくば (Web)), [口演]
- 016 小島崇宏：東海 IO - IO RCC WEB LIVE Seminar, 2023, (名古屋 (Web)), [座長]

- 017 小島崇宏：RCC1 次治療における TKI の役割について。ファイザーRCC インターネットシンポジウム in NAGOYA, 2023, (名古屋 (Web)), [口演]
- 018 小島崇宏：ゲノム情報を活かした mCRPC 治療 - 当院での取り組みを中心に -。The 14Th Tokai Robotic Urology Symposium, 2023, (名古屋), [口演]
- 019 加藤 学：骨盤内リンパ節郭清後に大腿神経麻痺を生じた一例。The 14Th Tokai Robotic Urology Symposium, 2023, (名古屋), [口演]
- 020 小島崇宏：NAC 未実施膀胱全摘症例の術後補助療法を考える。GU Master Class 2023 in Osaka, 2023, (大阪), [口演]
- 021 小島崇宏：泌尿器科領域での悪性軟部腫瘍治療のいま手術療法から薬物療法まで。サルコマカンファレンス in 東海 - 悪性軟部腫瘍の OS 延長を目指した治療の追求 -, 2023, (名古屋), [口演]
- 022 小島崇宏：膀胱癌の診断・治療環境に関するアドバイザーボード, 2023, (Web), [技術指導]
- 023 小島崇宏：IO 時代における TKI の役割について考える。岐阜 GU Oncology シンポジウム 2023, 2023, (岐阜 (WEB)), [口演]
- 024 小島崇宏：腎癌薬物療法最前線～RCT の Long-term follow-up と RWD を踏まえて～。UC・RCC Joint Web Live Seminar, 2023, (名古屋 (WEB)), [座長]
- 025 小島崇宏：腎癌についての薬物療法について。腎癌 Online Seminar～病理医と泌尿器科医で考える腎癌治療～, 2023, (Web), [座長]
- 026 小島崇宏：転移性尿路上皮がん治療について考える。Urothelial Carcinoma Symposium in Nagoya, 2023, (名古屋), [口演]
- 027 小島崇宏：進行性泌尿器がんにおける薬物治療の現状と展望 腎がんと尿路上皮がんについて。薬師寺 泌尿器癌 Hybrid Seminar, 2023, (栃木), [口演]
- 028 加藤 学：“ラジオ波焼灼療法”とのコンビネーション治療で難渋症例を突破！転移性肺悪性腫瘍への最新戦略とは, 2023, (Web), [口演]
- 029 小島崇宏：PROpel 試験と今知っておくべき mCRPC 治療のポイント～臨床的な視点から～。Prostate Cancer Seminar～個別化治療の最前線～, 2023, (Web), [口演]
- 030 小島崇宏：オプジーボ尿路上皮癌術後補助療法 Web Live Seminar, 2023, (Web), [座長]
- 031 加藤 学：愛知県がんセンターにおける尿路上皮癌に対する術後補助療法の検討。オプジーボ尿路上皮癌術後補助療法 Web Live Seminar, 2023, (Web), [口演]
- 032 小島崇宏：あいち Renal Cell Cancer Web Seminar, 2023, (名古屋 (Web)), [座長]
- 033 小島崇宏：膀胱癌・UTUC の日本での現状と今後の動向について, 2023, (Web), [会議形式インビュー]
- 034 小島崇宏：尿路上皮がんの薬物治療について考える - 周術期治療を中心に -。UC 周術期セミナー in 岡山, 2023, (岡山), [口演]
- 035 小島崇宏：前立腺がん診療の最新の話～診断からゲノム医療まで～。桑名医師会 木曜サロン講師, 2023, (三重), [口演]
- 036 加藤 学：尿路上皮癌術後補助療法症例提示。オプジーボ 尿路上皮癌術後補助療法 承認 1 周年記念講演会 in 三重, 2023, (三重), [口演]
- 037 加藤 学：尿路上皮癌に対するバベンチオの使いどころを考える。三重県バベンチオ講演会, 2023, (三重), [口演]

## 婦人科部

- 001 小島龍司, 小高紗季, 安井啓晃, 渡邊絵里, 森 正彦, 鈴木史朗：腹式広汎子宮全摘出手術における ERAS プロトコルを用いた新規クリニカルパス導入前後の比較検出。第 75 回日本産科婦人科学会 学術講演会, 2023, (東京), [口演]
- 002 坪内寛文, 小高紗季, 小島龍司, 安井啓晃, 渡邊絵里, 森 正彦, 鈴木史朗：BRCA2 病的バリエント保持者に対し 40 歳以下で RRSO を実施した症例の検討。第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2023, (東京), [口演]
- 003 小高紗季, 篠田真実, 小島龍司, 安井啓晃, 渡邊絵里, 森 正彦, 鈴木史朗：当院における子宮体がんに対する Lenvatinib+Pembrolizumab 併用療法施行症例の検討。第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講習会, 2023, (鳥根), [ポスター]
- 004 服部諭美, 芳川修久, 吉原雅人, 玉内学志, 清水裕介, 横井 暁, 池田芳紀, 新美 薫, 鈴木史朗, 梶山弘明：子宮体癌の免疫微小環境を ProMisE 分類から再考する。第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2023, (鳥根), [口演]
- 005 渡邊絵里, 横井 暁, 植草良輔, 芳川修久, 新美 薫, 鈴木史朗, 梶山弘明：【シンポジウム 2 卵巣癌維持療法の日本人リアルワールドデータから見えてくるもの】卵巣癌維持療法としての PARP 阻害剤使用 182 例における Real World Data 検証。第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2023, (鳥根), [口演]
- 006 篠田真実, 水野 翔, 小島龍司, 安井啓晃, 渡邊絵里, 森 正彦, 鈴木史朗, 中川路美雲, 高成啓介：子宮頸癌に対する根治的治療後の難治性外陰リンパ管腫の一例。第 16 回がんのリンパ浮腫研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 007 鈴木史朗：【会長企画シンポジウム】Gynecologic surgical treatment to share with medical oncologists Shiro Suzuki (Department of Gynecologic Oncology, Aichi Cancer Center Hospital) 腫瘍内科医と共有しておきたい婦人科手術治療。第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [口演]
- 008 鈴木史朗：Meet the Experts II。第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [座長]
- 009 水野 翔, 篠田真実, 小島龍司, 安井啓晃, 渡邊絵里, 森 正彦, 鈴木史朗：右骨盤壁浸潤を伴う進行卵巣癌に対して、術前化学療法後に多臓器合併切除を行い

- complete surgery を達成した1例. 第144回東海産婦人科学会, 2024, (名古屋), [口演]
- 010 鈴木史朗: どうする? 進行/再発子宮頸がん 2023~本格的ICI時代の到来と承前啓後~. 子宮頸がん再発治療薬物療法セミナーin 東海, 2023, (WEB), [講演]
- 011 鈴木史朗: 卵巣癌に対する治療戦略と地域連携を推る. 第51回北陸参加婦人科学会総会ランチョンセミナー, 2023, (富山), [講演]
- 012 鈴木史朗: 婦人科がん手術の修練と指導に関する思惟. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2023, (名古屋), [講演]
- 013 渡邊絵里: 当院における子宮体癌に対するペムプロリズマブ, レンバチニブ併用療法. Endometrial cancer Symposium 2023, 2023, (WEB), [講演]
- 014 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がん治療~ペムプロリズマブ+レンバチニブ療法と当院における実運用~. Endometrial Cancer Seminar in Hokuriku, 2023, (金沢), [講演]
- 015 小島龍司: 当院における卵巣癌治療の現状. 桜山 Ovarian Cancer Seminar, 2023, (WEB), [講演]
- 016 森 正彦: レンビマ+キイトルーダ併用療法のAEマネジメントと自施設症例の解析結果から. 東北信子宮体癌研究会, 2023, (長野), [講演]
- 017 鈴木史朗: 婦人科がん薬物療法と支持療法 2023. Web Lecture Gynecologic Cancer in Nagoya, 2023, (WEB), [講演]
- 018 安井啓晃: 卵巣がん横隔膜浸潤に対する愛知県がんセンターの取り組み. 卵巣癌 Next Generation Conference, 2023, (WEB), [講演]
- 019 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がん治療の実際~ペムプロリズマブ+レンバチニブ療法のAEマネジメントに主眼を置いて~. Endometrial Cancer Seminar in 愛知-エビデンスを実臨床に翻訳する-, 2023, (WEB), [講演]
- 020 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がん治療~ペムプロリズマブ+レンバチニブ療法と当院での運用状況~. 子宮体癌WEB講演会, 2023, (WEB), [講演]
- 021 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がん治療 Up-To-Date~ペムプロリズマブ+レンバチニブ療法と当院での運用を中心に~. Endometrial Cancer Seminar in 北勢, 2023, (四日市), [講演]
- 022 小島龍司: いまさら聞けないエネルギーデバイスのあれこれ. 第1回手術室関連セミナー, 2023, (WEB), [講演]
- 023 渡邊絵里: 婦人科がん支持療法としての静脈血栓塞栓症ケア. 婦人科診療 Total Care seminar, 2023, (名古屋), [講演]
- 024 鈴木史朗: 進行卵巣癌に対する初回治療を推る. 第149回近畿産科婦人科学会学術集会, 2023, (大阪), [講演]
- 025 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がんに対する薬物療法~当院におけるペムプロリズマブ+レンバチニブ療法の現状. Endometrial Cancer Symposium 2023 in Saitama, 2023, (埼玉), [講演]
- 026 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がんに対するレンバチニブ

- +ペムプロリズマブ療法の適正使用を省察する~適応承認2周年を迎えて. 子宮体癌WEB講演会, 2023, (WEB), [講演]
- 027 森 正彦: 進行・再発子宮頸癌における治療戦略~キイトルーダの使用経験を含めて~. Cervical Cancer Treatment Strategy Conference 子宮頸癌の予防から治療まで~, 2024, (名古屋), [講演]
- 028 鈴木史朗: ICI導入がなされた子宮体がん/頸がん治療の現状と悩みどころ. 桜山婦人科腫瘍セミナー2024, 2024, (名古屋), [講演]
- 029 森 正彦: 第二回 Endometrial Cancer Seminar in 尾張, 2024, (小牧), [コメンテーター]
- 030 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がんに対する薬物療法~ペムプロリズマブ+レンバチニブ療法の現状と論点~. Endometrial Cancer Web Seminar, 2024, (横浜), [講演]
- 031 森 正彦: レンビマ+キイトルーダ併用療法適応追加2年を経て. Endometrial Cancer Web Seminar in 三河, 2024, (WEB), [講演]

## 脳神経外科部

- 001 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 腰仙椎移行部転移に対する mini-open 手技による腸骨スクリューを用いた低侵襲脊椎固定術. 第58回日本脊髄障害医学会, 2023, (さいたま), [一般口演]
- 002 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 仙骨転移に対する minimally invasive spinopelvic iliac screw fixation. 第14回中部 MIST 研究会, 2023, (名古屋), [一般口演]
- 003 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 腰仙椎移行部転移に対する mini-open 手技による腸骨スクリューを用いた低侵襲脊椎固定術. 第82回日本脳神経外科学会総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 004 Haimoto S, Nishimura Y, Nagashima Y, Ohno M: Minimally invasive spinopelvic iliac screw fixation in treating painful metastatic tumors affecting the lumbosacral junction. The 14th Annual Meeting of Asia Spine, 2023, (名古屋), [一般口演]
- 005 Haimoto S, Nishimura Y, Nagashima Y, Ohno M: Outcomes of long segment spinal stabilization for multifocal spinal metastasis. The 14<sup>th</sup> Annual Meeting of Asia Spine, 2023, (名古屋), [一般口演]
- 006 灰本章一, 筑紫 聡, 吉田雅博, 浜田俊介, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 後側方アプローチにて脊椎胸壁合併切除を行った肋骨原発性骨腫瘍の検討. 第10回日本脊椎前方側方進入手術学会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 007 灰本章一: 脊椎転移に対する手術と体幹部定位放射線治療 (SBRT) による複合治療. 第53回脊髄倶楽部, 2023, (名古屋), [特別講演]
- 008 灰本章一: 脊椎転移診療における課題と集学的治療の実践. Pain Live Symposium, 2023, (名古屋), [講演]

- 009 灰本章一：脊椎転移治療のパラダイムシフト. 第20回中部地区がん医療連携学術講演会, 2023, (名古屋), [講演]
- 010 灰本章一：胸腰椎後方. 名古屋脊椎脊髄ナースセミナー, 2023, (名古屋), [講演]
- 011 灰本章一：転移性脊椎腫瘍／骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療. 第21回脊髄外科教育セミナー, 2023, (名古屋), [講演]
- 012 大野真佐輔, 灰本章一, 服部行之, 木部祐士, 齋藤竜太：成人髄芽腫の長期経過観察中に発生した放射線誘発性髄芽腫の一例. 第41回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 2023, (東京), [ポスター]
- 013 大野真佐輔, 野平翔太, 灰本章一, 倉光俊一郎, 長坂 暢, 山下公大, 松下博和, 藤田 貢, 齋藤竜太：消化器癌の脳転移におけるがん免疫微小環境の解析. 第23回日本分子脳神経外科学会, 2023, (宮崎), [講演]
- 014 大野真佐輔, 灰本章一, 倉光俊一郎, 長坂 暢, 山下公大, 松下博和, 藤田 貢：消化器癌の転移性脳腫瘍における三次リンパ構造の解析. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 015 大野真佐輔：消化器癌の脳転移における三次リンパ構造及び癌免疫微小環境の解析：第27回日本バイオ治療学学会学術集会, 2023, (博多), [講演]
- 016 大野真佐輔, 藤田 貢, 松下博和, 倉光俊一郎, 長坂 暢, 山下公大, 齋藤竜太：転移性脳腫瘍における癌免疫微小環境の解析. 第41回日本脳腫瘍学会学術集会, 2023, (新潟), [ポスター]

## 放射線診断・IVR部

- 001 Sato Y：Ablation therapy for lung tumors. Ablation Therapy and Mentorship Alliance (ATMA), 2023, (Zhengzhou China), [Oral presentation]
- 002 Sato Y：Clinical impact of TACE for HCC in systemic therapy era. The 16<sup>th</sup> Annual Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention (SGI), 2023, (Incheon Korea), [Oral presentation]
- 003 Sato Y：Pressure enabled TACE. 24<sup>th</sup> Annual Conference of the Indian Society of Vascular and Interventional Radiology (ISVIR), 2024, (Jaipur India), [Oral presentation]
- 004 村田慎一, 稲葉吉隆, 加藤弥菜, 長澤宏樹, 大手裕之, 長澤恭平, 長谷川貴章, 今峰倫平, 女屋博昭, 山浦秀和：高腫瘍量肝細胞癌へのシスプラチン含有球状塞栓物質を用いたTACEの臨床成績. 第109回日本消化器病学会, 2023, (長崎), [口演]
- 005 佐藤洋造, 松枝 清, 土屋智史, 大澤まりえ, 春日章良, 岡本武士, 笹平直樹：当院におけるレンパチニブとTACEの併用療法 (LEN-TACE療法) の検討. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [口演]
- 006 佐藤洋造, 松枝 清：緩和IVRこんな時にも役立つ. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [口演]
- 007 佐藤洋造：肝転移に対するエンボスフィアを用いたTACEの有無性. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [講演]
- 008 稲葉吉隆：切除不能肝癌における最新の治療戦略～局所治療と免疫療法の役割. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [座長]
- 009 入里真理子：大腸癌肝転移に対するマイクロカテーテル挿入可能な埋込型ポート (ReMAP) を用いたDEBIRIと肝動注の併用療法. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [ポスター]
- 010 長澤宏樹, 村田慎一, 大手裕之, 長澤恭平, 今峰倫平, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆：PTEG造設における経甲状腺経路の安全性についての検討. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [ポスター]
- 011 佐藤洋造, 松枝 清, 土屋智史, 大澤まりえ, 春日章良, 岡本武士, 笹平直樹：当院におけるレンパチニブとTACEの併用療法 (LEN-TACE療法) の検討. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [口演]
- 012 村田慎一, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 女屋博昭, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 今峰倫平, 長澤恭平, 大手裕之, 長澤宏樹：肝予備能不良肝細胞癌症例における肝動注化学療法の治療成績. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [口演]
- 013 大手裕之, 村田慎一, 長澤宏樹, 長澤恭平, 今峰倫平, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆：経皮経肝門脈塞栓術後における手術可能性の検討. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [口演]
- 014 村田慎一, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 女屋博昭, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 今峰倫平, 長澤恭平, 大手裕之, 長澤宏樹：鎖骨下静脈穿刺による中心静脈路確保の有効性・安全性の検討. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), [口演]
- 015 村田慎一：薬物療法時代における高腫瘍量肝細胞癌へのTACEの役割. 第28回肝動脈塞栓療法研究会, 2023, (高知), [口演]
- 016 佐藤洋造：BCLC stage Aに対するTACEの役割；新規臨床試験の立案. 第28回肝動脈塞栓療法研究会, 2023, (高知), [口演]
- 017 稲葉吉隆：日本産婦人科学会 日本IVR学会 Joint Session. 第75回日本産婦人科学会, 2023, (東京), [コメンテーター]
- 018 稲葉吉隆：薬物療法とTACEの併用. 第4回IVR科医のためのがん免疫治療 web seminar, 2023, (名古屋), [司会]
- 019 村田慎一, 長澤宏樹, 長澤恭平, 大手裕之, 今峰倫平, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 女屋博昭, 山浦秀和, 稲葉吉隆：超音波ガイド下に経皮経甲状腺的に針生検を行った頸部食道腫瘍. 第96回日本超音波学会, 2023, (埼玉), [口演]
- 020 長澤恭平, 村田慎一, 稲葉吉隆, 女屋博昭, 山浦秀和, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 今峰倫平, 大手裕之, 長澤宏樹：経皮的肝腫瘍生検後に胆嚢内血腫を生じたが無治療で経過観察した1例. 第96回日本超音波学会, 2023, (埼玉), [口演]
- 021 佐藤洋造：肝癌に対する肝動脈化学塞栓療法 (TACE) と全身薬物療法との併用療法. 第39回日本DDS学会,

- 2023, (千葉), [講演]
- 022 佐藤洋造, 松枝 清, 春日章良, 岡本武士, 笹本直樹: 当院におけるレンパチニブとTACEの併用療法 (LEN-TACE療法)の検討. 第59回日本肝癌研究会, 2023, (大阪), [口演]
- 023 佐藤洋造: この腫瘍, 焼きますか?あてますか?切りますか?. 第8回日本穿刺ドレナージ研究会, 2023, (大阪), [口演]
- 024 佐藤洋造: 穿刺・アブレーション・その他. 第8回日本穿刺ドレナージ研究会, 2023, (大阪), [座長]
- 025 佐藤洋造: 緩和ケアが中心となった時期における消化管内視鏡/IVRの適応を考える. 第28回日本緩和医療学会, 2023, (神戸), [口演]
- 026 佐藤洋造: どうしようもない会陰部痛・肛門痛の治療戦略. 第28回日本緩和医療学会, 2023, (神戸), [口演]
- 027 稲葉吉隆: 骨転移. 第8回日本がんサポーターブケア学会, 2023, (奈良), [座長]
- 028 稲葉吉隆: 機器・ソフトの進歩2. 第8回Advanced Medical Imaging研究会, 2023, (大阪), [座長]
- 029 大手裕之, 村田慎一, 入里真理子, 今峰倫平, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 腹腔動脈閉塞かつ胃十二指腸動脈塞栓後の状態で, 左肝動脈からの出血を止血し得た1例. 第72回中部IVR研究会, 2023, (金沢), [口演]
- 030 入里真理子, 佐藤洋造, 村田慎一, 山浦秀和, 大手裕之, 今峰倫平, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆, 大内 晶, 木下敬史, 茶谷祥平: 骨盤内臓全摘術後の尿管閉塞に対して, Rendezvous techniqueを併用して内瘻化に成功した1例. 第72回中部IVR研究会, 2023, (金沢), [口演]
- 031 佐藤洋造: 肝動注の臨床試験; 今何ができる?. 第47回リザーバー&ポート研究会, 2023, (東京), [座長]
- 032 稲葉吉隆: 進行肝細胞癌患者にゲノムプロファイリング検査は必要か. 第47回リザーバー&ポート研究会, 2023, (東京), [座長]
- 033 佐藤洋造: 最新のイメージング技術を駆使したIVR. 第47回リザーバー&ポート研究会, 2023, (東京), [座長]
- 034 稲葉吉隆: 肝細胞癌における集学的治療の意義を考える. 第47回リザーバー&ポート研究会, 2023, (東京), [座長]
- 035 入里真理子, 村田慎一, 佐藤洋造, 山浦秀和, 今峰倫平, 大手裕之, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 肝動脈の解剖学的変異を伴うびまん性肝細胞癌に対するダブル肝動注リザーバー留置の検討. 第47回リザーバー&ポート研究会, 2023, (東京), [口演]
- 036 大手裕之, 村田慎一, 入里真理子, 今峰倫平, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 鎖骨下静脈穿刺による中心静脈路確保の有効性・安全性の検討. 第47回リザーバー&ポート研究会, 2023, (東京), [口演]
- 037 佐藤洋造: 耐え難い術後感染症合併症を乗り越えるためのIVR; 何ができる?. 第36回日本外科感染症学会, 2023, (北九州), [講演]
- 038 佐藤洋造, 大手裕之, 入里真理子, 稲葉吉隆: Hydrodissection併用のCT透視化ラジオ派焼灼療法が有用で

- あった術後再発肝細胞癌の1例. 第2回日本アブレーション研究会, 2024, (岡山), [ポスター]
- 039 佐藤洋造: 薬物療法とアブレーション. 第2回日本アブレーション研究会, 2024, (岡山), [司会]
- 040 稲葉吉隆: コンバージョン. 第2回日本アブレーション研究会, 2024, (岡山), [司会]
- 041 大手裕之, 佐藤洋造, 入里真理子, 今峰倫平, 村田慎一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆, 桑原崇通: PD後の膀胱吻合部静脈瘤に対して経皮経脾的に塞栓術を施行した1例. 第73回中部IVR研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 042 入里真理子, 佐藤洋造, 村田慎一, 山浦秀和, 大手裕之, 今峰倫平, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆, 夏目誠治, 奥野のぞみ: Gangi-HydroGuard® coaxial needleを用いてCTガイド下腫瘍ドレナージを打った2例. 第73回中部IVR研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 043 中山敬太: セッション3 肝臓・非血管系. 第73回中部IVR研究会, 2024, (名古屋), [座長]
- 044 Sato Y: Combination treatment of Lenvatinib and TACE for unresectable HCC: short-term outcomes. 第21回日本臨床腫瘍学会, 2024, (名古屋), [口演]
- 045 Inaba Y, Chatani S, Murata S, Sato Y, Imamine R, Kato M, Onaya H, Yamaura H: Treatment of hepatocellular carcinoma with a portal vein tumor thrombus and pulmonary metastases of rectal cancer with microsatellite stability using atezolizumab plus bevacizumab. 第21回日本臨床腫瘍学会, 2024, (名古屋), [ポスター]

## 放射線治療部

- 001 Imamura Y, Kiyota N; Tahara M, Kodaira T, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Iwae S, Nishio N, Onozawa Y, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Kitabayashi R, Sasaki K, Homma A: Impact of Acute Kidney Injury on Overall Survival in Postoperative Head and Neck Cancer Patients who Received Chemoradiotherapy with Cisplatin: A Supplementary Analysis of a Phase II/III trial of JCOG1008. 2023 ASCO annual meeting, 2023, (シカゴ), [共同演者].
- 002 Imamura Y, Kiyota N; Tahara M, Kodaira T, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Iwae S, Nishio N, Onozawa Y, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Kitabayashi R, Sasaki K, Homma A: A Risk Prediction Model for Cisplatin-induced Acute Kidney Injury in Head and Neck Cancer Patients who Receive Chemoradiotherapy: A Supplementary Analysis of a Phase II/III trial of JCOG1008. 2023 ASCO annual meeting, 2023, (シカゴ), [共同演者].

- 003 **Kodaira T**: Round Table discussion HPV de-escalation approaches. 7th World Congress of IFHNOS and Annual Meeting of Head and Neck Oncologic societies, 2023, (ローマ), [口演].
- 004 **Hayashi M, Yasui K, Omach C, Toshito T, Shimizu H, Iwase K, Nagake Y, Hayash N**: Investigation of response characteristics of radiophotoluminescence dosimeter in intensity-modulated proton therapy. The 2nd JSRT-JSMP Joint International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT), 2023, (横浜), [口頭].
- 005 **Koide Y, Nagai N, Miyauchi R, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T**: Retrospective non-inferiority study of stereotactic radiosurgery for more than ten brain metastases. ESTRO annual meeting, 2023, (WEB), [ポスター].
- 006 **Koide Y, Nagai N, Miyauchi R, Nakashima T, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T**: Classification of patients with painful tumors to predict the response to palliative radiotherapy. 2023, (WEB), [ポスター].
- 007 **立花弘之**:「がんの放射線治療」. 愛知県立大学看護学部, 2023, (名古屋), [講義].
- 008 **古平 毅**: 臨床医が考える CRT の適応. 切除不能非小細胞肺癌治療セミナー, 2023, (WEB), [座長].
- 009 **小出雄太郎, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅, 北山 恵, 川北大介, 桐田忠昭, 吉本世一, 丹生健一**: 頭頸部悪性腫瘍全国登録を活用した上咽頭癌放射線治療後の予後調査研究. 第47回日本頭頸部癌学会, 2023, (大阪), [口演].
- 010 **古平 毅**: シンポジウム1 CDDP 併用化学放射線療法～low dose vs. high dose～ high dose CDDP 併用化学放射線療法の現状とこれから 第47回日本頭頸部癌学会, 2023, (大阪), [口演].
- 011 **立花弘之**:「上顎洞癌の放射線治療」. 日本頭頸部癌学会主催第14回教育セミナー, 2023, (WEB), [口演].
- 012 **清水秀年**:【退官記念講演】「水吸収線量計測法の変遷と展望」. 東海放射線腫瘍研究会第51回技術部会, 2023, (名古屋), [座長].
- 013 **小出雄太郎, 長井尚哉, 宮内理世, 中島貴子, 西村聖子, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅**: 疼痛緩和照射の効果予測因子に関する研究. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (神戸), [口演].
- 014 **古平 毅**: BRT の使い所と使いかた ～JROSG12-2 BRT 観察研究の結果から～. Erbitax HN Web Seminar, 2023, (WEB), [座長].
- 015 **清水秀年**:「MLC の QA/QC」. 2023 年度実機型講習会 (リニアック), 2023, (東京), [講義].
- 016 **清水秀年**:「MLC 位置精度」. 2023 年度実機型講習会 (リニアック), 2023, (東京), [実習].
- 017 **清水秀年**:「物理の部」. TomoTherapy Exchange Forum 2023, 2023, (東京), [座長].
- 018 **清水秀年**: 口演④ 位置照合・固定 (光子・電子). 第126回日本医学物理学学会学術大会, 2023, (広島), [座長].
- 019 **清水秀年**: 放射線業務におけるルーチンワークの改善. 第126回日本医学物理学学会学術大会, 2023, (広島), [座長].
- 020 **清水秀年**: プログラム委員会企画 若手交流会企画. 第126回日本医学物理学学会学術大会, 2023, (広島), [座長].
- 021 **古平 毅**: 臨床医が考える CRT の適応. III 期 NSCLC 連携フォーラム, 2023, (WEB), [座長].
- 022 **古平 毅**: あすからすぐ実践できる頭頸部腫瘍の放射線治療 放射線治療って低侵襲なの?. 東北大学頭頸部腫瘍センター講演会, 2023, (東北), [口演].
- 023 **古平 毅**: 臓器別ワークショップ「革新的治療はここにあり, 頭頸部癌における新たな展開」. 第61回癌治療学会, 2023, (横浜), [座長].
- 024 **青山貴洋**:「RayStation × TrueBeam によるシングルアイソセンタ・多標的脳定位照射」. 埼玉医科大学がんプロ共催 多領域人材養成・放射線腫瘍学セミナー, 2023, (WEB), [口演].
- 025 **野 薫, 清水秀年**: 一般演題発表 光子・電子線治療 (治療計画). 第51回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2023, (名古屋), [座長].
- 026 **矢谷朋子, 小口 宏, 小林勇太, 奥平訓康, 清水秀年, 加茂前 健, 小森雅孝**: Roos 型平行平板形電離箱における体積平均効果の評価. 第51回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2023, (名古屋), [口頭].
- 027 **古平 毅**: 頭頸部がん放射線治療の「推し」. 札幌医科大学腫瘍診療センター講演会, 2023, (札幌), [口演].
- 028 **朝比奈可純, 林 直樹, 稲垣ほのか, 長宅祐哉, 岩瀬凱門, 安井啓祐, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年**: 電子線照射における真鍮製ボラスの線量分布への影響. 第15回中部放射線医療技術学術大会, 2023, (福井), [口頭].
- 029 **古平 毅**: 近年の JASTRO の進歩と未来 放射線治療専門医の現状と課題. 第36回日本放射線腫瘍学会, 2023, (横浜), [シンポジウム].
- 030 **古平 毅**: 指導者講習会. 第36回日本放射線腫瘍学会, 2023, (横浜), [座長].
- 031 **小出雄太郎, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅**: 疼痛緩和照射の効果予測因子に関する研究. 第36回日本放射線腫瘍学会, 2023, (横浜), [ポスター].
- 032 **小出雄太郎, 青山貴洋, 田中 寛, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅**: NDB オープンデータを用いたガンマナイフと直線加速器定位照射の選択動向に関する研究. 第36回日本放射線腫瘍学会, 2023, (横浜), [ポスター].
- 033 **小出雄太郎, 灰本章一, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅**: 50Gy 以上の照射歴がある MESCC に対する 24Gy2fx の SBRT による再照射. 第36回日本放射線腫瘍学会, 2023, (横浜), [要望演題].
- 034 **立花弘之, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 青山貴洋,**

- 清水秀年, 橋本眞吾, 小出雄太郎, 古平 毅: 愛知県がんセンターにおける上顎洞癌に対する動注化学放射線療法の治療成績. 第36回日本放射線腫瘍学会, 2023, (横浜), [ポスター].
- 035 清水秀年: 要望演題9 即時適応型放射線治療. 第36回日本放射線腫瘍学会, 2023, (横浜), [座長].
- 036 北川智基: 「線量計の特徴と取り扱い」. 日本放射線治療専門放射線技師認定機構(東海地区)2023年度 東海地区講習会(座学講習), 2023, (WEB), [口頭].
- 037 清水秀年: 放射線照射による毒性のリスクを抑える各施設での取り組み. 根治率向上を目指したcCRTを考える会, 2023, (東京), [口演].
- 038 清水秀年: 頭頸部がんの強度変調放射線治療 治療計画の実演①(Radixact, SIB法)2023治療計画セミナー「計画者が知っておきたい臨床の知識」. 一般財団法人日本医学物理士会, 2024, (WEB), [口演].
- 039 小出雄太郎, 青山貴洋, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 脳定位放射線治療におけるガンマナイフと直線加速器の選択動向調査. 第174回中部地方会(治療), 2024, (名古屋), [口演].
- 040 立花弘之: セッション2 頭頸部2. 第174回中部地方会(治療), 2024, (名古屋), [口演].
- 041 古平 毅, 全田貞幹: 骨転移に対する新しい治療の展開緩和, QOL改善の次のステップは?. 第21回日本臨床腫瘍学会, 2024, (名古屋), [座長].
- 042 小出雄太郎, 青山貴洋, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 脳定位放射線治療におけるガンマナイフと直線加速器の選択動向調査. 第37回高精度放射線外部照射部会学術大会, 2024, (東京), [ポスター].
- 043 古平 毅: 頭頸部腫瘍に対する放射線治療の役割. 西宮放射線治療研究会, 2024, (兵庫), [口演].
- 044 古平 毅: 頭頸部癌の放射線治療 治療計画の実際とチーム医療. 三重がん放射線治療研究会, 2024, (津), [口演].
- 045 清水秀年: 実機講習(ピケットフェンステスト, キャリッジ確認, DMLC出力比較試験)(一社). 日本放射線治療専門放射線技師認定機構認定2023年度四国地区講習会, 2024, (香川), [口演].
- 046 清水秀年: 実機講習(配列型検出器の絶対線量校正, 測定前の事前準備, IMRT線量検証)(一社). 日本放射線治療専門放射線技師認定機構認定2023年度四国地区講習会, 2024, (香川), [口演].
- 047 木藤哲史, 小島 徹, 清水秀年: トモセラピーユーザー会QA委員企画. 第6回治療計画技術ワークショップ, 2024, (WEB), [コメンテータ].

## 緩和ケア部

- 001 下山理史: こえを聴き, 希望を支え, そして, つなげる. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (神戸), [大会長講演]

## 看護部

- 001 吉川 恵, 向井未年子, 林 美子: アウトリーチを導入したがん看護外来の実践報告. 第37回日本がん看護学会学術集会, 2023, (横浜), [口演]
- 002 吉川 恵, 藤田 恵, 佐藤 好, 小森康永, 下山理史: がん専門病院を受診したがん患者の療養場所と死亡確認場所の実態調査. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (神戸), [ポスター]
- 003 永田智子, 福嶋敬子, 野崎由美子, 小塚亮子, 岩田広治: 退院支援「退院調整における経済的問題への対応」「退院調整看護師とメディカルソーシャルワーカーとの協働支援の実際」. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (神戸), [示説]
- 004 佐藤 好, 曾根裕美子, 下山理史: 代謝経路を考慮したオピオイドスイッチングにてQOLが改善し母親の役割を果たせるようになった1例. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (神戸), [ポスター]
- 005 柴田亜弥子, 近藤ちえみ, 大本美穂, 中尾亜由美, 山北千登子: 外来薬物療法を受ける高齢患者への積極的体調確認の取り組み. 第38回日本がん看護学会, 2024, (兵庫県), [口演]
- 006 青木智子, 小谷はるる, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 片岡愛弓, 柴田亜弥子, 高木礼子, 田崎智子, 岩田広治: 乳癌患者における頭皮冷却装置の長期的有効性とコストに関する満足度調査. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [口演]
- 007 山口真澄, 小原真紀子, 上岡亜子, 佐野雄三, 青木智子, 佐藤 好, 能澤一樹, 足立雄太, 新津宏明, 安藤正志, 衣斐寛倫: がん専門病院におけるがんゲノムプロファイリング検査を含めた治験・臨床試験への他職種連携効果と今後の課題. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 008 山口真由美: がん専門病院がたどり着いた垣根の低いRRS要請の仕組み. 第51回日本集中治療医学会, 2024, (北海道), [ポスター]
- 009 黒野純子, 戸崎加奈江: A病院入院患者の抗がん薬投与時の血管外漏出の現状報告. 第38回日本がん看護学会学術集会, 2024, (兵庫), [示説]
- 010 障子美奈, 小沢あゆみ, 松尾育未, 大下有香, 深堀慎一郎, 福嶋敬子, 山崎祥子, 服部寿史, 村田慎一, 稲葉吉隆: IVR中に発生した緊急時の対応報告～定例緊急シミュレーションの成果～. 第52回日本IVR学会, 2023, (高知), (WEB), [口演]
- 011 深堀慎一郎: 活用されるRRSを目指したがん専門病院の



- 実践報告. 第25回日本救急看護学会学術集会, 2023, (長崎), [口演]
- 012 倉石幸治, 福嶋敬子, 山崎祥子, 長谷川貴章, 稲葉吉隆: CVポート留置後に発生した事例からの取り組み～日めくりクリニカルパスを作成して～. 第52回日本IVR学会総会, 2023, (高知), [口演]
- 013 青山寿昭: 舌がん患者への摂食嚥下支援. 頭頸部癌サポート研究会, 2024, (博多), [口演]
- 014 吉川 恵: 都道府県指導者養成研修「フォローアップ研修」. 緩和ケアチーム研修企画, 2023, (WEB), [講師]
- 015 井上さよ子: 交流セッション「今こそ確かめよう! 看護の力でできたこと, できること」. 第39回愛知県看護学会, 2023, (愛知県), [講師]
- 016 永田智子: がん看護実践④「在宅療養と後方連携の概要・看護論Ⅲ「在宅調整における病棟・外来看護師の役割」事例を通して考える「退院調整困難事例の問題の明確化を調整のポイント」. 愛知県がんセンター, 2023, (愛知), [講師・ファシリテーター]
- 017 永田智子: 訪問看護認定看護師教育課程「在宅医療病態論Ⅲ」. 愛知県看護協会, 2023, (愛知), [講師]
- 018 永田智子: 訪問看護職員養成講習会「がん看護1, 2, 3, 4」. 愛知県看護協会, 2023, (愛知), [講師]
- 019 永田智子: 緩和ケアボランティア養成講座 緩和ケア第9期(全10回). 一般社団法人 あした葉, 2023, (三重), (WEB), [講師]
- 020 永田智子: 明日から実践に活かす! 緩和ケア1-③～消化器症状を抱えるがん患者のケア～. 愛知県がんセンター, 2023年, (愛知), [講師]
- 021 永田智子: がん看護実践④ 実習の振り返りと学びの共有. 愛知県がんセンター, 2023年, (愛知), [ファシリテーター]
- 022 久保 知: 慢性期看護援助論「がんと共に生きる人への看護 放射線療法を受ける患者看護」. 金城学院大学, 2023, (愛知), [講師]
- 023 戸崎加奈江: 看護師が考える臓器横断的ジーラスタボディポット®の運用方法について In TOKAI. 協和キリン株式会社, 2023, ZOOM ウェビナー, [総合司会]
- 024 高木礼子: ～アピアランスケア～「当院における頭皮冷却による脱毛への取り組み」. Chemotherapy Nursing Seminar, 2023, (名古屋), [講演]
- 025 山田健司: 成人急性期看護学実習「手術室における看護」. 愛知県立大学 看護学部, 2023, (愛知), [講師]
- 026 山田健司: 急性期看護学Ⅰ「手術室における看護」. 一宮研伸大学 看護学部, 2024, (愛知), [講師]
- 027 柴田亜弥子: 看護研究支援講座「研究発表の方法」. 第39回愛知県看護学会, 2023, (愛知), [講師]
- 028 柴田亜弥子: 家族支援 CNS コース科目「家族と健康」. 愛知県立大学大学院, 2023, (愛知), [講師]
- 029 柴田亜弥子: 「最新医療と看護」. 愛知県立大学看護学部, 2023, (愛知), [講師]
- 030 福嶋敬子: 乳がん術後地域連携エスワンパスについて. 令和5年がん地域連携パスコーディネーター研修会, 2023, (WEB), [講師]
- 031 福嶋敬子: 在宅緩和ケアの現状, 工夫, 困難点を話し合う～病院の立場として～. NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク第2回全国の集い, 2023, (愛知), [シンポジスト]
- 032 向井未年子: 「がんサバイバーシップケア」. 第26回日本癌治療学会アップデート教育コース, 2023, (WEB), [講師]
- 033 向井未年子: パネルディスカッション「終末期の低血糖発作への対応」. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (兵庫), [座長]
- 034 向井未年子: パネルディスカッション「緩和ケアでの人工的栄養水分補給」. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (兵庫), [パネリスト]
- 035 向井未年子: 「最優秀演題 口演」. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (兵庫), [座長]
- 036 向井未年子: 特別講演「スピリチュアルケア 一対話を通して紡ぐケアリング」. 第28回日本緩和医療学会学術大会, 2023, (兵庫), [座長]
- 037 笹川良子: 一般演題⑤ 看護関連. 第47回リザーバ&ポート研究会, 2023, (東京), [座長]
- 038 山田知里: 副作用管理における看護師の役割～乳癌領域の nabPTX について～. BreastCancerForum, 2023, (愛知), (WEB), [講演]
- 039 山田知里: ディスカッション「アロカリスの制吐剤について」. TAIHO WEB Lecture on CINV in TOKAI, 2023, (愛知), (WEB), [講演]
- 040 山田知里: 抗がん剤治療中の副作用管理の工夫～免疫チェックポイント阻害剤を例に～. 第30回医看薬連携研究会, 2023, (愛知), [講演]
- 041 山田知里: フェスゴ® 導入がもたらすメリット. Chugai Breast Cancer Symposium in Aichi, 2023, (愛知), (WEB), [講演]
- 042 山田知里: 新規治療導入時のポイント「看護師の立場から. 若手医療従事者が学ぶ胃癌診療」「他職種は何を考えているのか?」. WJAOG, 2024, (大阪 WEB), [講演]
- 043 西尾里美: コンサルテーション論. 愛知県立大学大学院看護学研究科, 2024, (名古屋), [講師]
- 044 八重樫裕: 教育講演「絶対通る倫理申請書の書き方」. 第16回日本摂食嚥下障害看護研究会研究会, 2023, (愛知), [座長]
- 045 福嶋敬子: 乳がん術後地域連携エスワンパスについて. がん地域連携パスコーディネーター研修会, 2023, (WEB), [講師]
- 046 福嶋敬子: 在宅緩和ケアの現状, 工夫, 困難点を話し合う～病院の立場として～. NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク第2回全国の集い, 2023, (愛知), [シンポジスト]
- 047 青山寿昭: 食事の援助一摂食嚥下障害のポイントを押さえよう一. 一宮研伸大学, 2024, (一宮), [講師]
- 048 青山寿昭: 頭頸部がん患者の摂食嚥下障害とその対応. Geriatric Nutrition 研究会, 2024, (名古屋), [講師]
- 049 青山寿昭: コロナ患者の摂食と嚥下. 日本摂食嚥下リハ

- ピリテーション学会, 2023, (横浜), [座長]
- 050 青山寿昭: 摂食嚥下障害における倫理的問題. 日本摂食嚥下障害看護研究会, 2023, (名古屋), [座長]

## 薬剤部・臨床薬剤部

- 001 Hashimoto N, Nakata A, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Endo Y, Kotani H, Kataoka A, Hattoti M, Yoshimura A, Sawaki M, Nozawa K, Oze I, Iwata H, Muro K: Safety of a short-term infusion of fosnetupitant in patients with gastrointestinal and breast cancer: a prospective observational study. Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting, 2023, (Nagoya), [English Oral]
- 002 橋本直弥: 乳癌薬物療法における CINV マネージメントの実践. 第 61 回日本癌治療学会学術集会学術セミナー 41, 2023, (横浜), [教育セミナー]
- 003 橋本直弥: 実践, 明日から活かせるトレーシングレポート活用術乳癌薬物療法における CINV マネージメントの実践. 第 17 回日本薬局学会学術総会, 2023, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 004 橋本直弥: HER2 陽性肺癌の薬物療法と副作用マネージメント. 第 13 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024, (神戸), [ランチョンセミナー]
- 005 堀 恭子, 前田章光, 橋本直弥, 村田史子, 高野裕佑, 伊藤裕子, 内田幸作: 抗がん剤作業環境における P-Clear を用いた除染効果の検証. 第 15 回日本がん薬剤学会学術大会, 2023, (名古屋), [ポスター]
- 006 堀 恭子, 前田章光, 曾根裕美子, 村田史子, 高野裕佑, 橋本直弥, 加藤正孝, 内田幸作: 愛知県がんセンターの抗がん剤取り扱い環境における床面抗がん剤曝露調査. 第 33 回日本医療薬学会年会, 2023, (仙台), [口頭]
- 007 前田章光, 下村一景, 橋本直弥, 内田幸作: ChatGPT (GPT-4) は抗がん剤レジメン登録業務のサポートとなり得るか. 第 33 回日本医療薬学会年会, 2023, (仙台), [口頭]
- 008 今井暁南, 前田章光, 佐藤祥暁, 高井奈美, 内田幸作: 経口抗がん剤及び支持療法薬に対する保険薬局薬剤師による残数調整の現状調査. 第 56 回東海薬剤師学術大会, 2023, (四日市), [口頭]
- 009 前田章光: 肝障害がある患者に対する投与量設計. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024, 2024, (神戸), [シンポジウム]
- 010 下村一景, 前田章光, 橋本直弥, 内田幸作: オランザピン 5mg 服用後 2.5mg へ減量した患者に対する CINV (Chemotherapy Induced Nausea and Vomiting) の予防効果と安全性の検討. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 JASPO2024, 2024, (神戸), [口頭発表]
- 011 下村一景: 薬剤師によるアナモレリンの処方提案 ～まずはがん悪液質の理解から～. 日本臨床腫瘍薬学会学術

- 大会 JASPO2024, 2024, (神戸), [ランチョンセミナー]
- 012 前田章光: がんゲノム医療に伴う治療の副作用管理. 東海オンコロジーセミナー, 2023, (WEB), [示説]
- 013 前田章光: 薬剤師も知っておきたい CT 画像の基礎知識. 第 11 回がん化学療法患者サポート WEB セミナー, 2023, (WEB), [示説]

## ゲノム医療センター

- 001 山口真澄, 小原真紀子, 上岡亜子, 佐野雄三, 青木智子, 佐藤 好, 能澤一樹, 足立雄太, 新津宏明, 安藤正志, 衣斐寛倫: がん専門病院におけるがんゲノムプロファイリング検査を含めた治験・臨床試験への多職種連携効果と今後の課題. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024, (愛知), [ポスター]

### 3. 学会等における研究発表テーマ調べ（研究所）

#### 研究所長

- 001 *Torasawa M, Shiraishi K, Mochizuki A, Matsumoto S, Hamamoto J, Matsushita H, Imoto I, Yasuda H, Tsuboi M, Goto K, Watanabe S, Shiraishi Y, Hamamoto R, Ohe Y, Kohno T*: The Genomic Landscape of Driver Mutation-Negative Lung Adenocarcinoma: A Comprehensive Whole-Genome Sequencing Analysis. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 002 *Nakata T, Shen X, Mizuno S, Imoto I, Selcen D, Engel A, Ohno K*: Impaired gating of  $\gamma$ - and  $\epsilon$ -AChR respectively causes Escobar syndrome and fastchannel congenital myasthenic syndrome. Human Genetics Asia 2023, 2023, (東京), [口演]
- 003 *Usui Y, Taniyama Y, Endo M, Koyanagi Y, Kasugai Y, Oze I, Ito H, Imoto I, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Iwasaki Y, Aoi T, Hakozaki N, Takata S, Suzuki K, Terao C, Hatakeyama M, Hirata M, Sugano K, Yoshida T, Kamatani Y, Nakagawa H, Matsuda K, Murakami Y, Spurdle A, Matsuo K, Momozawa Y*: Large-scale evaluation of germline variants among 11 thousand gastric cancer patients and 44 thousand controls. Human Genetics Asia 2023, 2023, (東京), [口演]
- 004 *Mizukami K, Yoshiaki U, Endo M, Iwasaki Y, Kamatani Y, Hirata M, Shiraisihi K, Kohno T, Imoto I, Matsuda K, Nakagawa H, Murakami Y, Momozawa Y*: Germline genetic analysis of Lynch syndrome using 110K samples from patients with 23 cancer types and controls. ASHG2023, 2023, (Washington DC), [ポスター]
- 005 **井本逸勢**: 食道癌, 胆道癌, 胃癌のリスクについての解釈・対応はどうしたらいいのか?. 第3回 JOHBOC 学術総会, 2023, (東京), [シンポジウム]
- 006 **井本逸勢**: 今日からできるリンチ症候群 (LS) 診療. 第5回がんゲノム医療時代における Lynch 症候群研究会学術集会, 2023, (東京), [特別講演]
- 007 **丹下正一郎, 平野朋美, 井戸川雅史, 平田英周, 井本逸勢, 時野隆至**: 予後不良の腫瘍と発現が相関する霊長類特異的遺伝子の解析. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 008 **井本逸勢**: がんゲノム医療の課題と解決に向けて. 第13回日本遺伝子診療学会 / 遺伝子診断・検査技術推進フォーラム 公開シンポジウム 2023, 2023, (東京), [シンポジウム]

#### がん情報・対策研究分野

- 001 **伊藤秀美**: がん対策を支えるがん登録～がんと診断されたら… 受療動態を知る空間疫学的手法を用いて受療動態を探る!. 日本がん登録協議会第32回学術集会 in 青森, 2023, (青森), [口演]
- 002 **羽佐田香代, 大島栄子, 古橋由紀子, 平岩 愛, 板生春美, 神原あかり, 春日井京子, 尾瀬 功, 伊藤秀美**: 愛知県におけるがん登録オンラインシステム導入状況, 週り調査の回答形式について. 日本がん登録協議会第32回学術集会 in 青森, 2023, (青森), [口演]
- 003 **尾瀬 功, 川北大介, 羽佐田香代, 川浦正規, 岩崎真一, 松田智大, 松尾恵太郎, 伊藤秀美**: 1993年から2015年の頭頸部がん亜部位別年齢調査罹患率の推移. 日本がん登録協議会第32回学術集会 in 青森, 2023, (青森), [ポスター]
- 004 **Oze I, Ito H, Koyanagi YN, Abe SK, Rahman MS, Saito E, Tamakoshi A, Sawada N, Sakata R, Tsuji I, Nagata N, Inoue M, Matsuo K**: Obesity is associated with biliary tract cancer risk: a pooled analysis of 21 cohorts in the Asia Cohort Consortium. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 005 **Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Ito Y, Matsuda T, Matsuo K, Mitsudomi T, Ito H**: Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: an interrupted time series study. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 006 **Ito H**: Geographical inequality in cancer in Japan: spatial epidemiology and mediation analysis using public data. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [シンポジウム]
- 007 **Yamagiwa Y, Tanaka K, Matsuo K, Wada K, Lin Y, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Takimoto H, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Tanaka S, Inoue M**: Response to antiviral therapy for chronic hepatitis C and risk of hepatocellular carcinoma occurrence in Japan. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 008 **Koyanagi YN, Matsuo K, Kawaura M, Taniyama Y, Oze I, Nakaya T, Otani T, Takahashi K, Yamaguchi R, Ito H**: Urbanicity affects the associations between socioeconomic status and cancer incidence and mortality. ENCR 2023 IACR Scientific Conference, 2023, (グラナダ), [ポスター]
- 009 **伊藤秀美, 小柳友理子, 川浦正規, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 大谷隆浩, 中谷友樹, 高橋邦彦, 山口 類, 松尾恵太郎**: がん罹患及び死亡と地理的剥奪指標との関連の臓器別・都市度別評価. 第34回日本疫学会学術総会, 2024, (大津), [口演]

- 010 谷山祐香里, 古橋真由, 川浦正規, 小柳友理子, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 地理的な社会経済的状況は喫煙を介してがん死亡に影響するか: 媒介分析による評価. 第34回日本疫学会学術総会, 2024, (大津), [ポスター]
- 011 小柳友理子, 中柝昌弘, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 成田 暁, 櫻井美佳, 若井建志, *J-MICC Study Group*, 岩崎 基, 松尾恵太郎: 遺伝子間交互作用を考慮するとポリジェニックリスクスコアによる表現型の予測能は向上する. 第34回日本疫学会学術総会, 2024, (大津), [ポスター]

## がん予防研究分野

- 001 *Sibale Mojoo D, Taniyama Y, Koyanagi Y, Tsuge H, Oze I, Ito Y, Katanoda K, Matsuda T, Matsuo K, Ito H*: A Comparative Analysis of Breast Cancer Net Survival in Japanese Men and Women: A Population-Based Study. がん予防学術大会 2023 金沢, 2023, (金沢), [口演]
- 002 *Oze I, Ito H, Koyanagi Y, Abe S, Shafiur R, Saito E, Tamakoshi A, Sawada N, Sakata R, Tsuji I, Nagata C, Inoue M, Matsuo K*: Obesity is associated with biliary tract cancer risk: a pooled analysis. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 003 *Taniyama Y, Oze I, Koyanagi Y, Kawakatsu Y, Ito Y, Matsuda T, Matsuo K, Mitsudomi T, Ito H*: Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: an interrupted time series study. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 004 *Usui Y, Matsuo K, Momozawa Y*: Evaluation of genetic and environmental factors for cancer risk. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [シンポジウム]
- 005 *Matsuo K*: Cancer genome medicine and epidemiological studies: the Potential. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [シンポジウム]
- 006 *Koyanagi Y, Nakatochi M, Matsuo K*: Genotype-stratified GWAS: an alternative approach uncovering novel genetic architecture. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 007 *Koyanagi Y*: Elucidating mechanisms underlying an association between alcohol consumption and cancer: mediation analysis on genetic variants in alcohol-metabolizing enzymes. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 008 *Yamagiwa Y, Tanaka K, Matsuo K, Wada K, Lin Y, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Takimoto H, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Tanaka S, Inoue M*: Response to antiviral therapy for chronic hepatitis C and risk of hepatocellular carcinoma occurrence in Japan. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 009 大野慶輝, 川浦正規, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, *J-MICC Study Group*: J-MICC 研究における地理的曝露情報を組み込んだ情報基盤の構築. がん予防学術大会 2023 金沢, 2023, (金沢), [ポスター]
- 010 松尾恵太郎: 遺伝子環境要因交互作用: 遺伝的背景で環境の影響は異なる. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [シンポジウム]
- 011 伊藤秀美, 小柳友理子, 川浦正規, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 大谷隆浩, 中谷友樹, 高橋邦彦, 山口 類, 松尾恵太郎: がん罹患及び死亡と地理的剥奪指標との関連の臓器別・都市度別評価. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [口演]
- 012 藤井亮輔, 菱田朝陽, 中柝昌弘, 坪井良樹, 鈴木康司, 若井建志, 松尾恵太郎: 血圧ポリジェニックリスクスコアと循環器死亡との関連: 前向きコホート研究 J-MICC Study. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [口演]
- 013 松尾洋孝, 豊田 優, 中柝昌弘, 中山昌喜, 河村優輔, 清水聖子, 中岡博史, 若井建志, 松尾恵太郎: 臨床診断された痛風患者のみによる病型分類別のゲノムワイド関連解析と遺伝率. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [口演]
- 014 宮川尚子, 高嶋直敬, 原田亜紀子, 門田 文, 近藤慶子, 中村保幸, 三浦克之, 上島弘嗣, 今枝奈保美, 後藤千穂, 喜多義邦, 若井建志, 松尾恵太郎: 日本人における乳製品摂取と総死亡, がんおよび循環器疾患死亡リスクの関連: J-MICC 研究. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [口演]
- 015 田村高志, 加藤泰文, 玉田雄大, 久保陽子, 岡田理恵子, 永吉真子, 菱田朝陽, 若井建志, 松尾恵太郎: 非喫煙者における受動喫煙と高血圧症との関連—縦断研究: 日本多施設共同コホート研究 (J-MICC Study). 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [ポスター]
- 016 岡田 尚, 若井建志, 玉田雄大, 加藤泰文, 久保陽子, 岡田理恵子, 永吉真子, 田村高志, 菱田朝陽, 中柝昌弘, 桃沢幸秀, 井本逸勢, 松尾恵太郎: 日本人におけるエストロゲン関連遺伝子多型と乳がんリスクとの関連: J-MICC 研究. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [ポスター]
- 017 谷山祐香里, 古橋真由, 川浦正規, 小柳友理子, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 地理的な社会経済的状況は喫煙を介してがん死亡に影響するか: 媒介分析による評価. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [ポスター]
- 018 山田知子, 原田亜紀子, 門田 文, 岡見雪子, 宮川尚子, 三浦克之, 上島弘嗣, 高嶋直敬, 喜多義邦, 若井建志, 松尾恵太郎: 日本人における主食摂取パターンと総死亡および循環器疾患死亡リスクとの関連: J-MICC 研究. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [ポスター]
- 019 小柳友理子, 中柝昌弘, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 成田 暁, 櫻井美佳, 若井建志, *J-MICC Study Group*, 岩崎 基, 松尾恵太郎: 遺伝子間交互作用を考慮すると

ポリジェニックリスクスコアによる表現型の予測能は向上する. 第34回日本疫学会学術総会, 2023, (大津), [ポスター]

路の解析. 日本がん分子標的治療学会第19回トランスレーショナルリサーチワークショップ, 2024, (東京), [ワークショップ]

## がん病態生理学分野

- 001 **Aoki M**: The landscape of systemic metabolic alterations in cancer cachexia. 7th Cancer Cachexia Conference, 2023, (Edinburgh), [ポスター]
- 002 **青木正博**: がん悪液質における全身性代謝異常のランドスケープ. 第10回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会, 2023, (名古屋), [口演]
- 003 **青木正博, 曾我朋義, 小島 康**: がん悪液質における全身性代謝異常の解析. 第9回がんと代謝研究会, 2023, (松山), [ポスター]
- 004 **青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章**: cAMP/PKA/CREB 経路は大腸がんの幹細胞性と転移能を正に制御する. 第27回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2023, (佐賀), [ワークショップ]
- 005 **青木正博**: がんフレイル・ロコモ. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2023, (福岡), [シンポジウム]
- 006 **青木正博, 藤下晃章, 武藤 誠**: cAMP/PKA/CREB 経路と TGF $\beta$ /SMAD4 経路は大腸がんの幹細胞性と転移能に寄与する. 第32回がん転移学会学術集会, 2023, (仙台), [ワークショップ]
- 007 **青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章**: 大腸がんの幹細胞性, 転移能, 抗がん剤抵抗性に寄与するシグナル経路の解明. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [シンポジウム]
- 008 **藤下晃章, 三城恵美, 武藤 誠, 青木正博**: 大腸がんの転移における RhoC の役割. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 009 **小島 康, 三城恵美, 武藤 誠, 曾我朋義, 青木正博**: がん悪液質における肝臓代謝変化の特徴. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 010 **梶野リエ, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博**: MyD88 の機能制御と Wnt/ $\beta$ -catenin 経路変異との合成致死性を用いた大腸がん治療標的の探索. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 011 **牛 燕清, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博**: 大腸がん幹細胞を標的とする化合物のスクリーニング. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 012 **丹羽智香, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博**: ストレス応答タンパク ATF4 と大腸がん転移の関係. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 013 **青木正博, 曾我朋義, 小島 康**: がん悪液質のメタボローム・プロテオーム解析. 第46回日本分子生物学会年会, 2023, (神戸), [ポスター]
- 014 **青木正博, 藤下晃章, 武藤 誠**: 転移性大腸がんマウスモデルを用いた幹細胞性・転移能を制御するシグナル経

## 分子腫瘍学分野

- 001 **Sekido Y**: New biological targets for mesothelioma. iMig 2023, 2023, (Lille), [ワークショップ]
- 002 **Sato T, Akao K, Kondo-Ida L, Mishiro-Sato E, Ghani F, Mukai S, Sekido Y**: Sensitivity and resistance to TEAD inhibitor K-975 in mesothelioma cells with alterations in Hippo pathway-related genes. 9th International Conference on Hippo Signalling in Development, Disease and New Therapies, 2023, (Biopolis), [ポスター]
- 003 **Hirai S, Yamada T, Katayama Y, Sekido Y, Takayama K**: Effect of combinational targeted therapy for AXL and ATR against malignant mesothelioma cells. ESMO Asia Congress 2023, 2023, (Singapore), [ポスター]
- 004 **関戸好孝**: 悪性中皮腫のゲノム・細胞生物学的理解. 第112回日本病理学会総会, 2023, (下関), [ワークショップ]
- 005 **平井聡一, 片山勇輝, 堀中真野, 酒井敏行, 関戸好孝, 山田忠明**: 悪性胸膜中皮腫における ATR 阻害薬と AXL 阻害薬併用治療の検討. 第27回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2023, (佐賀), [ワークショップ]
- 006 **向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 廣島健三, 関戸好孝**: Hippo シグナル系が破綻した中皮腫細胞は過剰な O-GlcNAc 修飾が引き起こされ, 核輸送能の亢進による悪性化を引き起こす. 第4回日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2023, (長崎), [口演]
- 007 **加納圭子, 佐藤伸哉, 佐藤龍洋, 三城恵美**: 水素をキャリアガスとして用いた GC/MS によるがん細胞のメタボローム解析. 第48回日本医用マススペクトル学会年会, 2023, (名古屋), [ポスター]
- 008 **稲見陽香, 鈴木浩也, 丹下将希, 紅 朋浩, 金田典雄, 前田 徹, 三井田 孝, 村上浩士, 門松健治, 関戸好孝, 村上(渡並)優子**: BAP1 変異悪性中皮腫細胞において, CHK2 の発現抑制により細胞増殖が抑制される. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 009 **鈴木浩也, 小林輝星, 紅 朋浩, 金田典雄, 前田 徹, 三井田 孝, 村上浩士, 門松健治, 関戸好孝, 村上(渡並)優子**: BAP1 変異悪性中皮腫細胞において, USP1 の発現抑制により細胞増殖が抑制される. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 010 **向井智美**: 核と細胞質を繋ぐ核膜孔と様々な生命現象. 第96回日本生化学会大会, 2023, (福岡), [シンポジウム]
- 011 **向井智美, 佐藤龍洋, 亀井保博, 加藤 輝, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 廣島健三, 関戸好孝**: スクレオボリンの O-GlcNAc 修飾異常を介した腫瘍進展メカニズム

の解明. 第46回日本分子生物学会年会, 2023, (神戸), [ポスター]

- 012 坂口夏菜, 大手 聡, 佐藤龍洋, 大城太一: 真菌 *Paramyrtetium* sp. BF-1049 株が生産する新規抗悪性中皮腫活性物質に関する研究. 日本薬学会第144年会, 2023, (横浜), [ポスター]

## システム解析学分野

- 001 *Ogasawara A, Matsushita H, Tuan Zea Tan, Shintani D, Jieru Ye, Nagao S, Kobayashi Y, Kakimi K, Yamaguchi R, Yamamoto K, Fujiwara K, Ruby Yun-Ju Huang, David Shao Peng Tan, Hasegawa K*: Analyses of tumor microenvironment affecting the survival in patients with ovarian cancer receiving intraperitoneal chemotherapy: Translational research from the phase 3 trial of intraperitoneal therapy for ovarian cancer with carboplatin (TRiPocc). 2023 ASCO Annual Meeting, 2023, (Chicago), [ポスター]
- 002 武藤 理, 山口 類: 時系列 RNA-seq と PINN による mRNA ライフサイクルにおける転写及び転写後調節ダイナミクスの推論. 第5回日本メディカルAI学会学術集会, 2023, (東京), [口頭]
- 003 *Yamaguchi R*: Development of a Bayesian Protein Design Method for Immune Receptors. 上原国際シンポジウム (The Uehara International Symposium), 2023, (東京), [招待講演]
- 004 山口 類, 鎌塚八千代, 笠島理加, 井元清哉, 熱田由子, 高橋 聡: 臍帯血特異的合併症: 臍帯血移植後特異的合併症の軽減を目指した造血/免疫再構築に関する予測. 2023 年度第1回造血細胞移植合同班会議, 2023, (Web), [口頭]
- 005 *Yamaguchi R*: Detection of differentially regulated systems behind personalized omics profiling data. Japan-US Collaboration Week, 2023, (Stanford), [招待講演]
- 006 足立雄太, 新津宏明, 山口 類, 衣斐寛倫: KRASG12C 阻害薬の適応耐性の克服. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (神奈川), [口頭]
- 007 山口貴世志, 中川沙弥, 大河原悠哉, 高根希世子, 池上恒雄, 秦 裕子, 尾山大明, 長門石 暁, 津本浩平, 愛甲 丞, 志田 大, 山口 類, 宮野 悟, 井元清哉, 古川洋一: 大腸がんにおける TIP60 複合体構成因子 BRD8 の制御と機能. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (神奈川), [口頭]
- 008 阿部雄一, 磯村久徳, 周 爽, 梶野泰祐, 山口 類, 細田和貴, 原 和生, 田口 歩: プロテオゲノミクスによる新規イムノグロブリン結合隣癌抗原の探索同定. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (神奈川), [口頭]
- 009 周 爽, 阿部雄一, 梶野泰祐, 磯村久徳, 山口 類, 石上雅敏, 藤城光弘, 田口 歩: マウス肝癌細胞を用いた

チロシンキナーゼ阻害薬耐性メカニズムの機能的スクリーニング. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (神奈川), [ポスター]

- 010 笠島理加, 清水英悟, 廣島幸彦, 片山琴絵, 山口 類, 山口貴世志, 古川洋一, 宮野 悟, 井元清哉, 佐藤慎哉, 横瀬智之, 宮城洋平: RNAseq の品質—リボスクレア—による RNA の分解—. 第82回日本癌学会学術総会, 2023, (神奈川), [ポスター]
- 011 *Shibuki T, Mizuno N, Kobayashi N, Hirano H, Tsuchikawa T, Matsumoto S, Okuyama H, Sasaki E, Shinjo K, Yamaguchi R, Kawata T, Hosoda W*: Molecular characterization of rectal neuroendocrine tumors (NETs) with unfavorable prognosis by multiomics analysis: A multicenter retrospective cohort study (GARNET). ESMO 2023, 2023, (Madrid), [口頭]
- 012 *Z.Guo, Muto O, Fukushima Y, Demachi-Okamura A, Ota M, Yoshida R, Matsushita H, Yamaguchi R*: A multimodal framework combining sequence and topological features for accurate protein-protein binding affinity prediction. GIW ISCB-ASIA 2023, 2023, (Singapore), [口頭]
- 013 山口 類: 免疫受容体機能改変に向けた機械学習法の開発. Symposium on Computational Disease Systems Biology, 2024, (東京), [招待講演]
- 014 山口 類: タンパク質結合能予測のためのマルチモーダル機械学習モデルの開発. 統計科学・機械学習・情報数学の最前線, 2024, (仙台), [特別講演]
- 015 山口 類: マルチモーダル機械学習を用いたたんぱく質結合能予測モデルの開発. 医薬基盤研究所セミナー, 2024, (大阪), [招待講演]
- 016 武藤 理: Inference of gene regulation dynamics in the mRNA life cycle by Physics-Informed Neural Networks. Machine Learning Summer School, 2024, (沖縄), [ポスター]

## 腫瘍制御学分野

- 001 小根山千歳: がん細胞におけるエクソソーム産生亢進機構とその意義. 山口大学医学研究科セミナー, 2023, (宇部), [シンポジウム]

## 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 杉田裕介, 松下博和, 福嶋恭啓, 松井琢哉, 小室裕康, 篠原周一, 橋本佳奈, 高橋祐介, 岡村文子, 村岡大輔, 岸 裕幸, 田中雄希, 尾上広祐, 小野口和英, 山下慶子, 黒田浩章, 堀尾芳嗣, 大久保憲一: 肺癌悪性胸水における腫瘍特異的 CD8+T 細胞とネオアンチゲンの同定. 第64回日本肺癌学会学術集会, 2023, (千葉), [ポスター]
- 002 杉田裕介, 松下博和, 福嶋恭啓, 松井琢哉, 小室裕康,

- 篠原周一, 橋本佳奈, 高橋祐介, 岡村文子, 村岡大輔, 岸 裕幸, 田中雄希, 尾上広祐, 小野口和英, 山下慶子, 黒田浩章, 堀尾芳嗣, 大久保憲一: 肺癌悪性胸水患者の抗原特異的免疫応答の検討. 第 27 回日本がん免疫学会総会, 2023, (三重), [口演]
- 003 杉田裕介, 松下博和, 福嶋恭啓, 松井琢哉, 小室裕康, 篠原周一, 橋本佳奈, 高橋祐介, 岡村文子, 村岡大輔, 山下慶子, 黒田浩章, 堀尾芳嗣, 大久保憲一: 肺癌悪性胸水における腫瘍特異的 CD8+T 細胞とネオアンチゲンの同定. 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2023, (新潟), [ポスター]
- 004 福嶋恭啓, 小室裕康, 矢田友紀, 宮本祐作, 山本裕崇, 白橋幸洋, 篠原周一, 杉田祐介, 松井琢哉, 小笠原仁子, 高橋裕介, 岡村文子, 村岡大輔, 福山 隆, 岸 裕幸, 黒田浩章, 松下博和, 岩田 尚: 遺伝子改変によるがん抗原特異的な高親和性 T 細胞受容体の同定. 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2023, (新潟), [口演]
- 005 福嶋恭啓, 小室裕康, 白橋幸洋, 篠原周一, 杉田裕介, 松井琢哉, 高橋祐介, 岡村文子, 村岡大輔, 福山 隆, 黒田浩章, 松下博和, 岩田 尚: 遺伝子改変によるがん抗原特異的な高親和性 T 細胞受容体の特定. 第 64 回日本肺癌学会学術集会, 2023, (千葉), [口演]
- 006 水田 亮, 村岡大輔, 岡村文子, 岡本貴成, 野平翔太, 大谷理浩, 石田稔治, 藤井謙太郎, 伊達 勲, 松下博和: 三次リンパ様構造 (TLS) の形成に着目した膠芽腫の組織学的解析およびゲノム解析. 第 82 回日本脳神経外科学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]
- 007 水田 亮, 村岡大輔, 岡村文子, 岡本貴成, 野平翔太, 大谷理浩, 石田稔治, 藤井謙太郎, 伊達 勲, 松下博和: 三次リンパ様構造 (TLS) の形成に着目した膠芽腫の空間解析およびゲノム解析. 第 41 回日本脳腫瘍学会学術総会, 2023, (新潟), [ポスター]
- 008 石原宏政, 柴田博史, 岡村文子, 村岡大輔, 寺田星乃, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広, 小川武則, 松下博和: 中咽頭癌における腫瘍微小環境の解析. 第 70 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会中部地方部会連合会, 2023, (静岡), [口演]
- 009 松井琢哉, 松下博和, 山口 類, 篠原周一, 杉田裕介, 鈴木あゆみ, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章, 高野崇継, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕: ヒト白血球型抗原 (Human Leukocyte Antigen) 遺伝子解析を用いた非小細胞肺癌の術後再発予測. 第 123 回日本外科学会定期学術集会, 2023, (東京), [一般口演]
- 010 松井琢哉, 岩清水寿徳, 則竹 統, 瀬戸克年, 坂倉範昭, 福嶋恭啓, 小笠原仁子, 岡村文子, 村岡大輔, 松下博和, 山口 類, 高野崇継, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕: HLA 遺伝子解析とネオ抗原予測による非小細胞肺癌の再発リスク評価. 第 124 回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2024, (愛知), [一般口演]
- 011 陳 浩, 木村実茂, *Carolyn Barakat*, 西尾信博, 佐藤由英, 鈴木 哲, 岡村文子, 高橋義行, 赤塚美樹: PiggyBac トランスポゾンを用いた TCR-T 細胞調整条件

- の検討. 第 27 回日本がん免疫学会, 2024, (三重), [口演]
- 012 野平翔太, 大野真佐輔, 松下博和: 肺がん原発性転移性脳腫瘍における三次リンパ構造とその臨床的経過の関連性について. 第 27 回日本バイオ治療法学会学術集会, 2023, (福岡), [口演]
- 013 野平翔太, 大野真佐輔, 松下博和: 消化器がん原発性転移性脳腫瘍における免疫微小環境と臨床的経過に関して. 第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会, 2023, (新潟), [ポスター発表]

## 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Mori H, Isomura H, Zhou S, Kajino T, Abe Y, Kinoshita T, Natsume S, Sato Y, Ouchi A, Miyake T, Hosoda W, Komori K, Shimizu Y, Tani M, Taguchi A*: Molecular characterization of mouse colorectal cancer cell lines with high potential of peritoneal metastasis. The 114th AACR Annual Meeting, 2023, (Orlando), [ポスター]
- 002 *Tai MC, Bantis L, Parhy G, Kato T, Tanaka I, Chow CW, Fujimoto J, Behrens C, Hase T, Kawaguchi K, Fahrman J, Ostrin E, Yokoi K, Chen-Yoshikawa T, Hasegawa Y, Hanash S, Wistuba I, Taguchi A*: A circulating microRNA panel predicts recurrence and survival in early-stage lung adenocarcinoma. The 114th AACR Annual Meeting, 2023, (Orlando), [ポスター]
- 003 *Taguchi A*: In-depth Plasma Proteomics for Cancer Biomarker Discovery. 22nd Human Proteome Organization (HUPO) World Congress, 2023, (Busan), [基調講演]
- 004 *Abe Y, Isomura H, Zhou S, Taguchi A*: Temporal omics profiling using a mouse model of nonalcoholic steatohepatitis-associated hepatocellular carcinoma. 22nd Human Proteome Organization (HUPO) World Congress, 2023, (Busan), [ポスター]
- 005 阿部雄一, 磯村久徳, 田口 歩: 免疫グロブリン結合抗原の高深度プロテオーム解析による新規がんバイオマーカー探索, 日本プロテオーム学会 2023 年大会, 2023, (新潟), [口演]
- 006 田口 歩: がん早期診断に「光」を!, 第 10 回光科学異分野横断萌芽研究会, 2023, (小田原), [チュートリアル講演]
- 007 *Taguchi A*: In-depth proteomics to decipher the complexity of the blood cancer proteome. 第 82 回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 008 *Taguchi A, Zhou S, Abe Y, Kajino T, Isomura H*: Systems-approach based molecular profiling of mouse models for translational cancer research. 第 82 回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]
- 009 *Aba Y, Isomura H, Zhou S, Kajino T, Yamaguchi R,*

**Hosoda W, Hara K, Taguchi A** : A proteogenomic approach for identification of novel IgG-bound antigens in pancreatic cancer. 第 82 回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [口演]

010 **Isomura H, Mori H, Kajino T, Miyake T, Hosoda W, Komori K, Tani M, Taguchi A** : Multi-omics analysis of mouse colorectal cancer cell lines with high potential of peritoneal dissemination. 第 82 回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]

011 **Zhou S, Abe Y, Kajino T, Isomura H, Yamaguchi R, Ishigami M, Fujishiro M, Taguchi A** : Characterization of mouse hepatocellular carcinoma cell lines to understand resistance to tyrosine kinase inhibitors. 第 82 回日本癌学会学術総会, 2023, (横浜), [ポスター]

## がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

001 **Ebi H** : Role of protein localization in the resistance mechanism to oncogene addicted cancer including RAS. 第 82 回日本癌学会学術総会, シンポジウム 21, 2023, (横浜), [口演]

002 **Ebi H, Yamaguchi R** : Multi-omic analyses to determine molecular characteristics of colorectal cancer. Human Genetics Asia 2023, シンポジウム 6, 2023, (東京), [口演]

003 **Ebi H** : Genetic and non-genetic mechanisms of resistance to KRAS inhibitors. The 27th Japanese Foundation for Cancer Research International Symposium on Cancer Chemotherapy, 2023, (東京), [口演]

004 **Ebi H** : Tumor-agonistic and organ-specific aspects of BRAF mutant cancers. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, シンポジウム 3 Tumor agnostic drug discovery and development, 2024, (名古屋), [口演]

005 **Ebi H** : Translational research targeting RAS/RAF mutant cancers. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 合同シンポジウム 2 (日本癌学会/日本癌治療学会/日本臨床腫瘍学会), The forefront of translational researches in Japan, 2024, (名古屋), [口演]



## 4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

### 病院長

- 001 *Hosono N, Chi S, Yamauchi T, Fukushima K, Shibayama H, Katagiri S, Gotoh A, Eguchi M, Morishita T, Ogasawara R, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kobayashi T, Kuroda J, Usuki K, Utsu Y, Yoshimitsu M, Ishitsuka K, Ono T, Takahashi N, Iyama S, Kojima K, Nakamura Y, Fukuhara S, Izutsu K, Abutani H, Yamauchi N, Yuda J, Minami Y* : All HM-SCREEN-Japan 01 Investigators.: Clinical utility of genomic profiling of AML using paraffin-embedded bone marrow clots: HM-SCREEN-Japan 01. *Cancer Sci*, 114: 2098-2108, 2023.
- 002 *Asada N, Ando J, Takada S, Yoshida C, Usuki K, Shinagawa A, Ishizawa K, Miyamoto T, Iida H, Dobashi N, Okubo S, Honda H, Soshin T, Nishimura Y, Tsutsui A, Mukai H, Yamamoto K* : Venetoclax plus low-dose cytarabine in patients with newly diagnosed acute myeloid leukemia ineligible for intensive chemotherapy: an expanded access study in Japan. *Jpn J Clin Oncol*, 53: 595-603, 2023.
- 003 *Kim WS, Fukuhara N, Yoon DH, Yamamoto K, Uchida T, Negoro E, Izutsu K, Terui Y, Nakajima H, Ando K, Suehiro Y, Kang HJ, Ko PS, Nagahama F, Sonehara Y, Nagai H, Tien HF, Kwong YL, Tobinai K* : Darinaparsin in Patients with Relapsed or Refractory Peripheral T-Cell Lymphoma: Results of an Asian Phase 2 Study. *Blood Adv*, 7: 4903-4912, 2023.
- 004 *Munakata W, Ando K, Yokoyama M, Fukuhara N, Yamamoto K, Fukuhara S, Ohmachi K, Mishima Y, Ichikawa S, Ogiya D, Aoi A, Hatsumichi M, Tobinai K* : Long-term safety profile of tirabrutinib: final results of a Japanese Phase I study in patients with relapsed or refractory B-cell malignancies. *Int J Hematol*, 117: 553-562, 2023.
- 005 *Suzuki T, Maruyama D, Machida R, Kataoka T, Fukushima N, Takayama N, Ohba R, Omachi K, Imaizumi Y, Tokunaga M, Katsuya H, Yoshida I, Sunami K, Kurosawa M, Kubota N, Morimoto H, Kobayashi M, Yamamoto K, Kameoka Y, Kagami Y, Tabayashi T, Maruta M, Kobayashi T, Iida S, Nagai H* : Prognostic impact of the UK Myeloma Research Alliance Risk Profile in transplant-ineligible patients with multiple myeloma who received a melphalan, prednisolone, and bortezomib regimen: A supplementary analysis of JCOG1105. *Hematol Oncol*, 41: 590-593, 2023.
- 006 *Ueda N, Kato H, Kato S, Saito T, Tachibana H, Yanada M, Taji H, Kodaira T, Hosoda W, Yamamoto K* : Brentuximab vedotin plus AVD followed by involved-node radiotherapy in a patient with classic Hodgkin lymphoma following gray zone lymphoma after autologous stem-cell transplantation failure. *Hematology*, 28: 2207946, PMID: 37183912, 2023.
- 007 *Ogura M, Yamamoto K, Morishima Y, Wakabayashi M, Tobinai K, Ando K, Uike N, Kurosawa M, Gomyo H, Taniwaki M, Nosaka K, Tsukamoto N, Shimoyama T, Fukuhara N, Yakushijin Y, Ohnishi K, Miyazaki K, Kameoka Y, Takayama N, Hanamura I, Kobayashi H, Usuki K, Kobayashi N, Ohyashiki K, Utsumi T, Kumagai K, Maruyama D, Ohmachi K, Matsuno Y, Nakamura S, Hotta T, Tsukasaki K, Nagai H* : Long-term follow-up after R-High CHOP/CHASER/LEED with Auto-PBSCT in untreated mantle cell lymphoma-Final analysis of JCOG0406. *Cancer Sci*, 114: 3461-3465, 2023.
- 008 *Negoro E, Yamauchi T, Fukuhara N, Yamamoto K, Uchida T, Izutsu K, Maruyama D, Terui Y, Nakajima H, Ando K, Suehiro Y, Choi I, Kanemura N, Nakamura N, Yamamoto G, Maeda Y, Shibayama H, Nagahama F, Sonehara Y, Nagai H, Tien HF, Kwong YL, Kim WS, Tobinai K* : Japanese subgroup analysis in the Asian phase II study of darinaparsin in patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. *J Clin Exp Hematop*, 63: 108-120, 2023.
- 009 *Izutsu K, Yamamoto K, Kato K, Ishikawa T, Fukuhara N, Terui Y, Choi I, Okubo S, Ogawa N, Sakai M, Nishimura Y, Chyla B, Sun Y, Maruyama D* : Measurable residual disease in Japanese patients with relapsed or refractory chronic lymphocytic leukemia treated with venetoclax. *Int J Hematol*, 18: 526-528, 2023.
- 010 *Mizuoka T, Sakamaki H, Fuji S, Saito S, Murata T, Ohno S, Inubashiri N, Oshima T, Yamamoto K* : Cost-effectiveness of combination therapy of polatuzumab vedotin plus rituximab, cyclophosphamide, doxorubicin, and prednisolone for previously untreated diffuse large B-cell lymphoma in Japan. *J Med Econ*, 26: 1122-1133, 2023.
- 011 *Izutsu K, Kumode T, Yuda J, Nagai H, Mishima Y, Suehiro Y, Yamamoto K, Fujisaki T, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ikezoe T, Nishikori M, Akahane D, Fujita J, Dinh M, Soong D, Noguchi H, Buchbjerg JK, Favaro E, Fukuhara N* : Subcutaneous epcoritamab monotherapy in Japanese adults with relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma. *Cancer Sci*, 114: 4643-4653, 2023.
- 012 *Watanabe T, Tobinai K, Wakabayashi M,*

*Maruyama D, Yamamoto K, Kubota N, Shimada K, Asagoe K, Yamaguchi M, Ando K, Ogura M, Kuroda J, Suehiro Y, Matsuno Y, Tsukasaki K, Nagai H* : R-CHOP treatment for patients with advanced follicular lymphoma: Over 15-year follow-up of JCOG0203. *Br J Haematol*, 204: 849-860, 2024.

- 013 宮本敏浩, 山本一仁, 吉田近思, 山内高弘 : 急性骨髄性白血病に対するベネトクラクス治療マネジメント. *血液内科* 86 : Page151-162, 2023. (令和4掲載漏れ)
- 014 山本一仁 : 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. *日本医事新報*, 5175 : 35-37, 2023.

## 消化器内科

- 001 *Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T* : Forward viewing liner echoendoscopy for therapeutic interventions. *Clin Endosc*, 57(2): 157-180, 2023.
- 002 *Hara K, Okuno N, Haba S* : [EUS-guided biliary drainage: past and future prospects]. *Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi*, 121(4): 287-295, 2024.
- 003 *Kin T, Shimizu Y, Hijioka S, Hara K, Katanuma A, Nakamura M, Yamada R, Itoi T, Ueki T, Masamune A, Hirono S, Koshita S, Hanada K, Kamata K, Yanagisawa A, Takeyama Y* : A comparative study between computed tomography and endoscopic ultrasound in the detection of a mural nodule in intraductal papillary mucinous neoplasm -Multicenter observational study in Japan. *Pancreatol*, 23(5): 550-555, 2023.
- 004 *Sadek A, Hara K, Okuno N* : Endoscopic ultrasonography-guided trans-afferent loop drainage of liver abscess using forward-viewing echoendoscope. *Dig Endosc*, 35(7), e136-e137, 2023.
- 005 *Nagayama R, Ueki T, Shimizu Y, Hijioka S, Nakamura M, Kitano M, Hara K, Masamune A, Kin T, Hanada K, Koshita S, Yamada R, Takenaka M, Itoi T, Yanagisawa A, Otuka T, Hirono S, Kanno A, Ideno N, Kuwahara T, Shimizu A, Kamata K, Asai Y, Takeyama Y* : Is preoperative pancreatic juice cytology useful for determining therapeutic strategies for patients with intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas?. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 31(3): 183-192, 2024.
- 006 *Kuraishi Y, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Okuno N* : EUS-guided pancreaticojejunostomy under gel immersion for pancreaticojejunal anastomotic stricture (with video). *Endosc Ultrasound*, 13(1): 46-48, 2024.
- 007 *Bakr A, Hara K, Elshair M, Haba S, Kuwahara T, Okuno N, Fumihara D, Yanaidani T, Zaky S, Omar H* : Utility of forward-view endoscopic ultrasound in fine-needle aspiration in patients with a surgically altered upper gastrointestinal anatomy. *Clin Endosc*, 56(3): 367-374, 2023.
- 008 *Elshair M, Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Bakr A, Elshafei A, Abu-Amer MZ* : Endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy by puncturing both B2 and B3: a single center experience. *Clin Endosc*, doi: 10.5946/ce.2022.209, 2023.
- 009 *Kuraishi Y, Hara K, Haba S* : Endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy using a fully covered metallic stent with self-made multiple side holes for prevention of branch duct occlusion. *Dig Endosc*, 35(5): e78-e79, 2023.
- 010 *Ishikawa S, Hara K, Okuno N, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Yanaidani T, Yamada M, Yasuda T, Fukui T, Kumagi T, Hiasa Y* : Safety and efficacy of novel oblique-viewing scope for B2-endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. *Clin Endosc*, doi: 10.5946/ce.2023.129, 2024.
- 011 *Hara K, Abe S, Oda I, Kato M, Nebiki H, Mikami T, Miyazaki M, Matsunaga K, Hosono M, Nishida T, REX - GI Study Group* : A follow-up questionnaire survey 2022 on radiation protection among 464 medical staff from 34 endoscopy-fluoroscopy departments in Japan. *DEN Open*, 3(1): e227, 2023.
- 012 *Kuraishi Y, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Okuno N, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Fukui T, Mizuno N* : Diagnostic performance and safety of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration/biopsy for gallbladder lesions. *Dig Endosc*, 36(2): 206-214, 2024.
- 013 *Kuraishi Y, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Okuno N, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Mizuno N* : Safety and feasibility of opening window fistulotomy as a new precutting technique for primary biliary access in endoscopic retrograde cholangiopancreatography. *Clin Endosc*, 56(4): 490-498, 2023.
- 014 *Yasuda T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Okuno N, Kuraishi Y, Yanaidani T, Ishikawa S, Yamada M, Fukui T* : Safety of endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy in patients with malignant biliary obstruction and ascites. *Clin Endosc*, 57(2): 246-252, 2024.
- 015 *Mizuno N, Ioka T, Ogawa G, Nakamura S, Hiraoka N, Ito Y, Katayama H, Takada R, Kobayashi S, Ikeda M, Miwa H, Okano N, Kuramochi H, Sekimoto M, Okusaka T, Ozaka M, Todaka A, Gotoh K, Tobimatsu K, Yamaguchi H, Nakagohri T, Kajiura S, Sudo K, Okamura K, Shimizu S, Shirakawa H, Kato N, Sano K, Iwai T, Fujimori N, Ueno M, Ishii H, Furuse J* : Effect of systemic

- inflammatory response on induction chemotherapy followed by chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer: an exploratory subgroup analysis on systemic inflammatory response in JCOG1106. *Jpn J Clin Oncol*, 53(8): 704-713, 2023.
- 016 **Fujiwara Y, Kuboki Y, Furukawa M, Mizuno N, Hara H, Ioka T, Ueno M, Takahashi Y, Takahashi S, Takeuchi S, Lihou C, J Tao, Tian C, Shimizu T**: FIGHT-102: A phase 1 study of pemigatinib in Japanese patients with advanced malignancies. *Cancer Med*, 12(9): 10597-10611, 2023.
- 017 **Nakamura Y, Mizuno N, Sunakawa Y, Canon JL, Galsky MD, Hamilton E, Hayashi H, Jerusalem G, Kim ST, Lee KW, Kankeu Fonkoua LA, Monk BJ, Nguyen D, Oh DY, Okines A, O'Malley DM, Pohlmann P, Reck M, Shin SJ, Sudo K, Takahashi S, Van Marcke C, Yu EY, Groisberg R, Ramos J, Tan S, Stinchcombe TE, Bekaii-Saab T**: Tucatinib and Trastuzumab for Previously Treated Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Positive Metastatic Biliary Tract Cancer (SGNTUC-019): A Phase II Basket Study. *J Clin Oncol*, 41(36): 5569-5578, 2023.
- 018 **Imaoka H, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Okusaka T, Ozaka M, Shimizu S, Yamazaki K, Okano N, Sugimori K, Shirakawa H, Mizuno N, Satoi S, Yamaguchi H, Sugimoto R, Gotoh K, Sano K, Asagi A, Nakamura K, Ueno M**: Development of a nomogram to predict survival in advanced biliary tract cancer. *Sci Rep*, 13(1): 21548, 2023.
- 019 **Okusaka T, Nakamura M, Yoshida M, Kitano M, Ito Y, Mizuno N, Hanada K, Ozaka M, Morizane C, Takeyama Y, Committee for Revision of Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer of the Japan Pancreas S**: Clinical Practice Guidelines for Pancreatic Cancer 2022 from the Japan Pancreas Society: a synopsis. *Int J Clin Oncol*, 28(4): 493-511, 2023.
- 020 **Taniguchi H, Masuishi T, Ogata T, Ando M, Mizuno N, Muro K**: First experience of a fully decentralized clinical trial: The dawn of a new era in oncology. *Cancer Sci*, 114(7): 3050-3052, 2023.
- 021 **Todaka A, Sasaki M, Ueno H, Goto T, Murohisa G, Mizuno N, Ozaka M, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Nanami S, Boku N**: FOLFIRINOX in Pancreatic Cancer: Risk Factors for Febrile Neutropenia and Severe Neutropenia - Nationwide Study Analysis. *Anticancer Res*, 43(9): 4115-4123, 2023.
- 022 **Umemoto K, Sunakawa Y, Ueno M, Furukawa M, Mizuno N, Sudo K, Kawamoto Y, Kajiwara T, Ohtsubo K, Okano N, Matsushashi N, Itoh S, Matsumoto T, Shimizu S, Otsuru T, Hasegawa H, Okuyama H, Ohama H, Moriwaki T, Ohta T, Odegaard JI, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T, Ikeda M, Morizane C**: Clinical significance of circulating-tumour DNA analysis by metastatic sites in pancreatic cancer. *Br J Cancer*, 128(8): 1603-1608, 2023.
- 023 **Okano N, Morizane C, Okusaka T, Sadachi R, Kataoka T, Kobayashi S, Ikeda M, Ozaka M, Mizutani T, Sugimori K, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Yamamoto T, Sano K, Tobimatsu K, Katanuma A, Gotoh K, Yamaguchi H, Ishii H, Ohba A, Furuse J, Ueno M**: Early Tumor Shrinkage and Depth of Response as Predictors of Survival for Advanced Biliary Tract Cancer: An Exploratory Analysis of JCOG1113. *Oncologist*, 29(1): e97-e107, 2024.
- 024 **Ohno E, Balduzzi A, Hijioka S, De Pastena M, Marchegiani G, Kato H, Takenaka M, Haba S, Salvia R**: Association of high-risk stigmata and worrisome features with advanced neoplasia in intraductal papillary mucinous neoplasms (IPMN): A systematic review. *Pancreatol*, 24(1): 48-61, 2024.
- 025 **Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Okuno N, Fukui T, Urata M, Yamamoto Y**: Current status of artificial intelligence analysis for the treatment of pancreaticobiliary diseases using endoscopic ultrasonography and endoscopic retrograde cholangiopancreatography. *DEN open*, 4(1): e267, 2023.
- 026 **Imaoka H, Ikeda M, Umemoto K, Sunakawa Y, Ueno M, Ueno H, Ozaka M, Kuwahara T, Okano N, Kanai M, Hisano T, Suzuki Y, Asagi A, Shioji H, Todaka A, Tsuji K, Ikezawa K, Miki I, Komatsu Y, Akutsu N, Yamashita T, Okuyama H, Furuse J, Nagano H**: Comprehensive review of undifferentiated carcinoma of the pancreas: from epidemiology to treatment. *Jpn J Clin Oncol*, 53(9): 764-773, 2023.
- 027 **Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Okuno N, Kuraishi Y, Fumihara D, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Onishi S, Yamada K, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Yamaguchi R, Shimizu Y**: Artificial intelligence using deep learning analysis of endoscopic ultrasonography images for the differential diagnosis of pancreatic masses. *Endoscopy*, 55(2): 140-149, 2023.
- 028 **Imaoka H, Ikeda M, Umemoto K, Sunakawa Y, Ueno M, Ueno H, Ozaka M, Kuwahara T, Okano N, Kanai M, Hisano T, Suzuki Y, Asagi A, Shioji K, Todaka A, Tsuji K, Ikezawa K, Miki I, Komatsu Y, Akutsu N, Yamashita T, Okuyama H, Furuse J, Nagano H**: 膵臓の未分化癌に関する包括的レビュー - 疫学から治療まで (Comprehensive review of undifferentiated carcinoma of the pancreas: from epidemiology to treatment). *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 53(9): 764-773, 2023.
- 029 **Okuno N, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y,**

- Yanaidani T*: Gel immersion radial incision and cutting for pancreaticojejunostomy anastomotic stricture. *Endoscopy*, 55(S 01): 696-697, 2023.
- 030 *Okuno N, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Fukui T, Urata M, Yamamoto Y, Kondo T*: The New potential for Using Franseen Needles in Interventional EUS. *Intern Med*, doi: 10.2169/internalmedicine. 3207-23, 2024.
- 031 *Chong CC, Pittayanon R, Pausawasdi N, Bhatia V, Okuno N, Tang RS, Cheng TY, Kuo YT, Oh D, Song TJ, Kim TH, Hara K, Chan AW, Leung HHW, Yang A, Jin Z, Xu C, Lakhtakia S, Wang HP, Seo DW, Teoh AY, Ho LK, Kida M*: Consensus statements on endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition. Guidelines from the Asian Endoscopic Ultrasound Group. *Dig Endosc*, doi: 10.1111/den. 14768, 2024.
- 032 *Ishikawa S, Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Yanaidani T*: Refractory benign biliary stricture due to chronic pancreatitis in two patients treated using endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy fistula creation: case reports. *Clin Endosc*, 57(1): 122-127, 2024.
- 033 *Hattori A, Yamada R, Murabayashi T, Sugimoto S, Imai H, Nojiri K, Kuroda N, Tano S, Tanaka H, Matsusaki S, Nishikawa K, Naota H, Moritani I, Kurata K, Fukui T, Tanaka K, Nakagawa H*: The safety and efficacy of Ringer's solution loading with rectal diclofenac for prevention of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis: The RESOLUTION-PEP study. *DEN Open*, 3(1): e236, 2023.
- 034 *原 和生, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真*: 【Interventional EUS エキスパートセミナー2024】 総論 Interventional EUS の教育について. *胆と膵*, 45(3): 209-214, 2024.
- 035 *北野雅之, 吉田真誠, 蘆田玲子, 喜多絵美里, 湯沼朗生, 糸井隆夫, 三方林太郎, 西川健一郎, 松林宏行, 高山敬子, 加藤博也, 竹中 完, 植木 亨, 川瀧洋平, 中井陽介, 橋元慎一, 重川 稔, 根引浩子, 津村英隆, 岡部義信, 良沢昭銘, 原田宜幸, 美登路昭, 佐々木民人, 保田宏明, 三浦夏希, 池本哲也, 小澤栄介, 塩路和彦, 山口 厚, 奥菌 徹, 森山一郎, 久居弘幸, 藤田光一, 後藤拓磨, 白幡名香雄, 岩田恵典, 岡部純弘, 原 和生, 橋本裕輔, 桑谷将城, 伊佐山浩通, 藤森 尚, 正宗 淳, 幡丸景一, 下川敏雄, 岡崎和一, 竹山宜典, 日本膵臓学会臨床研究推進委員会*: 超音波内視鏡下組織採取後の穿刺経路腫瘍細胞播種に関する全国調査. *Gastroenterological Endoscopy*, 66(3): 312-326, 2024.
- 036 *田近正洋, 原 和生*: 内視鏡室の紹介. *Gastroenterological Endoscopy*, 65(8): 1372-1375, 2023.
- 037 *原 和生, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真*: 【神経内分泌腫瘍の新たな知見～膵・消化管神経内分泌腫瘍診療ガイドライン改訂にむけて～】 膵神経内分泌腫瘍の診療における超音波内視鏡の現況と展望. *胆と膵*, 45(1): 43-45, 2024.
- 038 *倉石康弘, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ*: 【膵嚢胞マネージメント, これ一冊】 腫瘍性嚢胞性疾患 IPMN の経過観察法と治療適応. *消化器内視鏡*, 35(7): 903-909, 2023.
- 039 *水野伸匡, 井岡達也, 上野 誠, 尾阪将人, 染谷正則, 奥坂拓志*: 【膵癌診療ガイドライン 2022 改訂のポイント】 化学療法. *膵臓*, 38(2): 127-132, 2023.
- 040 *奥坂拓志, 中村雅史, 吉田雅博, 北野雅之, 伊藤芳紀, 水野伸匡, 花田敬士, 尾阪将人, 森實千種, 竹山宜典, 膵癌診療ガイドライン改訂委員会*: 【膵癌診療ガイドライン 2022 改訂のポイント】 総論. *膵臓*, 38(2): 94-100, 2023.
- 041 *水野伸匡, 原 和生*: 【膵臓がん - 診断と治療】 膵がんの薬物療法. *ライフライン 21 がんの先進医療*, 51: 22-25, 2023.
- 042 *水野伸匡, 原 和生*: 【イラスト×写真で機能・検査・疾患・治療・ケアのギモンが解決! 解剖生理からみちびく消化器ケア Q&A108】 (5章) 膵臓の解剖生理・疾患・検査・治療・ケア 治療・ケア (Q12) 手術のできない進行した膵がんの一次化学療法について教えて!. *消化器ナーシング*, 2023 春季増刊: 194-195, 2023.
- 043 *水野伸匡, 原 和生*: 【イラスト×写真で機能・検査・疾患・治療・ケアのギモンが解決! 解剖生理からみちびく消化器ケア Q&A108】 (5章) 膵臓の解剖生理・疾患・検査・治療・ケア 治療・ケア (Q11) 手術のできる膵がん患者さんの化学療法について教えて!. *消化器ナーシング*, 2023 春季増刊: 192-193, 2023.
- 044 *桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博*: 超音波診断装置-AI 技術の新たな可能性 画像解析により最適解を目指す超音波診断支援の現況 消化器領域における超音波診断 AI の現状と展望. *新医療*, 51(2): 94-97, 2024.
- 045 *桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博*: 【AI を用いた画像診断の現況と展望】 IPMN 画像診断における AI の役割. *Bio clinica*, 39(1): 17-21, 2024.
- 046 *桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博*: 【胆膵の画像・内視鏡診断の進歩-早期診断と正確な診断のために】 胆膵疾患における AI 診断はどこまで進んだか?. *臨床消化器内科*, 38(13): 1693-1698, 2023.
- 047 *桑原崇通, 原 和生*: 【膵癌と胆道癌】 膵癌・胆道癌診療における AI 活用の展望. *Medical Practice*, 40(12): 1880-1882, 2023.
- 048 *桑原崇通, 原 和生*: 【消化器内視鏡の進歩】 内視鏡分野の人工知能 (AI). *日本医師会雑誌*, 152(10): 1096, 2024.
- 049 *奥野のぞみ, 原 和生*: 【Stenting Bible~Renewal~ステントと挿入・留置手技にこだわる!!】 Interventional EUS のコツとステントセレクション EUS-CDS のコツ

とステントセクション【動画付】. 胆と膵, 44 (臨増特大): 1081-1086, 2023.

- 050 奥野のぞみ, 原 和生, 田近正洋, 水野伸匡, 田中 努, 羽場 真, 桑原崇通, 山田啓策, 伊藤信仁, 高木暁広, 福井淑崇, 浦田美菜子, 近藤 高, 山本嘉太郎: 【上皮下発育を呈する食道病変の診断】 食道上皮下病変のEUS-FNA診断. 胃と腸, 59(3): 339-349, 2024.

## 内視鏡部

- 001 Yamamoto H, Sakamoto H, Kumagai H, Abe T, Ishiguro S, Uchida K, Kawasaki Y, Saida Y, Sano Y, Takeuchi Y, Tajika M, Nakajima T, Banno K, Funasaka Y, Hori S, Yamaguchi T, Yoshida T, Ishikawa H, Iwama T, Okazaki Y, Saito Y, Matsuura N, Mutoh M, Tomita N, Akiyama T, Yamamoto T, Ishida H, Nakayama Y: Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Peutz-Jeghers Syndrome in Children and Adults. *Digestion*, 104(5): 335-347, 2023.
- 002 Habu T, Kumanishi R, Ogata T, Fujisawa T, Mishima S, Kotani D, Kadowaki S, Nakamura M, Hojo H, Fujiwara H, Kumagai S, Koyama S, Fujita T, Kinoshita T, Nishikawa H, Yano T, Tajika M, Muro K, Mitsunaga S, Kojima T, Bando H: Complete response to definitive chemoradiotherapy in unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 20(3): 533-540, 2023.
- 003 Koyanagi YN, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, Kawaguchi T, Ikezaki H, Hishida A, Hara M, Takezaki T, Koyama T, Nakamura Y, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakamura Y, Takeuchi K, Hozawa A, Kinoshita K, Sutoh Y, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Tajika M, Shimizu Y, Suzuki E, Hosono Y, Imoto I, Tabara Y, Takahashi M, Setoh K; BioBank Japan Project; Matsuda K, Nakano S, Goto A, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Tsugane S, Wakai K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuda F, Okada Y, Iwasaki M, Brennan P, Matsuo K: Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. *Sci Adv*, 10(4): eade2780, 2024.
- 004 Ito S, Hotta K, Sekiguchi M, Takeuchi Y, Oka S, Yamamoto H, Shinmura K, Harada K, Uraoka T, Hisabe T, Sano Y, Kondo H, Horimatsu T, Kikuchi H, Kawamura T, Nagata S, Yamamoto K, Tajika M, Tsuji S, Kusaka T, Okuyama Y, Yoshida N, Moriyama T, Hasebe A, So S, Saito Y, Nakahira H, Ishikawa H, Matsuda T; C-NET STUDY Group:

Short-term outcomes of endoscopic resection for colorectal neuroendocrine tumors: Japanese multicenter prospective C-NET STUDY. *Dig Endosc*, doi: 10.1111/den.14728, 2023.

- 005 Ouchi A, Komori K, Masahiro T, Toriyama K, Kajiwara Y, Oka S, Fukunaga Y, Hotta K, Ikematsu H, Tsukamoto S, Nagata S, Yamada K, Konno M, Ishihara S, Saitoh Y, Matsuda K, Togashi K, Ishiguro M, Kuwai T, Okuyama T, Ohuchi A, Ohnuma S, Sakamoto K, Sugai T, Katsumata K, Matsushita HO, Nakai K, Uraoka T, Akimoto N, Kobayashi H, Ajioka Y, Sugihara K, Ueno H; Study Group for the JSCCR-T study: How Does Omitting Additional Surgery After Local Excision Affect the Prognostic Outcome of Patients With High-risk T1 Colorectal Cancer?. *Ann Surg*, 279(2): 290-296, 2024.
- 006 Matsubara Y, Toriyama K, Kadowaki S, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Bando H, Ando M, Tajika M, Oze I, Hosoda W, Muro K: The impact of combined PD-L1 positive score on clinical response to nivolumab in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 20(3): 524-532, 2023.
- 007 Kumanishi R, Kadowaki S, Mitani S, Matsushima T, Ogata T, Narita Y, Masuishi T, Bando H, Tajika M, Yasui H, Hara H, Muro K: Nivolumab versus irinotecan as third- or later-line treatment for advanced gastric cancer: a multi-center retrospective study. *Int J Clin Oncol*, 28(6): 756-763, 2023.
- 008 Ogata T, Narita Y, Oze I, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama H, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Bando H, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M, Muro K: Chronological improvement of survival in patients with advanced gastric cancer over 15 years. *Ther Adv Med Oncol*, doi: 10.1177/17588359241229428, 2024.
- 009 Sugimoto Y, Koyanagi YN, Kawakatsu Y, Oze I, Taniyama Y, Kasugai Y, Tanaka T, Abe T, Tajika M, Shimizu Y, Ito H, Wakai K, Matsuo K: Mediation analysis unveils a carcinogenic effect of ADH1B rs1229984 through mechanisms other than change in drinking intensity: oesophageal cancer case-control study. *Jpn J Clin Oncol*, 53(7): 581-588, 2023.
- 010 Ishikawa H, Yamada M, Sato Y, Tanaka S, Akiko C, Tajika M, Doyama H, Takayama T, Ohda Y, Horimatsu T, Sano Y, Tanakaya K, Ikematsu H, Saida Y, Ishida H, Takeuchi Y, Kashida H, Kiriya S, Hori S, Lee K, Tashiro J, Kobayashi N, Nakajima T, Suzuki S, Mutoh M; J-FAPP Study III Group: Intensive endoscopic resection for downstaging of polyp burden in patients with familial adenomatous polyposis (J-FAPP Study III): a multicenter prospective

- interventional study. *Endoscopy*, 55(4): 344-352, 2023.
- 011 **Itoh N, Akazawa N, Tanaka T** : A mixed infection involving *Bacteroides denticanum*, *Lactobacillus salivarius*, and *Streptococcus anginosus* as causative agents of abscess around a pharyngo-esophageal anastomosis and acute vertebral osteomyelitis: Identification by ribosomal RNA sequencing of bacterial isolates. *J Infect Chemother*, 29(8): 816-819, 2023.
- 012 **Komori K, Tanaka T, Inaba Y, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Akaza S, Saito H, Narita K, Kitahara T, Hanazawa T, Ojio H, Negita M, Shimizu Y** : Novel Ureteral Stent Catheterization Technique for Treating Hyperchloremic Metabolic Acidosis After Total Pelvic Exenteration. *Anticancer Res*, 43(11): 5149-5153, 2023.
- 013 **Sugimoto Y, Koyanagi YN, Kawakatsu Y, Oze I, Taniyama Y, Kasugai Y, Tanaka T, Abe T, Tajika M, Shimizu Y, Ito H, Wakai K, Matsuo K** : Mediation analysis unveils a carcinogenic effect of ADH1B rs1229984 through mechanisms other than change in drinking intensity: oesophageal cancer case-control study. *Jpn J Clin Oncol*, 53(7): 581-588, 2023.
- 014 **Yamada K, Tajika M, Tanaka T, Ito N, Takagi A, Niwa Y** : Colorectal submucosal dissection using a novel traction method with a threaded clip attached to the outside of the lesion. *Endoscopy*, 56(S01): E130-E131, 2024.
- 015 **Yamada K, Tajika M, Tanaka T, Oonishi S, Niwa Y** : A novel method of endoscopic submucosal dissection using a threaded clip for a lesion of the greater curvature of the gastric body. *Endoscopy*, 55(S01): E623-E624, 2023.
- 016 **Ito N, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Takagi A, Onishi S, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Inaba Y, Muro K, Kawashima H, Niwa Y** : Skeletal Muscle Quality and Quantity Affect Prognosis after Neoadjuvant Chemotherapy with a Triple Regimen of Docetaxel/ Cisplatin/5-FU in Patients with Esophageal Cancer. *J Clin Med*, 12(21): 6738, 2023.
- 017 奥野のぞみ, 原 和生, 田近正洋, 水野伸匡, 田中 努, 羽場 真, 桑原崇通, 山田啓策, 伊藤信仁, 高木暁広, 福井淑崇, 浦田美菜子, 近藤 高, 山本嘉太郎 : 上皮下発育を呈する食道病変の診断【食道上皮下病変のEUS-FNA診断. *胃と腸*, 59(3) : 339-349, 2024.
- Y, Watanabe K, Kitazono S, Sakiyama N, Makino Y, Yamamoto N** : Pharmacokinetic and dose-finding study of osimertinib in patients with impaired renal function and low body weight. *Cancer Sci*, 114(5): 2087-2097, 2023.
- 002 **Fujiwara Y, Kuboki Y, Furukawa M, Mizuno N, Hara H, Ioka T, Ueno M, Takahashi Y, Takahashi S, Takeuchi S, Lihou C, Ji T, Tian C, Shimizu T** : FIGHT-102: A phase 1 study of pemigatinib in Japanese patients with advanced malignancies. *Cancer Med*, 12(9): 10597-10611, 2023.
- 003 **Uemura T, Kenmotsu H, Hazama D, Teraoka S, Kobe H, Azuma K, Yamaguchi T, Masuda T, Yokoyama T, Otsubo K, Haratani K, Hayakawa D, Oki M, Takemoto S, Ozaki T, Akashi Y, Hata A, Hashimoto H, Yamamoto N, Nakagawa K** : Liquid biopsy detects genomic drivers in NSCLC without EGFR mutations by single-plex testing: WJOG13620L. *Cancer Med*, 12(23): 21097-21110, 2023.
- 004 **Hatta T, Hase T, Hara T, Kimura T, Kojima E, Abe T, Horio Y, Goto Y, Ozawa N, Yogo N, Shibata H, Shimokata T, Oguri T, Yamamoto M, Yanagisawa K, Ando M, Ando Y, Kondo M, Ishii M, Hasegawa Y** : Adjustment of creatinine clearance for carboplatin dosing in Calvert's formula and clinical efficacy for lung cancer. *Cancer Med*, 12(15): 15955-15969, 2023.
- 005 **Baba T, Kusumoto M, Kato T, Kurihara Y, Sasaki S, Oikado K, Saito Y, Endo M, Fujiwara Y, Kenmotsu H, Sata M, Takano T, Kato K, Hirata K, Katagiri T, Saito H, Kuwano K** : Clinical and imaging features of interstitial lung disease in cancer patients treated with trastuzumab deruxtecan. *Int J Clin Oncol*, 28(12): 1585-1596, 2023.
- 006 **Ando Y, Nishiyama H, Shimodaira H, Takano N, Sakaida E, Matsumoto K, Nakanishi K, Sakai H, Tsukamoto S, Komine K, Yasuda Y, Kato T, Fujiwara Y, Koyama T, Kitamura H, Kuwabara T, Yonezawa A, Okumura Y, Yakushijin K, Nozawa K, Goto H, Matsubara T, Hoshino J, Yanagita M** : Chapter 3: Management of kidney injury caused by cancer drug therapy, from clinical practice guidelines for the management of kidney injury during anticancer drug therapy 2022. Chapter 3: Management of kidney injury caused by cancer drug therapy, from clinical practice guidelines for the management of kidney injury during anticancer drug therapy 2022. *Int J Clin Oncol*, 28(10): 1315-1332, 2023.
- 007 **Higashiyama RI, Horinouchi H, Kuchiba A, Matsumoto Y, Murakami S, Goto Y, Kanda S,**

## 呼吸器内科部

- 001 **Fujiwara Y, Makihara R, Hase T, Hashimoto N, Naito T, Tsubata Y, Okuno T, Takahashi T, Kobayashi H, Shinno Y, Zenke Y, Ikeda T, Hosomi**

- Fujiwara Y, Yamamoto N, Ohe Y* : Non-specific symptoms as a prodrome of immune-related adverse events in patients with non-small cell lung cancer receiving nivolumab: a consecutive analysis of 200 patients. *Journal of Cancer Research and Clinical Oncology*, 149(7): 3185-3191, 2023.
- 008 *Matsuzawa R, Morise M, Kinoshita F, Tanaka I, Koyama J, Kimura T, Kondoh Y, Tanaka T, Shima K, Hase T, Wakahara K, Ishii M, Hashimoto N* : Non-invasive early prediction of immune checkpoint inhibitor efficacy in non-small-cell lung cancer patients using on-treatment serum CRP and NLR. *J Cancer Res Clin Oncol*, 149(7): 3885-3893, 2023.
- 009 *Kato T, Kurasawa S, Takezawa K, Fujiwara Y, Yasuda Y, Ando Y* : Efficacy and Safety of Anti-angiogenic Agents for Cancer Patients With Proteinuria or a History of Proteinuria: A Systematic Review. *Anticancer Res*, 44(3): 889-894, 2023.
- 010 *Matsuzawa R, Morise M, Ito K, Hataji O, Takahashi K, Koyama J, Kuwatsuka Y, Goto Y, Imaizumi K, Itani H, Yamaguchi T, Zenke Y, Oki M, Ishii M* : Efficacy and safety of second-line therapy of docetaxel plus ramucirumab after first-line platinum-based chemotherapy plus immune checkpoint inhibitors in non-small cell lung cancer (SCORPION): a multicenter, open-label, single-arm, phase 2 trial. *e Clinical Medicine*, 10;66: 102303, 2023.
- 011 *Murata Y, Tanzawa S, Misumi T, Yoshioka H, Miyauchi E, Ninomiya K, Takeshita M, Ito K, Okamoto T, Sugawara S, Kawashima Y, Hashimoto K, Mori M, Miyanaga A, Hayashi A, Tanaka H, Honda R, Nojiri M, Sato Y, Hata A, Masuda K, Kozuki T, Kawamura T, Suzuki T, Yamaguchi T, Asada K, Tetsumoto S, Tanaka H, Watanabe S, Umeda Y, Yamaguchi K, Kuyama S, Tsuruno K, Misumi Y, Kuraishi H, Yoshihara K, Nakao A, Kubo A, Yokoyama T, Watanabe K, Seki N* : Multicenter, Retrospective Study to Evaluate Necitumumab Plus Cisplatin and Gemcitabine After Immune Checkpoint Inhibitors in Advanced Squamous Cell Lung Cancer in Japan: The NINJA Study. *JTO Clin Res Rep*, 20;4(12): 100593, 2023.
- 012 *Goto Y, Kenmotsu H, Tamiya M, Murakami S, Kurata T, Yanagitani N, Taniguchi H, Kuyama S, Shimizu J, Yokoyama T, Shimada N, Maeda T, Tamiya A, Uchiyama A, Imaizumi K, Takahama T, Kato T, Hayashi H, Shiraiwa N, Toyozumi S, Kikkawa H, Thomaidou D, Nishio M* : A Retrospective, Multicenter, Observational Study to Evaluate Clinical Outcomes of Lorlatinib After Alectinib in Patients With *ALK*-Positive NSCLC in Japan. *JTO Clin Res Rep*, 24;4(5): 100508, 2023.
- 013 *Goto K, Goto Y, Kubo T, Ninomiya K, Kim SW, Planchard D, Ahn MJ, Smit EF, de Langen AJ, Pérol M, Pons-Tostivint E, Novello S, Hayashi H, Shimizu J, Kim DW, Kuo CH, Yang JC, Pereira K, Cheng FC, Taguchi A, Cheng Y, Feng W, Tsuchihashi Z, Jänne PA* : Trastuzumab Deruxtecan in Patients With *HER2*-Mutant Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer: Primary Results From the Randomized, Phase II DESTINY-Lung02 Trial. *J Clin Oncol*, 1;41(31): 4852-4863, 2023.
- 014 *Morioka H, Koizumi Y, Watariguchi T, Oka K, Tomita Y, Kojima Y, Okudaira M, Ito Y, Shimizu J, Watanabe K, Kato H, Nagaoka M, Yokota M, Hasegawa C, Tsuji T, Shimizu S, Ito K, Kawasaki S, Akita K, Kitagawa Y, Mutoh Y, Ishihara M, Iwata S, Nozaki Y, Nozawa M, Kato M, Katayama M, Yagi T* : Surgical antimicrobial prophylaxis in Japanese hospitals: Real status and challenges. *J Infect Chemother*, 30(7): 626-632, 2023.
- 015 *Okachi S, Sakurai M, Matsui T, Ito T, Matsuzawa R, Morise M, Wakahara K, Ishii M, Fujiwara M* : The Application of Mixed Reality in Bronchoscopy Simulation Training: A Feasibility Study. *Surgical Innovation, Surg Innov*, 30(5): 685-686, 2023.
- 016 *Yanagita M, Muto S, Nishiyama H, Ando Y, Hirata S, Doi K, Fujiwara Y, Hanafusa N, Hatta T, Hoshino J, Ichioka S, Inoue T, Ishikura K, Kato T, Kitamura H, Kobayashi Y, Koizumi Y, Kondoh C, Matsubara T, Matsubara K, Matsumoto K, Okuda Y, Okumura Y, Sakaida E, Shibagaki Y, Shimodaira H, Takano N, Uchida A, Yakushijin K, Yamamoto T, Yamamoto K, Yasuda Y, Oya M, Okada H, Nangaku M, Kashihara N* : Clinical questions and good practice statements of clinical practice guidelines for management of kidney injury during anticancer drug therapy 2022. *Clin Exp Nephrol*, 28(2): 123-124, 2024.
- 017 *Hasegawa T, Okuyama T, Uemura T, Matsuda Y, Otani H, Shimizu J, Horio Y, Watanabe N, Yamaguchi T, Fukuda S, Oguri T, Maeno K, Taniguchi Y, Nosaki K, Fukumitsu K, Akechi T* : Elements of End-of-Life Discussions Associated With Patients' Reported Outcomes and Actual End-of-Life Care in Patients With Pretreated Lung Cancer. *Oncologist*, 2;29(2): e282-e289, 2024.
- 018 *Yamaguchi T, Masago K, Sasaki E, Kuroda H, Matsushita H, Horio Y* : EML4-*ALK* Variant 3a/b as a mechanism of osimertinib resistance in a patient with EGFR L858R positive NSCLC. *Cancer Genet*, 280-281: 13-16, 2024.
- 019 *Horio Y, Kuroda H, Masago K, Matsushita H, Sasaki E, Fujiwara Y* : Current diagnosis and treatment of salivary gland-type tumors of the lung. *Jpn*

J Clin Oncol, 9;54(3): 229-247, 2024.

- 020 黒田浩章, 真砂勝泰, 佐々木英一, 松下博和, 篠原周一, 堀尾芳嗣: MET exon14 skipping 変異陽性小細胞肺癌切除例の遺伝子解析からみた臨床像と手術成績の検討. 癌の臨床, 67 卷 6 号 P285-295, 2024.
- 021 渡辺尚宏: 呼吸器 感染症 がん 胸腺がん. 最新の臨床 Web, 南江堂, 2024.

## 血液・細胞療法部

- 001 Goto H, Ito S, Kizaki M, Yamaguchi M, Fukuhara N, Kato K, Saito T, Terui Y, Okubo S, Soshin T, Xeng J, Honda H, Badawii M, Ross JA, Izutsu K: Phase 2 study of ibrutinib plus venetoclax in Japanese patients with relapsed/refractory mantle cell lymphoma. Int J Clin Oncol, 29: 232-240, 2024.
- 002 Saito T, Nagai H, Izutsu K, Ando K, Igarashi T, Izumi T, Ohashi Y, Kamiyama S, Ishizawa K, Tobinai K: A phase II Japanese trial of 90-minute rituximab infusion for untreated B-cell lymphoma. Jpn J Clin Oncol, 54: 444-451, 2024.
- 003 Onozawa M, Kusumoto S, Najima Y, Hashimoto H, Okada K, Tamaki M, Tanaka M, Sato T, Takahashi T, Hatano K, Onodera K, Moriuchi Y, Yakushijin K, Kanda J, Nagafuji K, Ogata M, Nakano N, Tamori A, Mizokami M: Outcomes of Cessation of Nucleos (t)ide Analog Administration on Hepatitis B Virus Reactivation after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: A Nationwide Retrospective Study. Transplant Cell Ther. 30: 330.e1-330.e8, 2024.
- 004 Hirade K, Kusumoto S, Hashimoto H, Shiraga K, Hagiwara S, Oiwa K, Suzuki T, Kinoshita S, Ri M, Komatsu H, Iida S: Low-dose fluconazole as a useful and safe prophylactic option in patients receiving allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Cancer Med. 13: e6815, 2024.
- 005 Hiramatsu H, Yokomori R, Shengyi L, Tanaka N, Mori S, Kiyotani K, Gotoh O, Kusumoto S, Nakano N, Suehiro Y, Ito A, Choi I, Ohtsuka E, Hidaka M, Nosaka K, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Iida S, Utsunomiya A, Noda T, Nishikawa H, Ueda R, Sanda T, Ishida T: Clinical landscape of TP73 structural variants in ATL patients. Leukemia. 37: 2502-2506, 2023.
- 006 Nakanishi Y, Marumo Y, Ri M, Kinoshita S, Suzuki T, Narita T, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S: Laryngeal edema as a symptom of local cytokine release syndrome after BCMA-targeting CAR-T therapy for relapsed and refractory multiple myeloma. Int J Hematol. 118: 647-651, 2023.
- 007 Hagiwara H, Nakayama T, Hashimoto H, Kusumoto

- S, Fukuta H, Kamiya T, Ikuta K, Iida S: Risk factors associated with overall survival in patients with multiple myeloma following carfilzomib treatment: A retrospective study from a large claims database in Japan. Cancer Med. 12: 19361-19371, 2023.
- 008 Asano A, Ri M, Masaki A, Maeda Y, Tachita T, Hirade K, Marumo Y, Nakashima T, Hagiwara S, Kinoshita S, Suzuki T, Narita T, Kusumoto S, Komatsu H, Inagaki H, Iida S: Aberrant tryptophan metabolism leads to unfavorable outcomes in lenalidomide-treated myeloma patients. Hematol Oncol. 41: 424-433, 2023.
- 009 Suzuki T, Kusumoto S, Kamezaki Y, Hashimoto H, Nishitarumizu N, Nakanishi Y, Kato Y, Kawai A, Matsunaga N, Ebina T, Nakamura T, Marumo Y, Oiwa K, Kinoshita S, Narita T, Ito A, Inagaki A, Ri M, Komatsu H, Aritsu T, Iida S: Humoral and cellular immune response to second and third severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 mRNA vaccine in patients with plasma cell dyscrasia. Cancer Med. 12: 13135-13144, 2023.
- 010 Suzuki T, Kusumoto S, Kamezaki Y, Hashimoto H, Nishitarumizu N, Nakanishi Y, Kato Y, Kawai A, Matsunaga N, Ebina T, Nakamura T, Marumo Y, Oiwa K, Kinoshita S, Narita T, Ito A, Inagaki A, Ri M, Komatsu H, Aritsu T, Iida S: A comprehensive evaluation of humoral immune response to second and third SARS-CoV-2 mRNA vaccination in patients with malignant lymphoma. Int J Hematol. 117: 900-909, 2023.
- 011 Suzuki T, Matsuura K, Urakabe K, Okumura F, Kawamura H, Sobue S, Matoya S, Miyaki T, Kimura Y, Kato D, Kusakabe A, Tanaka Y, Ozasa A, Nagura Y, Fujiwara K, Nojiri S, Hagiwara S, Kusumoto S, Inoue T, Tanaka Y, Kataoka H: Outcome of nucleos (t)ide analog cessation in patients with treatment for prevention of or against hepatitis B virus reactivation. Hepatol Res. 53: 289-300, 2023.
- 012 Hiramatsu H, Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, Choi I, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Hidaka M, Sasaki H, Makiyama J, Ohtsuka E, Jo T, Ogata M, Ito A, Yonekura K, Tatetsu H, Kato T, Kawakita T, Suehiro Y, Ishitsuka K, Iida S, Matsutani T, Nishikawa H, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T: Landscape of immunoglobulin heavy chain  $\gamma$  gene class switch recombination in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma. Haematologica. 108: 1173-1178, 2023.



## 薬物療法部

- 001 **Narita Y, Muro K** : Updated Immunotherapy for Gastric Cancer. *J Clin Med*, 12(7): 2636, 2023.
- 002 **Iwasa S, Wang ZX, Muro K, Morita S, Park YS, Zhang D, Yamada Y, Sakamoto J, Kim TW** : Impact of prior chemotherapy with two different fluoropyrimidines on the efficacy of capecitabine plus irinotecan or FOLFIRI with or without bevacizumab in metastatic colorectal cancer: a post hoc analysis of the AXEPT study. *Cancer Commun (Lond)*, 43(4): 519-522, 2023.
- 003 **Chin K, Yamamoto S, Takahashi M, Kadowaki S, Kubota Y, Amanuma Y, Okada M, Kanda M, Kimura Y, Nogi Y, Arimitsu Y, Kitagawa Y** : Effectiveness of taxanes following nivolumab in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma: a retrospective chart review of patients in ATTRACTION-3. *Esophagus*, 20(2): 302-308, 2023.
- 004 **Watanabe J, Muro K, Shitara K, Yamazaki K, Shiozawa M, Ohori H, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Misumi T, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T** : Panitumumab vs Bevacizumab Added to Standard First-line Chemotherapy and Overall Survival Among Patients With RAS Wild-type, Left-Sided Metastatic Colorectal Cancer: A Randomized Clinical Trial. *JAMA*, 329(15): 1271-1282, 2023.
- 005 **Ando M, Honda K, Hosoda W, Matsubara Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Nakata A, Kodama H, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K** : Clinical outcomes of patients diagnosed with cancer of unknown primary or malignancy of undefined primary origin who were referred to a regional cancer center. *Int J Clin Oncol*, 28(5): 644-653, 2023.
- 006 **Kuboki Y, Terazawa T, Masuishi T, Nakamura M, Watanabe J, Ojima H, Makiyama A, Kotaka M, Hara H, Kagawa Y, Sugimoto N, Kawakami H, Takashima A, Kajiwara T, Oki E, Sunakawa Y, Ishihara S, Taniguchi H, Nakajima TE, Morita S, Shirao K, Takenaka N, Ozawa D, Yoshino T** : Trifluridine/tipiracil+bevacizumab (BEV) vs. fluoropyrimidine-irinotecan+BEV as second-line therapy for metastatic colorectal cancer: a randomised noninferiority trial. *Br J Cancer*, 128(10): 1897-1905, 2023.
- 007 **Nakai C, Mimaki S, Matsushima K, Shinozaki E, Yamazaki K, Muro K, Yamaguchi K, Nishina T, Yuki S, Shitara K, Bando H, Suzuki Y, Akagi K, Nomura S, Fujii S, Sugiyama M, Nishida N, Mizokami M, Koh Y, Koshizaka T, Okada H, Abe Y, Ohtsu A, Yoshino T, Tsuchihara K** : Regulation of MEK inhibitor selumetinib sensitivity by AKT phosphorylation in the novel BRAF L525R mutant. *Int J Clin Oncol*, 28(5): 654-663, 2023.
- 008 **Ando M, Honda K, Hosoda W, Matsubara Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Nakata A, Kodama H, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K** : Clinical outcomes of patients diagnosed with cancer of unknown primary or malignancy of undefined primary origin who were referred to a regional cancer center. *Int J Clin Oncol*, 28(5): 644-653, 2023.
- 009 **Inagaki C, Matoba R, Yuki S, Shiozawa M, Tsuji A, Inoue E, Muro K, Ichikawa W, Fujii M, Sunakawa Y** : The BEETS (JACCRO CC-18) trial: an observational and translational study of BRAF-mutated metastatic colorectal cancer. *Future Oncol*, 19(17): 1165-1174, 2023.
- 010 **Matsubara Y, Toriyama K, Kadowaki S, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Bando H, Ando M, Tajika M, Oze I, Hosoda W, Muro K** : The impact of combined PD-L1 positive score on clinical response to nivolumab in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 20(3): 524-532, 2023.
- 011 **Ducreux M, Abou-Alfa GK, Bekaii-Saab T, Berlin J, Cervantes A, de Baere T, Eng C, Galle P, Gill S, Gruenberger T, Haustermans K, Lamarca A, Laurent-Puig P, Llovet JM, Lordick F, Macarulla T, Mukherji D, Muro K, Obermannova R, O'Connor JM, O'Reilly EM, Osterlund P, Philip P, Prager G, Ruiz-Garcia E, Sangro B, Seufferlein T, Tabernero J, Verslype C, Wasan H, Van Cutsem E** : The management of hepatocellular carcinoma. Current expert opinion and recommendations derived from the 24th ESMO/World Congress on Gastrointestinal Cancer, Barcelona, 2022. *ESMO Open*, 8(3): 101567, 2023.
- 012 **Kumanishi R, Kadowaki S, Mitani S, Matsushima T, Ogata T, Narita Y, Masuishi T, Bando H, Tajika M, Yasui H, Hara H, Muro K** : Nivolumab versus irinotecan as third- or later-line treatment for advanced gastric cancer: a multi-center retrospective study. *Int J Clin Oncol*, 28(6): 756-763, 2023.
- 013 **Habu T, Kumanishi R, Ogata T, Fujisawa T, Mishima S, Kotani D, Kadowaki S, Nakamura M, Hojo H, Fujiwara H, Kumagai S, Koyama S, Fujita T, Kinoshita T, Nishikawa H, Yano T, Tajika M, Muro K, Mitsunaga S, Kojima T, Bando H** : Complete response to definitive chemoradiotherapy in unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 20(3): 533-540, 2023.

- 014 **Kawabata R, Izawa N, Suzuki T, Nagahisa Y, Nishikawa K, Takahashi M, Nakamura M, Ishiguro A, Katsuya H, Hihara J, Manaka D, Negoro Y, Tsuji A, Takahashi T, Kochi M, Azuma M, Kadowaki S, Michimae H, Sunakawa Y, Ichikawa W, Fujii M** : A Multicenter, Phase II Trial of Schedule Modification for Nab-Paclitaxel in Combination with Ramucirumab for Patients with Previously Treated Advanced Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer: The B-RAX Trial (JACCRO GC-09). *Target Oncol*, 18(3): 359-368, 2023.
- 015 **Shitara K, Di Bartolomeo M, Mandala M, Ryu MH, Caglevic C, Olesinski T, Chung HC, Muro K, Goekkurt E, McDermott RS, Mansoor W, Wainberg ZA, Shih CS, Kobie J, Nebozhyn M, Cristescu R, Cao ZA, Loboda A, Özgüroğlu M** : Association between gene expression signatures and clinical outcomes of pembrolizumab versus paclitaxel in advanced gastric cancer: exploratory analysis from the randomized, controlled, phase III KEYNOTE-061 trial. *J Immunother Cancer*, 11(6): e006920, 2023.
- 016 **Ciardello F, Bang YJ, Cervantes A, Dvorkin M, Lopez CD, Metges JP, Sánchez Ruiz A, Calvo M, Strickland AH, Kannourakis G, Muro K, Kawakami H, Wei J, Borg C, Zhu Z, Gupta N, Pelham RJ, Shen L** : Efficacy and safety of maintenance therapy with pamparib versus placebo for advanced gastric cancer responding to first-line platinum-based chemotherapy: Phase 2 study results. *Cancer Med*, 12(12): 13145-13154, 2023.
- 017 **Izawa N, Masuishi T, Takahashi N, Shoji H, Yamamoto Y, Matsumoto T, Sugiyama K, Kajiwara T, Kawakami K, Aomatsu N, Kondoh C, Kawakami H, Takegawa N, Esaki T, Shimokawa M, Nishio K, Narita Y, Hara H, Sunakawa Y, Boku N, Moriwaki T, Eguchi Nakajima T, Muro K** : A Phase II Trial of Trifluridine/Tipiracil in Combination with Cetuximab Rechallenge in Patients with RAS Wild-Type mCRC Refractory to Prior Anti-EGFR Antibodies: WJOG8916G Trial. *Target Oncol*, 18(3): 369-381, 2023.
- 018 **Ogata T, Narita Y, Wainberg ZA, Van Cutsem E, Yamaguchi K, Piao Y, Zhao Y, Peterson PM, Wijayawardana SR, Abada P, Chatterjee A, Muro K** : Exploratory Analysis of Patients With Gastric/Gastroesophageal Junction Adenocarcinoma With or Without Liver Metastasis From the Phase 3 RAINBOW Study. *J Gastric Cancer*, 23(2): 289-302, 2023.
- 019 **Naito Y, Mishima S, Akagi K, Hayashi N, Hirasawa A, Hishiki T, Igarashi A, Ikeda M, Kadowaki S, Kajiyama H, Kato M, Kenmotsu H, Kodera Y, Komine K, Koyama T, Maeda O, Miyachi M, Nishihara H, Nishiyama H, Ohga S, Okamoto W, Oki E, Ono S, Sanada M, Sekine I, Takano T, Tao K, Terashima K, Tsuchihara K, Yatabe Y, Yoshino T, Baba E** : Japanese Society of Medical Oncology/Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of tropomyosin receptor kinase inhibitors in adult and pediatric patients with neurotrophic receptor tyrosine kinase fusion-positive advanced solid tumors. *Int J Clin Oncol*, 28(7): 827-840, 2023.
- 020 **Aoki Y, Nakamura Y, Denda T, Ohta T, Esaki T, Shiozawa M, Yamaguchi K, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Okano N, Taniguchi H, Sato T, Oki E, Nishina T, Komatsu Y, Matsushashi N, Goto M, Yasui H, Ohtsubo K, Moriwaki T, Takahashi N, Horita Y, Boku S, Wakabayashi M, Ikeno T, Mitani R, Yuasa M, Yoshino T** : Clinical Validation of Plasma-Based Genotyping for RAS and BRAF V600E Mutation in Metastatic Colorectal Cancer: SCRUM-Japan GOZILA Substudy. *JCO Precis Oncol*, 7: e2200688, 2023.
- 021 **Le DT, Diaz LA Jr, Kim TW, Van Cutsem E, Geva R, Jäger D, Hara H, Burge M, O'Neil BH, Kavan P, Yoshino T, Guimbaud R, Taniguchi H, Élez E, Al-Batran SE, Boland PM, Cui Y, Leconte P, Marinello P, André T** : Pembrolizumab for previously treated, microsatellite instability-high/mismatch repair-deficient advanced colorectal cancer: final analysis of KEYNOTE-164. *Eur J Cancer*, 186: 185-195, 2023.
- 022 **Dasari A, Lonardi S, Garcia-Carbonero R, Elez E, Yoshino T, Sobrero A, Yao J, García-Alfonso P, Kocsis J, Cubillo Gracian A, Sartore-Bianchi A, Satoh T, Randrian V, Tomasek J, Chong G, Paulson AS, Masuishi T, Jones J, Csöszi T, Cremolini C, Ghiringhelli F, Shergill A, Hochster HS, Krauss J, Bassam A, Ducreux M, Elme A, Faugeras L, Kasper S, Van Cutsem E, Arnold D, Nanda S, Yang Z, Schelman WR, Kania M, Tabernero J, Eng C; **FRESCO-2 Study Investigators**** : Fruquintinib versus placebo in patients with refractory metastatic colorectal cancer (FRESCO-2): an international, multicentre, randomised, double-blind, phase 3 study. *Lancet*, 402(10395): 41-53, 2023.
- 023 **Yoshino T, Di Bartolomeo M, Raghav K, Masuishi T, Loupakis F, Kawakami H, Yamaguchi K, Nishina T, Wainberg Z, Elez E, Rodriguez J, Fakih M, Ciardiello F, Saxena K, Kobayashi K, Bako E, Okuda Y, Meinhardt G, Grothey A, Siena S; **DESTINY-CRC01 investigators**** : Final results of DESTINY-CRC01 investigating trastuzumab deruxtecan in patients with HER2-expressing metastatic colorectal cancer. *Nat Commun*, 14(1): 3332, 2023.
- 024 **Jenei K, Raymakers AJN, Bayle A, Berger-Thürmel**

- K, Cherla A, Honda K, Jackson CCGA, Karikios D, Trapani D, Berry S, Gyawali B* : Health technology assessment for cancer medicines across the G7 countries and Oceania: an international, cross-sectional study. *Lancet Oncol*, 24(6): 624-635, 2023.
- 025 *Matsubara J, Mukai K, Kondo T, Yoshioka M, Kage H, Oda K, Kudo R, Ikeda S, Ebi H, Muro K, Hayashi R, Tokudome N, Yamamoto N, Muto M* : First-Line Genomic Profiling in Previously Untreated Advanced Solid Tumors for Identification of Targeted Therapy Opportunities. *JAMA Netw Open*, 6(7): e2323336, 2023.
- 026 *Taniguchi H, Masuishi T, Ogata T, Ando M, Mizuno N, Muro K* : First experience of a fully decentralized clinical trial: The dawn of a new era in oncology. *Cancer Sci*. 114(7): 3050-3052, 2023.
- 027 *Tokunaga M, Kurokawa Y, Fukagawa T, Muro K, Shitara K, Kodera Y, Terashima M* : Neoadjuvant chemotherapy for locally advanced gastric cancer in Japan: Consensus meeting at the 77th general meeting of the Japanese Society of Gastroenterological Surgery. *Ann Gastroenterol Surg*, 22:7(6): 856-862, 2023.
- 028 *Takahashi N, Hara H, Nagashima K, Hirata K, Masuishi T, Matsumoto T, Kawakami H, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Muro K* : Randomised phase II trial of trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) plus ramucirumab (RAM) versus trifluridine/tipiracil for previously treated patients with advanced gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma (RETRIEVE study, WJOG15822G). *BMC Cancer*, 23(1): 726, 2023.
- 029 *Mishima S, Naito Y, Akagi K, Hayashi N, Hirasawa A, Hishiki T, Igarashi A, Ikeda M, Kadowaki S, Kajiyama H, Kato M, Kenmotsu H, Kodera Y, Komine K, Koyama T, Maeda O, Miyachi M, Nishihara H, Nishiyama H, Ohga S, Okamoto W, Oki E, Ono S, Sanada M, Sekine I, Takano T, Tao K, Terashima K, Tsuchihara K, Yatabe Y, Yoshino T, Baba E* : Japanese Society of Medical Oncology/ Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of immunotherapy in patients with high tumor mutational burden tumors. *Int J Clin Oncol*. 28(8): 941-955, 2023.
- 030 *Booth CM, Sengar M, Goodman A, Wilson B, Aggarwal A, Berry S, Collingridge D, Denburg A, Eisenhauer EA, Ginsburg O, Goldstein D, Gunasekera S, Hammad N, Honda K, Jackson C, Karikios D, Knopf K, Koven R, Marini BL, Maskens D, Moraes FY, Mohyuddin GR, Poudyal BS, Pramesh CS, Roitberg F, Rubagumya F, Schott S, Sirohi B, Soto-Perez-de-Celis E, Sullivan R, Tannock IF, Trapani D, Tregear M, van der Graaf W, Vanderpuye V, Gyawali B* : Common Sense Oncology: outcomes that matter. *Lancet Oncol*, 24(8): 833-835, 2023.
- 031 *Yamamoto S, Wells K, Morita K, Tanigaki K, Muro K, Matsumoto M, Nakai H, Arai Y, Akizuki S, Takahashi K, Minamiguchi S, Fukuma S, Yanagita M* : Severe TAFRO Syndrome Mimicking Hepatorenal Syndrome Successfully Treated with a Multidisciplinary Approach: A Case Report and Literature Review. *Intern Med*, 62(18): 2715-2724, 2023.
- 032 *Muro K, Shitara K, Yamaguchi K, Yoshikawa T, Satake H, Hara H, Sugimoto N, Machida N, Goto M, Kawakami H, Amagai K, Omuro Y, Esaki T, Hironaka S, Nishina T, Komatsu Y, Matsubara H, Shiratori S, Han S, Satoh T, Ohtsu A* : Efficacy of Pembrolizumab Monotherapy in Japanese Patients with Advanced Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer. *J Gastrointest Cancer*, 54(3): 951-961, 2023.
- 033 *Kodama H, Masuishi T, Wakabayashi M, Nakata A, Kumamishi R, Nakazawa T, Ogata T, Matsubara Y, Honda K, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Muro K* : Differential Efficacy of Targeted Monoclonal Antibodies in Left-Sided Colon and Rectal Metastatic Cancers. *Clin Colorectal Cancer*, 22(3): 298-306, 2023.
- 034 *Yuki S, Yamazaki K, Sunakawa Y, Taniguchi H, Bando H, Shiozawa M, Nishina T, Yasui H, Kagawa Y, Takahashi N, Denda T, Esaki T, Kawakami H, Satake H, Takashima A, Matsuhashi N, Kato T, Asano C, Abe Y, Nomura S, Yoshino T* : Role of plasma angiogenesis factors in the efficacy of first-line chemotherapy combined with biologics in RAS wild-type metastatic colorectal cancer: Results from the GI-SCREEN CRC-Ukit study. *Cancer Med*, 12(18): 18702-18716, 2023.
- 035 *Masuishi T, Nagaoka S, Jin L, Yoshizawa K* : Post-Marketing Safety Study of Ramucirumab Plus FOLFIRI: Analysis of Age and Initial Dose of Irinotecan in Patients with Metastatic Colorectal Cancer. *Drugs Real World Outcomes*, 10(3): 405-413, 2023.
- 036 *Hayashi H, Sawada K, Tanaka H, Muro K, Hasebe T, Nakajima S, Okumura T, Fujiya M* : The effect of heat-killed *Lactobacillus brevis* SBL88 on improving selective hepatic insulin resistance in non-alcoholic fatty liver disease mice without altering the gut microbiota. *J Gastroenterol Hepatol*, 38(10): 1847-1854, 2023.
- 037 *Kojima Y, Mishihiro-Sato E, Fujishita T, Satoh K, Kajino-Sakamoto R, Oze I, Nozawa K, Narita Y, Ogata T, Matsuo K, Muro K, Taketo MM, Soga T, Aoki M* : Decreased liver B vitamin-related enzymes as a metabolic hallmark of cancer cachexia. *Nat Commun*, 14(1): 6246, 2023.

- 038 **Ito N, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Takagi A, Onishi S, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Inaba Y, Muro K, Kawashima H, Niwa Y** : Skeletal Muscle Quality and Quantity Affect Prognosis after Neoadjuvant Chemotherapy with a Triple Regimen of Docetaxel/ Cisplatin/5-FU in Patients with Esophageal Cancer. *J Clin Med*,12(21): 6738, 2023.
- 039 **Kajiwarra T, Nishina T, Yamashita R, Nakamura Y, Shiozawa M, Yuki S, Taniguchi H, Hara H, Ohta T, Esaki T, Shinozaki E, Takashima A, Yamamoto Y, Yamazaki K, Yoshino T, Hyodo I** : Sidedness-Dependent Prognostic Impact of Gene Alterations in Metastatic Colorectal Cancer in the Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan (SCRUM-Japan GI-SCREEN). *Cancers (Basel)*, 15(21): 5172, 2023.
- 040 **Caughey BA, Uemoto K, Green MF, Ikeda M, Lowe ME, Ueno M, Niedzwiecki D, Taniguchi H, Walden DJ, Komatsu Y, D'Anna R, Esaki T, Denda T, Datto MB, Bando H, Bekaii-Saab T, Yoshino T, Strickler JH, Nakamura Y** : Identification of an optimal mutant allele frequency to detect activating KRAS, NRAS, and BRAF mutations in a commercial cell-free DNA next-generation sequencing assay in colorectal and pancreatic adenocarcinomas. *J Gastrointest Oncol*. 14(5): 2083-2096, 2023.
- 041 **Ando K, Nakamura Y, Kitao H, Shimokawa M, Kotani D, Bando H, Nishina T, Yamada T, Yuki S, Narita Y, Hara H, Ohta T, Esaki T, Hamamoto Y, Kato K, Yamamoto Y, Minashi K, Ohtsubo K, Izawa N, Kawakami H, Kato T, Satoh T, Okano N, Tsuji A, Yamazaki K, Yoshino T, Maehara Y, Oki E** : Mutational spectrum of TP53 gene correlates with nivolumab treatment efficacy in advanced gastric cancer (TP53MUT study). *Br J Cancer*. 129(6): 1032-1039, 2023.
- 042 **Shiroyama M, Fukuoka S, Masuishi T, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwarra T, Yamazaki K, Shimada Y, Esaki T, Makiyama A, Moriwaki T** : Renal impairment as a risk factor for trifluridine/ tipiracil-induced adverse events in metastatic colorectal cancer patients from the REGOTAS study. *Sci Rep*, 13(1): 17931, 2023.
- 043 **Mishima S, Naito Y, Akagi K, Hayashi N, Hirasawa A, Hishiki T, Igarashi A, Ikeda M, Kadowaki S, Kajiyama H, Kato M, Kenmotsu H, Kodera Y, Komine K, Koyama T, Maeda O, Miyachi M, Nishihara H, Nishiyama H, Ohga S, Okamoto W, Oki E, Ono S, Sanada M, Sekine I, Takano T, Tao K, Terashima K, Tsuchihara K, Yatabe Y, Yoshino T, Baba E** : Japanese Society of Medical Oncology/ Japan Society of Clinical Oncology/ Japanese Society of Pediatric Hematology/ Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of immunotherapy in patients with DNA mismatch repair deficient (dMMR) tumors, third edition. *Int J Clin Oncol*, 28(10): 1237-1258, 2023.
- 044 **Taniguchi H, Yamazaki K, Masuishi T, Kawakami T, Onozawa Y, Honda K, Kadowaki S, Narita Y, Tsushima T, Hamauchi S, Todaka A, Yokota T, Ando M, Mori K, Shirasu H, Yasui H, Muro K** : Bevacizumab, Irinotecan, and Biweekly Trifluridine/ Tipiracil for Metastatic Colorectal Cancer: MODURATE, a Phase Ib Study. *Oncologist*, 2;28(11): e1108-e1113, 2023.
- 045 **Muro K** : [Lower G. I./Colon and Rectum Cancer]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 50(11): 1160-1161, 2023.
- 046 **Narita Y, Matsushima T, Sakamoto Y, Matsuoka H, Tanioka H, Kawakami T, Shoji H, Mizukami T, Izawa N, Nishina T, Yamamoto Y, Mitani S, Nakamura M, Misumi T, Muro K** : Chemotherapy after nivolumab for advanced gastric cancer (REVIVE): a prospective observational study. *ESMO Open*, 8(6): 102071, 2023.
- 047 **Suzuki H, Haimoto S, Inaba Y, Tachibana H, Takanari K, Ando M, Yoshizawa K, Hanai N** : Peptide Receptor Radionuclide Therapy for Recurrent Olfactory Neuroblastoma After Cranioplasty for Surgical Infection: A Case Report. *Anticancer Res*, 43(12): 5723-5728, 2023.
- 048 **Kito Y, Kawakami H, Mitani S, Nishina S, Matsumoto T, Tsuzuki T, Shinohara Y, Shimokawa H, Kumanishi R, Ohta T, Katsuya H, Kawakami T, Nishina T, Hasegawa H, Akiyoshi K, Chiba Y, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K** : Trifluridine/ Tipiracil Plus Bevacizumab for Vulnerable Patients With Pretreated Metastatic Colorectal Cancer: A Retrospective Study (WJOG14520G). *Oncologist*, 29(3): e330-e336, 2024.
- 049 **Shitara K, Yamaguchi K, Muro K, Yasui H, Sakai D, Oshima T, Fujimura M, Sato Y, Yamazaki S, Wakabayashi T, Sugihara M, Kamio T, Shoji H** : Trastuzumab deruxtecan in patients with locally advanced or metastatic HER2-positive gastric cancer: a multicenter, open-label, expanded-access study. *Int J Clin Oncol*, 29(1): 27-35, 2024.
- 050 **Muro K** : [Changes and progress in systemic pharmacotherapy for metastatic colorectal cancer from the perspective of treatment development]. *Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi*, 121(3): 204-211, 2024.
- 051 **Sunakawa Y, Kuboki Y, Watanabe J, Terazawa T, Kawakami H, Yokota M, Nakamura M, Kotaka M, Sugimoto N, Ojima H, Oki E, Kajiwarra T, Yamamoto Y, Tsuji Y, Denda T, Tamura T, Ishihara S, Taniguchi H, Nakajima TE, Morita S, Shirao K, Takenaka N, Ozawa D, Yoshino T** : Exploratory Biomarker Analysis Using Plasma

- Angiogenesis-Related Factors and Cell-Free DNA in the TRUSTY Study: A Randomized, Phase II/III Study of Trifluridine/Tipiracil Plus Bevacizumab as Second-Line Treatment for Metastatic Colorectal Cancer. *Target Oncol*, 19(1): 59-69, 2024.
- 052 **Kuboki Y, Fakih M, Strickler J, Yaeger R, Masuishi T, Kim EJ, Bestvina CM, Kopetz S, Falchook GS, Langer C, Krauss J, Puri S, Cardona P, Chan E, Varrieur T, Mukundan L, Anderson A, Tran Q, Hong DS** : Sotorasib with panitumumab in chemotherapy-refractory KRASG12C-mutated colorectal cancer: a phase 1b trial. *Nat Med*, 30(1): 265-270, 2024.
- 053 **Shitara K, Fleitas T, Kawakami H, Curigliano G, Narita Y, Wang F, Wardhani SO, Basade M, Rha SY, Wan Zamaniah WI, Sacdalan DL, Ng M, Yeh KH, Sunpaweravong P, Sirachainan E, Chen MH, Yong WP, Peneyra JL, Ibtisam MN, Lee KW, Krishna V, Pribadi RR, Li J, Lui A, Yoshino T, Baba E, Nakayama I, Pentheroudakis G, Shoji H, Cervantes A, Ishioka C, Smyth E** : Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the diagnosis, treatment and follow-up of patients with gastric cancer. *ESMO Open*, 9(2): 102226, 2024.
- 054 **Minatogawa H, Izawa N, Shimomura K, Arioka H, Iihara H, Sugawara M, Morita H, Mochizuki A, Nawata S, Mishima K, Tsuboya A, Miyaji T, Honda K, Yokomizo A, Hashimoto N, Yanagihara T, Endo J, Kawaguchi T, Furuya N, Sone Y, Inada Y, Ohno Y, Katada C, Hida N, Akiyama K, Ichikura D, Konomatsu A, Ogura T, Yamaguchi T, Nakajima TE** : Dexamethasone-sparing on days 2-4 with combined palonosetron, neurokinin-1 receptor antagonist, and olanzapine in cisplatin: a randomized phase III trial (SPARED Trial). *Br J Cancer*, 130(2): 224-232, 2024.
- 055 **Ogata T, Narita Y, Oze I, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama H, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Bando H, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M, Muro K** : Chronological improvement of survival in patients with advanced gastric cancer over 15 years. *Ther Adv Med Oncol*, 16: 17588359241229428, 2024.
- 056 **Shitara K, Muro K, Watanabe J, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Mori I, Yamanaka K, Hihara M, Soeda J, Misumi T, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T** : Baseline ctDNA gene alterations as a biomarker of survival after panitumumab and chemotherapy in metastatic colorectal cancer. *Nat Med*, 30(3): 730-739, 2024.
- 057 **Kodama H, Kadowaki S, Nakazawa T, Matsubara Y, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Koide Y, Tachibana H, Kodaira T, Sawabe M, Terada H, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N, Muro K** : Safety and Efficacy of Gemcitabine Plus Cisplatin Against Recurrent/Metastatic Nasopharyngeal Carcinoma: A Retrospective Study. *Anticancer Res*, 44(3): 1227-1232, 2024.
- 058 **Matsumoto T, Yamamoto Y, Kotaka M, Masuishi T, Tsuji Y, Shoji H, Hirata K, Tsuduki T, Makiyama A, Izawa N, Takahashi N, Tsuda M, Yasui H, Ohta T, Kito Y, Otsu S, Hironaka S, Yamazaki K, Boku N, Hyodo I, Yoshimura K, Muro K** : A Phase II Study of FOLFIRI Plus Ziv-Aflibercept After Trifluridine/Tipiracil Plus Bevacizumab in Patients with Metastatic Colorectal Cancer: WJOG 11018G. *Target Oncol*, 19(2): 181-190, 2024.
- 059 谷口浩也 : リモート治験の現状と展望. *腫瘍内科 vol.31 No.5*, 科学評論社 : 555-560, 2023.
- 060 松原裕樹, 門脇重憲 : 食道がん診療の進歩と展望 (周術期). *腫瘍内科 vol.31 No.6*, 科学評論社 : 641-647, 2023.
- 061 門脇重憲 : ■臓器別にみる ICI の使い方 6. 消化管がん (胃がん, 大腸がんなど). *月間薬事 第65巻第6号*, じほう : 1123-1127, 2023.
- 062 谷口浩也 : 抗がん剤医師主導治験に DCT を実装して感じた課題と展望. *腫瘍内科 vol.31 No.6*, 科学評論社 : 752-755, 2023.
- 063 若林宗弘, 谷口浩也 : 微小残存腫瘍の診断と対策. *腫瘍内科 vol.32 No.3*, 科学評論社 : 309-316, 2023.
- 064 若林宗弘, 室 圭 : 5章 すると理解! 小腸・大腸のすべて 治療・ケア編 04 大腸がん化学療法・薬物療法. 解剖生理も, 最新の治療も, 患者ケアも 決定版! まるごと知りたい消化管. *メディカ出版* : 188-197, 2023.
- 065 猿田雅之, 朴 成和, 室 圭, 沖 英次 : 座談会 がんゲノム医療の現状と今後の課題 : 2021 年の座談会から二年が経過して何がわかったか?. *消化器病学サイエンス vol.7 no.3*, 先端医学社 : 1-9, 2023.
- 066 熊西亮介, 成田有季哉, 室 圭 : 切除不能進行・再発胃癌の薬物療法. *診断と治療 Vol.111 No.7*, 診断と治療社 : 941-949, 2023.
- 067 石塚保亘, 児玉紘幸, 室 圭 : II 各種レジメンの実際 One Pint Advice 右側, 左側原発部位での分子標的治療薬の使用. *Knack&Pitfalls ガイドラインに沿った大腸癌薬物療法の要点と盲点*, 文光堂 : 36-37, 2023.
- 068 児玉紘幸, 谷口浩也 : II 各種レジメンの実際 10 MSI-H や特定の遺伝子異常をもつ大腸癌に対する治療. *Knack&Pitfalls ガイドラインに沿った大腸癌薬物療法の要点と盲点*, 文光堂 : 84-88, 2023.
- 069 舛石俊樹, 室 圭 : 10 薬物療法の副作用への対応 11. 免疫チェックポイント阻害薬による消化器障害について 対処法を教えてください. *肺癌診療 Q & A 一つ上を行う診療の実践第4版*, 中外医学社 : 576-578, 2023.
- 070 榎田智喜, 舛石俊樹, 室 圭 : Conversion surgery は本

当に必要か？ MSI-H/dMMR 症例における臓器温存の可能性. 臨床外科 Vol.78 No.12, 医学書院：1375-1379, 2023.

- 071 安藤正志, 谷口浩也：厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）総括研究報告書. 特定臨床研究で得られた情報の薬事申請における活用に関する検討（厚生労働省通知 薬生薬審発 0331 第1号），2023.
- 072 熊西亮介, 室 圭：8：大腸癌（結腸直腸癌）. ひと目でわかる！免疫チェックポイント阻害薬, 中外医学社：113-119, 2024.
- 073 安藤正志：53 その他のがん・希少がん. 新臨床腫瘍学第7版（日本臨床腫瘍学会編），南江堂：644-649, 2024.

## 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Ishihara H, Nishikawa D, Muraoka D, Masago K, Beppu S, Terada H, Matsushita H, Hanai N*：Changes in serum DAMPs and cytokines/chemokines during near-infrared photoimmunotherapy for patients with head and neck cancer. *Cancer Med*, 13(1): e6863, 2024.
- 002 *Yamaguchi T, Masago K, Sasaki E, Kuroda H, Matsushita H, Horio Y*：EML4-ALK Variant 3a/b as a mechanism of osimertinib resistance in a patient with EGFR L858R positive NSCLC. *Cancer Genet*, 280-281: 13-16, 2024.
- 003 *Sasaki E, Terada H, Oishi N, Iwakoshi A, Masago K, Matsushita H, Yamamoto H, Hanai N, Tateyama H*：Expression of CD5 in salivary gland tumors: an ancillary marker for carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) of the major salivary gland. *Virchows Arch*, 484(6): 945-950, 2024.
- 004 *Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi T, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe SI, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka SS, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K, Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y, Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T*：Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. *Cancer Commun (Lond)*, 44(2): 287-293, 2024.
- 005 *Ouchi A, Komori K, Masahiro T, Toriyama K, Kajiwara Y, Oka S, Fukunaga Y, Hotta K, Ikematsu H, Tsukamoto S, Nagata S, Yamada K, Konno M, Ishihara S, Saitoh Y, Matsuda K, Togashi K, Ishiguro M, Kuwai T, Okuyama T, Ohuchi A, Ohnuma S, Sakamoto K, Sugai T, Katsumata K, Matsushita HO, Nakai K, Uraoka T, Akimoto N, Kobayashi H, Ajioka Y, Sugihara K, Ueno H*：How Does Omitting Additional Surgery After Local Excision Affect the Prognostic Outcome of Patients With High-risk T1 Colorectal Cancer?. *Study Group for the JSCCR-T study, Ann Surg*, 1:279(2): 290-296, 2024.
- 006 *Sun J, Zhao W, Zhang C, Zheng E, Jiang X, Wang L, Hayashi T, Sasaki E, Tachibana M, Zhao G*：Multiple bronchiolar adenomas/ciliated muconodular papillary tumors of the bilateral lung with tumor budding and potential malignant transformation into squamous cell carcinoma: a case report and literature review. *Transl Lung Cancer Res*, 31:12(7): 1611-1624, 2023.
- 007 *Ozawa T, Oze I, Matsuzuka T, Sasaki E, Yokoyama J, Sano Y, Tomifuji M, Araki K, Kogashiwa Y, Tateya I, Agena S, Sakashita T, Tsuzuki H, Terada H, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Matoba T, Mukoyama N, Oguri K, Hasegawa Y*：Indications for sentinel lymph node biopsy in node-negative oral cancers. *Head Neck*, 45(10): 2533-2543, 2023.
- 008 *Komuro H, Shinohara S, Fukushima Y, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Masago K, Matsui T, Sugita Y, Takahashi Y, Nishida R, Takashima C, Ohki T, Shigematsu Y, Watanabe F, Adachi K, Fukuyama T, Hamana H, Kishi H, Miura D, Tanaka Y, Onoue K, Onoguchi K, Yamashita Y, Stratford R, Clancy T, Yamaguchi R, Kuroda H, Doi K, Iwata H, Matsushita H*：Single-cell sequencing on CD8+ TILs revealed the nature of exhausted T cells recognizing neoantigen and cancer/testis antigen in non-small cell lung cancer. *J Immunother Cancer*, 11(8): e007180, 2023.
- 009 *Suzuki H, Sasaki E, Tamaki T, Kodaira T, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N*：Association Between 18F-Fluorodeoxyglucose Uptake and Mutation Status of Epidermal Growth Factor Receptor in Sinonasal Tract Cancer. *Anticancer Res*, 43(7): 3247-3253, 2023.
- 010 *Ueda N, Kato H, Kato S, Saito T, Tachibana H, Yanada M, Taji H, Kodaira T, Hosoda W,*

- Yamamoto K** : Brentuximab vedotin plus AVD followed by involved-node radiotherapy in a patient with classic Hodgkin lymphoma following gray zone lymphoma after autologous stem-cell transplantation failure. *Hematology*, 28(1): 2207946, 2023.
- 011 **Hiramatsu K, Matsuda C, Masago K, Toriyama K, Sasaki E, Fujita Y, Haneda M, Ebi H, Shibata N, Hosoda W** : Diagnostic utility of DNA integrity number as an indicator of sufficient DNA quality in next-generation sequencing-based genomic profiling. *Am J Clin Pathol*, 1;160(3): 261-267, 2023.
- 012 **Sasaki E, Masago K, Kogure Y, Fujita S, Iwakoshi A, Kuroda H, Tsuzuki T, Tsuta K, Matsushita H, Oki M** : Mucous Gland Adenoma of the Lung: A Neoplastic Counterpart of Mucinous Bronchial Glands. *Mod Pathol*, 36(6): 100182, 2023.
- 013 **Shinohara S, Takahashi Y, Masago K, Matsushita H, Kuroda H** : The beginning of a new era in induction treatment for operable non-small cell lung cancer: a narrative review. *J Thorac Dis*, 28;15(2): 747-758, 2023.
- 014 **Wu Z, Yoshikawa T, Inoue S, Ito Y, Kasuya H, Nakashima T, Zhang H, Kotaka S, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y** : CD83 expression characterizes precursor exhausted T cell population. *Commun Biol*, 11;6(1): 258, 2023.
- 015 **Ando M, Honda K, Hosoda W, Matsubara Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Nakata A, Kodama H, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K** : Clinical outcomes of patients diagnosed with cancer of unknown primary or malignancy of undefined primary origin who were referred to a regional cancer center. *Int J Clin Oncol*, 28(5): 644-653, 2023.
- 016 **Kataoka A, Sawaki M, Horisawa N, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Adachi Y, Sugino K, Endo Y, Ozaki Y, Sasaki E, Hosoda W, Iwata H** : The Absence of Cancer in the Location of a Breast Tissue Marker After Neoadjuvant Chemotherapy may Predict Pathological Complete Response with High Accuracy: Results from a Phase II Trial. *Ann Surg Oncol*, 30(6): 3224-3232, 2023.
- 017 **Matsubara Y, Toriyama K, Kadowaki S, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Bando H, Ando M, Tajika M, Oze I, Hosoda W, Muro K** : The impact of combined PD-L1 positive score on clinical response to nivolumab in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 20(3): 524-532, 2023.
- 018 **Itoh N, Akazawa N, Yanaidani T, Hosoda W, Mori M** : Vancomycin-induced linear IgA bullous dermatosis in a patient with cancer. *IDCases*, 2022 Dec 22;31: e01671, eCollection, 2023.
- 019 **Tanaka T, Tajika M, Onishi S, Yamada K, Kamiya T, Hosoda W, Niwa Y** : A rare case of a superficial squamous cell carcinoma (so-called cloacogenic carcinoma) of the rectum. *Clin J Gastroenterol*, 16(1): 48-53, 2023.
- 020 **Masago K, Kuroda H, Fujita S, Sasaki E, Takahashi Y, Shinohara S, Matsushita H** : Biological Difference between L858R and Exon 19 Deletion Contributes to Recurrence-Free Survival of Resected Non-Small Cell Lung Cancer. *Oncology*, 101(2): 117-125, 2023.
- 021 **藤田泰子** : 中心陥凹を伴う粘膜下腫瘍様形態を呈した胃底腺型腺癌の1例. *胃と腸* 58巻12号, 2023.

### 頭頸部外科

- 001 **Matsuzuka T, Tsukahara K, Yoshimoto S, Chikamatsu K, Shiotani A, Oze I, Murakami Y, Shinozaki T, Enoki Y, Ohba S, Kawakita D, Hanai N, Koide Y, Sawabe M, Nakata Y, Fukuda Y, Nishikawa D, Takano G, Kimura T, Oguri K, Hirakawa H, Hasegawa Y** : Predictive factors for dissection-free sentinel node micrometastases in early oral squamous cell carcinoma. *Sci Rep*, 13(1): 6188, 2023.
- 002 **Nishikawa D, Beppu S, Suzuki H, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : A novel technique in transoral robotic surgery: A case report of rotating and switching technique. *Int J Med Robot*, 19(4): e2520, 2023.
- 003 **Suzuki H, Sasaki E, Tamaki T, Kodaira T, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : Association Between 18F-Fluorodeoxyglucose Uptake and Mutation Status of Epidermal Growth Factor Receptor in Sinonasal Tract Cancer. *Anticancer Res*, 43(7): 3247-3253, 2023.
- 004 **Kobayashi K, Hanai N, Yoshimoto S, Saito Y, Homma A** : Current topics and management of head and neck sarcomas. *Jpn J Clin Oncol*, 53(9): 743-756, 2023.
- 005 **Shimoda H, Teshima M, Murase T, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Taguchi KI, Yamamoto H, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Kawakita D, Sakurai K, Hanai N, Nagao T, Kawata R, Hato N, Nibu KI, Inagaki H** : Prognostic scores for patients with salivary adenoid cystic carcinoma without lymph node metastasis. *Oral Oncol*, 145: 106491, 2023.
- 006 **Ueda K, Murase T, Kawakita D, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Yamamoto H, Taguchi KI, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Sakurai K, Hanai N, Nagao T, Kawata R, Hato N, Nibu KI, Inagaki H** : The Landscape of MYB/MYBL1- and Peri-MYB/

- MYBL1-Associated Rearrangements in Adenoid Cystic Carcinoma. *Mod Pathol*, 36(10): 100274, 2023.
- 007 **Sawabe M, Kawakita D, Oze I, Iwasaki S, Hasegawa Y, Murakami S, Ito H, Hanai N, Matsuo K** : The Heterogeneous Impact of Prediagnostic Folate Intake for Fluorouracil-Containing Induction Chemotherapy for Head and Neck Cancer. *Cancers (Basel)*, 15(21): 5150, 2023.
- 008 **Suzuki H, Haimoto S, Inaba Y, Tachibana H, Takanari K, Ando M, Yoshizawa K, Hanai N** : Peptide Receptor Radionuclide Therapy for Recurrent Olfactory Neuroblastoma After Cranioplasty for Surgical Infection: A Case Report. *Anticancer Res*, 43(12): 5723-5728, 2023.
- 009 **Homma A, Ando M, Hanai N, Harada H, Honma Y, Kanda T, Kano S, Kawakita D, Kiyota N, Kizawa Y, Nakagawa M, Ogawa T, Shinomiya H, Shinozaki T, Suzuki M, Tsuji T, Yasuda K, Zenda S, Kodaira T, Kirita T, Nibu KI** : Summary of Japanese clinical practice guidelines for head and neck cancer - 2022 update edited by the Japan society for head and neck cancer. *Auris Nasus Larynx*, 51(1): 174-188, 2024.
- 010 **Ishihara H, Nishikawa D, Muraoka D, Masago K, Beppu S, Terada H, Matsushita H, Hanai N** : Changes in serum DAMPs and cytokines/chemokines during near-infrared photoimmunotherapy for patients with head and neck cancer. *Cancer Med*, 13(1): e6863, 2023.
- 011 **Sato Y, Takahashi S, Toshiyasu T, Tsuji H, Hanai N, Homma A** : Squamous cell carcinoma of the eyelid. *Jpn J Clin Oncol*, 54(1): 4-12, 2024.
- 012 **Ariizumi Y, Hanai N, Asakage T, Seto A, Tomioka T, Miyabe J, Kessoku H, Mukaigawa T, Omura G, Teshima M, Nishikawa D, Saito Y, Asada Y, Fujisawa T, Makino T, Nishino H, Sano D, Nakahira M, Tokashiki K, Uemura H, Ueda T, Sakai A, Masuda M, Tsujikawa T, Hiei Y, Nishio N, Matsui H, Kiyota N, Homma A** : Extent of thyroidectomy and paratracheal lymph node dissection in total pharyngolaryngectomy for pyriform sinus cancer, and recurrence, survival, and postoperative hypoparathyroidism: A multicenter retrospective study. *Head Neck*, 46(2): 269-281, 2024.
- 013 **Kodama H, Kadowaki S, Nakazawa T, Matsubara Y, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Koide Y, Tachibana H, Kodaira T, Sawabe M, Terada H, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N, Muro K** : Safety and Efficacy of Gemcitabine Plus Cisplatin Against Recurrent/Metastatic Nasopharyngeal Carcinoma: A Retrospective Study. *Anticancer Res*, 44(3): 1227-1232, 2024.
- 014 **花井信広** : 光免疫療法と光線力学的治療の現状と将来 光免疫療法の臨床 (頭頸部アルミノックス治療). *日本気管食道科学会会報*, 74(2) : 87-89, 2023.
- 015 **花井信広** : 頭頸部がんの新たな治療戦略・がん免疫療法. *日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報*, 126 : 693-697, 2023.
- 016 **花井信広** : Head and Neck Tumor 頭頸部腫瘍 頭頸部癌の光免疫療法 (アルミノックス治療) 光免疫療法対象患者の適格性. *癌と化学療法*, 50(7) : 781-784, 2023.
- 017 **平川 仁, 松塚 崇, 上村裕和, 吉本世一, 三浦弘規, 塩谷彰浩, 菅澤 正, 本間明宏, 横山純吉, 塚原清彰, 吉崎智一, 花井信広, 鈴木秀典, 鈴木幹男, 長谷川泰久** : センチネルリンパ節および非センチネルリンパ節の分布パターンと病理学的解析 late T2/3N0 口腔扁平上皮癌に対する SN lymphatic basin dissection の妥当性. *日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報*, 126(12) : 1358-1360, 2023.
- 018 **西川大輔** : 【頭頸部癌治療の新しい道 - 免疫・薬物療法 -】 光免疫療法の現状. *ENTONI*, 285 : 43-51, 2023.
- 019 **寺田星乃** : 『中身を見たらもっとよくわかる！超音波診断に役立つ易しい頭頸部解剖』. *乳腺甲状腺超音波医学*, 12(3) : 38-42, 2023.
- 020 **岸川敏博, 花井信広, 塚本康二** : 耳鼻咽喉科 / 頭頸部外科 オペネーションのための予習用術式マニュアル (オペネーシング 2023 年周期増刊, 監修 小西敏郎)p216-232, 2023.
- 021 **寺田星乃, 花井信広** : 【頭頸部外来診療におけるエコー検査活用術】 頭頸部癌治療戦略におけるエコー活用術. *ENTONI*, 287 : 53-60, 2023.
- 022 **寺田星乃, 花井信広** : 実臨床で使える頭頸部超音波検査. *超音波医学*, 50(5) : 339-346, 2023.
- 023 **花井信広** : 喉頭部分切除の TIPS. *喉頭*, 35 : 126-131, 2023.
- 024 **各務雅基, 花井信広** : 【大人と子どもの首の腫れ】 悪性腫瘍. *ENTONI*, 290 : 25-32, 2023.
- 025 **吉澤宏一, 花井信広, 寺田星乃, 西川大輔, 別府慎太郎, 鈴木秀典** : 上歯肉癌・硬口蓋癌における頸部リンパ節転移と DOI の臨床的意義. *頭頸部癌*, 49(4) : 288-292, 2023.
- 026 **西川大輔** : 進行・再発喉頭癌の機能温存戦略 頭頸部アルミノックス治療 (光免疫療法)による喉頭・下咽頭病変治療. *喉頭*, 35(2) : 108-113, 2023.

## 形成外科部

- 001 **Suzuki H, Haimoto S, Inaba Y, Tachibana H, Takanari K, Ando M, Yoshizawa K, Hanai N** : Peptide Receptor Radionuclide Therapy for Recurrent Olfactory Neuroblastoma After Cranioplasty for Surgical Infection: A Case Report. *Anticancer Res*, 43(12): 5723-5728, 2023.
- 002 **Sato H, Kohyama K, Uchibori T, Takanari K, Huard J, Badylak SF, D'Amore A, Wagner WR** :



Creating and Transferring an Innervated, Vascularized Muscle Flap Made from an Elastic, Cellularized Tissue Construct Developed In Situ. *Adv Healthc Mater*, 12 (29): e2301335, 2023.

- 003 **Kambe M, Hashikawa K, Takanari K, Yagi S, Toriyama K, Ebisawa K, Nishio N, Maruo T, Mukoyama N, Fujimoto Y, Fujii M, Saito K, Takahashi M, Kamei Y** : Long-term outcomes of lateral skull base reconstruction with a free omental flap and facial nerve reconstruction. *Nagoya J Med Sci*, 85 (2): 255-264, 2023.
- 004 **Li Y, Takanari K, Nakamura R, Kambe M, Ebisawa K, Oishi M, Kamei Y** : Artificial PGA/Collagen-based Bilayer Conduit in Short Gap Interposition Setting Provides Comparable Regenerative Potential to Direct Suture. *Plast Reconstr Surg Glob Open*, 27;11(3): e4875, 2023.
- 005 **Akazawa Na, \*, Itoh Na, Ishibana Ya, Murakami Ha, Okumura Sa** : Successful management of surgical site infection caused by *Mycobacterium mageritense* in a breast cancer patient. *Journal of Infection and Chemotherapy*, 30: 800-805, 2024
- 006 **橋本昌也, 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太, 高成啓介** : シリコン乳房インプラント破損と尋常性乾癬発症の関係が疑われた1例, *日本形成外科学会誌*, 43(9)532-9, 2023.

## 呼吸器外科部

- 001 **Matsui T, Takahashi Y, Nakada T, Sugita Y, Shinohara S, Suzuki A, Sakakura N, Takano T, Chiba K, Nakamura R, Oda R, Tatematsu T, Yokota K, Mizuno K, Haneda H, Okuda K, Kuroda H** : Thoracoscopic Anatomical Sublobar Resection Including Subsegmentectomy for Non-Small Cell Lung Cancer. *World J Surg*, 47: 2065-2075, 2023.
- 002 **Matsui T, Takahashi Y, Nakada T, Sugita Y, Seto K, Sakakura N, Mizuno K, Haneda H, Okuda K, Kuroda H** : Impact of intrapulmonary tumour location of non-small-cell lung cancer on surgical outcomes for segmentectomy. *Eur J Cardiothorac Surg*, 65: ezae036, 2024.

## 乳腺科部

- 001 **Tolaney S, Chan A, Petrakova K, Delaloge S, Campone M, Iwata H, Peddi P, Kaufman P, Kermadec E, Liu Q, Cohen P, Paux G, Wang L, Ternès N, Boitier E, Im S-A** : AMEERA-3: Randomized Phase II Study of Amcenestrant (Oral

Selective Estrogen Receptor Degradar) Versus Standard Endocrine Monotherapy in Estrogen Receptor-Positive, Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Negative Advanced Breast Cancer. *Journal of Clinical Oncology*, 20;41(24): 4014-4024, 2023.

- 002 **Krop I, Masuda N, Mukohara T, Takahashi S, Nakayama T, Inoue K, Iwata H, Yamamoto Y, Alvarez R, Toyama T, Takahashi M, Osaki A, Saji S, Sagara Y, O'Shaughnessy J, Ohwada S, Koyama K, Inoue T, Li L, Patel P, Mostillo J, Tanaka Y, Sternberg D, Sellami D, Yonemori K** : Patritumab Deruxtecan (HER3-DXd), a Human Epidermal Growth Factor Receptor 3-Directed Antibody-Drug Conjugate, in Patients With Previously Treated Human Epidermal Growth Factor Receptor 3-Expressing Metastatic Breast Cancer: A Multicenter, Phase I/II Trial. *Journal of Clinical Oncology*, 20;41(36): 5550-5560, 2023.
- 003 **Curigliano G, Dunton K, Rosenlund M, Janek M, Cathcart J, Liu Y, Fasching PA, Iwata H** : Patient-reported outcomes and hospitalization data in patients with HER2-positive metastatic breast cancer receiving trastuzumab deruxtecan or trastuzumab emtansine in the phase III DESTINY-Breast03 study. *Annals of Oncology*, 34(7): 569-577, 2023.
- 004 **Pfeiler G, Hlauschek D, Mayer E, Deutschmann C, Kacarovsky-Strobl S, Martin M, Meisel J, Zdenkowski N, Loibl S, Balic M, Park H, Prat A, Isaacs C, Bajetta E, Balko J, Bellet-Ezquerria M, Bliss J, Burstein H, Cardoso F, Fohler H, Foukakis T, Gelmon K, Goetz M, Haddad T, Iwata H, Jassem J, Lee S-C, Linderholm B, Los M, Mamounas E, Miller K, Morris P, Munzone E, Gal-Yam E, Ring A, Shepherd L, Singer C, Thomssen C, Tseng L-M, Valagussa P, Winer E, Wolff A, Zoppoli G, Machacek-Link J, Schurmans C, Huang X, Gauthier E, Fesl C, Dueck A, DeMichele A, Gnant M** : Impact of BMI in Patients With Early Hormone Receptor-Positive Breast Cancer Receiving Endocrine Therapy With or Without Palbociclib in the PALLAS Trial. *Journal of Clinical Oncology*, 20;41(33): 5118-5130, 2023.
- 005 **Holmes A, Moy B, Delaloge S, Chia S, Ejlertsen B, Mansi J, Iwata H, Gnant M, Buyse M, Barrios C, Silovski T, Šeparović R, Bashford A, Zotano A, Denduluri N, Patt D, Gokmen E, Gore I, Smith J, Loibl S, Masuda N, Tomašević Z, Petraková K, DiPrimeo D, Wong A, Martin M, Chan A** : Overall survival with neratinib after trastuzumab-based adjuvant therapy in HER2-positive breast cancer (ExteNET): A randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *European Journal of Cancer*, 184: 48-59, 2023.
- 006 **Takada M, Imoto S, Ishida T, Ito Y, Iwata H, Masuda N, Mukai H, Saji S, Ikeda T, Haga H, Saeki**

- T, Aogi K, Sugie T, Ueno T, Ohno S, Ishiguro H, Kanbayashi C, Miyamoto T, Hagiwara Y, Toi M* : A risk-based subgroup analysis of the effect of adjuvant S-1 in estrogen receptor-positive, HER2-negative early breast cancer. *Breast Cancer Res Treat.* (3): 485-496, 2023.
- 007 *Takahashi M, Cortés J, Dent R, Puztai L, McArthur H, Kümmel S, Denkert C, Park Y, Im S-A, Ahn J-H, Mukai H, Huang C-S, Chen S-C, Kim M, Jia L, Li X, Tryfonidis K, Karantza V, Iwata H, Schmid P* : Pembrolizumab Plus Chemotherapy Followed by Pembrolizumab in Patients With Early Triple-Negative Breast Cancer: A Secondary Analysis of a Randomized Clinical Trial. *JAMA Netw Open.* 6(11): e2342107, 2023.
- 008 *Hattori M, Masuda N, Takano T, Tsugawa K, Inoue K, Matsumoto K, Ishikawa T, Itoh M, Yasojima H, Tanabe Y, Yamamoto K, Suzuki M, Pan W, Cortes J, Iwata H* : Pembrolizumab plus chemotherapy in Japanese patients with triple-negative breast cancer: Results from KEYNOTE-355. *Cancer Medicine.* 12(9): 10280-10293, 2023.
- 009 *Saura C, Modi S, Krop I, Park Y, Kim S-B, Tamura K, Iwata H, Tsurutani J, Sohn J, Mathias E, Liu Y, Cathcart J, Singh J, Yamashita T* : Trastuzumab deruxtecan in previously treated patients with HER2-positive metastatic breast cancer: updated survival results from a phase II trial (DESTINY-Breast01). *Annals of Oncology.* 35(3): 302-307, 2023.
- 010 *Masuda J, Sakai H, Tsurutani J, Tanabe Y, Masuda N, Iwasa T, Takahashi M, Futamura M, Matsumoto K, Aogi K, Iwata H, Hosonaga M, Mukohara T, Yoshimura K, Imamura C, Miura S, Yamochi T, Kawabata H, Yasojima H, Tomioka N, Yoshimura K, Takano T* : Efficacy, safety, and biomarker analysis of nivolumab in combination with abemaciclib plus endocrine therapy in patients with HR-positive HER2-negative metastatic breast cancer: a phase II study (WJOG11418B NEWFLAME trial). *J Immunother Cancer.* 11(9): e007126, 2023.
- 011 *Sawaki M, Muramatsu Y, Togo K, Iwata H* : Real-world treatment patterns of subsequent therapy after palbociclib in patients with advanced breast cancer in Japan. *The Breast.* 70: 1-7, 2023.
- 012 *Loi S, Salgado R, Schmid P, Cortes J, Cescon D, Winer E, Toppmeyer D, Rugo H, Laurentiis M, Nanda R, Iwata H, Awada A, Tan A, Sun Y, Karantza V, Wang A, Huang L, Saadatpour A, Cristescu R, Yearley J, Lunceford J, Jelinic P, Adams S* : Association Between Biomarkers and Clinical Outcomes of Pembrolizumab Monotherapy in Patients With Metastatic Triple-Negative Breast Cancer: KEYNOTE-086 Exploratory Analysis. *JCO Precision Oncology.* 7: e2200317, 2023.
- 013 *Sasada S, Kondo N, Hashimoto H, Takahashi Y, Terata K, Kida K, Sagara Y, Ueno T, Anan K, Suto A, Kanbayashi C, Takahashi M, Nakamura R, Ishiba T, Tsuneizumi M, Nishimura S, Naito Y, Hara F, Shien T, Iwata H* : Prognostic impact of adjuvant endocrine therapy for estrogen receptor-positive and HER2-negative T1a/bN0M0 breast cancer. *Breast Cancer Res Treat.* 202(3): 473-483, 2023.
- 014 *Nomura T, Kawai M, Fukuma Y, Koike Y, Ozaki S, Iwasaki M, Yamamoto S, Takamatsu K, Okamura H, Arai M, Ootani S, Iwata H, Saji S* : Alcohol consumption and breast cancer prognosis after breast cancer diagnosis: a systematic review and meta-analysis of the Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guideline, 2022 edition. *Breast Cancer.* 30(4): 519-530, 2023.
- 015 *Terada M, Ito A, Kikawa Y, Koizumi K, Naito Y, Shimoi T, Ishihara M, Yamanaka T, Ozaki Y, Hara F, Nakamura R, Hattori M, Miyashita M, Kondo N, Yoshinami T, Takada M, Matsumoto K, Narui K, Sasada S, Iwamoto T, Hosoda M, Takano Y, Oba T, Sakai H, Murakami A, Higuchi T, Tsuchida J, Tanabe Y, Shigechi T, Tokuda E, Harao M, Kashiwagi S, Mase J, Watanabe J, Nagai S, Yamauchi C, Yamamoto Y, Iwata H, Saji S, Toyama T* : The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for systemic treatment of breast cancer, 2022 edition. *Breast Cancer.* 30(6): 872-884, 2023.
- 016 *Uchida M, Furukawa T, Yamaguchi T, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Horikoshi M, Iwata H, Zenda S, Iwatani T, Ogawa A, Inoue A, Abe M, Toyama T, Uchitomi Y, Matsuoka H, Noma H, Akechi T* : Optimization of smartphone psychotherapy for depression and anxiety among patients with cancer using the multiphase optimization strategy (MOST) framework and decentralized clinical trial system (Smartphone Intervention to LEssen depression/Anxiety and GAIN resilience: SMILE AGAIN project): a protocol for a randomized controlled trial. *Trials.* 24: 344, 2023.
- 017 *Ishiba T, Nishibuchi I, Hara F, Shikama N, Shien T, Iwata H* : Metastasis-directed therapy for oligometastases in breast cancer. *Japanese Journal of Clinical Oncology.* 53(10): 893-898, 2023.
- 018 *Tamura K, Mukohara T, Yonemori K, Kawabata Y, Nicolas X, Tanaka T, Iwata H* : Phase 1 study of oral selective estrogen receptor degrader (SERD) amcenestrant (SAR439859), in Japanese women with ER-positive and HER2-negative advanced breast cancer (AMEERA-2). *Breast Cancer.* 30(3): 506-517, 2023.

- 019 **Sakai T, Kutomi G, Shien T, Asaga S, Aruga T, Ishitobi M, Kuba S, Sawaki M, Terata K, Tomita K, Yamauchi C, Yamamoto Y, Iwata H, Saji S** : The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for surgical treatment of breast cancer, 2022 edition. *Breast Cancer*, 31(1): 1-7, 2024.
- 020 **Takatsuka D, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Kataoka A, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Nozawa K, Iwata H** : Arthralgia induced by endocrine therapy with or without cyclin-dependent kinase 4/6 inhibitors in breast cancer: A systematic review and meta-analysis. *Asia Pac J Clin Oncol*, 19(5): e175-e182, 2023.
- 021 **Akechi T, Furukawa T, Noma H, Iwata H, Toyama T, Higaki K, Matsuoka H, Zenda S, Iwatani T, Akahane K, Inoue A, Sagara Y, Uchida M, Imai F, Momino K, Imaizumi G, Yamaguchi T, Mashiko T, Miyaji T, Horikoshi M, Sakurai N, Onishi T, Kanemitsu Y, Murata T, Endo Y, Kuroda H, Nishikawa R, Miyashita M, Abe M, Uchitomi Y** : Optimizing smartphone psychotherapy for depressive symptoms in patients with cancer: Multiphase optimization strategy using a decentralized multicenter randomized clinical trial (J-SUPPORT 2001 Study). *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 78(6): 353-361, 2024.
- 022 **Takatsuka D, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Kotani H, Kataoka A, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Nozawa K, Iwata H** : Evaluation of the Role of Axillary Lymph Node Fine-Needle Aspiration Cytology in Early Breast Cancer With or Without Neoadjuvant Chemotherapy. *J Breast Cancer*, 26(2): 117-125, 2023.
- 023 **Ozaki Y, Kotani H, Adachi Y, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kataoka A, Nozawa K, Sugino K, Horisawa N, Endo Y, Takatsuka D, Isogai A, Iwata H** : Satisfaction survey on a preoperative explanation method using three-dimensional breast imaging for breast cancer patients considering breast-conserving surgery. *Surg Today*, 53(4): 476-482, 2023.
- 024 **Takaiso N, Imoto I, Yoshimura A, Ouchi A, Komori K, Iwata H, Shimizu Y** : BARD1 deletion in a patient with suspected hereditary colorectal cancer. *Hum Genome Var*, 11(1): 11, 2024.
- 025 **Honma N, Yoshida M, Kinowaki K, Horii R, Katsurada Y, Murata Y, Shimizu A, Tanabe Y, Yamauchi C, Yamamoto Y, Iwata H, Saji S** : The Japanese breast cancer society clinical practice guidelines for pathological diagnosis of breast cancer, 2022 edition. *Breast Cancer*, 31(1): 8-15, 2024.
- 026 **Kawai M, Ohtani S, Iwasaki M, Yamamoto S, Takamatsu K, Okamura H, Arai M, Nomura T, Ozaki S, Shibata K, Akabane A, Motoi F, Yamauchi C, Yamamoto Y, Iwata H, Saji S** : The Japanese Breast Cancer Society clinical practice guidelines for epidemiology and prevention of breast cancer, 2022 edition. *Breast Cancer*, 31(2): 166-178, 2024.
- 027 **Sawaki M, Kataoka A** : How can we eliminate breast surgery in patients who achieved clinical complete response after neoadjuvant chemotherapy. *Ann Surg Oncol*, 30: 3233-3234, 2023.
- 028 **Hattori M, Masuda N, Takano T, Tsugawa K, Inoue K, Matsumoto K, Ishikawa T, Itoh M, Yasojima H, Tanabe Y, Yamamoto K, Suzuki M, Pan W, Cortes J, Iwata H** : Pembrolizumab plus chemotherapy in Japanese patients with triple-negative breast cancer: Results from KEYNOTE-355. *Cancer Med*, 12(9): 10280-10293, 2023.
- 029 **Hattori M, Honma N, Nagai S, Narui K, Shigechi T, Ozaki Y, Yoshida M, Sakatani T, Sasaki E, Tanabe Y, Tsurutani J, Takano T, Saji S, Masuda S, Horii R, Tsuda H, Yamaguchi R, Toyama T, Yamauchi C, Toi M, Yamamoto Y** : Trastuzumab deruxtecan for human epidermal growth factor receptor 2-low advanced or metastatic breast cancer: recommendations from the Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines. *Breast Cancer*, 31(3): 335-339, 2024.
- 030 **Kureyama N, Terada M, Kusudo M, Nozawa K, Endo Y, Fujita T, Asano T, Kato A, Mori M, Horisawa N, Toyama T** : N Kureyama, M Terada, M Kusudo, K Nozawa, Y Wanifuchi-Endo, Ti Fujita, T Asano, A Kato, M Mori, N Horisawa, T Toyama: JMIR Formative Research. 2023.
- 031 **澤木正孝** : 高齢者の手術. 乳腺外科の要点と盲点第3版, 266-272, 2023.
- 032 **澤木正孝** : 高齢者乳癌治療のコツ. 乳腺外科の要点と盲点第3版, 56-60, 2023.
- 033 **澤木正孝** : classical CMF. 乳腺外科の要点と盲点第3版, 88-90, 2023.
- 034 **澤木正孝** : 機能評価に基づく治療法の選択 がん薬物療法. よくわかる老年腫瘍学, 143-148, 2023.
- 035 **服部正也** : 乳がんリキッドバイオプシーの現在と未来. 医学のあゆみ, 288号 115-119, 2024.
- 036 **吉村章代** : 遺伝性遺伝子の検査. 乳癌薬物療法の要点と盲点, 39-41, 2023.
- 037 **小谷はるる** : 術前術後薬物療法の要点と盲点 オラパリブ. 乳癌薬物療法の要点と盲点第3版, 109-111, 2023.
- 038 **小谷はるる** : 進行・再発乳癌に対する薬物療法の要点と盲点 オラパリブ. 乳癌薬物療法の要点と盲点第3版, 184-185, 2023.

## 消化器外科部

- 001 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ito S, Abe T, Shimizu Y**: Clinical Relevance of Lateral Pelvic Lymph Node Dissection for Enlarged Lateral Nodes in Locally Advanced Low Rectal Cancer without Preoperative Treatment. *Journal of the Anus, Rectum and Colon*, 7: 2-126-134, 2023.
- 002 **Ouchi A, Inoue M, Sato Y, Takamizawa Y, Kinoshita T, Moritani K, Komori K, Tsukamoto S, Shimizu Y, Kanemitsu Y**: Lateral pelvic lymph node metastasis in T2 low rectal cancer: is TME alone sufficient for cure?. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 53: 5-386-392, 2023.
- 003 **Komori K, Tanaka T, Inaba Y, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Akaza S, Saito H, Narita K, Kitahara T, Hanazawa T, Ojio H, Negita M, Shimizu Y**: Novel Ureteral Stent Catheterization Technique for Treating Hyperchloremic Metabolic Acidosis After Total Pelvic Exenteration. *Anticancer Research*, 43: 11-5149-5153, 2023.
- 004 **Abe T, Higaki E, Fujieda H, Saito H, Narita K, Komori K, Ito S, Shimizu Y**: Will robot-assisted minimally invasive esophagectomy improve patient outcomes compared to conventional minimally invasive esophagectomy?. *Mini-invasive Surgery*, 2023.
- 005 **Ito S, Sano T, Mizusawa J, Tokunaga M, Hashimoto T, Imamura H, Teshima S, Nihei K, Yamada M**: Identifying Risk Factors of Complications following Total Gastrectomy for Gastric Cancer: Comparison between Splenectomy and Spleen-Preserving Surgery – A Supplementary Analysis of JCOG0110. *Digestive Surgery*, 40: 3-4-114-120, 2023.
- 006 **Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Oki S, Aritake T, Tawada K, Akaza S, Saito H, Narita K, Kawabata H, Shimizu Y**: How many times can patients tolerate reoperation for the local recurrence of colorectal cancer in terms of complications?. *The Journal of Medical Investigation*, 70: 3-4-369-376, 2023.
- 007 **Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Oki S, Aritake T, Tawada K, Akaza S, Saito H, Narita K, Kawabata H and Shimizu Y**: Three cases of open surgical procedures on ileal conduits for the repair of benign ureteroenteric anastomotic strictures after total pelvic exenteration of rectal tumors. *Nagoya Journal of Medical Science*, 85: 4-836-843, 2023.
- 008 **Tawada K, Higaki E, Abe T, Takatsu J, Fujieda H, Nagao T, Komori K, Ito S, Yoshida M, Oze I, Shimizu Y**: Maximum phonation time: an independent predictor of late-onset pneumonia after esophageal cancer surgery. *Diseases of the Esophagus*, 36: 10, 2023.
- 009 **Komori K, Tsukushi S, Yoshida M, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Oki S, Aritake T, Tawada K, Akaza S, Saito H, Narita K, Kawabata H, Yasui K, Shimizu Y**: Total Pelvic Exenteration Combined With Sacral Resection for Rectal Cancer. *The American Surgeon*, 89: 11-4578-4583, 2023.
- 010 **Kunitomo A, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Abe T, Ito S, Sano T, and Shimizu Y**: Clinical Impact of Radical Resection of Synchronous and Metachronous Peritoneal Metastases from Colorectal Cancer. *Surgical Oncology*, 30: 13-8501-8508, 2023.
- 011 **Kunitomo A, Ouchi A, Komori K**: Author Reflections: Localized Synchronous and Metachronous Peritoneal Metastases from Colorectal Cancer—Are They Candidates for Radical Resection?. *Surgical Oncology*, 30: 13-8520-8521, 2023.
- 012 **Tsukamoto S, Ouchi A, Komori K, Shiozawa M, Yasui M, Ohue M, Nogami H, Takii Y., Moritani K, Kanemitsu Y**: A multicenter prospective observational study of lymph node metastasis patterns and short-term outcomes of extended lymphadenectomy in right-sided colon cancer. *Annals of Gastroenterological Surgery*, 7: 6-940-948, 2023.
- 013 **Kotaka S, Yasui H, Tsubouchi H, Mori M, Kotani H, Yoshimura A, Ouchi A, Okuno M, Komori K, Shimizu Y, Suzuki S**: A case of simultaneous breast cancer and ovarian cancer based on a hereditary breast and ovarian cancer syndrome. *Nagoya J Med Sci*, 85: 4-814-821, 2023.
- 014 **Manjunatha Y, Sharma V, Iwahori Y, Bhuyan MK, Wang A, Ouchi A, Shimizu Y**: Lymph node detection in CT scans using modified U-Net with residual learning and 3D deep network. *Ann Surg Oncol*, 18: 4-723-732, 2023.
- 015 **Ito N, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Takagi A, Onishi S, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Inaba Y, Muro K, Kawashima H, Niwa Y**: Skeletal Muscle Quality and Quantity Affect Prognosis after Neoadjuvant Chemotherapy with a Triple Regimen of Docetaxel/ Cisplatin/5-FU in Patients with Esophageal Cancer. *J Clin Med*, 12: 21-6738, 2023.
- 016 **Ouchi A, Sadachi R, Hamaguchi T, Tsukamoto S, Shimada Y, Inomata M, Takii Y, Komori K, Shiomi A, Shiozawa M, Ohue M, Watanabe J, Ito M, Kawashima Y, Kobatake T, Souda H, Saida Y, Hashimoto T, Sano Y, Kanemitsu Y**: Prognostic

- Relevance of Primary Tumor Sidedness in Early-stage Colorectal Cancer: An Integrated Analysis of 4 Randomized Controlled Trials (JCOG2003A). *Ann Surg*, 279: 2-283-289, 2023.
- 017 **Yoshikawa T, Terashima M, Mizusawa J, Nunobe S, Nishida Y, Yamada T, Kaji M, Nomura T, Hato S, Choda Y, Yabusaki H, Yoshida K, Misawa K, Masuzawa T, Tsuda M, Kawachi Y, Katayama H, Fukuda H, Kurokawa Y, Boku N, Sano T, Sasako M** : 5-year follow-up results of a JCOG1104 (OPAS-1) phase III non-inferiority trial to compare 4 courses and 8 courses of S-1 adjuvant chemotherapy for pathological stage II gastric cancer. *Gastric Cancer*, 27: 1-155-163, 2023.
- 018 **Terashima M, Fujitani K, Yang HK, Mizusawa J, Tsujinaka T, Nakamura K, Katayama H, Lee HJ, Lee JH, An JY, Takagane A, Park YK, Choi SH, Song KY, Ito S, Park DJ, Jin SH, Boku N, Yoshikawa T, Sasako M** : Role of reduction gastrectomy in patients with gastric cancer with a single non-curable factor: Supplementary analysis of REGATTA trial. *Ann Gastroenterol Surg*, 7: 5-741-749, 2023.
- 019 **Sato R, Tokunaga M, Mizusawa J, Sato Y, Ito S, Takahari D, Sano T, Onaya H, Yoshikawa T, Boku N, Terashima M** : Clinical impact of skeletal muscle mass changeduring the neoadjuvant chemotherapy period in patients with gastric cancer: An ancillary study of JCOG1002. *World J Surg*, 48: 1-163-174, 2023.
- 020 **Makuuchi R, Terashima M, Terada M, Mizusawa J, Kita R, Tokunaga M, Omori T, Ojima T, Ehara K, Watanabe M, Yanagimoto Y, Nunobe S, Kinoshita T, Ito S, Nishida Y, Hihara J** : Randomized controlled phase III trial to investigate superiority of robot-assisted gastrectomy over laparoscopic gastrectomy for clinical stage T1-4aN0-3 gastric cancer patients (JCOG1907, MONA LISA study): a study protocol. *BMC Cancer*, 23: 1-987, 2023.
- 021 **Sato B, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Nakanishi K, Shimizu D, Tanaka C, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Proposal of the Second Cutoff of Serum Carcinoembryonic Antigen Levels to Stratify Patients into Low, Intermediate, and High Risks at Recurrences after Curative Resection of Gastric Cancer. *Dig Surg*, 40: 6-187-195, 2023.
- 022 **Shimizu D, Tanaka C, Kanda M, Nakanishi K, Ito S, Kuwatsuka Y, Ando M, Murotani K, Fujiwara M, Kodera Y** : A Multicenter Randomized Phase II Trial Investigating the Effect of Polyglycolic Acid Sheet on the Prevention of Pancreatic Fistula After Gastrectomy with Prophylactic Lymph Node Dissection. *Clin Exp Gastroenterol*, 18: 16-169-172, 2023.
- 023 **Fozilov K, Colan J, Davila A, Misawa K, Qiu J, Hayashi Y, Mori K, Hasegawa Y** : Endoscope Automation Framework with Hierarchical Control and Interactive Perception for Multi-Tool Tracking in Minimally Invasive Surgery. *Sensors*, 23: 24-9865, 2023.
- 024 **Nakada K, Kimura A, Yoshida K, Futawatari N, Misawa K, Aridome K, Fujiwara Y, Tanabe K, Kawakubo H, Oshio A, Kodera Y** : Effect of Four Main Gastrectomy Procedures for Proximal Gastric Cancer on Patient Quality of Life: A Nationwide Multi-Institutional Study. *J Gastric Cancer*, 23: 2-275-288, 2023.
- 025 **Etoh T, Ohyama T, Sakuramoto S, Tsuji T, Lee SW, Yoshida K, Koeda K, Hiki N, Kunisaki C, Tokunaga M, Otsubo D, Takagane A, Misawa K, Kinoshita T, Cho H, Doki Y, Nunobe S, Shiraishi N, Kitano S** : Five-Year Survival Outcomes of Laparoscopy-Assisted vs Open Distal Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer: The JLSSG0901 Randomized Clinical Trial. *JAMA Surg*, 158: 5-445-454, 2023.
- 026 **Sugiura T, Toyama H, Fukutomi A, Asakura H, Takeda Y, Yamamoto K, Hirano S, Satoi S, Matsumoto I, Takahashi S, Morinaga S, Yoshida M, Sakuma Y, Iwamoto H, Shimizu Y, Uesaka K** : Randomized phase II trial of chemoradiotherapy with S-1 versus combination chemotherapy with gemcitabine and S-1 as neoadjuvant treatment for resectable pancreatic cancer (JASPAC 04). *J hepatobiliary Pancreat Sci*, 30: 11-1249-1260, 2023.
- 027 **Hozaka Y, Ohtsuka T, Nakamura M, Hijioka S, Unno M, Shimizu Y, Tanabe M, Nagakawa Y, Hatano E, Kawai M, Sano T, Koshita S, Katanuma A, Kita E, Hanada K, Nakai Y, Aoki T, Serikawa M, Okamoto K, Takeyama Y** : Feasibility of Surveillance for Mucinous Cystic Neoplasm of the Pancreas: A Multi-Institutional Retrospective Study of 328 Patients by the Japanese Pancreatic Society. *Pancreas*, 52: 5-288-292, 2023.
- 028 **Sugimoto Y, Koyanagi YN, Kawakatsu Y, Oze I, Taniyama Y, Kasugai Y, Tanaka T, Abe T, Tajika M, Shimizu Y, Ito H, Wakai K, Matsuo K** : Mediation analysis unveils a carcinogenic effect of ADH1B rs1229984 through mechanisms other than change in drinking intensity: oesophageal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 53: 7-581-588, 2023.
- 029 **Kin T, Shimizu Y, Hijioka S, Hara K, Katanuma A, Nakamura M, Yamada R, Itoi T, Ueki T, Masamune A, Hirono S, Koshita S, Hanada K, Kamata K, Yanagisawa A, Takeyama Y** : A comparative study between computed tomography and endoscopic ultrasound in the detection of a mural nodule in intraductal papillary mucinous neoplasm -Multicenter

- observational study in Japan. *Pancreatology*, 23: 5-550-555, 2023.
- 030 **Kwon W, Heo JS, Han IW, Kang CM, Hwang HK, Kim SC, Park SJ, Yoon YS, Kim YH, Lim CS, Lee SY, Park T, Takami H, Watanabe N, Shimizu Y, Okuno M, Yamaue H, Kawai M, Seiko H, Nagakawa Y** : Features of T1 pancreatic cancer and validation of the eighth edition AJCC staging system definition using a Korean-Japanese joint cohort and the SEER database. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 30: 9-1129-1140, 2023.
- 031 **Kobayashi S, Bando H, Taketomi A, Takamoto T, Shinozaki E, Shiozawa M, Hara H, Yamazaki K, Komori K, Matsushashi N, Kato T, Kagawa Y, Yokota M, Oki E, Komine K, Takahashi S, Wakabayashi M, Yoshino T** : NEXUS trial: a multicenter phase II clinical study evaluating the efficacy and safety of the perioperative use of encorafenib, binimetinib, and cetuximab in patients with previously untreated surgically resectable BRAF V600E mutant colorectal oligometastases. *BMC Cancer*, 23: 1-779, 2023.
- 032 **Seishima R, Okabayashi K, Ikeuchi H, Uchino M, Futami K, Noguchi T, Ohge H, Iseki Y, Watanabe K, Itabashi M, Okamoto K, Toiyama Y, Ogino T, Nakamura M, Yamada K, Wakai T, Sato Y, Kimura H** : Effect of Biologics on the Risk of Advanced-Stage Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: A Nationwide Study. *Am J Gastroenterol*, 118: 7-1248-1255, 2023.
- 033 **Ito Y, Hamaguchi T, Takashima A, Mizusawa J, Shimada Y, Shiozawa M, Mizoguchi N, Kodaira T, Komori K, Ohue M, Konishi K, Teraishi F, Kinouchi M, Murata K, Fujita F, Watanabe M, Iinuma G** : Definitive S-1/mitomycin-C chemoradiotherapy for stage II/III anal canal squamous cell carcinoma: a phase I/II dose-finding and single-arm confirmatory study (JCOG0903). *Int J Clin Oncol*, 28: 8-1063-1072, 2023.
- 034 **Maeda S, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Muro K, Taniguchi H, Masuishi T, Ito S, Abe T, Shimizu Y** : Risk factors affecting delay of initiating adjuvant chemotherapy for stage III colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*, Online, 2023.
- 035 **Ogura A, Shiomi A, Yamamoto S, Komori K, Hamamoto H, Manabe S, Miyakita H, Okuda J, Yatsuya H, Uehara K** : Prediction model of the risk for lateral local recurrence in locally advanced rectal cancer without enlarged lateral lymph nodes: Lessons from a Japanese multicenter pooled analysis of 812 patients. *Ann Gastroenterol Surg*, 8: 2-284-292, 2023.
- 036 **Kato K, Machida R, Ito Y, Daiko H, Ozawa S, Ogata T, Hara H, Kojima T, Abe T, Bamba T, Watanabe M, Kawakubo H, Shibuya Y, Tsubosa Y, Takegawa N, Kajiwara T, Baba H, Ueno M, Takeuchi H, Nakamura K, Kitagawa Y** : Doublet chemotherapy, triplet chemotherapy, or doublet chemotherapy combined with radiotherapy as neoadjuvant treatment for locally advanced oesophageal cancer (JCOG1109 NExT): a randomised, controlled, open-label, phase 3 trial. *Lancet*, 404: 10447-55-66, 2023.
- 037 **Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, To S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Akaza S, Saito H, Narita K, Kitahara T, Hanazawa T, Ojio H, Negita M and Shimizu Y** : Novel Repair Technique for Oral and Anal Side Stoma Prolapse of a Loop Colostomy With the Stapled Modified Altemeier Method Using Indocyanine Green Fluorescence Imaging. *Anticancer Research*, 44: 2-853-857, 2024.
- 038 **Ouchi A, Sadachi R, Hamaguchi T, Tsukamoto S, Shimada Y, Inomata M, Takii Y, Komori K, Shiomi A, Shiozawa M, Ohue M, Watanabe J, Ito M, Kawashima Y, Kobatake T, Souda H, Saida Y, Hashimoto T, Sano Y, Kanemitsu Y** : Prognostic Relevance of Primary Tumor Sidedness in Early-stage Colorectal Cancer: An Integrated Analysis of 4 Randomized Controlled Trials. *Annals of Surgery*, 279: 2-283-289, 2024.
- 039 **Ouchi A, Komori K, Masahiro T, Toriyama K, Kajiwara Y, Oka S, Fukunaga Y, Hotta K, Ikematsu H, Tsukamoto S, Nagata S, Yamada K, Konno M, Ishihara S, Saitoh Y, Matsuda K, Togashi K, Ishiguro M, Kuwai T, Okuyama T, Ohuchi A, Ohnuma S, Sakamoto K, Sugai T, Katsumata K, Matsushita H, Nakai K, Uraoka T, Akimoto N, Kobayashi H, Yoichi Ajioka, Sugihara K, Ueno H** : How Does Omitting Additional Surgery After Local Excision Affect the Prognostic Outcome of Patients With High-risk T1 Colorectal Cancer?. *Annals of Surgery*, 279: 2-290-296, 2024.
- 040 **Takaiso N, Imoto I, Yoshimura A, Ouchi A, Komori K, Iwata H, Shimizu Y** : BARD1 deletion in a patient with suspected hereditary colorectal cancer. *Human Genome Variation*, 11: 1-11, 2024.
- 041 **Maeda S, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Kunitomo A, Akaza S, Komori K** : [Tips and Outcomes of Safe Laparoscopic Rectal Resection with Adequate Lymph Node Dissection in Patients with Obesity]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 51: 3-269-273, 2024.
- 042 **Taki Y, Ito S, Mizusawa J, Yura M, Sato Y, Nomura T, Tsuda M, Omori T, Kunisaki C, Choda Y, Cho H, Hiki N, Boku N, Yoshikawa T, Katai H, Terashima M** : Risk factors for abdominal surgical infectious complications after distal gastrectomy for gastric cancer: A post-hoc analysis of a randomized controlled trial

- (JCOG0912). *Eur J Surg Oncol*, 50: 3-107982, 2024.
- 043 **Tokunaga M, Machida N, Mizusawa J, Ito S, Yabusaki H, Hirao M, Watanabe M, Imamura H, Kinoshita T, Yasuda T, Hihara J, Fukuda H, Yoshikawa T, Boku N, Terashima M** : Early endpoints of a randomized phase II trial of preoperative chemotherapy with S-1/CDDP with or without trastuzumab followed by surgery for HER2-positive resectable gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma with extensive lymph node metastasis: Japan Clinical Oncology Group study JCOG1301C (Trigger Study). *Gastric Cancer*, 27: 3-580-589, 2024.
- 044 **Toriumi T, Terashima M, Mizusawa J, Uemura K, Kurokawa Y, Takiguchi S, Doki Y, Hihara J, Imamura H, Takagane A, Ito S, Yoshikawa T, Sano T, Sasako M** : Association between the antiadhesion membrane and small bowel obstruction after open gastrectomy: A supplemental analysis of the randomized controlled JCOG1001 trial. *Ann Gastroenterol Surg*, 8: 1-30-39, 2024.
- 045 **Ogata T, Narita Y, Oze I, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama H, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Bando H, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M** : Chronological improvement of survival in patients with advanced gastric cancer over 15 years. *Ther Adv Med Oncol*, 9: 16, 2024.
- 046 **Kanda M, Tanaka C, Misawa K, Mochizuki Y, Watanabe T, Sueoka S, Ishiyama A, Yamada T, Oshima T, Hattori M, Koike S, Ishigure K, Teramoto H, Murotani K, Kodera Y** : A multi-institutional prospective observational study to compare postoperative quality of life of patients who undergo total or proximal gastrectomy for early gastric cancer (CCOG1602). *World Journal of Surgery*, 48: 3-681-691, 2024.
- 047 **Koyanagi YN, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, Kawaguchi T, Ikezaki H, Hishida A, Hara M, Takezaki T, Koyama T, Nakamura Y, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakamura Y, Takeuchi K, Hozawa A, Kinoshita K, Sutoh Y, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Tajika M, Shimizu Y, Suzuki E, Hosono Y, Imoto I, Tabara Y, Takahashi M, Setoh K; BioBank Japan Project; Matsuda K, Nakano S, Goto A, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Tsugane S, Wakai K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuda F, Okada Y, Iwasaki M, Brennan P, Matsuo K** : Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. *Clinical Gastroenterology and Hepatology*, 10: 4-2780, 2024.
- 048 **Nagayama R, Ueki T, Shimizu Y, Hijioka S, Nakamura M, Kitano M, Hara K, Masamune A, Kin T, Hanada K, Koshita S, Yamada R, Takenaka M, Itoi T, Yanagisawa A, Otuka T, Hirono S, Kanno A, Ideno N, Kuwahara T, Shimizu A, Kamata K, Asai Y, Takeyama Y** : Is preoperative pancreatic juice cytology useful for determining therapeutic strategies for patients with intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas?. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences*, 31: 3-183-192, 2024.
- 049 **Kobayashi S, Nakachi K, Ikeda M, Konishi M, Ogawa G, Sugiura T, Yanagimoto H, Morinaga S, Wada H, Shimada K, Takahashi Y, Nakagohri T, Kamata K, Shimizu Y, Ajiki T, Hirano S, Gotohda N, Ueno M, Okusaka T, Furuse J** : Feasibility of S-1 adjuvant chemotherapy after major hepatectomy for biliary tract cancers: An exploratory subset analysis of JCOG1202. *European Journal of Surgical Oncology*, 50: 2, 2024.
- 050 **Tomimaru Y, Eguchi H, Shimomura Y, Kitamura T, Inoue Y, Nagakawa Y, Ohba A, Onoe S, Unno M, Hashimoto D, Kawakatsu S, Hayashi T, Higuchi R, Kitagawa H, Uemura K, Kimura Y, Satoi S, Takeyama Y** : Standard versus delayed initiation of S-1 adjuvant chemotherapy after surgery for pancreatic cancer: a secondary analysis of a nationwide cohort by the Japan Pancreas Society. *J Gastroenterol*, 58: 8-790-799, 2024.
- 051 **Narita K, Okuno M, Natsume S, Asano T, Saito H, Negita M, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K, Okuno N, Hosoda W & Shimizu Y** : A case of acinar cell carcinoma originating from the accessory papilla of the duodenum. *Surgical Case Reports*, 2024.
- 052 **小森康司** : 大腸・肛門外科の要点と盲点第4版・直腸切除術(開腹). *Knack & Pitfalls*, 202-209, 2023.
- 053 **伊藤誠二** : 高度リンパ節転移を有する胃癌に対する集学的治療—NACかconversionか. *臨床外科*, 78 : 12, 1339-1343, 2023.
- 054 **伊藤友一** : 胃全摘後の再建法 : ランダム化試験によるパウチ再建の検証 Aboral pouch. *臨床外科*, 78 : 5, 565-573, 2023.
- 055 **小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 赤座 賢, 斎藤悠文, 成田 潔, 北原拓哉, 花澤隆明, 小塩英典, 禰宜田真史, 清水泰博** : S状結腸切除術 : 開腹手術. *臨床外科*, 78 : 11, 162-167, 2023.
- 056 **木下敬史** : 特集 消化管間質腫瘍(GIST)の診断と治療の最前線 2. 治療 1) 外科治療 - 臓器機能温存に向けた治療戦略③直腸. *外科*, 86 : 2, 133-138, 2024.
- 057 **安部哲也** : 特集 体腔鏡手術の教え方・学び方 1. 食道 1) 低侵襲食道切除における術者教育—食道癌の内視鏡外科

技術認定合格者を胸腔鏡術者経験2年以内で輩出してきた食道外科教育システム. 外科, 86:3, 212-216, 2024.

- 058 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 清水泰博: 肝門部領域胆管癌手術に必要な局所解剖. 手術, 78:4, 515-524, 2024.
- 059 前田真吾, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 國友愛奈, 赤座 賢, 小森康司: 肥満症例に対する十分な郭清度・安全性を担保した腹腔鏡下直腸切除術のコツと成績. 癌と化学療法, 51:3, 269-273, 2024.

## 整形外科部

- 001 Komori K, Tsukushi S, Yoshida M, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Oki S, Aritake T, Tawada K, Akaza S, Saito H, Narita K, Hiroki K, Yasui K, Shimizu Y: Total Pelvic Exenteration Combined With Sacral Resection for Rectal Cancer. Surg. Nov;89(11): 4578-4583, 2023.
- 002 Ohno M, Haimoto S, Tsukushi S, Hosoda W, Ohka F, Saito R: Brain metastasis and intracranial leptomeningeal metastasis from malignant peripheral nerve sheath tumors: illustrative cases. J Neurosurg Case Lessons, Jul 17;6(3): CASE23148, 2023.
- 003 Takeuchi A, Tsuchiya H, Setsu N, Gokita T, Tome Y, Asano N, Minami Y, Kawashima H, Fukushima S, Takenaka S, Outani H, Nakamura T, Tsukushi S, Kawamoto T, Kidani T, Kito M, Kobayashi H, Morii T, Akiyama T, Torigoe T, Hiraoka K, Nagano A, Kakunaga S, Hashimoto K, Emori M, Aiba H, Tanzawa Y, Ueda T, Kawano H: What Are the Complications, Function, and Survival of Tumor-devitalized Autografts Used in Patients With Limb-sparing Surgery for Bone and Soft Tissue Tumors? A Japanese Musculoskeletal Oncology Group Multi-institutional Study. Clin Orthop Relat Res, Nov 1;481(11): 2110-2124, 2023.
- 004 Nakamura T, Sakai T, Tsukushi S, Kimura H, Wasa J, Hosono K, Izubuchi Y, Kozawa E, Nagano A, Asanuma K, Sudo A, Nishida Y: Clinical Outcome in Patients With High-grade Soft-tissue Sarcoma Receiving Prosthetic Replacement After Tumor Resection of the Lower Extremities: Tokai Musculoskeletal Oncology Consortium Study. In Vivo, Nov-Dec;37(6): 2642-2647, 2023.
- 005 Zhang L, Iwata S, Saito M, Nakagawa M, Tsukushi S, Yoshida S, Gokita T, Ae K, Nakashima S, Watanuki M, Akiyama T: Hip Transposition Can Provide Early Walking Function After Periacetabular Tumor Resection: A Multicenter Study. Clin Orthop Relat Res, Dec 1;481(12): 2406-2416, 2023.

- 006 Izubuchi Y, Hamada S, Tanzawa Y, Fujita I, Imanishi J, Koyanagi H, Shimatani A, Komatsubara T, Tanaka T, Fukushima M, Imamura Y, Ueda T, Kawano H, Matsumine A: Perivascular epithelioid cell tumors (PEComas) of the bone and soft tissue: a Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG) multi-institutional study. J Cancer Res Clin Oncol, Nov;149(14): 13065-13075, 2023.
- 007 筑紫 聡: Lecture 骨軟部腫瘍で一般整形外科医がおさえておくべきポイント. 臨床整形外科, 58-4: 417-420, 2023.
- 008 筑紫 聡: 専門医のための症例問題トレーニング 骨・軟部腫瘍. 整形外科, 74-11: 1203-1208, 2023.

## リハビリテーション部

- 001 Takatsu J, Higaki E, Abe T: Critical swallowing functions contributing to dysphagia in patients with recurrent laryngeal nerve paralysis after esophagectomy. Esophagus, 21: 111-119, 2024.

## 泌尿器科部

- 001 Kato M, Higashi S, Sugino Y, Kajiwara S, Tanaka S, Kitano G, Yamashita Y, Ogura Y, Tachibana H, Kojima T, Inoue T: Clinical Efficacy and Openness to New Challenges of Low Dose Rate Brachytherapy for Prostate Cancer. Current Oncology, 30(11): 9824-9835, 2023.
- 002 Sazuka T\*, Matsushita Y, Sato H, Osawa T, Hinata N, Hatakeyama S, Numakura K, Ueda K, Kimura T, Takahashi M, Tanaka H, Kawasaki Y, Kurahashi T, Kato T, Fujita K, Miyake M, Kojima T, Kitamura H, Miyake H, Ichikawa T: Efficacy and safety of second-line cabozantinib after immuno-oncology combination therapy for advanced renal cell carcinoma: Japanese multicenter retrospective study. Sci Rep. 13: 20629, 2023.
- 003 Kikuchi H, Abe T\*, Miyake M, Miyata H, Matsumoto R, Osawa T, Nishimura N, Fujimoto K, Inokuchi J, Yoneyama T, Tomida R, Numakura K, Matsushita Y, Matsumoto K, Sato T, Taoka R, Kobayashi T, Kojima T, Matsui Y, Nishiyama N, Kitamura H, Nishiyama H, Shinohara N: The impact of second transurethral resection on survival outcomes in patients with non-muscle-invasive bladder cancer treated with bacillus Calmette-Guérin therapy. Jpn J Clin Oncol, doi: 10.1093/jjco/hyad155, 2023.
- 004 Koguchi T\*, Naito S, Hatakeyama S, Numakura K, Muto Y, Kato R, Kojima T, Kawasaki Y, Morozumi



- K, Kandori S, Kawamura S, Nishiyama H, Ito A, Habuchi T, Obara W, Ohyama C, Tsuchiya N, Kojima Y* : The efficacy of molecular targeted therapy and nivolumab therapy for metastatic non-clear cell renal cell carcinoma: A retrospective analysis using the Michinoku Japan urological cancer study group database. *Cancer Med*. 12: 20677-20689, 2023.
- 005 *Minami K, Osawa T\*, Kojima T, Hara T, Eto M, Takeuchi A, Nakai Y, Ueda K, Ozawa M, Uemura M, Ohba K, Tamura K, Shindo T, Nakagomi H, Takahashi A, Anai S, Yokomizo A, Morizane S, Kimura T, Shimazui T, Miyauchi Y, Mitsuzuka K, Hara H, Yoshimura K, Shiina H, Ito YM, Murai S, Nishiyama H, Shinohara N, Kitamura H; Japanese Urological Oncology Group* : Efficacy and safety of axitinib for metastatic renal cell carcinoma: Real-world data on patients with renal impairment. *Urol Oncol*. 41: 458.e9-458.e19, 2023.
- 006 *Sekito S, Tanaka S, Kitano G, Kato M, Ogura Y, Kojima T\** : Pre-operative Plasma Fibrinogen Level as a Potential Predictor of Pathological T3 Upstaging in Clinically Localized Renal Cell Carcinoma. *Anticancer Res*. 43: 4229-4235, 2023.
- 007 *Hamada K, Nagumo Y, Kandori S\*, Tanuma K, Shiga M, Hoshi A, Negoro H, Kojima T, Mathis BJ, Nishiyama H* : Variant allele frequency changes in TP53 predict pembrolizumab response in patients with metastatic urothelial carcinoma. *Oncol Lett*, 26: 389, 2023.
- 008 *Sasaki T, Takahashi T, Sekito S, Kanda H, Higashi S, Masui S, Kojima T, Matsuura H, Nishikawa K, Akamatsu S, Okugawa Y, Kobayashi T, Inoue T\** : Pretreatment Lymphocyte to C-Reactive Protein Ratio: An Independent Predictor of Overall Survival in Metastatic Hormone-Naïve Prostate Cancer Patients. *Clin Genitourin Cancer*, 21: e474-e484, 2023.
- 009 *Numakura K\*, Miyake M, Kobayashi M, Muto Y, Sekine Y, Nishimura N, Iida K, Shiga M, Morizane S, Yoneyama T, Matsumura Y, Abe T, Yamada T, Matsumoto K, Inokuchi J, Nishiyama N, Taoka R, Kobayashi T, Kojima T, Kitamura H, Nishiyama H, Fujimoto K, Habuchi T* : Subsequent Upper Urinary Tract Carcinoma Related to Worse Survival in Patients Treated with BCG. *Cancers (Basel)*, 15: 2002, 2023.
- 010 *Sakka S, Kandori S\*, Kawai K, Kojima T, Nitta S, Chihara I, Nagumo Y, Kawahara T, Mathis BJ, Ishihara M, Shinohara N, Kishida T, Ukimura O, Nishimura K, Kobayashi Y, Nishiyama H* : Plasma circulating tumor DNA profiling in patients with chemo-refractory germ cell tumors. *Int J Urol*, 30: 456-462, 2023.
- 011 *Matsubara N\*, Yonese J, Kojima T, Azuma H, Matsumoto H, Powles T, Rosenberg JE, Petrylak DP, Matsangou M, Wu C, Campbell M, Yamashiro M* : Japanese subgroup analysis of EV-301: An open-label, randomized phase 3 study to evaluate enfortumab vedotin versus chemotherapy in subjects with previously treated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma. *Cancer Med*, 12: 2761-2771, 2023.
- 012 *Sobu R, Numakura K\*, Naito S, Hatakeyama S, Kato R, Koguchi T, Kojima T, Kawasaki Y, Kandori S, Kawamura S, Arai Y, Ito A, Nishiyama H, Kojima Y, Obara W, Ohyama C, Tsuchiya N, Habuchi T* : Clinical impact of early response to first-line VEGFR-TKI in patients with metastatic renal cell carcinoma on survival: A multi-institutional retrospective study. *Cancer Med*, 12: 4100-4109, 2023.
- 013 *Nishikawa R, Miyake M\*, Morizane S, Shimizu R, Teraoka S, Honda M, Iida K, Nishimura N, Sazuka T, Kimura T, Ito A, Shiga K, Taoka R, Kojima T, Kobayashi T, Nishiyama N, Kitamura H, Nishiyama H, Fujimoto K, Takenaka A* : C-reactive protein as a prognostic predictor for non-muscle invasive bladder cancer after intravesical bacillus Calmette-Guérin therapy: A Japan Urological Oncology Group study analysis. *Int J Urol*, 30: 299-307, 2023.

## 婦人科部

- 001 *Nishikawa T, Hasegawa K, Matsumoto K, Mori M, Hirashima Y, Takehara K, Ariyoshi K, Kato T, Yagishita S, Hamada A, Kawasaki M, Kawashima S, Tomatsuri S, Nagasaka Y, Yoshida H, Machida R, Hirakawa A, Nakamura K, Yonemori K* : Trastuzumab Deruxtecan for Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Expressing Advanced or Recurrent Uterine Carcinosarcoma (NCCH1615): The STATICE Trial. *J Clin Oncol*, 20;41 (15): 2789-2799, 2023.
- 002 *Kotaka S, Kondo E, Kawai Y, Okamoto K, Kishigami Y, Yamawaki T, Nagao K, Hirata T, Suzuki S* : Real-world efficacy and safety of bevacizumab single-maintenance therapy following platinum-paclitaxel chemotherapy plus bevacizumab in patients with advanced cervical cancer. *J Gynecol Oncol*, 34(5): e60, 2023.
- 003 *Shigeta S, Shimada M, Suzuki S, Kajiyama H, Oda K, Takehara K, Mandai M, Aoki D, Enomoto T, Okamoto A* : An Attempt to Develop a New Treatment Strategy for Rare Refractory Gynecological Malignancies: The Japanese Gynecologic Oncology Group. *JMA J*, 16;6(4): 527-531, 2023.
- 004 *Kikuchi A, Yoshida H, Tsuda H, Nishio S, Suzuki S, Takehara K, Kino N, Sumi T, Kato K, Yokoyama M, Nakamura K, Takano M, Sato S, Kato H, Tamate M,*

- Horie K, Kato T, Sakamoto A, Fukunaga M, Kaku T, Yoshida M, Yaegashi N, Satoh* : Clinical characteristics and prognostic factors of endometrial stromal sarcoma and undifferentiated uterine sarcoma confirmed by central pathologic review: A multi-institutional retrospective study from the Japanese Clinical Oncology Group. *Gynecol Oncol*, 176: 82-89, 2023.
- 005 *Kotaka S, Kondo E, Kawai Y, Okamoto K, Kishigami Y, Yamawaki T, Nagao K, Toru H, Suzuki S* : Paclitaxel-carboplatin plus bevacizumab therapy for advanced neuroendocrine carcinoma of the uterine cervix: A retrospective case series. *J Obstet Gynaecol Res*, 49(12): 2868-2874, 2023.
- 006 *Kotaka S, Yasui H, Tsubouchi H, Mori M, Kotani H, Yoshimura A, Ouchi A, Okuno M, Komori K, Shimizu Y, Suzuki S* : A case of simultaneous breast cancer and ovarian cancer based on a hereditary breast and ovarian cancer syndrome. *Nagoya J Med Sci*, 85(4): 814-821, 2023.
- 007 *Nishio S, Murotani K, Yamagami W, Suzuki S, Nakai H, Kato K, Tokunaga H, Nomura H, Yokoyama Y, Takehara K, Okamoto A* : Pretreatment systemic inflammatory markers predict survival in endometrial cancer: A Japanese Gynecologic Oncology Group 2043 exploratory data analysis. *Gynecol Oncol*, 181: 46-53, 2023.
- 008 *Yamamoto S, Tsuchiya M, Iihara H, Hayasaki Y, Hori K, Kumakura Y, Watanabe D, Sakai H, Nakagawa S, Kudoh A, Oishi H, Kado N, Go M, Mashima K, Uchida T, Yasue M, Maeda A, Nishino K, Matsumoto K, Sato S, Ueda Y, Tomio K, Hayashi K, Takenaka M, Mori M, Kajiyama H, Bomoto Y, Suzuki S, Ishihara T, Suzuki A, Abe M* : Proposal for Classifying the Emetogenicity of Oral Anticancer Agents with a Focus on PARP Inhibitors: A Prospective, Observational, Multicenter Study (JASCC-CINV 2002). *J Cancer*, 21;15(6): 1487-1497, 2024.
- 009 *Yonemori K, Fujiwara K, Hasegawa K, Yunokawa M, Ushijima K, Suzuki S, Shikama A, Minobe S, Usami T, Kim JW, Kim BG, Wang PH, Chang TC, Yamamoto K, Han S, McKenzie J, Orlowski RJ, Miura T, Makker V, Man Kim Y.J* : Analysis of East Asia Subgroup in Study 309/KEYNOTE-775: Lenvatinib plus pembrolizumab versus treatment of physician's choice chemotherapy in patients with previously treated advanced or recurrent endometrial cancer. *J Gynecol Oncol*, 35(2): e40, 2024.
- 010 **鈴木史朗** : 進行卵巣癌に対する初回治療を推る. 婦人科の進歩, 75 : 541, 2023.

## 脳神経外科部

- 001 *Nagashima Y, Nishimura Y, Eguchi K, Yamaguchi J, Haimoto S, Ohka F, Motomura K, Abe T, Matsuo M, Tsukamoto E, Hara M, Saito R* : Molecular insights and the role of 18F-FDG-PET/CT in the diagnosis of spinal gliomas. *Acta Neurochir (Wien)*, 166(1): 154, 2024.
- 002 *Suzuki H, Haimoto S, Inaba Y, Tachibana H, Takanari K, Ando M, Yoshizawa K, Hanai N* : Peptide Receptor Radionuclide Therapy for Recurrent Olfactory Neuroblastoma After Cranioplasty for Surgical Infection: A Case Report. *Anticancer Res*, 43(12): 5723-5728, 2023.
- 003 *Shimizu H, Koide Y, Sasaki K, Watanabe Y, Haimoto S, Aoyama T, Tachibana H, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T* : Dosimetric analysis on computed tomography myelography based treatment planning in stereotactic body radiotherapy for spinal metastasis. *Med Dosim*, 48(3): 187-192, 2023.
- 004 *Ito S, Asai T, Kimata M, Ohno M, Suzaki N, Kajita Y, Takahashi T* : Mechanical Thrombectomy for Basilar Artery Occlusion with a Type 1 Persistent Proatlantal Artery: A Case Report and Literature Review. *Journal of Neuroendovascular Therapy*, 17(7): 139-144, 2023.
- 005 *Ohno M, Haimoto S, Tsukushi S, Hosoda W, Ohka F, Saito R* : Brain metastasis and intracranial leptomenigeal metastasis from malignant peripheral nerve sheath tumors: illustrative cases. *Journal of neurosurgery. Case lessons*, 6(3), 2023.
- 006 灰本章一 : 転移性脊椎腫瘍診療のパラダイムシフト—院内診療体制構築による脊髄麻痺の予防—。脊髄外科, 37 : 109-116, 2023.

## 麻酔科部

- 001 *Nakai A, Nakada J, Takahashi Y, Sakakura N, Masago K, Okamoto S, Kuroda H* : Divided method of intercostal nerve block reduces ropivacaine dose by half in thoracoscopic pulmonary resection while maintaining the postoperative pain score and 4-h mobilization: a retrospective study. *Journal of Anesthesia*, 37(5): 749-754, 2023.

## 放射線診断・IVR 部

- 001 *Zenda S, Arai Y, Sugawara S, Inaba Y, Hashimoto K, Yamamoto K, Saigusa Y, Kawaguchi T, Shimada S, Yokoyama M, Miyaji T, Okano T, Nakamura N,*

*Kobayashi E, Takagi T, Matsumoto Y, Uchitomi Y, Sone M and for the J-SUPPORT 1903, PALEM Trial* : Protocol for a confirmatory trial of the effectiveness and safety of palliative arterial embolization for painful bone metastases. Zenda et al, BMC Cancer, 23: 109, 2023.

002 *Ikeda M, Yamashita T, Ogasawara S, Kudo M, Inaba Y, Morimoto M, Tsuchiya K, Shimizu S, Kojima Y, Hiraoka A, Nouso K, Aikata H, Numata K, Sato T, Okusaka T, Furuse J* : Multicenter phase II trial of Lenvatinib plus hepatic intra-arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma; LEOPARD. Liver Cancer, DOI: 10.1159/000531820, 2023.

003 *Komori K, Tanaka T, Inaba Y, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Akaza T, Saito H, Narita K, Kitahara T, Hanazawa T, Ojio H, Negita M, Shimizu Y* : Novel ureteral stent catheterization technique for treating hyperchloremic metabolic acidosis after total pelvic exenteration. Anticancer Research, 43:5149-5153, 2023.

004 長谷川貴章, 清水秀年, 茶谷祥平, 村田慎一, 服部寿史, 稲葉吉隆 : CT 透視化治療における術者の水晶体被ばくに対する放射線防護器具使用の影響. 日本診療放射線技師会誌, 11 Vol.70/No.854, 2023.

005 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 村田慎一, 長谷川貴章 : 癌緩和治療・動注化学療法. 臨床放射線, Vol.68 No.13, 1441-1446, 2023.

006 佐藤洋造, 松枝 清 : 外科手術と感染症 (特集)・16 術後感染症合併症に対するインターナショナルラジオロジー. 外科 85(5)南江堂, 502-506, 2023.

## 放射線治療部

001 *Kodaira T, Kagami Y, Machida R, Shikama N, Sekino Y, Ito Y, Ishikura S, Saito Y, Matsumoto Y, Konishi K, Murakami N, Akimoto T, Fukushima Y, Toshiyasu T, Katano A, Nagata Y, Ogawa H, Uno T, Hamamoto Y, Nishimura Y, Mizowaki T* : on behalf of Japan Clinical Oncology Group Long-term follow-up of an RCT on Accelerated Radiotherapy vs. standard fractionated radiotherapy for early Glottic Cancer (JCOG0701A3). Int J Radiat Oncol Biol Phys, (117(5), 1118-1124), 2023.

002 *Nagai N, Koide Y, Shindo Y, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T, Ishihara S, Naganawa S* : Retrospective non-inferiority study of stereotactic radiosurgery for more than ten brain metastases. J Neurooncol, (163(2): 385-395), 2023.

003 *Ito Y, Hamaguchi T, Takashima A, Mizusawa J,*

*Shimada Y, Shiozawa M, Mizoguchi N, Kodaira T, Komori K, Ohue M, Konishi K, Teraishi F, Kinouchi M, Murata K, Fujita F, Watanabe M, Inuma G, Ishida F, Saida Y, Matsuda T, Katayama H, Fukuda H, Kanemitsu Y* : Colorectal Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group. Definitive S-1/mitomycin-C chemoradiotherapy for stage II/III anal canal squamous cell carcinoma. a phase I/II dose-finding and single-arm confirmatory study (JCOG0903). Int J Clin Oncol, (28(8): 1063-1072), 2023.

004 *Suzuki H, Sasaki E, Tamaki T, Kodaira T, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N* : Association Between 18F-Fluorodeoxyglucose Uptake and Mutation Status of Epidermal Growth Factor Receptor in Sinonasal Tract Cancer. Anticancer Res, (43(7): 3247-3253), 2023.

005 *Aoyama T, Shimizu H, Koide Y, Kitagawa T, Tachibana H, Suzuki K, Kodaira T* : Estimation of the risk of secondary cancer in rectum and bladder after radiation therapy for prostate cancer using a feasibility dose-volume histogram. Phys Imaging Radiat Oncol, 2023.

006 *Yokota T, Zenda S, Kodaira T, Kiyota N, Fujimoto Y, Wasano K, Takahashi R, Mizowaki T, Homma A, Sasaki K, Machida R, Sekino Y, Fukuda H* : Novel approach of prophylactic radiation to reduce toxicities comparing 2-step40 with 56-Gy simultaneous integrated boost intensity-modulated radiation therapy for locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck, an intergroup phase III trial (JCOG1912, NEW BRIDGE) BMC Cancer. Japan Clinical Oncology Group Head and Neck Cancer Study Group, (23(1): 1068), 2023.

007 *Tachihara M, Tsujino K, Ishihara T, Hayashi H, Sato Y, Kurata T, Sugawara S, Shiraishi Y, Teraoka S, Azuma K, Daga H, Yamaguchi M, Kodaira T, Satouchi M, Shimokawa M, Yamamoto N, Nakagawa K* : Durvalumab Plus Concurrent Radiotherapy for Treatment of Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer: The DOLPHIN Phase 2 Nonrandomized Controlled Trial. JAMA Oncol. West Japan Oncology Group (WJOG), (e233309), 2023.

008 *Shindo Y, Koide Y, Nagai N, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T, Ishihara S, Naganawa S* : Palliative radiotherapy for painful non-bone lesions in patients with advanced cancer. a single center retrospective study JJR in press, 2023.

009 *Koide Y, Haimoto S, Shimizu H, Aoyama T, Kitagawa T, Shindo Y, Nagai N, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T* : Re-irradiation spine stereotactic body radiotherapy following high-dose

- conventional radiotherapy for metastatic epidural spinal cord compression. a retrospective study JJR in press, 2023.
- 010 **Koide Y, Shindo Y, Nagai N, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Classification of patients with painful tumors to predict the response to palliative radiotherapy .IJROBP, 2023.
- 011 **Aoyama T, Koide Y, Shimizu H, Kitagawa T, Iwata T, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Trends and distribution of external radiation therapy facilities in Japan based on Survey of Medical Institutions from the Ministry of Health, Labour and Welfare. JRR, 2023.
- 012 **Kato M, Higashi S, Sugino Y, Kajiwara S, Tanaka S, Kitano G, Yamashita Y, Ogura Y, Tachibana H, Kojima T, Inoue T** : Clinical Efficacy and Openness to New Challenges of Low Dose Rate Brachytherapy for Prostate Cancer. *Curr Oncol*, (8;30(11): 9824-9835), 2023.
- 013 **Ueda N, Kato H, Kato S, Saito T, Tachibana H, Yanada M, Taji H, Kodaira T, Hosoda W, Yamamoto K** : Brentuximab vedotin plus AVD followed by involved-node radiotherapy in a patient with classic Hodgkin lymphoma following gray zone lymphoma after autologous stem-cell transplantation failure. *Hematology*, (Dec;28(1): 2207946), 2023.
- 014 **Suzuki H, Haimoto S, Inaba Y, Tachibana H, Takanari K, Ando M, Yoshizawa K, Hanai N** : Peptide Receptor Radionuclide Therapy for Recurrent Olfactory Neuroblastoma After Cranioplasty for Surgical Infection. A Case Report. *Anticancer Res*, (43(12): 5723-5728), 2023.
- 015 **Saito T, Shikama N, Takahashi T, Harada H, Ueno S, Notsu A, Shirato H, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Kubota H, Yamasaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Katoh N, Wada H, Ejima Y, Yoshida K, Kosugi T, Takahashi S, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Ikeda H, Asakawa I, Shigematsu N** : Factors associated with quality of life in patients receiving palliative radiotherapy for bone metastases: A secondary cross-sectional analysis of data from a prospective multicenter observational study. *Br J Radiol*, (20230351), 2023.
- 016 **Doi Y, Nagata Y, Matsumoto Y, Numata K, Sasaki R, Yamada T, Igaki H, Imagumbai T, Katoh N, Yoshitake T, Shimizuguchi T, Fujioka D, Inoue M, Koide Y, Kimura T, Ito Y** : Multicenter retrospective study of Stereotactic body radiotherapy for patients with previously untreated initial small hepatocellular carcinoma. *Hepatology research*, (53: 749-60), 2023.
- 017 **Shirato H, Harada H, Iwasaki Y, Notsu A, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Wada H, Kubota H, Shikama N, Yamazaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Takahashi S, Kosugi T, Ejima Y, Katoh N, Yoshida K, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Ikeda H, Asakawa I, Tateishi T, Takahashi T, Shigematsu N** : Income and Employment of Patients at the Start and in the Follow-up of Palliative Radiotherapy for Bone Metastasis. *Advances in Radiation Oncology*, (8: 101205), 2023.
- 018 **Shimizu H, Koide Y, Sasaki K, Watanabe Y, Haimoto S, Aoyama T, Tachibana H, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T** : Dosimetric analysis on computed tomography myelography based treatment planning in stereotactic body radiotherapy for spinal metastases. *Med Dosim*, (48(3): 187-192), 2023.
- 019 **Kadoya N, Kimura Y, Tozuka R, Tanaka S, Arai K, Katsuta Y, Shimizu H, Sugai Y, Yamamoto T, Umezawa R, Jingu K** : Evaluation of deep learning-based deliverable VMAT plan generated by prototype software for automated planning for prostate cancer patients. *J Radiat Res*, (22;64(5): 842-849), 2023.
- 020 **Nakao M, Ozawa S, Miura H, Yamada K, Hayata M, Hayashi K, Kawahara D, Nakashima T, Ochi Y, Okumura T, Kunimoto H, Kawakubo A, Kusaba H, Nozaki H, Habara K, Tohyama N, Nishio T, Nakamura M, Minemura T, Okamoto H, Ishikawa M, Kurooka M, Shimizu H, Hotta K, Saito M, Nakano M, Tsuneda M, Nagata Y** : CT number calibration audit in photon radiation therapy. *Med Phys*, (doi: 10.1002/mp.16887), 2023.
- 021 **Kito S, Suda Y, Tanabe S, Takizawa T, Nagahata T, Tohyama N, Okamoto H, Kodama T, Fujita Y, Miyashita H, Shinoda K, Kurooka M, Shimizu H, Ohno T, Sakamoto M** : Radiological imaging protection: a study on imaging dose used while planning computed tomography for external radiotherapy in Japan. *J Radiat Res*, (rrad098), 2023.
- 022 **Hasegawa T, Shimizu H, Chatani S, Murata S, Hattori H, Inaba Y** : Effects of radioprotective equipment on radiation exposure to the operator's eye lens during computed tomography fluoroscopy-guided procedure. *日本診療放射線技師会誌*, (70 (854): 1364-1369), 2023.
- 023 **Homma A, Ando M, Hanai N, Harada H, Honma Y, Kanda T, Kano S, Kawakita D, Kiyota N, Kizawa Y, Nakagawa M, Ogawa T, Shinomiya H, Shinozaki T, Suzuki M, Tsuji T, Yasuda K, Zenda S, Kodaira T, Kirita T, Nibu KI** : Summary of Japanese clinical practice guidelines for head and neck cancer - 2022 update edited by the Japan society for head and neck cancer. *Auris Nasus Larynx*, (51(1) 174-188), 2024.
- 024 **Koide Y, Kodaira T, Kitayama M, Kawakita D, Kirita T, Yoshimoto S, Nakamizo M, Nibu KI** :

Definitive radiotherapy for nasopharyngeal carcinoma in Japan: analysis of cases in the National Head and Neck Cancer Registry from 2011 to 2014. *Jpn J Clin Oncol*, (54 (1) 54-61), 2024.

- 025 **Kodama H, Kadowaki S, Nakazawa T, Matsubara Y, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Koide Y, Tachibana H, Kodaira T, Sawabe M, Terada H, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N, Muro K** : Safety and Efficacy of Gemcitabine Plus Cisplatin Against Recurrent/Metastatic Nasopharyngeal Carcinoma. A Retrospective Study *Anticancer Res*, (44(3) 1227-32), 2024.
- 026 **Koide Y, Aoyama T, Tanaka H, Shindo Y, Nagai N, Kitagawa T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Changing trends in gamma knife surgery to linear accelerator brain stereotactic radiotherapy in Japan. a survey based on the nationwide claims database, (*JJR* 42(4) 415-423), 2024.
- 027 **Aoyama T, Shimizu H, Koide Y, Kamezawa H, Fukunaga JI, Kitagawa T, Tachibana H, Suzuki K, Kodaira T** : Deep Learning-based Lung dose Prediction Using Chest X-ray Images in Non-small Cell Lung Cancer Radiotherapy. *J Med Phys*, (Jan-Mar;49(1): 33-40), 2024.
- 028 **古平 毅** : 新たに注目される頭頸部癌治療 放射線療法 頸部予防領域の線量軽減の試み. *JOHNS*, (39(11), 1399-1402), 2023.
- 029 **古平 毅** : 頭頸部がん診療の Controversy 化学放射線療法どっちを選ぶ. *Triweekly CDDP-CRT 耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, (96(4) : 327-329), 2024.

## 緩和ケア部

- 001 **下山理史** : 高齢膀胱癌患者に対する緩和医療. *膀胱*, 39 巻 : 48-57, 2024.

## 精神腫瘍科部

- 001 **小森康永** : グラフィック・メディスンって何? ①. 作業療法ジャーナル, 57(12) : 1350-1355, 2023.
- 002 **小森康永** : グラフィック・メディスンって何? ②. 作業療法ジャーナル, 57(13) : 1447-1451, 2023.
- 003 **小森康永** : 劇的観点 : ナラティブ・セラピーにおける外在化より. *精神療法*, 49(3) : 371-372, 2023.
- 004 **小森康永, D. デンボロウ, 岸本寛史他** : ナラティブと情動一身体に根差した会話をもとめて. *北大路書房*, 2023.

## 看護部

- 001 **井上さよ子** : End of Life にみられる倫理的葛藤 睡眠と服薬・排泄. 患者さんと家族を支える End of Life ケア, 照林社, 44-46, 2023.
- 002 **井上さよ子** : End of Life にみられる倫理的葛藤 迷っている・否認している間の急変. 患者さんと家族を支える End of Life ケア, 照林社, 51-54, 2023.
- 003 **深堀慎一郎** : 会員インタビュー「特定行為研修終了後の実践を通して」. *愛知県看護協会だより*, 公益社団法人愛知県看護協会, 7, 2024
- 004 **山口真由美** : 特集 ピットフォールはここだ! 『脳神経外科』の術後管理①脳腫瘍摘出術. 3. 重症集中ケア 10・11月号, 日経研出版, 10-16, 2023

## 薬剤部・臨床薬剤部

- 001 **Yamamoto S, Tsuchiya M, Iihara H, Hayasaki Y, Hori K, Kumakura Y, Watanabe D, Sakai H, Nakagawa S, Kudoh A, Oishi H, Kado N, Go M, Mashima K, Uchida T, Yasue M, Maeda A, Nishino K, Matsumoto K, Sato S, Ueda Y, Tomio K, Hayashi K, Takenaka M, Mori M, Kajiyama H, Bomoto Y, Suzuki S, Ishihara T, Suzuki A, Abe M** : Proposal for Classifying the Emetogenicity of Oral Anticancer Agents with a Focus on PARP Inhibitors: A Prospective, Observational, Multicenter Study (*JASCC-CINV* 2002). *J Cancer*, 15: 1487-1497, 2024.
- 002 **Miyagi T, Tsuji D, Kawasaki Y, Ishikawa H, Tanaka R, Nakao M, Nakagaki S, Hayashi T, Ayuhara H, Harada T, Tamaki S, Maeda A, Ohashi Y, Arakawa Y, Fujita Y, Yamamoto K, Miyamoto Y, Yano T, Itoh K** : Chemotherapy-induced neutropenia as a prognostic factor in patients with extensive-stage small cell lung cancer. *Eur J Clin Pharmacol*, 79: 407-414, 2023.

## 5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

### 研究所長

- 001 *Kasugai Y, Oze I, Koyanagi YN, Taniyama Y, Ito H, Imoto I, Matsuo K* : Confounding in epidemiological studies on assessment of the impact of genetic factors on disease risk: the problem of redundant adjustment. *J Epidemiol*, 2024.
- 002 *Takaiso N, Imoto I, Yoshimura A, Ouchi A, Komori K, Iwata H, Yasuhiro Shimizu Y* : BARD1 deletion in a patient with suspected hereditary colorectal cancer syndromes. *Hum Genome Var.*11, 11, 2024.
- 003 *Ishikawa Y, Tanaka N, Asano Y, Kodera M, Shirai Y, Akahoshi M, Hasegawa M, Matsushita T, Saito K, Motegi SI, Yoshifuji H, Yoshizaki A, Kohmoto T, Takagi K, Oka A, Kanda M, Tanaka Y, Ito Y, Nakano K, Kasamatsu H, Utsunomiya A, Sekiguchi A, Niuro H, Jinnin M, Makino K, Makino T, Ihn H, Yamamoto M, Suzuki C, Takahashi H, Nishida E, Morita A, Yamamoto T, Fujimoto M, Kondo Y, Goto D, Sumida T, Ayuzawa N, Yanagida H, Horita T, Atsumi T, Endo H, Shima Y, Kumanogoh A, Hirata J, Otomo N, Suetsugu H, Koike Y, Tomizuka K, Yoshino S, Liu X, Ito S, Hikino K, Suzuki A, Momozawa Y, Ikegawa S, Tanaka Y, Ishikawa O, Takehara K, Torii T, Sato S, Okada Y, Mimori T, Matsuda F, Matsuda K, Amariuta T, Imoto I, Matsuo K, Kuwana M, Kawaguchi Y, Ohmura K, Terao C* : GWAS for systemic sclerosis identifies six novel susceptibility loci including one in the Fc $\gamma$  receptor region. *Nat Commun*, 15: 319, 2024.
- 004 *Shen XM, Nakata T, Mizuno S, Imoto I, Selcen D, Ohno K, Engel AG* : Impaired gating of  $\gamma$ - and  $\epsilon$ -AChR respectively causes Escobar syndrome and fast-channel myasthenia. *Ann Clin Transl Neurol*, 10: 732-743, 2023.
- 005 *Hanyuda A, Goto A, Katagiri R, Koyanagi YN, Nakatochi M, Sutoh Y, Nakano S, Oze I, Ito H, Yamaji T, Sawada N, Iwagami M, Kadota A, Koyama T, Katsuura-Kamano S, Ikezaki H, Tanaka K, Takezaki T, Imoto I, Suzuki M, Momozawa Y, Takeuchi K, Narita A, Hozawa A, Kinoshita K, Shimizu A, Tanno K, Matsuo K, Tsugane S, Wakai K, Sasaki M, Yamamoto M, Iwasaki M* : Investigating the association between glycaemic traits and colorectal cancer in the Japanese population using Mendelian randomisation. *Sci Rep*, 13: 7052, 2023.
- 006 *井本逸勢* : 遺伝性腫瘍の全ゲノム解析. *医学のあゆみ*, 285 : 97-102, 2023.

### がん情報・対策研究分野

- 001 *Hanyuda A, Goto A, Katagiri R, Koyanagi Y N, Nakatochi M, Sutoh Y, Nakano S, Oze I, Ito H, Yamaji T, Sawada N, Iwagami M, Kadota A, Koyama T, Katsuura-Kamano S, Ikezaki H, Tanaka K, Takezaki T, Imoto I, Suzuki M, Momozawa Y, Takeuchi K, Narita A, Hozawa A, Kinoshita K, Shimizu A, Tanno K, Matsuo K, Tsugane S, Wakai K, Sasaki M, Yamamoto M, Iwasaki M* : Investigating the association between glycaemic traits and colorectal cancer in the Japanese population using Mendelian randomisation. *Sci Rep*, 13: 7052, 2023.
- 002 *Iwase M, Taniyama Y, Koyanagi Y N, Kasugai Y, Oze I, Masuda N, Ito H, Matsuo K* : A Century of Change: Unraveling the Impact of Socioeconomic/ Historical Milestones on Age at Menarche and Other Female Reproductive Factors in Japan. *J Epidemiol*, 2024.
- 003 *Kasugai Y, Oze I, Koyanagi Y N, Taniyama Y, Ito H, Imoto I, Matsuo K* : Confounding in epidemiological studies on assessment of the impact of genetic factors on disease risk: the problem of redundant adjustment. *J Epidemiol*, 2024.
- 004 *Kawai S, Lin Y, Tsuge H, Ito H, Matsuo K, Wada K, Nagata C, Narii N, Kitamura T, Utada M, Sakata R, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Suzuki S, Sawada N, Tsugane S, Mizoue T, Oze I, Abe S K, Inoue M* : Body mass index and lung cancer risk: Pooled analysis of 10 prospective cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 115: 1346-1359, 2024.
- 005 *Koyanagi Y N, Matsuo K, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Ono A, Tsugane S, Sawada N, Wada K, Nagata C, Takeuchi T, Kitamura T, Utada M, Sakata R, Mizoue T, Abe S K, Inoue M* : Body mass index and esophageal and gastric cancer: A pooled analysis of 10 population-based cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 114: 2961-2972, 2023.
- 006 *Koyanagi Y N, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, Kawaguchi T, Ikezaki H, Hishida A, Hara M, Takezaki T, Koyama T, Nakamura Y, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakamura Y, Takeuchi K, Hozawa A, Kinoshita K, Sutoh Y, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Tajika M, Shimizu Y, Suzuki E, Hosono Y, Imoto I, Tabara Y, Takahashi M, Setoh K, Matsuda K, Nakano S, Goto A, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Tsugane S,*

- Wakai K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuda F, Okada Y, Iwasaki M, Brennan P, Matsuo K* : Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. *Sci Adv*, 10: eade2780, 2024.
- 007 *Kumagai H, Tsuda H, Kawaguchi K, Sawatari H, Kiyohara Y, Konishi N, Taniyama Y, Takaoka T, Shiomi T* : Truck collisions attributed to falling asleep at the wheel in two commercial drivers prescribed oral appliance therapy for obstructive sleep apnea. *J Clin Sleep Med*, 19: 2117-2122, 2023.
- 008 *Manandhar Shrestha R, Mizoue T, Islam Z, Kawakatsu Y, Ito H, Wada K, Nagata C, Zha L, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Sugawara Y, Tsuji I, Sato R, Sawada N, Tsugane S, Lin Y, Oze I, Abe S K, Inoue M* : Adult Height and Risk of Colorectal Cancer: A Pooled Analysis of 10 Population-based Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 34: 94-103, 2024.
- 009 *Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Wada K, Nagata C, Kitamura T, Zha L, Sakata R, Ozasa K, Lin Y, Mizoue T, Tanaka K, Abe S K, Inoue M* : Cigarette Smoking, Smoking Cessation, and Bladder Cancer Risk: A Pooled Analysis of 10 Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 33: 582-588, 2023.
- 010 *Nindita Y, Nakatochi M, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Nishimoto D, Shimatani K, Takezaki T, Ikezaki H, Murata M, Hara M, Nishida Y, Tamura T, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Matsuo K, Ito H, Mikami H, Nakamura Y, Otani T, Suzuki S, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K* : Population-Based Impact of Smoking, Drinking, and Genetic Factors on HDL-cholesterol Levels in J-MICC Study Participants. *J Epidemiol*, 33: 193-200, 2023.
- 011 *Nishimoto D, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shibuya K, Tanoue S, Koriyama C, Takezaki T, Oze I, Ito H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Nishida Y, Shimanoe C, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Tomida S, Kuriki K, Miyagawa N, Kondo K, Arisawa K, Watanabe T, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K, Matsuo K* : Association Between Awareness of Limiting Food Intake and All-cause Mortality: A Cohort Study in Japan. *J Epidemiol*, 34: 286-294, 2024.
- 012 *Oze I, Ito H, Koyanagi Y N, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Gupta P C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Sakata R, Malekzadeh R, Tsuji I, Kim J, Nagata C, You S L, Park S K, Yuan J M, Shin M H, Kweon S S, Pednekar M S, Tsugane S, Kimura T, Gao Y T, Cai H, Pourshams A, Lu Y, Kanemura S, Wada K, Sugawara Y, Chen C J, Chen Y, Shin A, Wang R, Ahn Y O, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D, Matsuo K* : Obesity is associated with biliary tract cancer mortality and incidence: A pooled analysis of 21 cohort studies in the Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 154: 1174-1190, 2024.
- 013 *Sawabe M, Kawakita D, Oze I, Iwasaki S, Hasegawa Y, Murakami S, Ito H, Hanai N, Matsuo K* : The Heterogeneous Impact of Prediagnostic Folate Intake for Fluorouracil-Containing Induction Chemotherapy for Head and Neck Cancer. *Cancers (Basel)*, 15, 2023.
- 014 *Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi T, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe S I, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka S S, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K, Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y, Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T* : Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. *Cancer Commun (Lond)*, 44: 287-293, 2024.
- 015 *Sugimoto Y, Koyanagi Y N, Kawakatsu Y, Oze I, Taniyama Y, Kasugai Y, Tanaka T, Abe T, Tajika M, Shimizu Y, Ito H, Wakai K, Matsuo K* : Mediation analysis unveils a carcinogenic effect of ADH1B rs1229984 through mechanisms other than change in drinking intensity: oesophageal cancer case-control study. *Jpn J Clin Oncol*, 53: 581-588, 2023.
- 016 *Tamura T, Wakai K, Kato Y, Tamada Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Hishida A, Imaeda N, Goto C, Ikezaki H, Otonari J, Hara M, Tanaka K, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Koriyama C, Oze I, Ito H, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Ozaki E, Matsui D, Kuriki K, Kondo K, Takashima N, Watanabe T, Katsuura-Kamano S, Matsuo K* : Dietary Carbohydrate and Fat Intakes and Risk of Mortality in the Japanese Population: the Japan Multi-

- Institutional Collaborative Cohort Study. *J Nutr*, 153: 2352-2368, 2023.
- 017 **Tomida S, Koyama T, Ozaki E, Takashima N, Morita M, Sakaguchi K, Naoi Y, Nishida Y, Hara M, Hishida A, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Otonari J, Ikezaki H, Nakamura Y, Kusakabe M, Tanoue S, Koriyama C, Koyanagi Y N, Ito H, Suzuki S, Otani T, Miyagawa N, Okami Y, Arisawa K, Watanabe T, Kuriki K, Wakai K, Matsuo K** : Seven-plus hours of daily sedentary time and the subsequent risk of breast cancer: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Cancer Sci*, 115: 611-622, 2024.
- 018 **Tsuge H, Kawakita D, Taniyama Y, Oze I, Koyanagi Y N, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Katanoda K, Ito Y, Shibata A, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H** : Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study. *Cancer Sci*, 115: 623-634, 2024.
- 019 **Tsutsui A, Ando N, Taniyama Y, Fujimaki T, Kawaura M, Matsuo K, Ito H, Ohno Y** : Trends of travel burdens to access cancer care among children with cancer: analysis of a population-based cancer registry data in Aichi, Japan. *Nagoya J Med Sci*, 85: 542-554, 2023.
- 020 **Usui Y, Ito H, Katanoda K, Matsuda T, Maeda Y, Matsuo K** : Trends in non-Hodgkin lymphoma mortality rate in Japan and the United States: A population-based study. *Cancer Sci*, 114: 4073-4080, 2023.
- 021 **Yang J J, Wen W, Zahed H, Zheng W, Lan Q, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Gupta P C, Tamakoshi A, Koh W P, Gao Y T, Sakata R, Tsuji I, Malekzadeh R, Sugawara Y, Kim J, Ito H, Nagata C, You S L, Park S K, Yuan J M, Shin M H, Kweon S S, Yi S W, Pednekar M S, Kimura T, Cai H, Lu Y, Etemadi A, Kanemura S, Wada K, Chen C J, Shin A, Wang R, Ahn Y O, Shin M H, Ohrr H, Sheikh M, Blechter B, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Inoue M, Kang D, Robbins H A, Shu X O** : Lung Cancer Risk Prediction Models for Asian Ever-Smokers. *J Thorac Oncol*, 19: 451-464, 2024.
- 002 **Chen Z, Lin W, Cai Q, Kweon S S, Shu X O, Tanikawa C, Jia W H, Wang Y, Su X, Yuan Y, Wen W, Kim J, Shin A, Jee S H, Matsuo K, Kim D H, Wang N, Ping J, Shin M H, Ren Z, Oh J H, Oze I, Ahn Y O, Jung K J, Gao Y T, Pan Z Z, Kamatani Y, Han W, Long J, Matsuda K, Zheng W, Guo X** : A large-scale microRNA transcriptome-wide association study identifies two susceptibility microRNAs, miR-1307-5p and miR-192-3p, for colorectal cancer risk. *Hum Mol Genet*, 33: 333-341, 2024.
- 003 **Fu Z, Brooks M M, Irvin S, Jordan S, Aben K K H, Anton-Culver H, Bandera E V, Beckmann M W, Berchuck A, Brooks-Wilson A, Chang-Claude J, Cook L S, Cramer D W, Cushing-Haugen K L, Doherty J A, Ekici A B, Fasching P A, Fortner R T, Gayther S A, Gentry-Maharaj A, Giles G G, Goode E L, Goodman M T, Harris H R, Hein A, Kaaks R, Kiemeny L A, Köbel M, Kotsopoulos J, Le N D, Lee A W, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin J R, Menon U, Milne R L, Moysich K B, Pearce C L, Pike M C, Qin B, Ramus S J, Riggan M J, Rothstein J H, Schildkraut J M, Sieh W, Sutphen R, Terry K L, Thompson P J, Titus L, van Altena A M, White E, Whittemore A S, Wu A H, Zheng W, Ziogas A, Taylor S E, Tang L, Songer T, Wentzensen N, Webb P M, Risch H A, Modugno F** : Lifetime ovulatory years and risk of epithelial ovarian cancer: a multinational pooled analysis. *J Natl Cancer Inst*, 115: 539-551, 2023.
- 004 **Goto A, Ohashi K, Noda M, Noto H, Ueki K, Inoue M, Nishimura R, Takahashi S, Ioka T, Oshima M, Fujibayashi K, Tsuji A, Kodaira M, Tamakoshi A, Mimori K, Tanabe Y, Hara E, Matsuo K, Murakami Y, Watada H** : Third Report of the Japan Diabetes Society (JDS)/Japanese Cancer Association (JCA) Joint Committee on diabetes and cancer: summary of the results of a questionnaire survey of oncologists and diabetologists-secondary publication. *Diabetol Int*, 15: 5-18, 2024.
- 005 **Goto A, Ohashi K, Noda M, Noto H, Ueki K, Inoue M, Nishimura R, Takahashi S, Ioka T, Oshima M, Fujibayashi K, Tsuji A, Kodaira M, Tamakoshi A, Mimori K, Tanabe Y, Hara E, Matsuo K, Murakami Y, Watada H** : Third Report of the Japan Diabetes Society/Japanese Cancer Association Joint Committee on Diabetes and Cancer: Summary of the results of a questionnaire survey of oncologists and diabetologists-Secondary publication. *Cancer Sci*, 115: 672-681, 2024.
- 006 **Goyal N, Hennessy M, Lehman E, Lin W, Agudo A, Ahrens W, Boccia S, Brennan P, Brenner H, Cadoni G, Canova C, Chen C, Conway D, Curado M P, Dal Maso L, Daudt A W, Edefonti V, Fabianova E,**

## がん予防研究分野

- 001 **Chatani S, Tsukii R, Nagasawa K, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Yamaura H, Onaya H, Matsuo K, Watanabe Y, Inaba Y** : Difficult removal of totally implantable venous access devices in adult patients: Incidence, risk factors, and management. *J Vasc Access*, 24: 1150-1157, 2023.



- Fernandez L, Franceschi S, Garavello W, Gillison M, Hayes R B, Healy C, Herrero R, Holcatova I, Kanda J L, Kelsey K, Hansen B T, Koifman R, Lagiou P, La Vecchia C, Levi F, Li G, Lissowska J, Mendoza López R, Luce D, Macfarlane G, Mates D, Matsuo K, McClean M, Menezes A, Menvielle G, Morgenstern H, Moysich K, Negri E, Olshan A F, Pandics T, Polesel J, Purdue M, Radoi L, Ramroth H, Richiardi L, Schantz S, Schwartz S M, Serraino D, Shangina O, Smith E, Sturgis E M, Świątkowska B, Thomson P, Vaughan T L, Vilensky M, Winn D M, Wunsch-Filho V, Yu G P, Zavallos J P, Zhang Z F, Zheng T, Znaor A, Boffetta P, Hashibe M, Lee Y A, Muscat J E* : Risk factors for head and neck cancer in more and less developed countries: Analysis from the INHANCE consortium. *Oral Dis*, 29: 1565-1578, 2023.
- 007 *Hanyuda A, Goto A, Katagiri R, Koyanagi Y N, Nakatochi M, Sutoh Y, Nakano S, Oze I, Ito H, Yamaji T, Sawada N, Iwagami M, Kadota A, Koyama T, Katsuura-Kamano S, Ikezaki H, Tanaka K, Takezaki T, Imoto I, Suzuki M, Momozawa Y, Takeuchi K, Narita A, Hozawa A, Kinoshita K, Shimizu A, Tanno K, Matsuo K, Tsugane S, Wakai K, Sasaki M, Yamamoto M, Iwasaki M* : Investigating the association between glycaemic traits and colorectal cancer in the Japanese population using Mendelian randomisation. *Sci Rep*, 13: 7052, 2023.
- 008 *Hara M, Nishida Y, Tanaka K, Shimanoe C, Koga K, Furukawa T, Higaki Y, Shinchi K, Ikezaki H, Murata M, Takeuchi K, Tamura T, Hishida A, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Matsuo K, Oze I, Mikami H, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Matsui D, Koyama T, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Wakai K* : Moderate-to-vigorous Physical Activity and Sedentary Behavior Are Independently Associated With Renal Function: A Cross-sectional Study. *J Epidemiol*, 33: 285-293, 2023.
- 009 *Ishikawa Y, Tanaka N, Asano Y, Kodera M, Shirai Y, Akahoshi M, Hasegawa M, Matsushita T, Saito K, Motegi S I, Yoshifuji H, Yoshizaki A, Kohmoto T, Takagi K, Oka A, Kanda M, Tanaka Y, Ito Y, Nakano K, Kasamatsu H, Utsunomiya A, Sekiguchi A, Niino H, Jinnin M, Makino K, Makino T, Ihn H, Yamamoto M, Suzuki C, Takahashi H, Nishida E, Morita A, Yamamoto T, Fujimoto M, Kondo Y, Goto D, Sumida T, Ayuzawa N, Yanagida H, Horita T, Atsumi T, Endo H, Shima Y, Kumanogoh A, Hirata J, Otomo N, Suetsugu H, Koike Y, Tomizuka K, Yoshino S, Liu X, Ito S, Hikino K, Suzuki A, Momozawa Y, Ikegawa S, Tanaka Y, Ishikawa O, Takehara K, Torii T, Sato S, Okada Y, Mimori T, Matsuda F, Matsuda K, Amariuta T, Imoto I, Matsuo K, Kuwana M, Kawaguchi Y, Ohmura K, Terao C* : GWAS for systemic sclerosis identifies six novel susceptibility loci including one in the Fcγ receptor region. *Nat Commun*, 15: 319, 2024.
- 010 *Iwase M, Taniyama Y, Koyanagi Y N, Kasugai Y, Oze I, Masuda N, Ito H, Matsuo K* : A Century of Change: Unraveling the Impact of Socioeconomic/ Historical Milestones on Age at Menarche and Other Female Reproductive Factors in Japan. *J Epidemiol*, 2024.
- 011 *Kasugai Y, Oze I, Koyanagi Y N, Taniyama Y, Ito H, Imoto I, Matsuo K* : Confounding in epidemiological studies on assessment of the impact of genetic factors on disease risk: the problem of redundant adjustment. *J Epidemiol*, 2024.
- 012 *Katagiri R, Iwasaki M, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Merritt M A, Choi J Y, Shin A, Sawada N, Tamakoshi A, Koh W P, Sakata R, Tsuji I, Kim J, Nagata C, Park S K, Kweon S S, Shu X O, Gao Y T, Tsugane S, Kimura T, Yuan J M, Kanemura S, Lu Y, Sugawara Y, Wada K, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D* : Reproductive Factors and Endometrial Cancer Risk Among Women. *JAMA Netw Open*, 6: e2332296, 2023.
- 013 *Kawai S, Lin Y, Tsuge H, Ito H, Matsuo K, Wada K, Nagata C, Narii N, Kitamura T, Utada M, Sakata R, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Suzuki S, Sawada N, Tsugane S, Mizoue T, Oze I, Abe S K, Inoue M* : Body mass index and lung cancer risk: Pooled analysis of 10 prospective cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 115: 1346-1359, 2024.
- 014 *Kitaoka K, Miura K, Takashima N, Kadota A, Harada A, Nakamura Y, Kita Y, Yano Y, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Suzuki S, Nishiyama T, Tanoue S, Koriyama C, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Nishida Y, Shimanoe C, Ozaki E, Matsui D, Ikezaki H, Otonari J, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Wakai K, Matsuo K* : Association between Dietary Patterns and Serum Low Density Lipoprotein Cholesterol in Japanese Women and Men: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J Atheroscler Thromb*, 30: 1427-1447, 2023.
- 015 *Kojima Y, Mishihiro-Sato E, Fujishita T, Satoh K, Kajino-Sakamoto R, Oze I, Nozawa K, Narita Y, Ogata T, Matsuo K, Muro K, Taketo M M, Soga T, Aoki M* : Decreased liver B vitamin-related enzymes as a metabolic hallmark of cancer cachexia. *Nat Commun*, 14: 6246, 2023.
- 016 *Kondo T, Tsukahara K, Kawakita D, Yoshimoto S,*

- Miura K, Sugasawa M, Chikamatsu K, Matsuzuka T, Oze I, Kitamura M, Murakami Y, Otozai S, Shinozaki T, Ohba S, Araki K, Mizumachi T, Sato D, Wakisaka N, Hirakawa H, Hasegawa Y* : Macroscopic and multiple metastases in sentinel lymph node biopsy are respectively associated with poor prognosis in early oral cancer. *Int J Clin Oncol*, 28: 512-520, 2023.
- 017 *Koyanagi Y N, Matsuo K, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Ono A, Tsugane S, Sawada N, Wada K, Nagata C, Takeuchi T, Kitamura T, Utada M, Sakata R, Mizoue T, Abe S K, Inoue M* : Body mass index and esophageal and gastric cancer: A pooled analysis of 10 population-based cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 114: 2961-2972, 2023.
- 018 *Koyanagi Y N, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, Kawaguchi T, Ikezaki H, Hishida A, Hara M, Takezaki T, Koyama T, Nakamura Y, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakamura Y, Takeuchi K, Hozawa A, Kinoshita K, Sutoh Y, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Tajika M, Shimizu Y, Suzuki E, Hosono Y, Imoto I, Tabara Y, Takahashi M, Setoh K, Matsuda K, Nakano S, Goto A, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Tsugane S, Wakai K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuda F, Okada Y, Iwasaki M, Brennan P, Matsuo K* : Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. *Sci Adv*, 10: eade2780, 2024.
- 019 *Kurasawa S, Imaizumi T, Maruyama S, Tanaka K, Kubo Y, Nagayoshi M, Ikezaki H, Suzuki S, Koyama T, Koriyama C, Kadota A, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Wakai K, Matsuo K* : Association of kidney function with cancer incidence and its influence on cancer risk of smoking: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Int J Cancer*, 153: 732-741, 2023.
- 020 *Kyuragi S, Matsushima T, Matsuo K, Nakao T, Kato T A* : High-sensitivity C-reactive protein and bilirubin as possible biomarkers for hikikomori in depression: A case-control study. *Psychiatry Clin Neurosci*, 77: 458-460, 2023.
- 021 *Manandhar Shrestha R, Mizoue T, Islam Z, Kawakatsu Y, Ito H, Wada K, Nagata C, Zha L, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Sugawara Y, Tsuji I, Sato R, Sawada N, Tsugane S, Lin Y, Oze I, Abe S K, Inoue M* : Adult Height and Risk of Colorectal Cancer: A Pooled Analysis of 10 Population-based Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 34: 94-103, 2024.
- 022 *Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Wada K, Nagata C, Kitamura T, Zha L, Sakata R, Ozasa K, Lin Y, Mizoue T, Tanaka K, Abe S K, Inoue M* : Cigarette Smoking, Smoking Cessation, and Bladder Cancer Risk: A Pooled Analysis of 10 Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 33: 582-588, 2023.
- 023 *Matsubara Y, Toriyama K, Kadowaki S, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Bando H, Ando M, Tajika M, Oze I, Hosoda W, Muro K* : The impact of combined PD-L1 positive score on clinical response to nivolumab in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 20: 524-532, 2023.
- 024 *Matsushima T, Yoshikawa Y, Matsuo K, Kurahara K, Uehara Y, Nakao T, Ishiguro H, Kumazaki H, Kato T A* : Development of depression assessment tools using humanoid robots -Can tele-operated robots talk with depressive persons like humans? *J Psychiatr Res*, 170: 187-194, 2024.
- 025 *Matsuzuka T, Tsukahara K, Yoshimoto S, Chikamatsu K, Shiotani A, Oze I, Murakami Y, Shinozaki T, Enoki Y, Ohba S, Kawakita D, Hanai N, Koide Y, Sawabe M, Nakata Y, Fukuda Y, Nishikawa D, Takano G, Kimura T, Oguri K, Hirakawa H, Hasegawa Y* : Predictive factors for dissection-free sentinel node micrometastases in early oral squamous cell carcinoma. *Sci Rep*, 13: 6188, 2023.
- 026 *May T, Bernardini M, Lheureux S, Aben K K H, Bandera E V, Beckmann M W, Benitez J, Berchuck A, Bjørge L, Carney M E, Cramer D W, deFazio A, Dörk T, Eccles D M, Friedlander M, García M J, Goode E L, Hein A, Høgdall C K, Jensen A, Johnatty S, Kennedy C J, Kiemeny L A, Kjær S K, Kupryjańczyk J, Matsuo K, McGuire V, Modugno F, Paddock L E, Pejovic T, Phelan C M, Riggan M J, Rodriguez-Antona C, Rothstein J H, Sieh W, Song H, Terry K L, van Altena A M, Vanderstichele A, Vergote I, Thomsen L C V, Webb P M, Wentzensen N, Wilkens L R, Ziogas A, Jiang H, Tone A* : Clinical parameters affecting survival outcomes in patients with low-grade serous ovarian carcinoma: an international multicentre analysis. *Can J Surg*, 66: E310-e320, 2023.
- 027 *Morita A, Ichihara E, Inoue K, Fujiwara K, Yokoyama T, Harada D, Ando C, Kano H, Oda N, Tamura T, Ochi N, Kawai H, Inoue M, Hara N, Fujimoto N, Ichikawa H, Oze I, Hotta K, Maeda Y, Kiura K* : Impacts of probiotics on the efficacies of immune checkpoint inhibitors with or without chemotherapy for patients with advanced non-small-cell lung cancer. *Int J Cancer*, 154: 1607-1615, 2024.

- 028 *Nabila S, Choi J Y, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Shin A, Merritt M A, Katagiri R, Shu X O, Sawada N, Tamakoshi A, Sakata R, Hozawa A, Kim J, Nagata C, Park S K, Kweon S S, Cai H, Tsugane S, Kimura T, Kanemura S, Sugawara Y, Wada K, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D* : Differential patterns of reproductive and lifestyle risk factors for breast cancer according to birth cohorts among women in China, Japan and Korea. *Breast Cancer Res*, 26: 15, 2024.
- 029 *Nagayoshi M, Hishida A, Shimizu T, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Otonari J, Ikezaki H, Hara M, Nishida Y, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K* : BMI and Cardiometabolic Traits in Japanese: A Mendelian Randomization Study. *J Epidemiol*, 34: 51-62, 2024.
- 030 *Nagayoshi M, Takeuchi K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Hishida A, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimano C, Koyanagi Y N, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Nishimoto D, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Wakai K* : Sex-specific Relationship Between Stress Coping Strategies and All-cause Mortality: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 33: 236-245, 2023.
- 031 *Nindita Y, Nakatochi M, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Nishimoto D, Shimatani K, Takezaki T, Ikezaki H, Murata M, Hara M, Nishida Y, Tamura T, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Matsuo K, Ito H, Mikami H, Nakamura Y, Otani T, Suzuki S, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K* : Population-Based Impact of Smoking, Drinking, and Genetic Factors on HDL-cholesterol Levels in J-MICC Study Participants. *J Epidemiol*, 33: 193-200, 2023.
- 032 *Ninomiya T, Ishikawa N, Kozuki T, Kuyama S, Inoue K, Yokoyama T, Kanaji N, Yasugi M, Shibayama T, Aoe K, Ochi N, Fujitaka K, Kodani M, Ueda Y, Watanabe K, Bessho A, Sugimoto K, Oze I, Hotta K, Kiura K* : A randomized phase II study of afatinib alone or combined with bevacizumab for treating chemo-naïve patients with non-small cell lung cancer harboring EGFR mutations. *Lung Cancer*, 184: 107349, 2023.
- 033 *Nishimoto D, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shibuya K, Tanoue S, Koriyama C, Takezaki T, Oze I, Ito H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Nishida Y, Shimano C, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Tomida S, Kuriki K, Miyagawa N, Kondo K, Arisawa K, Watanabe T, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K, Matsuo K* : Association Between Awareness of Limiting Food Intake and All-cause Mortality: A Cohort Study in Japan. *J Epidemiol*, 34: 286-294, 2024.
- 034 *Oda A, Suzuki Y, Sato H, Koyama T, Nakatochi M, Momozawa Y, Tanaka R, Ono H, Tatsuta R, Ando T, Shin T, Wakai K, Matsuo K, Itoh H, Ohno K* : Evaluation of the usefulness of plasma 4 $\beta$ -hydroxycholesterol concentration normalized by 4 $\alpha$ -hydroxycholesterol for accurate CYP3A phenotyping. *Clin Transl Sci*, 17: e13768, 2024.
- 035 *Ogata T, Narita Y, Oze I, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama H, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Bando H, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M, Muro K* : Chronological improvement of survival in patients with advanced gastric cancer over 15 years. *Ther Adv Med Oncol*, 16: 17588359241229428, 2024.
- 036 *Ohbiki M, Ito Y, Inamoto Y, Miyamura K, Uchida N, Fukuda T, Fujiwara H, Nishida T, Hayashi M, Tanaka M, Kawakita T, Ikegame K, Katayama Y, Ara T, Ichinohe T, Kiyoi H, Matsuo K, Atsuta Y* : Improved Long-Term Net Survival after Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation in Patients with Hematologic Malignancies over Two Decades. *Transplant Cell Ther*, 29: 768.e761-768.e710, 2023.
- 037 *Ozawa T, Oze I, Matsuzuka T, Sasaki E, Yokoyama J, Sano Y, Tomifuji M, Araki K, Kogashiwa Y, Tateya I, Agena S, Sakashita T, Tsuzuki H, Terada H, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Matoba T, Mukoyama N, Oguri K, Hasegawa Y* : Indications for sentinel lymph node biopsy in node-negative oral cancers. *Head Neck*, 45: 2533-2543, 2023.
- 038 *Oze I, Ito H, Koyanagi Y N, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Gupta P C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Sakata R, Malekzadeh R, Tsuji I, Kim J, Nagata C, You S L, Park S K, Yuan J M, Shin M H, Kweon S S, Pednekar M S, Tsugane S, Kimura T, Gao Y T, Cai H, Pourshams A, Lu Y, Kanemura S, Wada K, Sugawara Y, Chen C J, Chen Y, Shin A, Wang R, Ahn Y O, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D, Matsuo K* : Obesity is associated with biliary tract cancer mortality and incidence: A pooled analysis of 21 cohort studies in the Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 154: 1174-1190, 2024.
- 039 *Sakashita T, Nakamura Y, Sutoh Y, Shimizu A,*

- Hachiya T, Otsuka-Yamasaki Y, Takashima N, Kadota A, Miura K, Kita Y, Ikezaki H, Otonari J, Tanaka K, Shimano C, Koyama T, Watanabe I, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Okada R, Kuriki K, Katsuura-Kamano S, Watanabe T, Tanoue S, Koriyama C, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakatochi M, Momozawa Y, Wakai K, Matsuo K* : Comparison of the loci associated with HbA1c and blood glucose levels identified by a genome-wide association study in the Japanese population. *Diabetol Int*, 14: 188-198, 2023.
- 040 *Sawabe M, Kawakita D, Oze I, Iwasaki S, Hasegawa Y, Murakami S, Ito H, Hanai N, Matsuo K* : The Heterogeneous Impact of Prediagnostic Folate Intake for Fluorouracil-Containing Induction Chemotherapy for Head and Neck Cancer. *Cancers (Basel)*, 15, 2023.
- 041 *Shi J, Shiraishi K, Choi J, Matsuo K, Chen T Y, Dai J, Hung R J, Chen K, Shu X O, Kim Y T, Landi M T, Lin D, Zheng W, Yin Z, Zhou B, Song B, Wang J, Seow W J, Song L, Chang I S, Hu W, Chien L H, Cai Q, Hong Y C, Kim H N, Wu Y L, Wong M P, Richardson B D, Funderburk K M, Li S, Zhang T, Breeze C, Wang Z, Blechter B, Bassig B A, Kim J H, Albanes D, Wong J Y Y, Shin M H, Chung L P, Yang Y, An S J, Zheng H, Yatabe Y, Zhang X C, Kim Y C, Caporaso N E, Chang J, Ho J C M, Kubo M, Daigo Y, Song M, Momozawa Y, Kamatani Y, Kobayashi M, Okubo K, Honda T, Hosgood D H, Kunitoh H, Patel H, Watanabe S I, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Horinouchi H, Tsuboi M, Hamamoto R, Goto K, Ohe Y, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Hara M, Nishida Y, Takeuchi K, Wakai K, Matsuda K, Murakami Y, Shimizu K, Suzuki H, Saito M, Ohtaki Y, Tanaka K, Wu T, Wei F, Dai H, Machiela M J, Su J, Kim Y H, Oh I J, Lee V H F, Chang G C, Tsai Y H, Chen K Y, Huang M S, Su W C, Chen Y M, Seow A, Park J Y, Kweon S S, Chen K C, Gao Y T, Qian B, Wu C, Lu D, Liu J, Schwartz A G, Houlston R, Spitz M R, Gorlov I P, Wu X, Yang P, Lam S, Tardon A, Chen C, Bojesen S E, Johansson M, Risch A, Bickeböller H, Ji B T, Wichmann H E, Christiani D C, Rennert G, Arnold S, Brennan P, McKay J, Field J K, Shete S S, Le Marchand L, Liu G, Andrew A, Kiemeny L A, Zienolddiny-Narui S, Grankvist K, Johansson M, Cox A, Taylor F, Yuan J M, Lazarus P, Schabath M B, Aldrich M C, Jeon H S, Jiang S S, Sung J S, Chen C H, Hsiao C F, Jung Y J, Guo H, Hu Z, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Hicks B, Liu J, Zhu B, Berndt S I, Wu W, Wang J, Li Y, Choi J E, Park K H, Sung S W, Liu L, Kang C H, Wang W C, Xu J, Guan P, Tan W, Yu C J, Yang G, Sihoe A D L, Chen Y, Choi Y Y, Kim J S, Yoon H I, Park I K, Xu P, He Q, Wang C L, Hung H H, Vermeulen R C H, Cheng I, Wu J, Lim W Y, Tsai F Y, Chan J K C, Li J, Chen H, Lin H C, Jin L, Liu J, Sawada N, Yamaji T, Wyatt K, Li S A, Ma H, Zhu M, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Chao A, Iwasaki M, Zhu J, Jiang G, Fei K, Wu G, Chen C Y, Chen C J, Yang P C, Yu J, Stevens V L, Fraumeni J F, Jr., Chatterjee N, Gorlova O Y, Hsiung C A, Amos C I, Shen H, Chanock S J, Rothman N, Kohno T, Lan Q* : Genome-wide association study of lung adenocarcinoma in East Asia and comparison with a European population. *Nat Commun*, 14: 3043, 2023.
- 042 *Shimomura Y, Kitamura T, Murata M, Matsuo K, Ito Y, Ichinohe T, Hashii Y, Goto H, Kato K, Ishimaru F, Sato A, Onizuka M, Yanagisawa A, Ohbiki M, Tabuchi K, Atsuta Y, Fukuda T, Kanda J, Terakura S* : Impact of Center Volume on Chronic Graft Versus Host Disease in Patients With Allogeneic Stem Cell Transplantation. *Transplant Cell Ther*, 30: 326.e321-326.e314, 2024.
- 043 *Shin A, Cho S, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Kazmi S Z, Katagiri R, Merritt M, Choi J Y, Shu X O, Sawada N, Tamakoshi A, Koh W P, Sakata R, Hozawa A, Kim J, Park S K, Kweon S S, Wen W, Tsugane S, Kimura T, Yuan J M, Kanemura S, Sugawara Y, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D* : Association of female reproductive and hormonal factors with gallbladder cancer risk in Asia: A pooled analysis of the Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 155: 240-250, 2024.
- 044 *Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi T, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe S I, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka S S, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K, Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y,*

- Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T* : Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. *Cancer Commun (Lond)*, 44: 287-293, 2024.
- 045 *Sugimoto Y, Koyanagi Y N, Kawakatsu Y, Oze I, Taniyama Y, Kasugai Y, Tanaka T, Abe T, Tajika M, Shimizu Y, Ito H, Wakai K, Matsuo K* : Mediation analysis unveils a carcinogenic effect of ADH1B rs1229984 through mechanisms other than change in drinking intensity: oesophageal cancer case-control study. *Jpn J Clin Oncol*, 53: 581-588, 2023.
- 046 *Takenaka K, Fuji S, Matsukawa T, Uchida N, Kobayashi T, Tanaka M, Ara T, Ikegame K, Ozawa Y, Kanda Y, Sawa M, Maruyama Y, Fukuda T, Nakamae H, Kimura T, Ogata M, Seo S, Atsuta Y, Matsuo K, Nakasone H* : Outcomes of allogeneic hematopoietic cell transplantation under letermovir prophylaxis for cytomegalovirus infection. *Ann Hematol*, 103: 285-296, 2024.
- 047 *Tamura T, Wakai K, Kato Y, Tamada Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Hishida A, Imaeda N, Goto C, Ikezaki H, Otonari J, Hara M, Tanaka K, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Koriyama C, Oze I, Ito H, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Ozaki E, Matsui D, Kuriki K, Kondo K, Takashima N, Watanabe T, Katsuura-Kamano S, Matsuo K* : Dietary Carbohydrate and Fat Intakes and Risk of Mortality in the Japanese Population: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Nutr*, 153: 2352-2368, 2023.
- 048 *Tawada K, Higaki E, Abe T, Takatsu J, Fujieda H, Nagao T, Komori K, Ito S, Yoshida M, Oze I, Shimizu Y* : Maximum phonation time: an independent predictor of late-onset pneumonia after esophageal cancer surgery. *Dis Esophagus*, 36, 2023.
- 049 *Thomas M, Su Y R, Rosenthal E A, Sakoda L C, Schmit S L, Timofeeva M N, Chen Z, Fernandez-Rozadilla C, Law P J, Murphy N, Carreras-Torres R, Diez-Obrero V, van Duijnhoven F J B, Jiang S, Shin A, Wolk A, Phipps A I, Burnett-Hartman A, Gsur A, Chan A T, Zauber A G, Wu A H, Lindblom A, Um C Y, Tangen C M, Gignoux C, Newton C, Haiman C A, Qu C, Bishop D T, Buchanan D D, Crosslin D R, Conti D V, Kim D H, Hauser E, White E, Siegel E, Schumacher F R, Rennert G, Giles G G, Hampel H, Brenner H, Oze I, Oh J H, Lee J K, Schneider J L, Chang-Claude J, Kim J, Huyghe J R, Zheng J, Hampe J, Greenon J, Hopper J L, Palmer J R, Visvanathan K, Matsuo K, Matsuda K, Jung K J, Li L, Le Marchand L, Vodickova L, Bujanda L, Gunter M J, Matejcic M, Jenkins M A, Slattery M L, D'Amato M, Wang M, Hoffmeister M, Woods M O, Kim M, Song M, Iwasaki M, Du M, Udaltsova N, Sawada N, Vodicka P, Campbell P T, Newcomb P A, Cai Q, Pearlman R, Pai R K, Schoen R E, Steinfeldt R S, Haile R W, Vandenputtelaar R, Prentice R L, Küry S, Castellví-Bel S, Tsugane S, Berndt S I, Lee S C, Brezina S, Weinstein S J, Chanock S J, Jee S H, Kweon S S, Vadaparampil S, Harrison T A, Yamaji T, Keku T O, Vymetalkova V, Arndt V, Jia W H, Shu X O, Lin Y, Ahn Y O, Stadler Z K, Van Guelpen B, Ulrich C M, Platz E A, Potter J D, Li C I, Meester R, Moreno V, Figueiredo J C, Casey G, Lansdorp Vogelaar I, Dunlop M G, Gruber S B, Hayes R B, Pharoah P D P, Houlston R S, Jarvik G P, Tomlinson I P, Zheng W, Corley D A, Peters U, Hsu L* : Combining Asian and European genome-wide association studies of colorectal cancer improves risk prediction across racial and ethnic populations. *Nat Commun*, 14: 6147, 2023.
- 050 *Tomida S, Koyama T, Ozaki E, Takashima N, Morita M, Sakaguchi K, Naoi Y, Nishida Y, Hara M, Hishida A, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Otonari J, Ikezaki H, Nakamura Y, Kusakabe M, Tanoue S, Koriyama C, Koyanagi Y N, Ito H, Suzuki S, Otani T, Miyagawa N, Okami Y, Arisawa K, Watanabe T, Kuriki K, Wakai K, Matsuo K* : Seven-plus hours of daily sedentary time and the subsequent risk of breast cancer: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Cancer Sci*, 115: 611-622, 2024.
- 051 *Toyoda Y, Nakatochi M, Nakayama A, Kawamura Y, Nakaoka H, Wakai K, Matsuo K, Matsuo H* : SNP-based heritability estimates of gout and its subtypes determined by genome-wide association studies of clinically defined gout. *Rheumatology (Oxford)*, 62: e144-e146, 2023.
- 052 *Tsuge H, Kawakita D, Taniyama Y, Oze I, Koyanagi Y N, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Katanoda K, Ito Y, Shibata A, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H* : Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study. *Cancer Sci*, 115: 623-634, 2024.
- 053 *Tsukamoto M, Hishida A, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Kato Y, Hamajima N, Nishida Y, Shimano C, Ibusuki R, Shibuya K, Takashima N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakamura Y, Koyanagi Y N, Oze I, Nishiyama T, Suzuki S, Watanabe I, Matsui D, Otonari J, Ikezaki H, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K, Matsuo K* : GWAS of Folate Metabolism With Gene-environment Interaction

Analysis Revealed the Possible Role of Lifestyles in the Control of Blood Folate Metabolites in Japanese: The J-MICC Study. *J Epidemiol*, 34: 228-237, 2024.

- 054 *Tsutsui A, Ando N, Taniyama Y, Fujimaki T, Kawaura M, Matsuo K, Ito H, Ohno Y* : Trends of travel burdens to access cancer care among children with cancer: analysis of a population-based cancer registry data in Aichi, Japan. *Nagoya J Med Sci*, 85: 542-554, 2023.
- 055 *Usui Y, Ito H, Katanoda K, Matsuda T, Maeda Y, Matsuo K* : Trends in non-Hodgkin lymphoma mortality rate in Japan and the United States: A population-based study. *Cancer Sci*, 114: 4073-4080, 2023.
- 056 *Usui Y, Matsuo K, Momozawa Y* : Helicobacter pylori, Homologous-Recombination Genes, and Gastric Cancer. Reply. *N Engl J Med*, 389: 379-381, 2023.
- 057 *Yaku A, Ishikawa Y, Iwasaki T, Hiwa R, Matsuo K, Saji H, Yurugi K, Miura Y, Furu M, Ito H, Fujii T, Maekawa T, Hashimoto M, Ohmura K, Mimori T, Terao C* : Genetic architecture underlying IgG-RF production is distinct from that of IgM-RF. *Rheumatology (Oxford)*, 62: 2015-2020, 2023.
- 058 *Yamamoto H, Soh J, Okumura N, Suzuki H, Nakata M, Fujiwara T, Gamba K, Sano I, Fujinaga T, Kataoka M, Terazaki Y, Fujimoto N, Kataoka K, Kosaka S, Yamashita M, Inokawa H, Inoue M, Nakamura H, Yamashita Y, Hotta K, Yoshioka H, Morita S, Matsuo K, Sakamoto J, Date H, Toyooka S* : Randomized phase II study of daily versus alternate-day administrations of S-1 for the elderly patients with completely resected pathological stage IA (tumor diameter > 2 cm)-IIIA of non-small cell lung cancer: Setouchi Lung Cancer Group Study 1201. *PLoS One*, 18: e0285273, 2023.
- 059 *Yanada M, Yano S, Kuwatsuka Y, Kawamura K, Fukuda T, Ichinohe T, Hashii Y, Goto H, Kato K, Ishimaru F, Sato A, Onizuka M, Matsuo K, Ito Y, Yanagisawa A, Ohbiki M, Tabuchi K, Atsuta Y, Kanda J, Konuma T* : The effect of center experience on allogeneic hematopoietic cell transplantation outcomes in acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant*, 59: 541-549, 2024.
- 060 *Yang J J, Wen W, Zahed H, Zheng W, Lan Q, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Gupta P C, Tamakoshi A, Koh W P, Gao Y T, Sakata R, Tsuji I, Malekzadeh R, Sugawara Y, Kim J, Ito H, Nagata C, You S L, Park S K, Yuan J M, Shin M H, Kweon S S, Yi S W, Pednekar M S, Kimura T, Cai H, Lu Y, Etemadi A, Kanemura S, Wada K, Chen C J, Shin A, Wang R, Ahn Y O, Shin M H, Ohrr H, Sheikh M, Blechter B, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Inoue M, Kang D,*

*Robbins H A, Shu X O* : Lung Cancer Risk Prediction Models for Asian Ever-Smokers. *J Thorac Oncol*, 19: 451-464, 2024.

- 061 *Yin X, Kishida R, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Lan Q, Blechter B, Merritt M, Choi J Y, Shin A, Katagiri R, Shu X O, Sawada N, Tamakoshi A, Koh W P, Tsuji I, Nagata C, Park S K, Kweon S S, Gao Y T, Tsugane S, Kimura T, Yuan J M, Lu Y, Kanemura S, Sugawara Y, Wada K, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D, Seow W J* : Association between reproductive factors with lung cancer incidence and mortality: A pooled analysis of over 308,000 females in the Asia cohort consortium. *Int J Cancer*, 154: 2090-2105, 2024.

### がん病態生理学分野

- 001 *Kojima Y, Mishihiro-Sato E, Fujishita T, Satoh K, Kajino-Sakamoto R, Oze I, Nozawa K, Narita Y, Ogata T, Matsuo K, Muro K, Taketo M M, Aoki M* : Decreased liver B vitamin-related enzymes as a metabolic hallmark of cancer cachexia. *Nat Commun*, 14 (1): 6246, 2023.
- 002 *Li Y, Fujishita T, Mishihiro-Sato E, Kojima Y, Niu Y, Taketo M, Urano Y, Sakai T, Enomoto A, Nishida Y, Aoki M* : TGF- $\beta$  signaling promotes desmoid tumor formation via CSRP2 upregulation. *Cancer Sci*, 115(2): 401-411, 2024.

### 分子腫瘍学分野

- 001 *Sato T, Akao K, Sato A, Tsujimura T, Mukai S, Sekido Y* : Aberrant expression of NPPB through YAP1 and TAZ activation in mesothelioma with Hippo pathway gene alterations. *Cancer Med*, 12: 13586-13598, 2023.
- 002 *Hirai S, Yamada T, Katayama Y, Ishida M, Kawachi H, Matsui Y, Nakamura R, Morimoto K, Horinaka M, Sakai T, Sekido Y, Tokuda S, Takayama K* : Effects of Combined Therapeutic Targeting of AXL and ATR on Pleural Mesothelioma Cells. *Mol Cancer Ther*, 23: 212-222, 2024.
- 003 *Jiang L, Zheng H, Ishida M, Lyu Q, Akatsuka S, Motooka Y, Sato K, Sekido Y, Nakamura K, Tanaka H, Ishikawa K, Kajiyama H, Mizuno M, Hori M, Toyokuni S* : Elaborate cooperation of poly(rC)-binding proteins 1/2 and glutathione in ferroptosis induced by plasma-activated Ringer's lactate. *Free Radic Biol Med*, 214: 28-41, 2024.

## システム解析学分野

- 001 *Kuwatsuka Y, Kasajima R, Yamaguchi R, Uchida N, Konuma T, Tanaka M, Shingai N, Miyakoshi S, Kozai Y, Uehara Y, Eto T, Toyosaki M, Nishida T, Ishimaru F, Kato K, Fukuda T, Imoto S, Atsuta Y, Takahashi S* : Machine Learning Prediction Model for Neutrophil Recovery after Unrelated Cord Blood Transplantation. *Transplant Cell Ther.* 30(4): 444 e1-e11, 2024.
- 002 *Yamaguchi K, Nakagawa S, Saku A, Isobe Y, Yamaguchi R, Sheridan P, Takane K, Ikenoue T, Zhu C, Miura M, Okawara Y, Nagatoishi S, Kozuka-Hata H, Oyama M, Aikou S, Ahiko Y, Shida D, Tsumoto K, Miyano S, Imoto S, Furukawa Y* : Bromodomain protein BRD8 regulates cell cycle progression in colorectal cancer cells through a TIP60-independent regulation of the pre-RC complex. *iScience.* 26(4): 106563, 2023.
- 003 *Washimi K, Kasajima R, Shimizu E, Sato S, Okubo Y, Yoshioka E, Narimatsu H, Hiruma T, Katayama K, Yamaguchi R, Yamaguchi K, Furukawa Y, Miyano S, Imoto S, Yokose T, Miyagi Y* : Histological markers, sickle-shaped blood vessels, myxoid area, and infiltrating growth pattern help stratify the prognosis of patients with myxofibrosarcoma/undifferentiated sarcoma. *Sci Rep.* 13(1): 6744, 2023.
- 004 *Suzuki M, Kasajima R, Yokose T, Shimizu E, Hatakeyama S, Yamaguchi K, Yokoyama K, Katayama K, Yamaguchi R, Furukawa Y, Miyano S, Imoto S, Shinozaki-Ushiku A, Ushiku T, Miyagi Y* : KMT2C expression and DNA homologous recombination repair factors in lung cancers with a high-grade fetal adenocarcinoma component. *Transl Lung Cancer Res.* 12(8): 1738-51, 2023.
- 005 *Komuro H, Shinohara S, Fukushima Y, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Masago K, Matsui T, Sugita Y, Takahashi Y, Nishida R, Takashima C, Ohki T, Shigematsu Y, Watanabe F, Adachi K, Fukuyama T, Hamana H, Kishi H, Miura D, Tanaka Y, Onoue K, Onoguchi K, Yamashita Y, Stratford R, Clancy T, Yamaguchi R, Kuroda H, Doi K, Iwata H, Matsushita H* : Single-cell sequencing on CD8(+) TILs revealed the nature of exhausted T cells recognizing neoantigen and cancer/testis antigen in non-small cell lung cancer. *J Immunother Cancer.* 11(8), 2023.
- 006 *Kawachi K, Tang X, Kasajima R, Yamanaka T, Shimizu E, Katayama K, Yamaguchi R, Yokoyama K, Yamaguchi K, Furukawa Y, Miyano S, Imoto S, Yoshioka E, Washimi K, Okubo Y, Sato S, Yokose T, Miyagi Y* : Genetic analysis of low-grade

adenosquamous carcinoma of the breast progressing to high-grade metaplastic carcinoma. *Breast Cancer Res Treat.* 202(3): 563-73, 2023.

- 007 *Adachi Y, Kimura R, Hirade K, Yanase S, Nishioka Y, Kasuga N, Yamaguchi R, Ebi H* : Scribble mislocalization induces adaptive resistance to KRAS G12C inhibitors through feedback activation of MAPK signaling mediated by YAP-induced MRAS. *Nat Cancer.* 4(6): 829-43, 2023.
- 008 **山口 類, 張 耀中, 井元清哉** : オミクスデータ解析に対する人工知能・機械学習技術の発展, 実験医学増刊 ポストGWAS時代の遺伝統計学. 41(7) : 188-192, 2023.

## 腫瘍制御学分野

- 001 *Hayasaka R, Tabata S, Hasebe M, Ikeda S, Hikita T, Oneyama C, Yoshitake J, Onoshima D, Takahashi K, Shibata T, Uchida K, Baba Y, Soga T, Tomita M, Hirayama.* : Metabolomics of small extracellular vesicles derived from isocitrate dehydrogenase 1-mutant HCT116 cells collected by semi-automated size exclusion chromatography. *Front Mol Biosci.* 9, 1049402, 2023

## 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Masago K, Kuroda H, Fujita S, Sasaki E, Takahashi Y, Shinohara S, Matsushita H* : Biological Difference between L858R and Exon 19 Deletion Contributes to Recurrence-Free Survival of Resected Non-Small Cell Lung Cancer. *Oncology.* 101: 117-125, 2023.
- 002 *Sasaki E, Masago K, Kogure Y, Fujita S, Iwakoshi A, Kuroda H, Tsuzuki T, Tsuta K, Matsushita H, Oki M* : Mucous Gland Adenoma of the Lung: A Neoplastic Counterpart of Mucinous Bronchial Glands. *Mod Pathol.* 36: 100182, 2023.
- 003 *Beck RJ, Sloot S, Matsushita H, Kakimi K, Beltman JB* : Mathematical modeling identifies LAG3 and HAVCR2 as biomarkers of T cell exhaustion in melanoma. *iScience.* 26: 106666, 2023.
- 004 *Komuro H, Shinohara S, Fukushima Y, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Masago K, Matsui T, Sugita Y, Takahashi Y, Nishida R, Takashima C, Ohki T, Shigematsu Y, Watanabe F, Adachi K, Fukuyama T, Hamana H, Kishi H, Miura D, Tanaka Y, Onoue K, Onoguchi K, Yamashita Y, Stratford R, Clancy T, Yamaguchi R, Kuroda H, Doi K, Iwata H, Matsushita H* : Single-cell sequencing on CD8+ TILs revealed the nature of exhausted T cells recognizing neoantigen and cancer/testis antigen in non-

- small cell lung cancer. *J Immunother Cancer*. 11: e007180, 2023.
- 005 **Horio Y, Kuroda H, Masago K, Matsushita H, Sasaki E, Fujiwara Y** : Current diagnosis and treatment of salivary gland-type tumors of the lung. *Jpn J Clin Oncol*. 54: 229-247, 2024.
- 006 **Yamaguchi T, Masago K, Sasaki E, Kuroda H, Matsushita H, Horio Y** : EML4-ALK Variant 3a/b as a mechanism of osimertinib resistance in a patient with EGFR L858R positive NSCLC. *Cancer Genet*. 280-281: 13-16, 2024.
- 007 **Ishihara H, Nishikawa D, Muraoka D, Masago K, Beppu S, Terada H, Matsushita H, Hanai N** : Changes in serum DAMPs and cytokines/chemokines during near-infrared photoimmunotherapy for patients with head and neck cancer. *Cancer Med*. 13: e6863, 2023.
- 008 **Sasaki E, Matsushita H, Masago K, Hanai N** : RAS Mutations in Esophageal Squamous Papilloma. *Int J Surg Pathol*, 2024.
- 009 **Sasaki E, Masago K, Matsushita H** : Are Solitary Fibrous Tumors of the Pancreas the Same Tumor as Pancreatic Hamartomas? *Am J Surg Pathol*, 2024.
- 010 **Okada S, Muraoka D, Yasui K, Tawara I, Kawamura A, Okamoto S, Mineno J, Seo N, Shiku H, Eguchi S, Ikeda H** : T cell receptor gene-modified allogeneic T cells with siRNA for endogenous T cell receptor induce efficient tumor regression without graft-versus-host disease. *Cancer Sci*. 114: 4172-4183, 2023.
- 011 **Takahashi H, Miyoshi N, Murakami H, Okamura Y, Ogo N, Takagi A, Muraoka D, Asai A** : Combined therapeutic effect of YHO-1701 with PD-1 blockade is dependent on natural killer cell activity in syngeneic mouse models. *Cancer Immunol Immunother*. 72: 2473-2482, 2023.
- 012 **Ishihara M, Nishida Y, Kitano S, Kawai A, Muraoka D, Momose F, Harada N, Miyahara Y, Seo N, Hattori H, Takada K, Emori M, Kakunaga S, Endo M, Matsumoto Y, Sasada T, Sato E, Yamada T, Matsumine A, Nagata Y, Watanabe T, Kageyama S, Shiku H** : A phase 1 trial of NY-ESO-1-specific TCR-engineered T-cell therapy combined with a lymph node-targeting nanoparticulate peptide vaccine for the treatment of advanced soft tissue sarcoma. *Int J Cancer*. 152: 2554-2566, 2023.
- 013 **Barakat C, Inagaki Y, Mizuno S, Nishio N, Katsuyama N, Sato Y, Kobayashi M, Ozeki K, Iida H, Tomita A, Sawa M, Demachi-Okamura A, Takahashi Y, Nishikawa H, Akatsuka Y** : Development of TCR-T cell therapy targeting mismatched HLA-DPB1 for relapsed leukemia after allogeneic transplantation. *Int J Hematol*. 118: 252-266, 2023.

## 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Tai MC, Bantis LE, Parhy G, Kato T, Tanaka I, Chow CW, Fujimoto J, Behrens C, Hase T, Kawaguchi K, Fahrman JF, Ostrin EJ, Yokoi K, Chen-Yoshikawa TF, Hasegawa Y, Hanash SM, Wistuba II, Taguchi A** : Circulating microRNA Panel for Prediction of Recurrence and Survival in Early-Stage Lung Adenocarcinoma. *Int J Mol Sci*, 25: 2331, 2024.

## がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Maeda A, Ando H, Irie K, Hashimoto N, Morishige JI, Fukushima S, Ebi H, Uchida K, Iwata H, Sawaki M** : Effects of ABCB1 and ABCG2 Polymorphisms on the Pharmacokinetics of Abemaciclib Metabolites (M2, M20, M18). *Anticancer Res*. 43: 1283-1289, 2023.
- 002 **Hiramatsu K, Matsuda C, Masago K, Toriyama K, Sasaki E, Fujita Y, Haneda M, Ebi H, Shibata N, Hosoda W** : Diagnostic utility of DNA integrity number as an indicator of sufficient DNA quality in next-generation sequencing-based genomic profiling. *Am J Clin Pathol*. 11: aqad 046, 2023.
- 003 **Yoshino T, Cervantes A, Bando H, Martinelli E, Oki E, Xu RH, Mulansari NA, Govind Babu K, Lee MA, Tan CK, Cornelio G, Chong DQ, Chen LT, Tanasanvimon S, Prasongsook N, Yeh KH, Chua C, Saccalan MD, Sow Jenson WJ, Kim ST, Chacko RT, Syaiful RA, Zhang SZ, Curigliano G, Mishima S, Nakamura Y, Ebi H, Sunakawa Y, Takahashi M, Baba E, Peters S, Ishioka C, Pentheroudakis G** : Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the diagnosis, treatment and follow-up of patients with metastatic colorectal cancer. *ESMO Open*, 8: 101588, 2023.
- 004 **Ebi H** : Drug-Tolerant Persister Cells After EGFR Tyrosine Kinase Inhibitor Treatment: Their Origin and the Influences From the Tumor Microenvironment. *Journal of Thoracic Oncology*, 18: 399-401, 2023.
- 005 **Matsubara J, Mukai K, Kondo T, Yoshioka M, Kage H, Oda K, Kudo R, Ikeda S, Ebi H, Muro K, Hayashi R, Tokudome N, Yamamoto N, Muto M** : First-Line Genomic Profiling in Previously Untreated Advanced Solid Tumors for Identification of Targeted Therapy Opportunities. *JAMA Netw Open*, 2023.
- 006 **Adachi Y, Kimura R, Hirade K, Yanase S, Nishioka Y, Kasuga N, Yamaguchi R, Ebi H** : Scribble mislocalization induces adaptive resistance to KRAS G12C inhibitors through feedback activation of MAPK signaling mediated by YAP-induced MRAS. *Nature Cancer*, 2023 4: 829-843, 2023.



- 007 *Lai X, Lui SKL, Lam HY, Adachi Y, Sim WJ, Vasilevski N, Armstrong NJ, Bridgeman SC, Main NM, Tan TZ, Tirnitz-Parker JEE, Thiery JP, Ebi H, Kumar AP, Eichhorn PJA* : SHP2 inhibitors maintain TGF $\beta$  signalling through SMURF2 inhibition. NPJ Precis Oncol, 7: 136, 2023.
- 008 *Bando H, Yamaguchi K, Mitani S, Sawada K, Mishima S, Komine K, Okugawa Y, Hosoda W, Ebi H* : Japanese Society of Medical Oncology clinical guidelines: Molecular testing for colorectal cancer treatment, 5th edition. Cancer Sci, 2024 Mar;115(3): 1014-1021. doi: 10.1111/cas.16039, Epub 2024.
- 009 *Kitai H, Ebi H* : Oncogene alterations in non-small cell lung cancer with FGFR1 amplification-novel approach to stratify patients who benefit from FGFR inhibitors. Transl Lung Cancer Res, 2024 Mar 29;13(3): 684-688. doi: 10.21037/tlcr-23-777, Epub 2024.

